

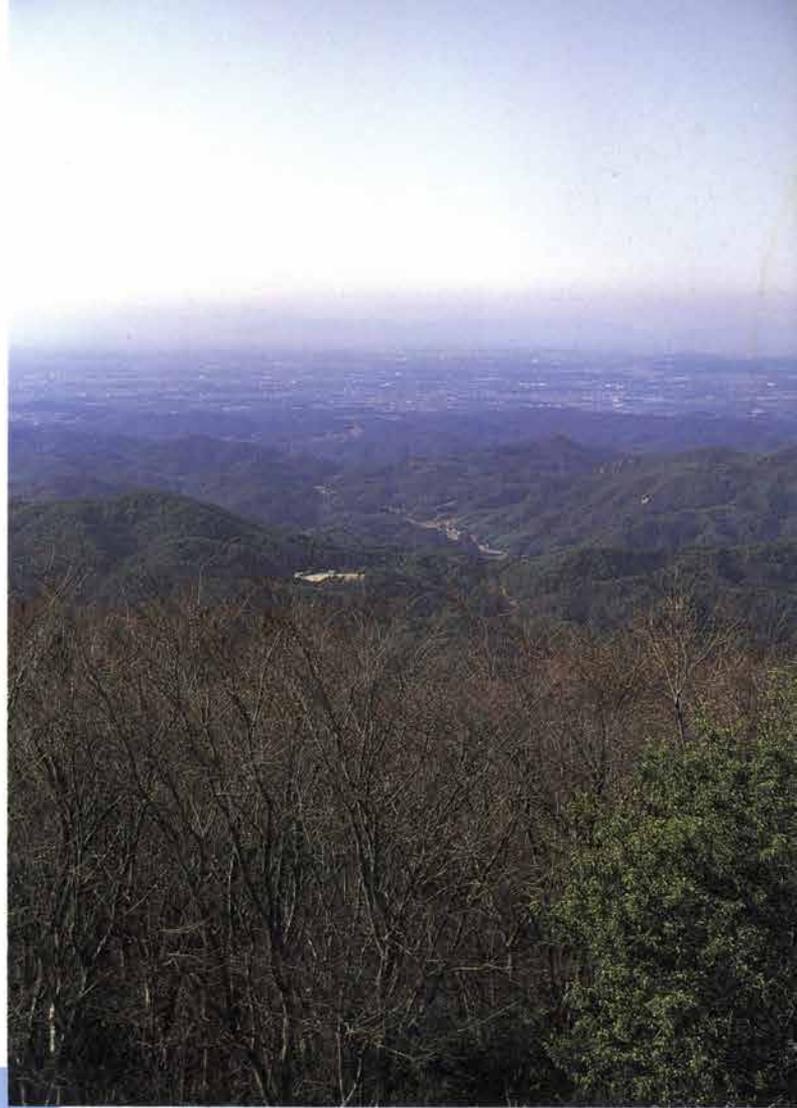
愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第47集

さん どう め さん ぼん まつ
三斗目・三本松遺跡

1993

財団法人 愛知県埋蔵文化財センター

炮烙山から
仁王川流域を望む



遠景の町並は豊田市街



三斗目遺跡(北から)



三本松遺跡(南から)

序

愛知県豊田市は自動車産業が発達し、若いエネルギーが満ちあふれた街です。しかし一方この地域には原始・古代の遺跡が多く存在し、昔から人々が生活を営んでいた土地でもあります。また市域東部の山間部にある松平郷は、江戸幕府を開いた徳川氏発祥の地として著名です。

このたび松平郷にほど近い豊田市坂上町を流れる仁王川の河川改修が計画され、財団法人愛知県埋蔵文化財センターが、同町に所在する三斗目遺跡・三本松遺跡の発掘調査を、愛知県からの委託事業として実施いたしました。三斗目遺跡からは縄文時代後期の遺物や集石と思われる遺構が、三本松遺跡からは縄文時代晩期の遺物が発見されました。当時の矢作川流域に住んでいた人々の生活の一端をうかがい知ることができる資料になるものと考えられます。また両遺跡からは平安時代・鎌倉時代の遺物も発見され、仁王川流域の再開発についての知見を得るきっかけにもなりました。

調査にあたり、地元の方々や関係諸機関からは多大なる御協力を賜りました。文末ではありますが、深く御礼申し上げます。

平成5年3月

財団法人 愛知県埋蔵文化財センター

理事長 高木 鐘三

例 言

1. 本書は、愛知県豊田市坂上町に所在する三斗目遺跡および三本松遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は、仁王川河川改修に伴う事前調査として、愛知県土木部から愛知県教育委員会を通じて委託を受けた財団法人愛知県埋蔵文化財センターが、平成3年11月から平成4年3月まで行った。
3. 調査は山田基(課長補佐、現刈谷市立衣浦小学校)・石黒立人(調査研究員)・余合昭彦(同)が担当した。
4. 調査での測図等に次の方々の御協力を得た。(敬称略)
岡裕子(発掘調査補助員)・伊藤香代(椋山女学園大学学生)
日栄智子(南山大学学生)
5. 調査に当たっては、次の各機関の御指導・御協力を得た。
愛知県教育委員会文化財課 愛知県埋蔵文化財調査センター 愛知県土木部
豊田市教育委員会
6. 本書の執筆者は下記のとおりである。編集は余合昭彦が行った。
石黒立人 第1章2、第3章1・2A、第4章2A(2)、第5章1
服部俊之(調査研究員) 第1章1、第5章3A・B・D
楯真美子(同) 第5章3D
杉山真二(古環境研究所) 第5章3C
余合昭彦 第2章、第3章2B、第4章1・2A(1)・B、第5章2、第6章
7. 遺物の整理・製図等に次の方々の御協力を得た。(敬称略)
中垣内 薫(調査研究補助員)・山本章子・中島由美子・西山朋子(以上 整理補助員)・
服部恵子・中村明美(以上 調査補助員)
8. 報告書作成に当たって、次の機関・諸氏の御教示・御協力を得た。
(五十音順・敬称略)
大参義一・斎藤弘之・鈴木昭彦・栃木英道・百瀬長秀・中沢道彦・野口哲也・町田勝則
松井直樹・森 泰通・森 勇一・山本正敏・吉川周作・足助資料館・安城市歴史博物館
大阪市立大学理学部・豊田市郷土資料館・西尾市資料館・南知多町郷土資料館
9. 調査区の座標は建設省告示の平面直角座標第Ⅶ系に準拠した。
10. 出土遺物及び調査記録は愛知県埋蔵文化財調査センターにて保管している。

目次

第1章 遺跡の位置と環境	
1 地理的環境	1
2 歴史的環境	4
第2章 調査の経緯と経過	6
第3章 三斗目遺跡	
1 層序と遺構の概要	
A 層序	7
B 遺構	8
2 遺物の概要	
A 縄文時代	11
B 弥生時代以降	18
第4章 三本松遺跡	
1 層序と遺構の概要	
A 層序	19
B 遺構	22
2 遺物の概要	
A 縄文時代	27
B 弥生時代以降	33
第5章 考察	
1 三斗目遺跡調査結果の分析	
A 縄文土器について	34
B 三斗目遺跡の変遷	34
2 坂上の古代・中世	37
3 自然科学的分析	
A 堆積層と ¹⁴ C年代	41
B 三本松遺跡より発見された縄文時代後期・晩期の火山灰層について	42
C 三斗目遺跡等の植物珪酸体分析	45
D 三斗目・三本松遺跡出土石器の使用石材について	49
第6章 まとめ	50
付表	52

挿図目次

第1図	三斗目・三本松遺跡周辺の 地質概略図	2	第15図	集石遺構	23
第2図	三斗目・三本松遺跡調査区位置図	3	第16図	埋甕状遺構	24
第3図	遺跡位置図	5	第17図	埋甕・伏甕状遺構の土器	25
第4図	三斗目遺跡の層序模式図	7	第18図	S X 03の土器	26
第5図	S X 21	9	第19図	I・II群土器の分布状況	35
第6図	埋設土器	9	第20図	III・IV群土器の分布状況	36
第7図	土坑	10	第21図	V・VI・VII群土器の分布状況	36
第8図	NR01	10	第22図	六所山上の土器群	37
第9図	押型文土器	11	第23図	三斗目・三本松遺跡周辺	38
第10図	(瘤付)注口土器	15	第24図	三斗目・三本松遺跡の堆積層	41
第11図	土器・土製品	16	第25図	愛知県における松河戸火山灰層 確認地点	44
第12図	三本松遺跡の基本層序	19	第26図	三斗目遺跡北壁における植物 珪酸体分析結果	47
第13図	遺構検出時の等高線	20	第27図	三本松遺跡東西ベルトにおける 植物珪酸体分析結果	47
第14図	S B 01およびS B 01内 伏甕状遺構	22			

表目次

第1表	調査の日程	6	第5表	植物珪酸体分析結果	48
第2表	遺構・層別別土器出土地点	30	第6表	主な分類群の推定生産量	48
第3表	三本松遺跡出土の中世土器	39			
第4表	三本松遺跡関連の火山灰の 岩石記載的性質	44			

図版目次

図版1	三斗目遺跡遺構図(1)	図版13	縄文土器(I群A類・B類・G類)
図版2	三斗目遺跡遺構図(2)	図版14	縄文土器(I群)
図版3	三斗目遺跡遺構図(3)	図版15	縄文土器(I群C類・D類)
図版4	三斗目遺跡調査区全体図	図版16	縄文土器(I群E類・F類)
図版5	三斗目遺跡土層セクション図	図版17	縄文土器(I群)
図版6	S F 02・S F 04・S F 05	図版18	縄文土器(II群)
図版7	S X 13	図版19	縄文土器(II群・III群A類)
図版8	S X 06	図版20	縄文土器(III群A類・B類・F類)
図版9	S X 18・S X 19・S X 26	図版21	縄文土器(III群C類・D類)
図版10	S X 04・S X 12・S X 08他	図版22	縄文土器(III群D類)
図版11	S X 11・S X 14・S X 22	図版23	縄文土器(III群D類)
図版12	縄文土器(I群A類)	図版24	縄文土器(III群E類・IV群)

図版25	縄文土器(Ⅲ群・Ⅳ群)	図版66	配石・集石群の近景、埋設土器
図版26	縄文土器(Ⅲ群・Ⅴ群・Ⅵ群)	図版67	包含層掘り下げ後の状況
図版27	縄文土器(Ⅵ群・Ⅶ群)	図版68	S X06・S X13
図版28	縄文土器(Ⅶ群)	図版69	S X19
図版29	石器・石製品(1)	図版70	S X05・S X22他
図版30	石器・石製品(2)	図版71	S B01・S F01他
図版31	石器・石製品(3)	図版72	S F04・S F05
図版32	石器・石製品(4)	図版73	石器・土器出土状況他
図版33	石器・石製品(5)	図版74	縄文土器(1)
図版34	石器・石製品(6)	図版75	縄文土器(2)
図版35	石器・石製品(7)	図版76	縄文土器(3)
図版36	石器・石製品(8)	図版77	縄文土器(4)
図版37	石器・石製品(9)	図版78	縄文土器(5)
図版38	石器・石製品(10)	図版79	縄文土器(6)
図版39	石器・石製品(11)	図版80	縄文土器(7)
図版40	石器・石製品(12)	図版81	縄文土器(8)
図版41	石器・石製品(13)	図版82	縄文土器(9)
図版42	三本松遺跡遺構全体図(1)	図版83	縄文土器(10)
図版43	三本松遺跡遺構全体図(2)	図版84	縄文土器(11)
図版44	縄文土器(1群・2群)	図版85	土偶・土製品
図版45	縄文土器(2群・3群a類)	図版86	石器(1)
図版46	縄文土器(3群a類・b類)	図版87	石器(2)
図版47	縄文土器(3群b類・4群a類)	図版88	石器(3)
図版48	縄文土器(4群・5群a類)	図版89	三本松遺跡 調査前風景・全景
図版49	縄文土器(5群・6群)	図版90	遠景・調査区東半部他
図版50	縄文土器(7群)	図版91	調査区西半部・S B01他
図版51	縄文土器(7群・8群)	図版92	S X01・S K42・S X02
図版52	縄文土器(8群b類・9群)	図版93	S K15埋甕・S K08埋甕他
図版53	縄文土器(9群)	図版94	縄文土器(1)
図版54	石器・石製品(1)	図版95	縄文土器(2)
図版55	石器・石製品(2)	図版96	縄文土器(3)
図版56	石器・石製品(3)	図版97	縄文土器(4)
図版57	石器・石製品(4)	図版98	縄文土器(5)
図版58	石器・石製品(5)	図版99	縄文土器(6)
図版59	石器・石製品(6)	図版100	縄文土器(7)
図版60	石器・石製品(7)	図版101	石器(1)
図版61	古代・中世の遺物	図版102	石器(2)
図版62	弥生土器・古代・中世土器	図版103	石器(3)
図版63	三斗目遺跡を望む	図版104	その他の遺物
図版64	調査区全景	図版105	植物珪酸体分析(1)
図版65	調査区西部の小穴群とN R01・02他	図版106	植物珪酸体分析(2)

第1章 遺跡の位置と環境

1. 地理的環境

三斗目・三本松遺跡の立地する豊田市は、矢作川を中心に地形景観が大きく変化し、東側に三河高原と呼ばれる高原地帯、西側に丘陵部が展開している。

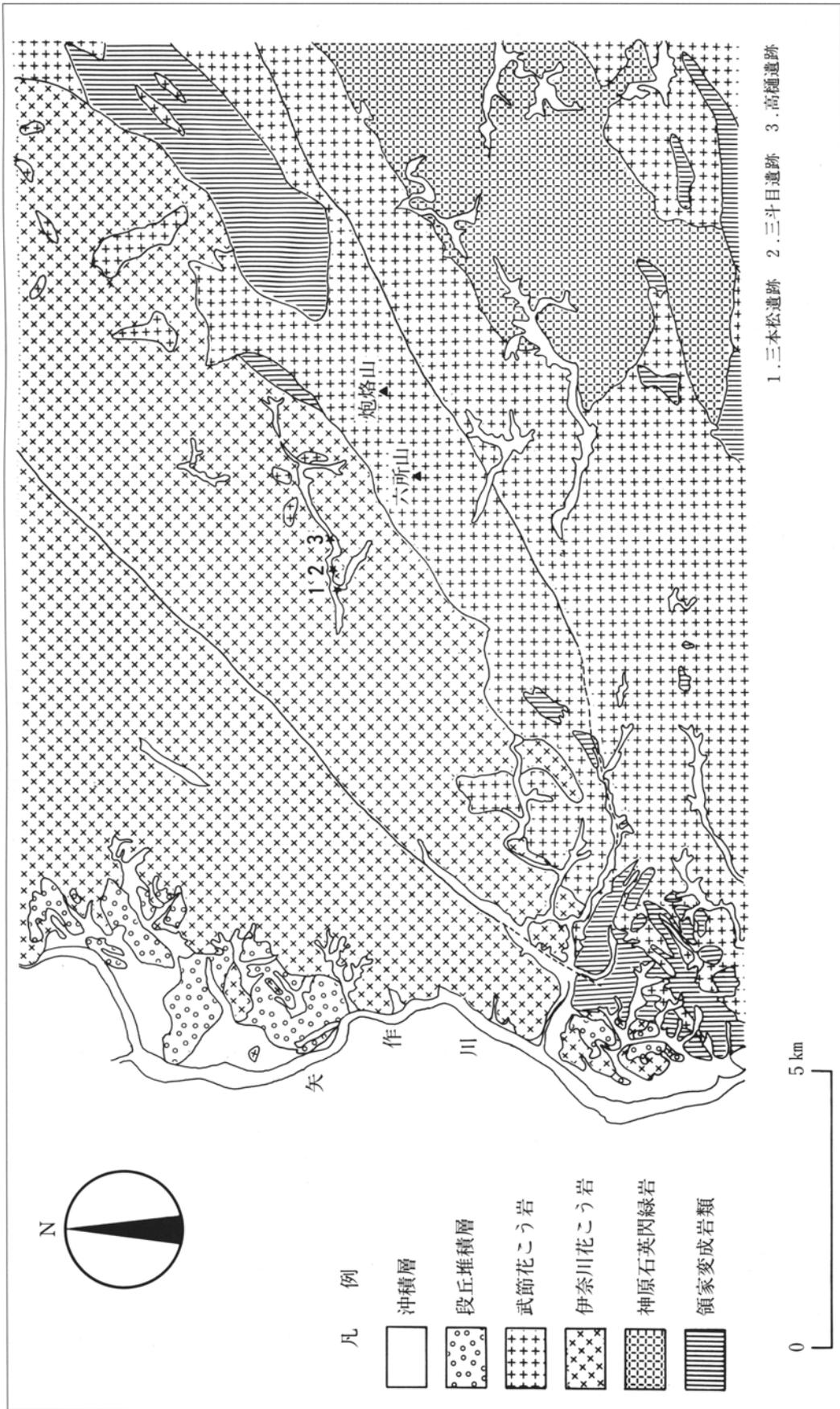
このうち三斗目・三本松遺跡は、矢作川より東側の豊田市坂上町にあり、地理的には三河高原の西端に位置する。同遺跡の立地する場所は、矢作川支流・巴川へ注ぐ仁王川に開析された谷の南斜面である。ともに枝谷との合流地点に形成されたY字状をなすやや高まった平坦な地区(標高180-200 m程度)に位置し、仁王川の上流側に三斗目遺跡、下流側に三本松遺跡が立地している。

地質的にも同地域は、矢作川を境に東西で全く異なる様相を示す。豊田市の中心部である西側の丘陵部には、新生代第三紀鮮新世～第四紀更新世の東海層群、中期～後期更新世の段丘堆積物など、新生代の堆積物が厚く広く分布している。

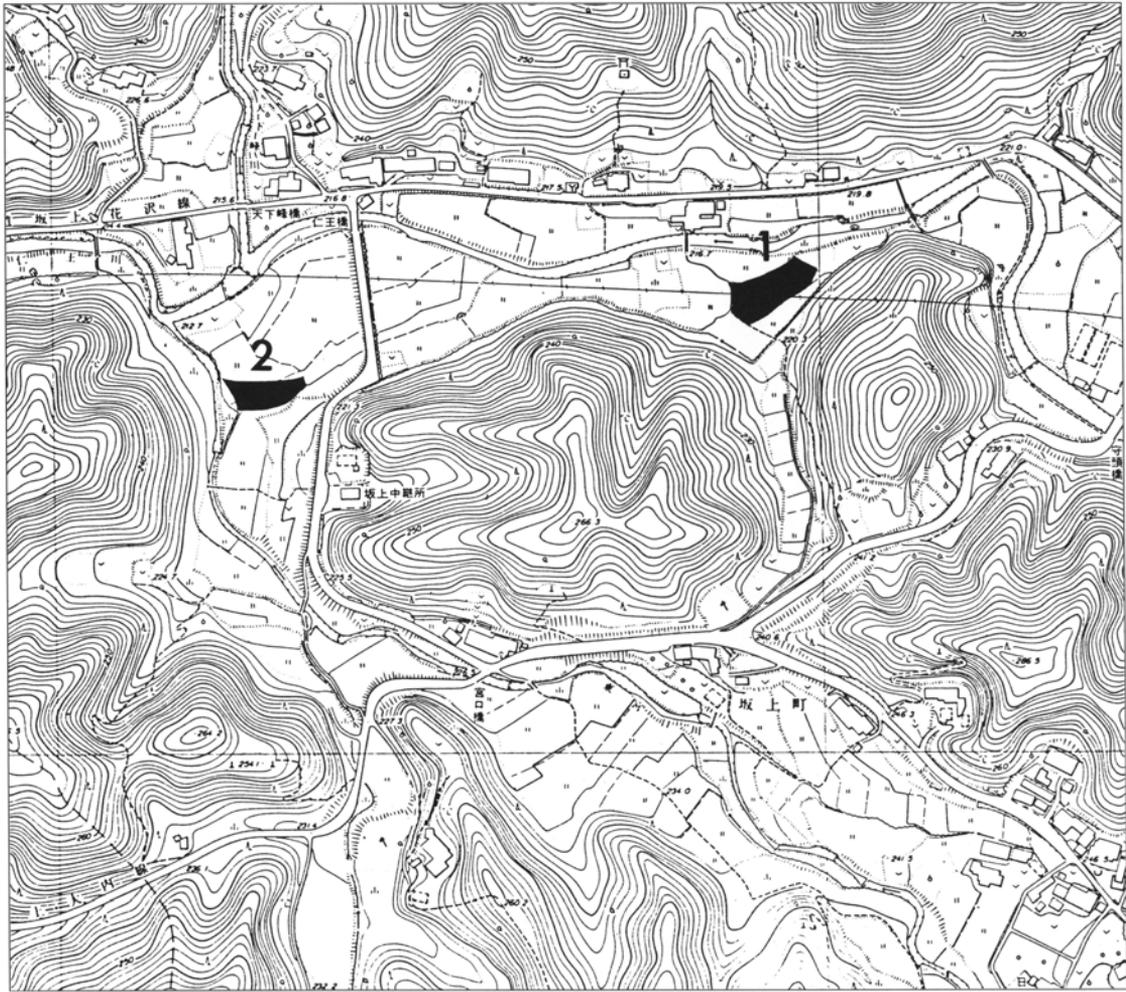
一方、三斗目・三本松遺跡の立地する東側、三河高原地域は、領家帯と呼ばれる中生代白亜紀～新生代古第三紀に形成された花こう岩類の分布する地域に属する。この上位に堆積する新生代の地層は、一般的に極薄く、谷を埋積する沖積層がわずか厚さ数m程度分布するのみである(第1図参照)。しかし、この薄い地層中にも貴重な記録が保存されており、なかでも特筆すべきは、いままで愛知県では尾張地方でしか報告例のなかった縄文時代後・晩期境界付近に位置する広域火山灰層の松河戸火山灰層が、縄文土器を含み水平方向に比較的良好に連続する黒色土(ほとんどが砂質シルト層)中から発見されたことである。この火山灰層の絶対年代は、 ^{14}C 年代測定法により $3,120 \pm 120 \text{ y.B.P.}$ (1950年より起算)とされており、今回出土した遺物を含め今後の三河地方の縄文時代後・晩期の年代考察に1つの基準が設定できることを示す。

さらに、調査区内の仁王川沿いの部分では、中世の山茶碗を多く含む礫層(仁王川の河床礫)も検出されている。現在では勢いのない細い流れの仁王川であるが、その歴史は少なくとも縄文時代にまで遡り、中世の頃までは、人々の生活に大きな影響を与えていた立派な河川であったことがうかがえる。

本遺跡の立地している豊田市坂上町周辺の沖積層に関する報告は、地質学的な報告を含めても今までになかったが、今回の発掘調査により判明した事実は、三河山地中に薄く点在する沖積層、ないしはその上位に立地する遺跡の理解に十分役立つものである。



第1図 三斗目・三本松遺跡周辺の地質概略図



1.三斗目遺跡 2.三本松遺跡

第2図 三斗目・三本松遺跡調査区位置図 (1/5,000)



作業風景

2. 歴史的環境

両遺跡周辺の歴史的環境については、第3図及び次表に示す。

番号	遺跡	時期
62	大釜	先土器
82	管生	先土器
101	吉ヶ入B	先土器
52	塩平	先土器 縄文
90	酒呑ジュリンナ	先土器～縄文

1	高樋	縄文
2	三斗目	縄文
3	三本松	縄文
18	南	縄文
20	堂ノ下	縄文
22	田面	縄文
23	馬場	縄文
25	下井戸	縄文
26	則定本郷B	縄文
29	シメド	縄文
31	仙元	縄文
32	上柄ノ実	縄文
35	追分山ノ上	縄文
36	林	縄文
37	仏田	縄文
38	ウシエA	縄文
39	ウシエB	縄文
40	田中	縄文
41	トウノ前	縄文
43	広畑	縄文
45	旭	縄文
47	笹ヶ田	縄文
54	吉田	縄文
56	皿坂	縄文
59	築瀬	縄文
92	古猿投	縄文
98	八千疇	縄文
99	薬師獄	縄文
100	吉ヶ入A	縄文
107	滝脇	縄文
60	仲田	縄文 平安
97	大窪	縄文～室町

13	王滝	弥生
48	山口	弥生
86	手呂銅鐸出土地	弥生

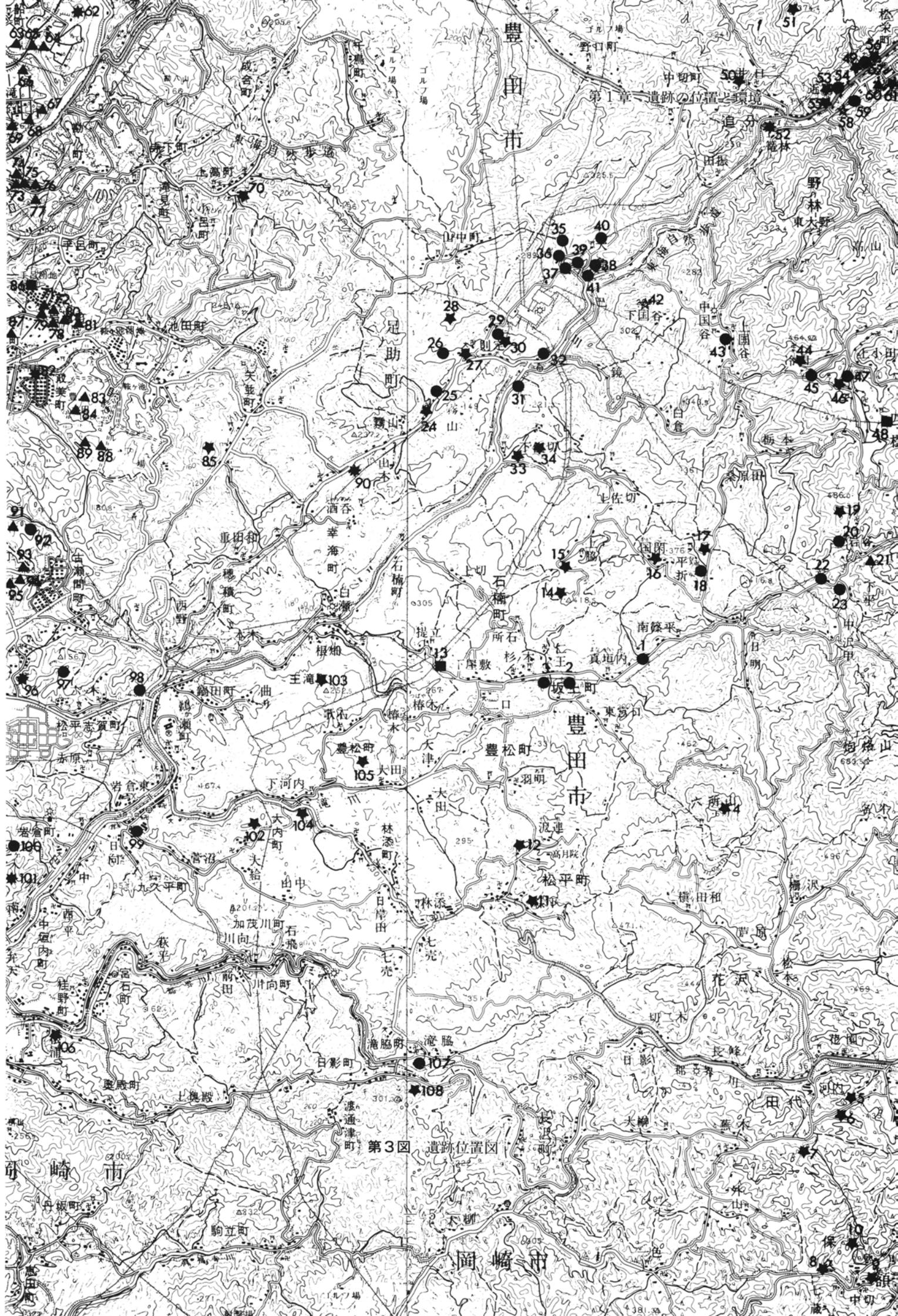
21	夜家	古墳
63	大釜第1号墳	古墳
64	大釜第2号墳	古墳
65	口明塚古墳	古墳
66	滝第1号墳	古墳
67	滝第3号墳	古墳
68	滝第4号墳	古墳
69	大高根第1号墳	古墳
71	樋田第1号墳	古墳
72	樋田第2号墳	古墳
73	勘八第1号墳	古墳
74	勘八第2号墳	古墳
75	勘八第3号墳	古墳
76	勘八第4号墳	古墳
77	勘八第5号墳	古墳

番号	遺跡	時期
78	萩洞南古墳	古墳
79	萩洞西古墳	古墳
80	萩洞東古墳	古墳
81	花立古墳	古墳
83	四反田古墳	古墳
84	四反田南古墳	古墳
87	石田古墳	古墳
88	北山第1号墳	古墳
89	北山第2号墳	古墳
91	山田第1号墳	古墳
93	香久礼第6号墳	古墳
94	楠ノ木第1号墳	古墳
95	楠ノ木第2号墳	古墳

58	野林本郷	平安 鎌倉
42	山名	平安～鎌倉

4	六所山古窯	鎌倉
12	在原氏居館跡	鎌倉
27	則定本郷A	鎌倉
85	矢並城跡(下本城)	鎌倉
104	下河内古墓	鎌倉
51	黍生城跡	鎌倉 室町
5	神谷上切	鎌倉～室町
7	道山	鎌倉～室町
9	保久城跡	鎌倉～室町
6	中坂佐後	室町
8	保久	室町
11	松平城跡	室町
14	松下古墓	室町
15	上脇日影城跡	室町
16	林松院古墓	室町
17	トヤカ子古墓	室町
19	ヤタヌギ古墓	室町
24	オタチュウ	室町
28	則定椎城跡	室町
30	則定城跡	室町
33	広畑古墓	室町
34	下佐切城跡	室町
44	菅ノ入古墓	室町
46	笹ヶ田古墓	室町
49	藤ノ木古墓	室町
50	井ノ口城跡	室町
53	吉田古墓	室町
55	小原古墓	室町
57	成瀬城跡	室町
61	仲田古墓	室町
70	鷹見城跡	室町
96	古瀬間城跡	室町
102	大給城跡	室町
103	梶ヶ城跡	室町
105	城山城跡	室町
10	保久古窯	中世
106	宮石城跡	中世
108	日影城跡	中世

● 先土器 ▲ 古墳
 ● 縄文 ☆ 古代
 ■ 弥生 ★ 中世



豊田市

第1章 遺跡の位置と環境

第3図 遺跡位置図

岡崎市

第2章 調査の経緯と経過

三斗目遺跡は従来より縄文時代後期の遺跡として知られていた(県遺跡番号 63356)が、発掘調査は行われず正確な遺跡の範囲も不明であった。ところが近年、仁王川流域に水田の圃場整備が計画され、三斗目遺跡の範囲を確認する必要性が生じた。平成2年12月に豊田市教育委員会によって実施された試掘調査では、三斗目遺跡を中心に100本以上のトレンチが設定され、その結果、三斗目遺跡自体の範囲が確認されるとともに、同町字高樋・字三本松からも遺物の出土をみて、それぞれ高樋遺跡・三本松遺跡と命名された。その後愛知県土木部は、圃場整備の一環として河川改修にかかわる三斗目遺跡・三本松遺跡の事前調査を愛知県教育委員会を通じて財団法人愛知県埋蔵文化財センターに委託し、当センターが三斗目遺跡1600㎡、三本松遺跡940㎡を調査した。調査の季節が冬であったため、地面の凍結や降霜によって調査は難渋を極めたが、平成4年3月に無事調査を終了した。なお坂上区長の鈴木忍氏をはじめ、豊田市坂上町の方々には調査全般を通じさまざまな御協力をいただいた。調査の日程および参加者は以下の通りである。

	平成3年 11月	12月	平成4年 1月	2月	3月
三斗目遺跡	////				
三本松遺跡		////			



表土はぎ



調査・測図



埋め戻し

第1表 調査の日程

調査参加者(五十音順・敬称略)

浦野正子 浦野利恵 大河原澄子 大原伸子 大原よし 大堀世津子 岡田須美江 岡田 博
 奥村ひとみ 小幡富士子 檜原浪子 加藤 恵 加藤裕子 加納多津子 河合歌子 河合カツエ
 河合こう 河合てる 河合信雄 河合美代子 河合三代子 川井よし江 倉田鋭昭 倉田ミチ
 小島真由美 近藤富士太郎 近藤泰幸 酒井洋子 柴田 聖 柴田しおり 柴田恵理子 島崎夏子
 杉山ちえみ 鈴木綾子 鈴木郁美 鈴木鏖次郎 鈴木枝美子 鈴木 忍 鈴木万里子 高木 錦
 鷹見佳代子 中馬はま子 恒川温子 寺澤和昭 寺澤利男 寺澤美砂子 銅城美恵子 中根国子
 中根 大 中根照代 中根夏美 那須美知代 西村亮子 畑本トモ子 原子廣子 原田砂都美
 原田秀子 早川明美 古川恵子 梶井繁美 間宮明美 森 泰子 梁瀬志ん 梁瀬京子
 山口美也子 渡辺美和子

第3章 三斗目遺跡

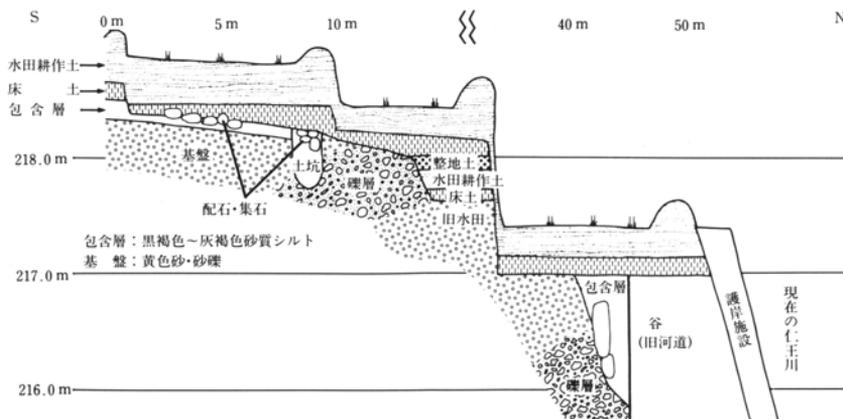
1. 層序と遺構の概要

A. 層序

調査区は位置図にみるように、仁王川左岸の緩斜面に立地している。調査当時には、仁王川の流れる本谷は当然として、南から合流する支谷の奥まで水田が造成されていただけでなく、丘陵裾も水田造成のために削られている状況であった。そのことから、旧地表面の改変はかなり進んでいるものと考えられた。実際に水田耕作土を除去すると、調査区範囲内の高さを違える4面の水田は旧地表を削平して造成されていたことが確認でき、特に上から3番目の水田面と80 cmを測る大きな段差をもつ下面は、南側(斜面高位側)を大きく削り取ることによって水田面が造成されているために、旧河道と合流する小流路を除いては全く包含層・遺構などは遺存していなかった。

調査区の層序としては、西部3分の1で水田耕作土下に黄灰色砂礫を含むシルトがあり、包含層は遺構埋土に限られた。中央部では包含層の遺存がよく南半部では暗褐色から暗灰色の砂質シルトが厚いところで40 cmほど埋積していた。しかし斜面地であることに関係するのか、調査区南側(斜面高位側)では黄色砂の流入がみられるというように、調査区内だけの観察では堆積状態の全貌を想像することは困難である。北半部にかけて包含層の厚さは薄くなるとともに、仁王川の近傍では侵食による削平と再堆積が想像された。また、包含層遺存範囲で散漫ではあるが縄文土器と同じレベルで古代・中世陶器や山茶碗・小皿が一括出土しており、包含層のすべてが縄文時代の一次堆積層であるというような時代判定をすることを難しくしている。調査区東部では、カーブする水田の畦に沿うように黄白色砂と花崗岩礫からなる基盤と褐色砂質シルトの境界が現れ、丘陵裾の本来の位置を推定することができた。

基盤は調査区西部3分の1がやや粘質でしまりのある黄灰砂礫含みシルトである以外は黄灰色砂となり、そこに部分的に礫層が露出するという状況であった。この礫層は、当初集石との区別が難しくやっかいであったが、集石が小砂利を含まない拳大以上の大きさの円礫からなるのにたいして礫層は小砂利を含む点で、両者の識別が可能になった。ただ、礫層上部に集石がある場合に、その集石基底境界の判断には難しいところがあった。この礫層については、サブトレンチを設けて堆積状態を確認したところ、ほぼ調査区に重なっている旧河道の堆積層の北部を切って堆積している旧流路の堆積物であることが明かとなった。



第4図 三斗目遺跡の層序模式図

B. 遺構

(1) 縄文時代(図版6～11)

今回の調査で検出できた遺構には、住居跡1、石囲炉3、石敷炉1、集石炉1、集石・配石遺構26、埋設土器1の他に多数の土坑7や、ピット群がある。また自然河道も検出した。包含層中には礫が多数あり、また一部大型の礫には立石の可能性が窺われた。石囲炉のうちS F 01はS B 01にともなうと考えられるものである。また、集石遺構のうち、下部で土坑の検出されたものに、S X 04、S X 12、S X 08、S X 09、S X 10、S X 11、S X 12、S X 14、S X 16、S X 17、S X 22がある。

ピットは調査区西部で多数検出されたが、住居の柱穴配置を想定させる関係の特定は困難である。

a. 住居跡・炉：S B 01・S F 01～03

竪穴の周囲の掘り方は未検出のため規模の推定は困難だが、S F 01を中心にして径約8mの不整形円形と推定する。S F 01のすぐ北にあるS F 02やS F 03とS B 01の関係は明らかではないが、S B 01上部に多量の土器廃棄があったことを考えると、少なくともS F 03が別の住居跡の付属物とするならばS F 01の方が新しいということになる。

S B 01床面について。貼床など明確な面を示すものはなかったが、基盤である黄色砂と埋土である暗褐色砂質シルトの間に両者の混ざる層が介在し、その上面にS F 01が構築され、また他の礫がのっている。S F 01を中心とする住居跡とは別に、下部に先行する住居跡が存在するのかもしれない。

S F 01は、上から2面目と3面目の水田をまたぐ位置にあり、北半分は削られていた。径約70cm、深さ約30cmの土坑の周りに礫をおいて石囲いとしている。礫は内側が赤く変色していた。内部の埋土には焼土粒が含まれていたが、炭化物などは出土していない。

S F 02は礫の一部が欠失していた。長径約80cm、短径約50cm、深さ約10cmを測る浅い土坑の北側に石皿を立て、その東隣に大型で偏平な礫をねかせている以外は小型の礫を周囲に並べたものであろう。

S F 03は西半分が欠失していた。土層断面の観察によれば土坑の周囲に石を並べた他の炉とは異なり、土坑を掘った後にその中に石を組むことによって炉を構築している。対応する床面は明確ではない。あるいは集石遺構の一種であったかもしれない。

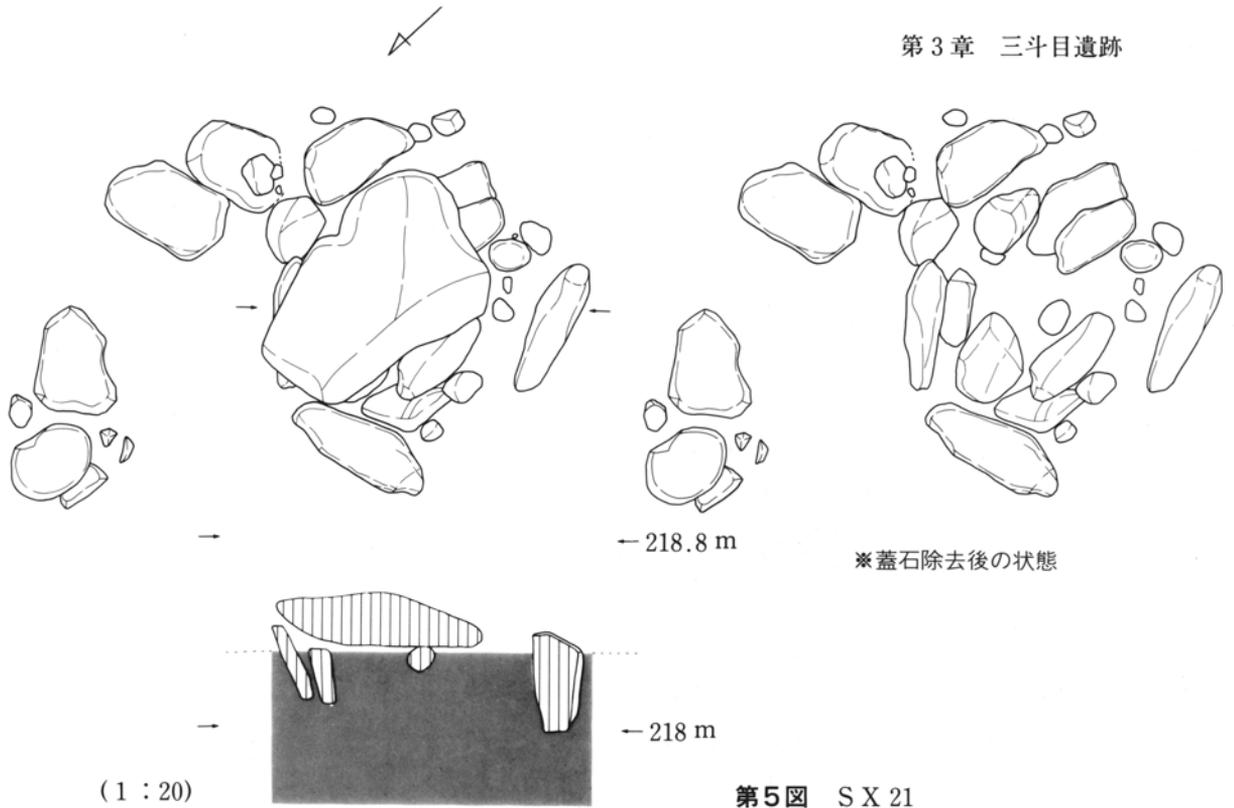
b. 炉：S F 04・S F 05

S F 04は長軸1.9m、短軸1.4mを測る長方形の石敷炉である。40～50cmのやや大形で長めの礫を周囲に配する。南側短辺の礫は赤く変色している。それに対して北側短辺は石の配置がやや乱れている。内部は小型の礫を詰めて底としている。偏平な礫を敷いてはいない。

S F 05は拳大の焼けた礫が集積されたもので、下部から土坑が検出されている。

c. 配石：S X 06・13・19

S X 06は径約5mの略円形に礫が配されている。礫の重なりは少なく、平面的に並べられているという状況である。一部積み重なっている部分があり、これはS X 07として区別した。用いられた礫には少なくとも石皿が2点含まれていた。



第5図 SX 21

SX 13は、東西に相対する二つの弧状石列が認められ一体として取り上げたものである。西列は、やや乱れはあるものの棒状礫の長軸ラインがゆるやかな弧を描いている。東列は、礫の形状からラインが読み取れるわけではなく、石の配置が右周りの渦巻状配置をなしている。

SX 19は二つの扁平な礫(石皿)が東西方向に立ち並ぶ部分aとこれも石皿を含む集石bからなる。集石bは中央がくぼむように礫があり、下部に土坑の存在した可能性もあるが検出できなかった。

d. 集石

下部に土坑があるものとなないものがある。土坑があるものには、①集石が土坑上部に位置するもの、②土坑内部に礫が集積されたもの、に分かれる。しかし、土坑には不定形なものもあり、集石と土坑との関係はすべてについて明確なわけではない。土坑のないものは、③礫の集積のみ検出されたものである。ただ、それが土坑内ではないという確証はない。旧地表面に置かれたとしても包含層中に埋没しているのがほとんどあり、この点に関しては堆積状況の復元が十分にできないので言及できない。

①SX 04・09・11・13・14・22

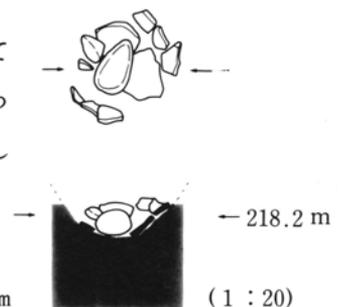
②SX 08・17

③SX 01・02・03・05・07・10・16・18・20・21・23・24・25・26

以上のうち、SX 21は他に比べてやや特殊である。第5図のように、板状の礫を立ててつくる石囲いの上部に60 cm×40 cm大形の扁平な礫をのせるもので配石墓かとも思われたが、内部には敷石もない。集石のいくつかには焼石が含まれている。炉石を移動したものであろう。

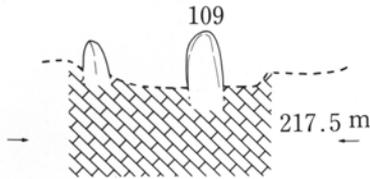
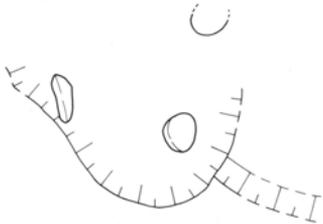
e. 埋設土器

SX 15の東に位置し、底部の抜かれた深鉢下部が埋置されていた。内部には径10 cmほどの扁平な礫が置かれていた。

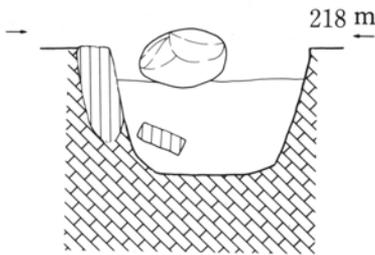
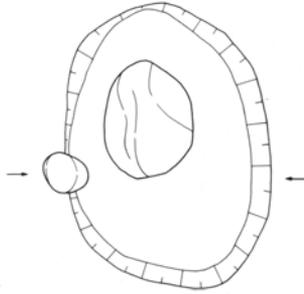


第6図 埋設土器

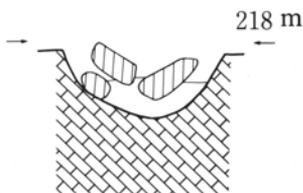
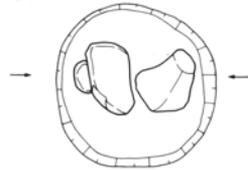
S K 28



S K 38



S K 37



第7図 土坑 (1:20)

f. 土坑

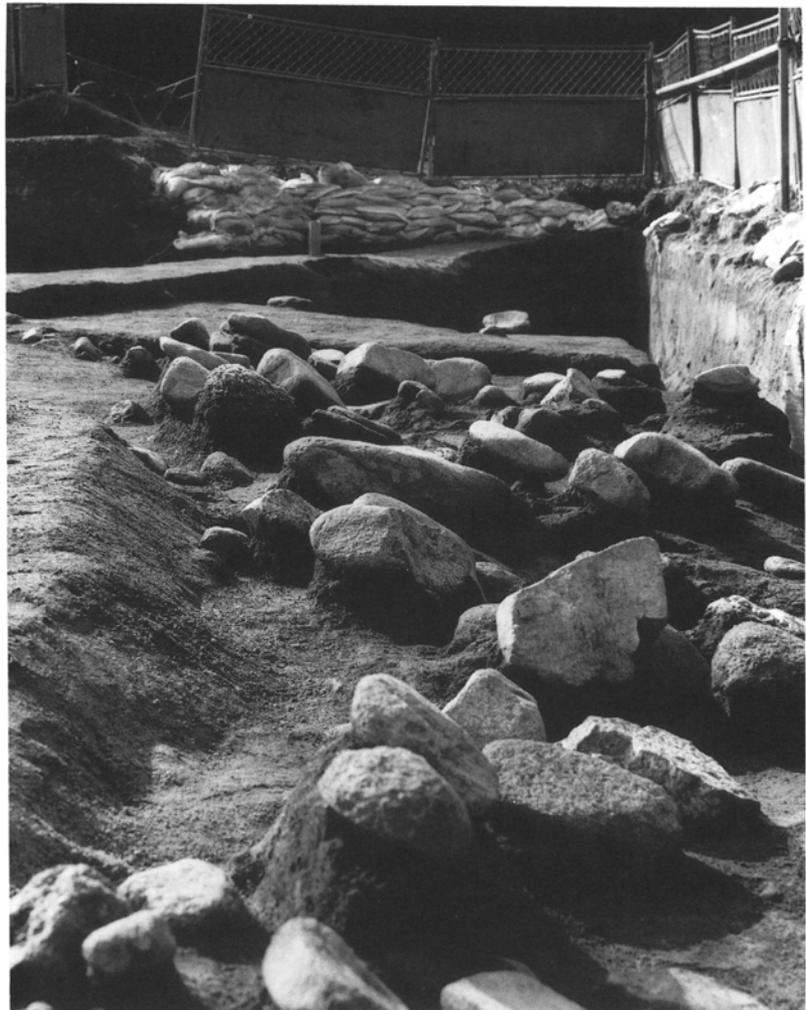
集石下部以外の土坑について述べる。S B 01 以西にはほとんど分布せず、以東に集中するという特徴がある。土坑の検出は、基盤が黄灰色砂であるということから、漸移層との区別の難しいところもあり、すべてについて一定の性格を述べることは難しい。ほとんどの土坑からまとまった遺物の出土はなかった。

g. 自然河道・自然流路：NR 01・02・03

調査区の北西端で東西に走る自然河道の南岸と、南から合流する自然流路の一部を検出した。

NR 01 の南岸斜面は、大きな礫が河原を構成するごとく露出し、遺物はそうした礫の隙間にまで入り込んでいた。

堆積土について。ほぼ中央部に上下に2分できる包含層があり、それぞれから多量の土器が出土した。特に下部の層位からは後期初頭の土器群が比較的まとまって出土し注目された。しかし、厚く堆積している基



第8図 NR 01(東から)

盤?の黄色砂礫層以西では状況が異なり、黄灰色砂を中心とした堆積であり、中央部以東とは全く異なっていた。ちょうどNR 02の流入部に当たることから、NR 02の堆積層と考えられる。

NR 02は一部の検出にとどまった。ちょうど仁王川の流れる本谷に合流する支谷の方向にのびることから、この支谷上流に起源のある流路であると考えられる。出土遺物のうち、黄灰色砂に含まれているものには摩耗したものが多いが、下部には土器をまとまって包含する暗褐色砂質シルトが堆積していた。

NR 03は当初人為的な遺構としていたが、大形の礫が集中してNR 01の南岸の礫群に接続するので、これも自然流路の痕跡ではないかと考えた。NR 02のように黄灰色砂の堆積がないことから、恒常的な流路ではなかったろう。

(2) 縄文時代以降

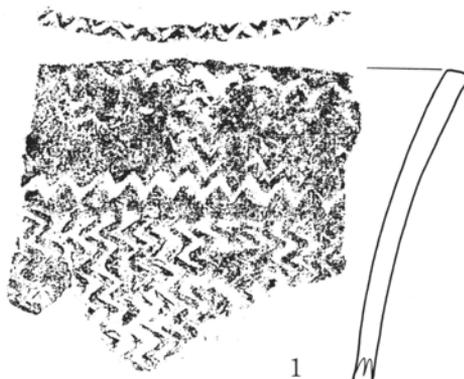
調査区北東部には一段下がる平坦面が存在する。当初この平坦面は整地面であろうと考えたが、平面形が不整であること、仁王川の流路に沿うこと、などから仁王川の氾濫による侵食地形であろうと考え、そしてこの平坦面西部で山茶碗・小皿の一括出土があったこと、東部に長方形土坑群や円礫を上部に置いた土坑が分布し、これらが中世に属す可能性のあることから、中世になってなんらかの利用が行われた、との可能性を考えるにいたった。この点で大形で偏平な礫が帯状に配列されているSX 23は平坦面に沿う位置にある上に、床土が礫の隙間に入り込んでいたこともあり、中世に属す可能性が否定しきれない。

2. 遺物の概要

A. 縄文時代

(1) 出土状態

NR 01から多量の土器が出土したことについてはすでに触れたが、これらの土器群の多くは調査当初のサブトレンチ掘削時に上下の包含層に2分して取り上げたものであった。そして、それ以外の多くはX・Y・Zのドットマッピングを行って取り上げた。それは、経験したことの無いような冬季の霜柱や凍結のために同一の現場状況を複数日にわたって維持することが妨げられたことにもよる。出土したら直ちに取り上げを行わないと、遺物が崩壊してしまうからである。こうした状況下で、SB 01上層の土器群も下部からSF 01が検出されたことによって後にわかったのであり、調査途中では判断できなかった。したがって、出土状態の完全な復元については困難な部分が少なくない。



第9図 押型文土器

(2) 土器・土製品

a. 縄文時代早期

押型文土器が1点出土している。口縁部、体部に山形文が施されている。押型文土器に対応する包含層は確認できていない。おそらく支谷を埋める層位に含まれていたであろう。

第3章 三斗目遺跡

b. 縄文時代後期(図版 12~28)

今回の調査で出土した土器のほとんどは縄文時代後期の資料であった。初頭を欠くが前葉から末葉まで資料的な増減はありながらも継続している。しかし、編年的な細分については報告者の能力の問題もあり十分に行うことができない。そこで大きく4群に区分し、それぞれをさらに細分する方法で記述することにする。なお、文様をもたない土器についての報告は割愛した。

I群 I群はほとんどがNR 01からの出土である。堀之内1式・2式、北白川上層式前半に対比できる一群である。

A類 9を除いた2~11は頸部がくびれて無文部をつくる深鉢である。口縁部には沈線が一条施され、沈線の両端には圧痕が加えられる。4には山形の突起がつくられ、やや弧状をなす縦沈線が加えられている。5・11は突起の中央が貫通している。11は突起の一方に沈線が複数施されている。2・3・5は頸部に隆帯が縦位に貼り付けられている。5はほとんど剥落している。10は突起の部分で、沈線の一方に圧痕、もう一方に粘土瘤が貼り付けられている。

12は無文の口縁部に環状突起がつく。13~20は口縁部に沈線と連続圧痕が施されている。19は沈線内に圧痕が施されているが、同類と思われる20では沈線からずれているので、同じグループと考える。21・22は口縁部の沈線が2条になっている。21には沈線の端に圧痕が加えられている。23は11と同類の突起と思われるが文様はやや複雑になっている。2条沈線間には連続圧痕が加えられている。

B類 口縁部に縄文を加えるものを一括した。25は口縁部の突起部分に渦巻文と縦弧線が施されている。26の突起は同心円的で他と異なる。27は渦巻文部には縄文が施されていないが、環状沈線文部内部には縄文が加えられている。

39~45は渦巻文の集成である。A・Bの判定はできない。46は沈線と連続圧痕の組合せである。

53~84は体部文様の集成である。76・82は渦巻文が1条で描かれており、新しい様相のようだ。78は縄文帯が上部に1条めぐる。83は鋸歯文が施されている。堀之内2式に対応するか。

C類 堀之内2式に対応する一群。85は口縁部内面に段がない。文様は弧線が流れている。89は弧線の連続となっている。他は幾何学文構成である。93は波状口縁である。体部文様は沈線による菱形区画文と充填文からなる。

D類 地文に縄文をもたない一群で、櫛描文が施される。

E類 口縁部が拡張され、文様が施される一群。沈線が2条のもの、3条・4条のものがある。沈線の端部に圧痕が施される点はA類と同じである。109は渦巻文と重弧文が施されている。

F類 縄文のみ施される一群。施文部の形状によっていくつかに区分できる。114~116は口縁端部のみ。117~119も口縁部のみだが、やや拡張している。120・121は体部外面。122~125は肥厚して面を作った口縁部外面に、126~129は肥厚して面を作った口縁部外面と口縁端部に縄文が施されている。

G類 無文部は丁寧に研磨されている。47は隆帯が口縁部から垂下している。49・50は細い刻み隆帯が施されている。51・52は太い刻み隆帯が貼り付けられている。52は3条が平行するのではなく蛇行する一条の隆帯である。

130~136は注口土器を集成した。130は把手背面と側面に沈線と圧痕、口縁部外面には沈線間に連

続圧痕が施されA類と同類である。131は体部に平行沈線文が施されている。把手背面と側面に沈線と圧痕が施されている。堀之内1式に対応するか。132以下は体部で同心円文が施されている。堀之内2式に対応か。

H類 C類の変容したような一群。137は波状口縁をもち、口縁部内面には段をつくる。142は口縁部に3条の沈線と縦位に刻み隆帯を貼り付ける。体部には上下に縄文帯を置き、内部に横流れの入り組み文が施されている。いずれも堀之内2式に対応すると思われる。

II群 口縁部の波頂部や体部文様の区切りに相対する弧文を配するものを一括した。弧文は無文部と縄文部が組み合わさって重弧文をなすものがある。NR 01出土土器を含むが、それ以外の地区からの出土例も多い。一乗寺K式、元住吉山I式に対応か。深鉢は口縁部が「く」字状に内折する。口縁部文様は、波頂部分に沈線による同心円文が中心に、その両側にあい対して重弧文が配される。そして、沈線間は無文部と縄文部の交互配置となっている。体部文様は沈線区画による縄文帯の横位平行構成が主となり、区切りとして配される区画単位文には、口縁部と同じく無文部と縄文部を交互に配する相対重弧線からなる同類文様が施される。浅鉢には突起上部に深い刺突を加えるものがある。

III群 「く」字状に内接する口縁部外面に沈線が一条加えられるものを一括した。深鉢、浅鉢、注口土器がある。元住吉山I式に対応か。

A類 沈線と口縁部稜線の間には縄文が加えられるもの。181～189は波状口縁、190～196は平口縁の深鉢である。口縁部内外面や体部内外面の調整には、研磨されるものと研磨されないものがある。186は沈線以下が隆帯状をなしており、他とは異なる。197～205は波頂部の突起部分を集成した。197は突起上面に圧痕を有する。204は平口縁のようだが、それ以外は波状口縁深鉢である。226は浅鉢である。

B類 沈線と口縁部稜線の間には擬縄文が加えられるもの。210～220は巻貝押圧とおもわれるが、221～225は巻貝を転がしたものであろうか。216・219・220・224は浅鉢のようだ。217も浅鉢かもしれない。216・217は突起上部に圧痕が施されている。225は深鉢の体部文様部か。218は214と同じく平口縁深鉢である。217・224は波頂部外面中央に縦沈線が加えられている。大形浅鉢220は縦沈線が2条になっている。波頂部内面に沈線が施されている。

C類 沈線と口縁部稜線の間には列点文が加えられるものを一括した。列点文は、刺突手法の差からいくつかに分かれる。226～232は点列、233～235は刻み、236～241は横に引いて短線列になっている。ただ、234は注口土器、240・241は器形不明である。231・232は波頂部外面に縦沈線、上面に圧痕が加えられている。

D類 沈線下が無文のものを一括した。242～247は波状口縁深鉢である。

251～254は口縁部の立ち上がりの長いものである。248・260は沈線内の静止痕がよくわかる。260は内外面が研磨ではなく工具によるナデである。

274～282は口縁部の立ち上がりが短い。280・282は口縁部直下の内湾が弱い。

283～290は波頂部の集成である。283～285は突起外面に縦沈線、上面に圧痕がある。286は圧痕がなく縦沈線のみ。287はどちらもない。288は圧痕のみあるが、浅鉢であろう。289は縦沈線のみである。292・293は浅鉢の把手だが、293は沈線が欠如している。新しいかもしれない。

第3章 三斗目遺跡

E類 基本的にはD類と同じだが、沈線が幅広く浅く、凹線状をなすという特徴がある。D類の沈線の雑なものが含まれてなくはないかもしれないが、294・297のような大形の破片でも同じようなタッチで施されているし、浅すぎて沈線が不明確なものもある。したがって、D類の垂型というよりは独立させたほうがよいと考えた。D類より新しいかもしれない。

203は体部のカーブが他と異なる。浅鉢であろうか。

F類 207・209は波頂部外面の縦沈線がIII群の突起に類似している。209は上面に圧痕がある。

G類 E類に類似するが、沈線が半截竹管で施されている。

IV群 八王子式・加曾利B1式類似の一群をA類、加曾利B2・B3式に対応すると思われるものをB類とした。

A類 307は多条の平行沈線が施されている。308は平行沈線間に縄文が加えられ、沈線間を縦沈線がつないでいる。309は沈線のクランク状に折れた部分が階段状にずれている。310は入り組み文がある。古いのかかもしれない。311～318は口縁下に3条沈線の縄文帯をもつ。318は、波頂部下に三角状の区画文を有する。326は平口縁で図示しているが、波状口縁の可能性もある。324・325は結び目状の蛇行文が施されている。327・328は突起である。

B類 329は縄文帯交差部分に相対弧線が施されている。330・331は口縁部に連弧文が施されている。332は体部で連弧文と刻み隆帯が施されている。333・334は波状口縁外面に羽状沈線文が施されている。335は口縁部の沈線上下に縄文が施されている。336は体部に羽状沈線文が施されている。337は内外面とも丁寧に研磨されている。338は突起である。

339～343は口縁部に磨消帯をもたないで、沈線も3、4条と多条である。

344～352は注口土器を集成した。344・345は沈線間に楯描文が施されている。346は把手部分である。上端にはS字状文がある。348・349は巻貝擬縄文である。III群C類に対応する。350・351は大きな弧線と縄文の組合せである。352は沈線に刺突文が重なっている。

V群 II群からIV群の一部に時間的に平行すると思われる、それ以外の一群。353と354は縄文部の位置が異なる。355は沈線が3条になり磨消部と縄文部の組合せが明確になる。

357は口縁部外面に刻み隆帯が貼り付けられる。

358は口縁部稜線上の刻み隆帯となって口縁部に達する。359は同類か。360は弧線隆帯が貼り付けられている。

VI群 2条以上ある平行沈線が浅く凹線状をなす。元住吉山II式、あるいは宮滝式に対応か。

364～366は注口土器の口縁部か。365には竹管圧痕が加えられている。368～373は体部に羽条沈線が施される。368は「く」字状口縁部に凹線が3条施される。巻貝のようだ。372・373は内面に条痕が施されている。374は口縁部に2条の凹線と巻貝擬縄文が施されている。

375は凹線間に連続圧痕が施されており、元住吉山II式に対比できる。376～378は巻貝凹線が施されている。378は体部に巻貝条痕が認められる。

379は巻貝圧痕が施されている。380～386は同類か。387～389は大型の波頂突起である。

VII群 いわゆる宮滝式に類似する一群を一括した。

390～415 はやや内傾する口縁部を有する。

390～399 は波状口縁を集成した。394 は波頂部下に巻貝圧痕が施されている。397 には竹管圧痕がある。

400～415 は平口縁。400 は大きな突起とその下部に巻貝による扇状圧痕が施されている。409 は口縁部下に縦位の条痕が認められる。410 には凹線に圧痕が加えられている。

416～431 は直立気味の口縁部を有する深鉢。416 は口縁部凹線下に縦位条痕が認められる。417 は波状口縁かもしれない。417・419 は巻貝扇状圧痕が施されている。417 の凹線左端には円形圧痕、427 の凹線左端には巻貝扇状圧痕が観察できる。

VIII群 瘤付土器が1点(第10図433)出土している。注口部分の破片である。黒色顔料(黒漆?)の痕跡が認められる。

c. 縄文時代晩期

図示できなかつたが、元刈谷式に類似する一群が出土している。

d. 土偶・土版(第11図)

土偶・土版とも破片である。土偶の破面には成形単位の粘土塊接合面の観察できるものがある。土版は全体の形状は楕円形か不整円形で、小孔(つり下げのための紐穴か)が2つあけられ、周囲に斜線が充填された連弧文(山並の表現?)、内部に円と放射する線の図柄(太陽の表現?)が複数描かれている。

(3) 石器・石製品(図版29～41)

a. 石鏃

すべて無茎である。基部の形態には、円基、平基、弱凹基、凹基がある。平面形は、三角形と五角形に大別できるが、側縁がふくらむもの、直線的なもの、内湾するものがある。基部も、弱凹基、凹基という単純な2分は難しく、ばらつきがある。また、左右非対称のものも多く、三角形と五角形の中間的なものがある。形態は、要素それぞれの領域が重複して確定的な細分は難しい。

88 以下は未成品にしたが、確証はない。

b. 石錐

112 は上下端に使用痕が認められる。110 は使用痕が顕著である。土器などの穿孔用であろうか。

c. 石匙

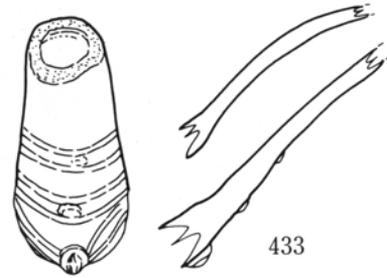
116 は左面刃縁に剥離が連続しているが、右面には大形剥離面が残っている。

d. 搔器

118～125 は片面に連続した小剥離が認められる。

e. 削器

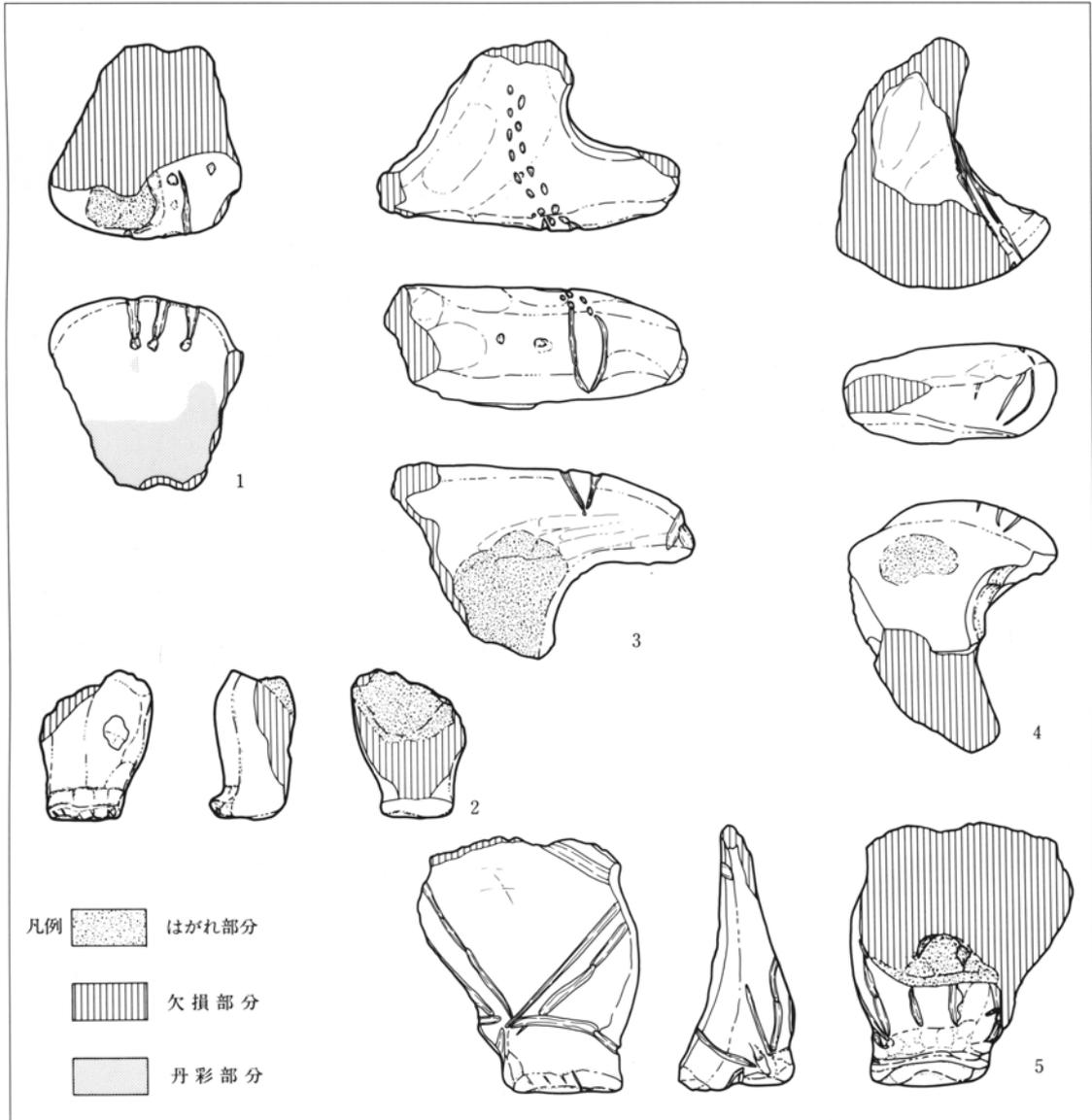
123～138・139・140 を削器とした。126・132・139 は剥離面の鋭い縁辺を刃部としているもので、調整剥離は不十分。



第10図 (瘤付)注口土器



434



9

第11図 土器・土製品

f. 打製石斧

141 は二つに割れたもので、S K 21 から出土した。142・144・148 は刃部が摩耗している。145 の刃部は欠損している。

g. 磨石・凹石・石皿

149～154 は磨石。157・158・170～181 は石皿。石皿の多くは集石・配石遺構を構成したものである。残りは凹石。152・157 は擦面の一部に凹部ができています。163 は側面が使用によりすり減って方柱状になっている。168・169 は側面にも凹部が形成されている。169 はS K 28 内部から上下になって出土したものである。

170・176 は両面とも擦面が溝状を呈している。

h. 磨製石斧

182・183 は蛇紋岩製であり、搬入品と考えられる。磨きだされた模様が美しい。184 は凝灰岩製の地元産。

i. 有溝石錘

186 は両面に溝が切つてある。

j. 垂飾

185 はヒスイ製の垂飾である。紐穴は片側からの穿孔である。

k. 石棒

187～189 は同一個体で配石や集石などとともに散乱して出土した。188・189 は接合する。火熱を受けているようだ。190 は破損部を下に、端部を上にして埋められていたもので、187～189 と同一個体の可能性もある。仮にそうであるとすると、全長は1 m近くになる。

l. 石核・剥片

下呂石の石核は円礫と角礫の2者がある。採取地が異なるだけでなく、石材移動のネットワークへの遠近に関係するのであろう。矢作川上流域は交錯する地域である可能性が高い。

第3章 三斗目遺跡

B. 弥生時代以降

(1) 弥生時代(第11図434)

条痕紋系土器の甕口縁部が1点ある。二枚貝条痕で、口縁部にも条痕が施されている。

(2) 古代・中世(図版61)

三斗目遺跡からは縄文時代の遺物の他に、古代・中世の遺物がある程度出土した。これらは明確な遺構に伴うものではなく、縄文時代の遺物包含層から縄文土器や石器に伴い出土した。

a. 古代の遺物(451~464)

灰釉陶器が破片数で30点ほど出土している。全形を知ることができる遺物はほとんどない。図示できたものはすべて椀・皿と思われる。高台はやや内湾しており、外側が削られていわゆる三ヶ月高台となっている。451、453、459、460、463は灰釉が漬け掛けされている。折戸53号窯式から東山72号窯式にかけての時期、10世紀後半から11世紀前半に比定される⁽¹⁾。

b. 中世の遺物(465~428)

いわゆる山茶椀(灰釉系陶器)が破片数で70点ほど出土している。465、469~474は椀、466~468、475~478は皿である。465~468は縄文時代の遺物包含層中から4つ並べた状態で出土した。何らかの意味をもつものかも知れないが、遺物にともなう掘り込みなどは確認できなかった。465~467は12世紀中葉から13世紀初頭、468のみ器高が低くて13世紀中葉に比定され、時期が異なる。そのほかの椀と皿は、しっかりした高台から粗雑な高台へ、あるいは無高台へと変化しているが、いずれもほぼ12世紀のものといえる⁽²⁾。

(3) その他の遺物

479は土錘で、長さ4.1cm、胴部の最大径1.8cm、重さ9.4gを測り、中太の管状を呈する。そのほか、小破片で図示できないが、龍泉窯系の青磁の破片が2点、須恵器片1点、灰釉の瓶の破片1点、近世以降の施釉陶器片10余点が出土している。

註

(1) 灰釉陶器の年代観は 檜崎彰一他「猿投窯の編年について」『愛知県古窯跡群分布調査報告(III)』愛知県教育委員会 1983 に拠った。

(2) 山茶椀(灰釉系陶器)の年代観は 藤澤良祐「瀬戸古窯址群」『瀬戸市歴史民俗資料館 研究紀要I』瀬戸市歴史民俗資料館 1982 に拠った。

付記

海生内湾性のトリガイ *Fulvia mutica* REEVE と推定される微小貝殻片が1点出土した。(なおトリガイは美味で古くから食用に供せられてきた。) 森 勇一 記。

第4章 三本松遺跡

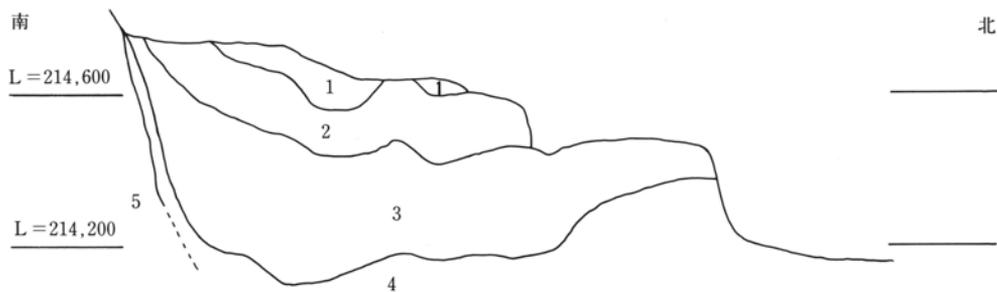
1. 層序と遺構の概要

A. 層序

三本松遺跡の調査区は、北向き斜面の山腹にそって設定した。調査区のすぐ西側を小河川(宮口川)が北流し、調査区の北側を約100m離れて仁王川が西に向かって流れている。仁王川の南側は現在では調査区も含めて水田として利用されており、北西に向かって緩やかに傾斜している。

調査区の基本層序は、最下層に地山である花こう岩質の赤褐色土(第5層)があり、その上が河川による堆積層である灰褐色砂質シルト(第4層)となっている。この層は、現在の地表面とは逆に調査区の南側が低くて北側が高い傾きを示す。これは仁王川に近い調査区北側に小規模ながら自然堤防が形成され、微高地になっていたためと思われる。第4層の上は黒褐色シルト層(第3層)で、第4層と同様の堆積状況となっている。この層は縄文時代の遺物を含み当時の生活面と考えられる。第3層の上には黄灰色粘質シルト(第2層)が堆積している。この層は水分を多量に含み、調査区南部の第3層と第4層がくぼんでいる部分に厚く堆積している。縄文時代の生活面が形成された後、仁王川の氾濫によって自然堤防の背後に水がたまり、後背湿地となったなごりとする。この層からも縄文土器が出土している。第2層の上が青灰色粘質シルト(第1層)で、この層からは少量の縄文土器の他に中世陶器が出土している。第1層の上が現在の耕作土である。

なお第1～第3層は調査区の北部および西部には存在しない。水田をひらく際に削平されてしまった可能性が高い。このためこの部分の遺構は、耕作土を取り除くとすぐ第4層に掘り込まれたかたちで検出された。



1. 青灰色粘質シルト 2. 黄灰色粘質シルト 3. 黒褐色シルト 4. 灰褐色砂質シルト 5. 赤褐色土

第12図 三本松遺跡の基本層序 (縦は1/20 横は1/200)



第13図 遺構検出時の等高線



(1/200)

B.遺構

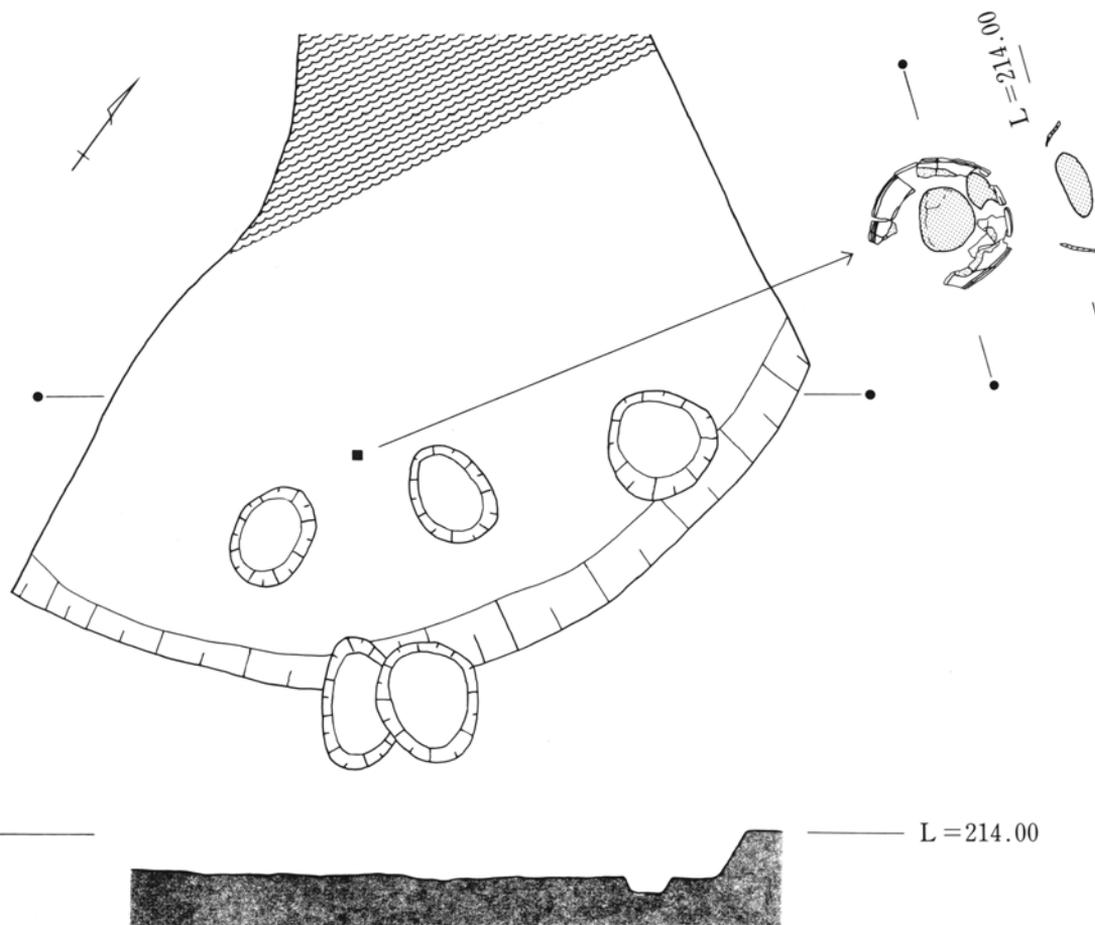
三本松遺跡の遺構としては、住居跡が1軒、住居跡内で検出された伏襲状遺構1基、土坑・ピット多数、集石遺構と思われるもの3基、埋襲状遺構3基がある。ここでは主なものについて述べる。

住居跡

SB01 調査区の北西端で検出された。西及び北側は調査区外となり、また北西端に近い部分は西を流れる宮口川の旧河道にかかっているため、調査したのはごく一部分のみであり、全形は不明である。炉跡も発見できなかった。検出面と床面との高低差は約30cmで、床面にみられるピットは柱穴かも知れない。床面より25cm上から伏襲状遺構が検出された。

伏襲状遺構

SB01内伏襲状遺構 SB01の中から推定口径が34cmとなる深鉢が口縁部を下に向けた状態で発見された。この土器の中心部には直径が15cmほどの平たい丸石が置かれていた。土器が口縁部付近しか残存していなかったため、石を覆うように土器が置かれたのか、土器をつぶすように石が置かれたのかははっきりしない。この土器の置かれているレベルはSB01の床面のレベルより25cmも高いため、SB01と直接関係があるとは考えにくい。

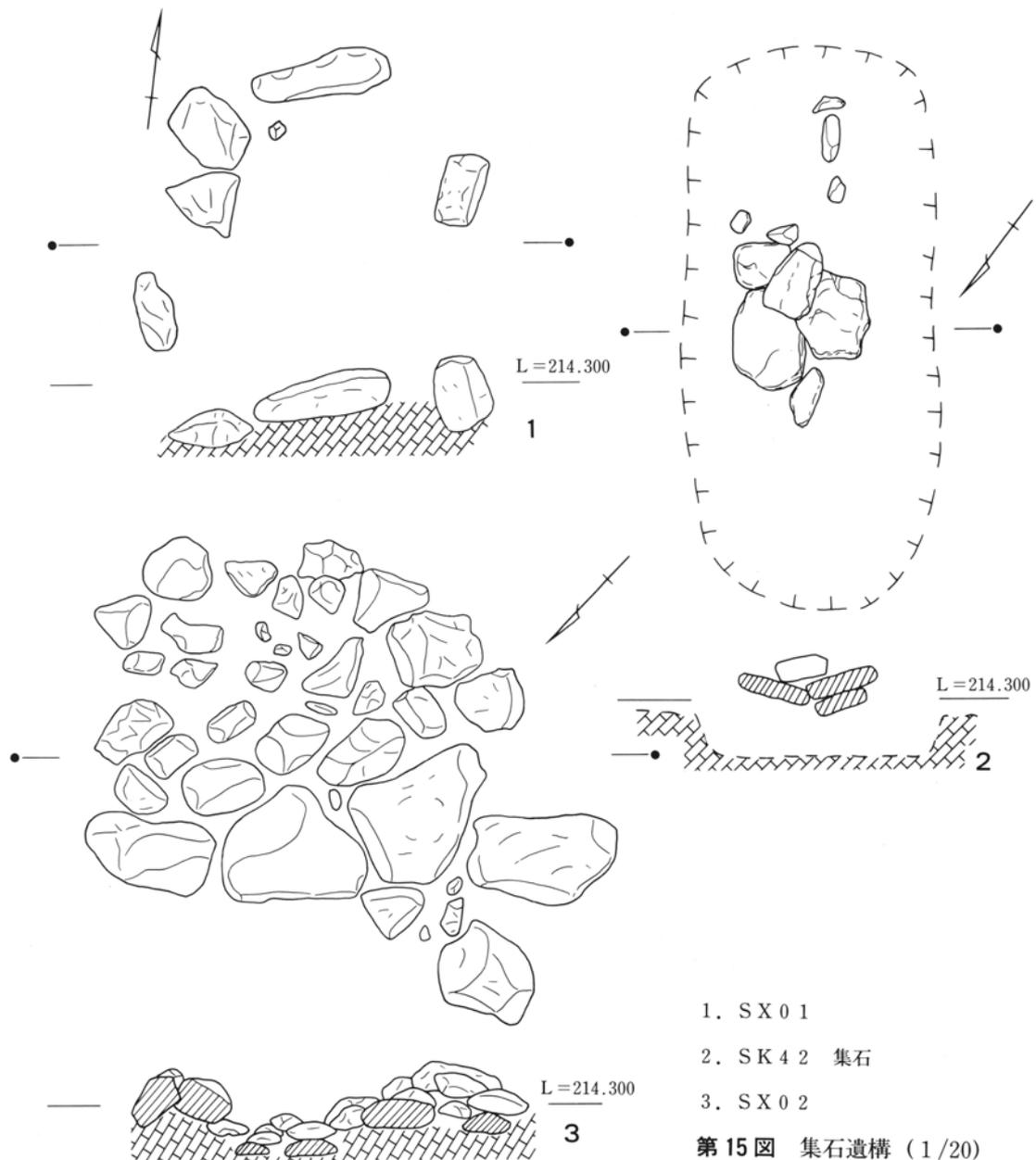


第14図 SB01およびSB01内伏襲状遺構 (SB01は1/50 伏襲状遺構は1/20)

集石遺構

SX01 調査区の北壁沿いにある集石。長さ20cm～40cmほどの細長い石が一辺を欠いた方形に並べられている。石の表面が赤く焼けており、炉跡であったと思われるが、方形に並べられた外側に向いた石の表面まで焼けているので炉以外の遺構の可能性もある。

SK42集石 SK42は調査区中央付近にある細長い土坑で、本遺構はこの埋土の上の集石である。15cmから30cmほどの石を5つ置いただけの簡単なものである。集石の下のSK42からは少量の縄文土器が出土したが、集石の性格を決定するものではなく、この集石が意図的に置かれたものかどうかは不明である。



第15図 集石遺構 (1/20)

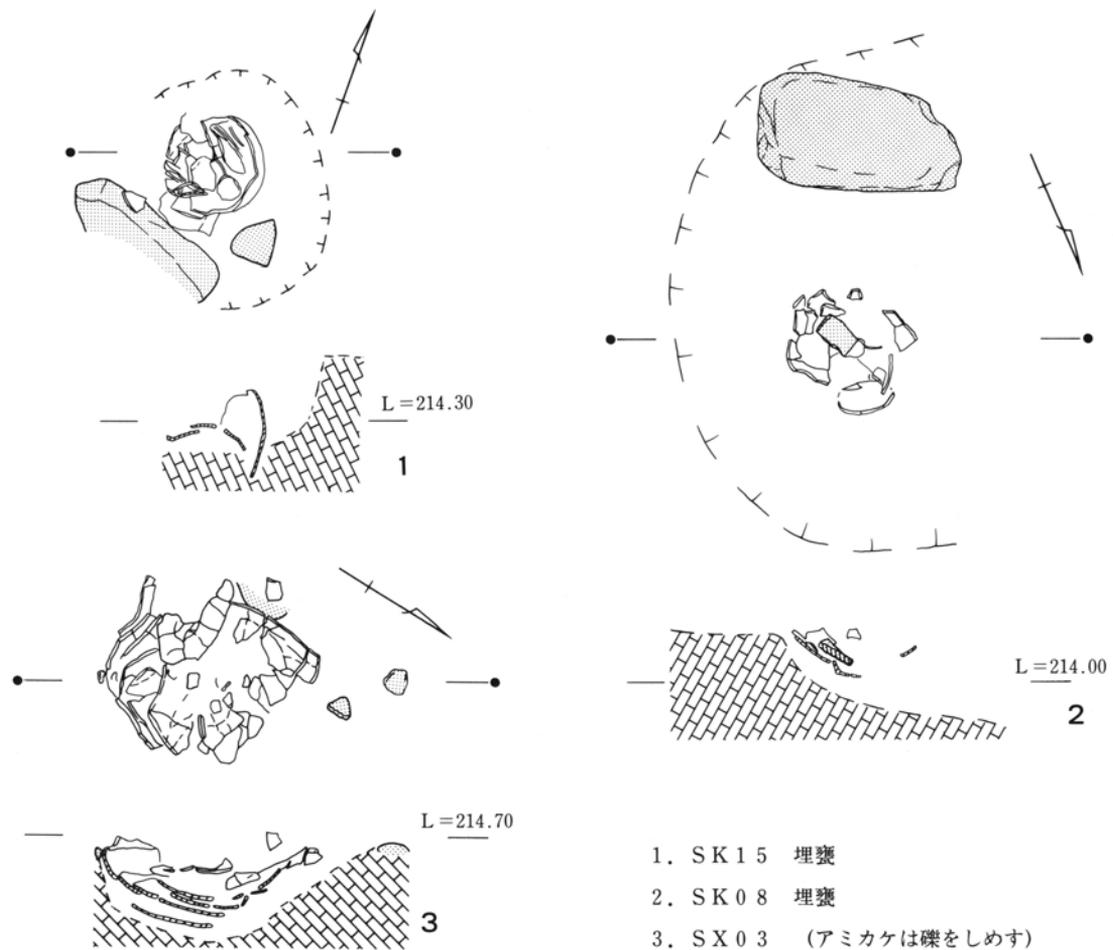
第4章 三本松遺跡

SX02 調査区中央よりやや西にある集石。10 cm弱から40 cmほどまで大小さまざまな石が正方形に近い形に並べられている。石の並べられているレベルは、遺物包含層（第3層）の最上面に近い。集石の下の掘り込みは確認できなかったが、集石の中央が窪んでいるのは土坑の上に石が置かれたためと考えられる。遺構としての性格は不明である。

埋甕状遺構

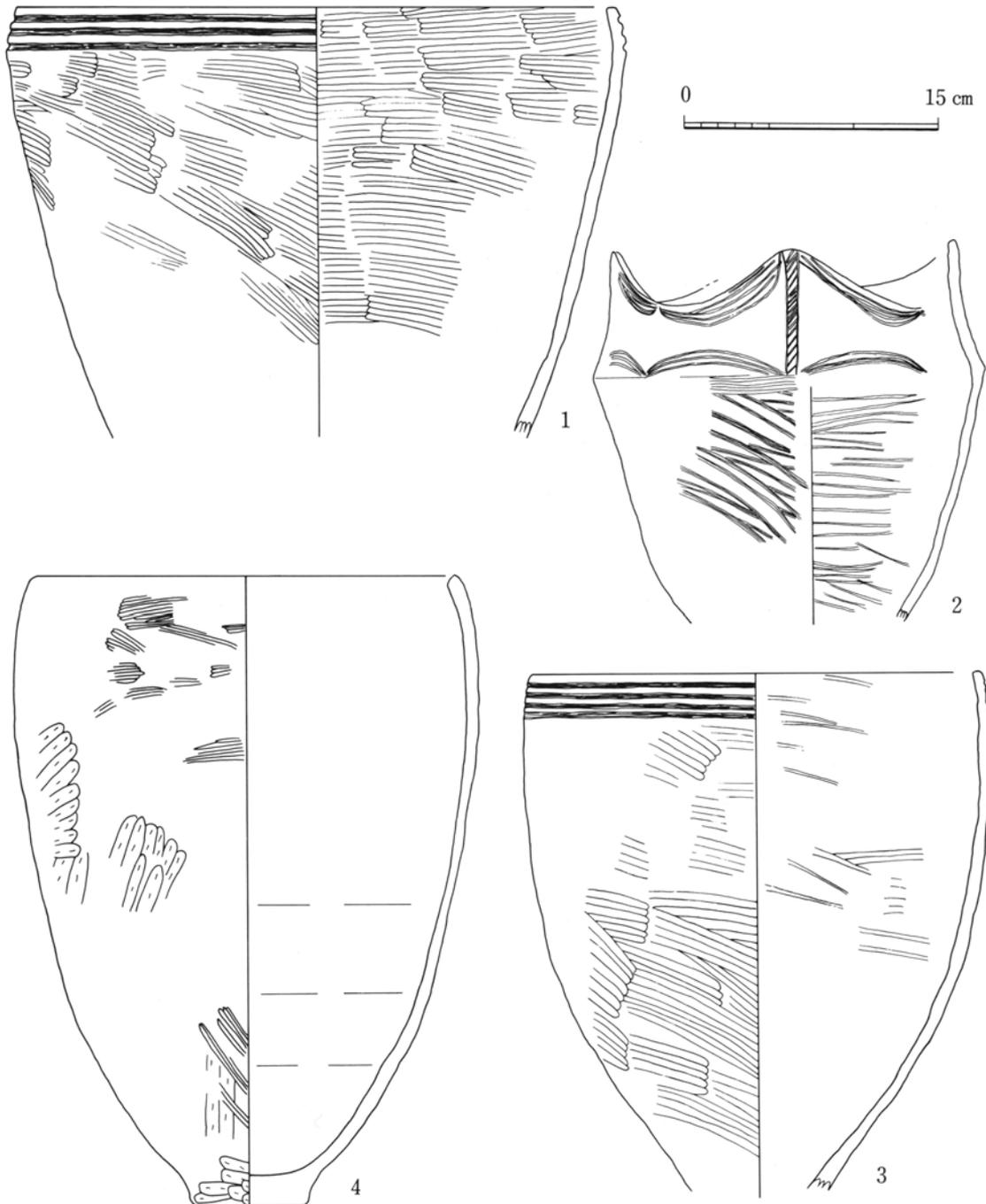
SK15埋甕状遺構 SK15は調査区西半にある土坑で、この土坑内から土器が立った状態で検出された。土器は復元の結果、推定口径が26 cmと23 cmの2つの土器が重なっていたことが明らかになった。

SK08埋甕状遺構 SK08は調査区北西端のSB01の近くにある隅丸長方形の土坑である。この土坑の中に土器が直立した状態で検出された。土器は推定口径24.6 cm、底径6.0 cm、器高37.2 cmの無文の深鉢で、土器内には長方形の石版？が入っていた。



第16図 埋甕状遺構 (1/20)

SX03 SX03は調査区南壁中央近くにある埋甕状遺構である。検出した時点ですでにつぶれ、土器の形態等はわからなくなっていたが、整理作業で復元したところ、口径がそれぞれ32 cm、39 cm、40 cmに推定されるかなり大きな土器が3つ重なっていたことがわかった。遺構としての性格は不明である。

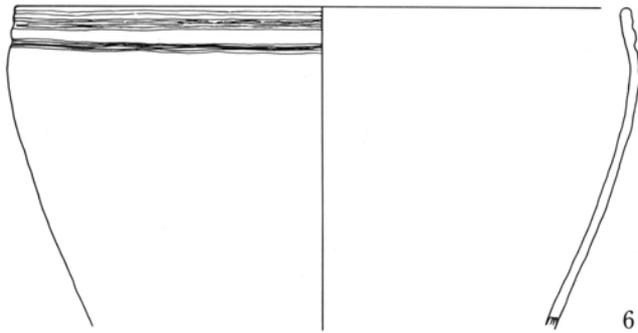
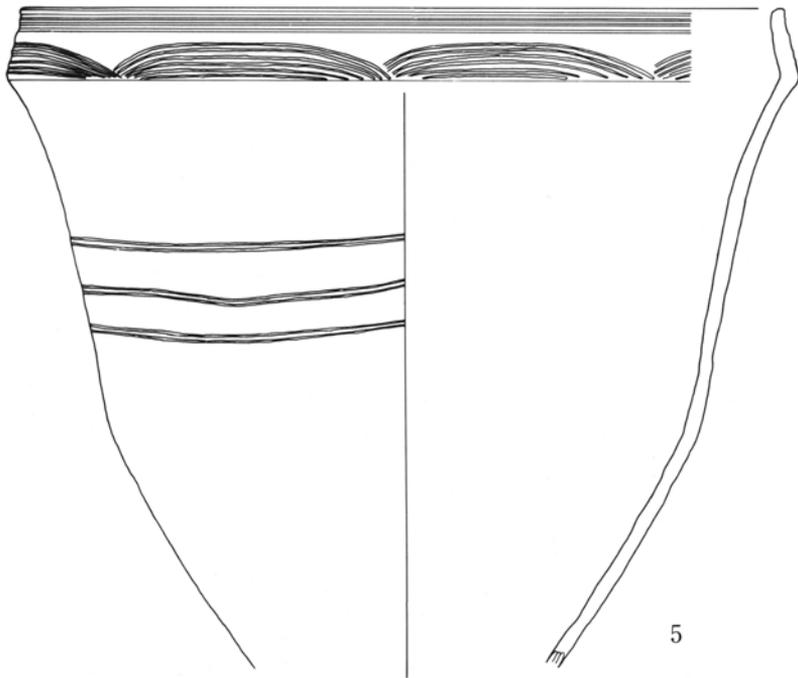


1. SB01

2. 3. SK15

4. SK08

第17図 埋甕・伏甕状遺構の土器



0 1.5 cm

第18図 SX03の土器

2. 遺物の概要

A. 縄文時代

(1) 縄文土器 (第17・18図、図版44~53)

三本松遺跡の調査によって出土した縄文土器は、破片数にして2万3千点以上にのぼる。土器は黒褐色シルト(第3層)からの出土が多く、その他に土坑・ピットや上位の層からも出土した。しかし後述するような理由から遺物の2次的な移動が行われたと思われるため、土器は従来の編年観に沿い主に口縁部付近の形態や施文方法に基づき出土遺構や層位にこだわらずに、以下の9群に分類した。

1群 縄文時代中期の土器群で全体に摩耗が激しい。次の2類に分類される。

a類(8~26) 沈線によって施文されるもの。8~15は縦または横方向の沈線が、16~18では波状口縁の波頂部の下に渦文が施される。19~22は沈線と縄文を併用している。24はキャリパー型の器形で、縄文地に縦に細いへら状の器具で2本以上の沈線を施し沈線間を磨消している。23はキャリパー型の器形をもち、細い沈線に列点文を併用しているやや異質の土器である。25は口縁部に矢羽根状の沈線文、26は体部に「∩」形の区画をつくりその中にS字を縦につなげたような沈線を施している。

b群(27~33) 張り付けられた隆帯をもつもの。いずれも隆帯の上または基部に刺突文をもつ。32と33は隆帯の下に沈線による文様が施されている。

1群土器は沈線を主体とする点や文様のあり方から中期後葉から末葉の土器群と思われる。

2群 縄文時代後期の土器群。出土数は少ない。次の3類に分けられる。

a類(34~36) 沈線と縄文帯をもつもの。34は口縁の下に8字状の貼り付けをもつ。36は注口土器か。

b群(37~39) 口縁が「く」の字に屈曲し、屈曲部のすぐ上に沈線を施しているもの。39は沈線の下に縄文を施している。

c群(40~44) 口縁または体部に瘤をもつものおよび土器の把手。

2群土器のうち、a類は後期の堀之内式あるいはそれに近い時期、b類は三斗目遺跡で多く出土したもので、後期後葉の元住吉山I式、c類は後期の後葉に属する土器と思われる。

3群 口縁部周辺に凹線をもつ土器群。破片数で160点以上が出土した。次の2類に分類される。

a類(1・3・6・45~86) 口縁に沿って凹線が施されるもの。土器の外表面は条痕で調整され、全体的に凹線は粗雑である。平縁が多いが、波状口縁もみられる。45~72は地文をもたず、73~86は縄文または擬縄文を地文にしている。59・60は凹線の下に平行に刺突列点文が施されている。口縁部は直立またはゆるやかに内湾するものが多いが、61~64や81は「く」の字に屈曲しており、凹線も口縁部近くに集中している。69~72は凹線と小巻貝の圧痕を併用している。76は器高25cm以上になる波状口縁の深鉢で、擬縄文の上から凹線を施す。78は細かな刺突を集中させて縄文地文と同じ効果をだし、浅く粗雑な凹線を施す。

第4章 三本松遺跡

b類(87~112) 凹線によって文様を描くもの。地文に縄文をもつものは少なく、多くは無地文である。小破片が多く文様を復元することは困難であるが、87~90(同一個体の可能性大)は上下の平行する凹線の上に2本の上向き連弧文、93・94は波状口縁の波頂部から垂線を下ろし、その両側に凹線を施したもの。98は波頂部に三角形の区画を描き、中心に刺突を加えたもの。96は上下両方を向いた連弧文とその接続部に上下をつなぐ凹線を施したもの。104・105は口縁部近くに波文を施し、その下に平行する複数の凹線を施している。110・111は凹線はないが、縄文(擬縄文)の上から凹線と同じ原体と思われるもので刺突文を施している。112も凹線はなく、波頂部に巻貝の圧痕をつけたものである。

3群土器のほとんどは増子康真氏によって提唱された後期末の寺津下層式(増子 1975)に比定されるものである。「く」の字状に内折する口縁部に間隔の狭い凹線を施すものは後続する型式に含まれるものかもしれない。

4群 口縁部周辺に半截竹管あるいはそれに類似したもので施文した土器群。破片数で130点以上が出土した。次の3種類に分けられる。

a類(2・5・113~163) 半截竹管で文様を描くもの。ヘラのようなもので半截竹管と同じ効果を出している土器も含む。地文に縄文をもつものと無地のものがある。2は細いヘラ状の、5は細い棒状のもので文様を描いており、やや様相を異にする。113~128は下向きあるいは上下向きの連弧文。129・130は3群の96と、132・133は3群の94と同じモチーフを半截竹管で描いたもので、やや古い様相を示すものか。135~142は波文。141は半截竹管の代わりにヘラ状のもので文様を施している。156~158は楕円形の文様と思われる。159は鋸歯文か。160~162は横走する平行線の間を縦線で結んだもので、160はさらに口縁に沿って列点文を施す。163は胴部に半截竹管で平行線をひいたもので、後期後葉の土器の雰囲気を残している。

b類(164~168) 口縁付近に半截竹管による刺突を施したもの。刺突文は次の5群に相当するが、口縁が「く」の字に内折する器形から4群に含めた。4群土器から5群土器への過渡的なものか。

c類(169~174) 口縁付近に縄文(擬縄文)のみを施したもの。地文のみで文様が省略されたものか。

4群土器は、多くが晩期初頭の寺津式に比定されるものである。ただ寺津式の典型といわれる「く」の字状に内折した口縁部と、地文としての縄文をもつものは意外と少ない。

5群 肥厚した口縁部に主に半截竹管による文様をもつ土器群。破片数で70点ほど出土した。次の2類に分類される。

a類(175~192) 半截竹管による刺突または押引きを横走させるもの。文様は2列が多いが3列のものもみられる。191・192は沈線と押引きを併用している。

b類(193~202) 半截竹管による沈線または沈線化した押引きをもつもの。199は縦に区画する沈線をもつ。362は波状口縁の波頂から垂線をおろすもので、3群土器以来のモチーフを継承したものといえる。

5群土器は4群土器に後続する元刈谷式土器に比定される。口唇部に文様が集中する184や185などは元刈谷式に続き矢作川流域に分布するといわれる桜井式土器に比定されるかもしれない。

6群 (203~206) 口縁部に凸帯をもつ土器群。10点ほどが出土した。

203・204は凸帯の上にへら状器具で刻目を施す。205は低い無文の凸帯を口縁部内外にもち、肩が張る深鉢。206は、凸帯はないものの205と同様の器形と思われる。

6群土器は西之山式から五貫森式の時期のものと思われる。

7群 (207~245) その他の有文土器群。

207~219は細い平行沈線とその沈線間に刻目をもつもの。210のように平行沈線のみのもや218のように平行線を分断する縦の沈線を有するものも同じグループか。219は三角形の刳込みをもつ。これらはいわゆる櫃原式土器に類似する(末永他 1961)。220~222は口縁に沿って紐状の隆帯を貼りつけて刻目をつけたもので、後期末から晩期初頭にみられるもの。223は波状口縁に∩字状の沈線を施し、沈線内にへら状器具で刻目をつけたもの。224は波頂部から垂線を降ろした口縁部で、4群に類似。225は半截竹管で横線を引きその下に波文を施す。施文の状況は4群と同じだが、肥厚させて面取りした口唇部は4群には見られない。226は斜行する半截竹管文。227は大きく開いた口縁の下にへら描きで波文を一条施す。228は薄い器壁で内傾する口縁近くに細い沈線で楕円形の区画を描く。229は口縁部付近に刻目をもつ隆帯を用いてやはり楕円形の区画をつくる。236は口縁を隆帯で肥厚させてその上に押圧をくわえたもので、伊川津貝塚に類例が見られる(久永他 1972)。231は「く」の字状に内折する口縁部に隆帯で鋸歯状の文様を描く。232は屈曲する体部に隆帯を施し、隆帯上に押圧を加える。233は刺突列点文の下に条痕を施す。234はへら描きと思われる沈線を口縁の下に斜行させている。235・236は器表を研磨し肥厚させた口縁の外面に沈線を1~2本施す。237は体部を横走するへら描きの沈線帯を縦の沈線で区切っている。238・239は文様はないが緩やかなS字状の口縁をもつ。240は口縁から楕円の沈線を斜めに垂下させている。241は穿孔をもち口縁内部に細い沈線をもつ。242は沈線の間へへら先のようなもので刺突を施す。243は器壁が薄く注口土器か。244は三本松遺跡で唯一確認された注口。245は体部に曲線状になる浮線文を施したものである。

8群 条痕文または無文の土器群で最も多い。特色のあるもののみを図示した。

a類 (246~259) 条痕を施す土器。口縁部がやや外反するもの(246)、直立するもの(247~253・257~259)、やや内湾するもの(254~256)に分けられる。

b類 (260~283) 無文土器。260~262は口唇部に刻目を、263~267は口唇部に刺突あるいは押引きをもつ。268は外反する口縁部でやはり口唇部に刺突をもつ。269は器体が研磨され緩やかな波状口縁をもつ浅鉢か。270は椀状の土器。273~275は外面に輪積み痕が残る。

第4章 三本松遺跡

8群土器はほとんどが晩期に属する粗製土器と思われる。

9群 (284~321) 土器の底部。

284は台付土器で、高台部分に縦の隆帯と透かし状の穿孔をもつ。中期後葉の1群土器とほぼ同時期のものか。285・286は台付土器で、285は体部と高台の継ぎ目に刻目を施した隆帯をもつ。晩期に属するものである。287は唯一の丸底。288・289は上げ底状になっている。底部外面に網代痕をもつものははっきり確認できない。293~301は木葉痕がみられるものである。

図示した土器のうち時期がほぼ推定できる1~6群土器の遺構別・層位別の出土点数は、下の表の通りである。遺構では比較的多くの遺物を出土したSB01とSK07を例に挙げた。

	SB01	SK07	その他の遺構	黒褐色シルト	黄褐色粘質シルト	その他・不明
1群		1	1	19	1	4
2群	3		1	3		4
3群	10	2	4	34	10	9
4群	6		5	34	6	9
5群	2	2	7	10	5	6
6群		2	1	1		

第2表 遺構・層位別土器出土地点

SB01からは2群土器から5群土器までが、SK07からは1群土器から6群土器までが出土した。これらの遺構内の埋土は層位的な区分ができず、遺物の出土状況もばらばらであった。また黒褐色シルト層とその上位層である黄褐色粘質シルト層からの土器の出土点数からみて、三本松遺跡においては遺物の2次的な移動が行われたと考えられる。土層の堆積状況から判断すると、仁王川の氾濫が原因である可能性が高い。このため遺構や層位ごとの一括遺物としての扱いは不可能と考えた。個々の遺物の出土遺構や層位については付表に示した。

文中では基本的に3群土器を後期末の寺津下層式に、4群土器を晩期初頭の寺津式に比定した。近年、寺津下層式に後続し寺津式に先行する下別所式が提唱されている(山下 1982、増子 1988)。下別所式土器は凹線文土器や半截竹管文土器の組成率を中心に分類がなされており、ここでは3群土器および4群土器がさらに細別される可能性があることを指摘するにとどめたい。

参考文献

- 末永雅雄他 1961 『榎原』 奈良県教育委員会
 久永春男他 1972 『伊川津貝塚調査の歴史』『伊川津貝塚』 愛知県渥美郡渥美町教育委員会
 増子康真 1975 『東海地方縄文文化研究の現状』『東海先史文化の諸段階』
 1988 『刈谷市本刈谷貝塚報告の縄文式土器の分析 -下別所式土器の検討-』『古代人 49』 名古屋考古学会
 山下勝年 1982 『下別所遺跡採集の縄文式土器』『古代人 39』 名古屋考古学会

(2) 石器・石製品 (図版 54~60)

包含層の遺存があまり良くなかった割には石器・石製品の出土量が多い印象をうける。原位置にあったと考えられる石器・石製品は皆無である。SB01からは比較的まとまって出土しているが、それらが本遺構に伴うのかどうか分からない。時期は一部を除きほぼ縄文時代晩期前半に属するものとしてよいだろう。

a. 石鏃 (1~146)

ほとんどが無茎で、有茎はわずかに3点あるのみである。107・108は身部が側縁の内湾する五角形を呈し、飛行機鏃といわれるものである。

無茎は、基部形態に円基はなく、弱凸基、平基、弱凹基、凹基それぞれに区分できる。しかし、典型例の間は特徴も漸移的で確固とした区分は難しい。

身の形態は、基本形として三角形と五角形にいちおう集約される。そして、さらに側縁が直線的なもの、外にふくらむもの、内湾するものという変異があり、それに加えて非対称形のものがある。

特に非対称のものは、一方の側縁には肩が作りだされているが、もう一方にはそれが無いために三角形と五角形の折衷のように見えるものや、7のように中軸線の通りが不安定になるものがある。

凹基の場合に特徴的なのは、基部両端の先がシャープに尖るものは、形態も安定して基部のえぐりも深いのに対し、丸く鈍い印象をうけるものは、形態に非対称のものがあつたりして不安定である。前者の石材はチャート・黒曜石が主であることから、材質に関係するのかもしれない。

未製品については129~146をあてた。129~137は平面形がいびつなだけで完成品として良いのかもしれないが、断面形を見ると130・135は身が厚いし、131・136・137は凸レンズ状にはほど遠い形態で、完成品が薄く凸レンズ状をしているのとは大きく異なる。138以下は、当初加工のあるフレイクとしていたものである。

b. 磨製石斧 (147~150)

147は偏平両刃である。主面はやや膨らみ、側面は平坦である。石材は軟質である。149は偏平の石斧である。側面は敲打または剥離されたままで面はもたない。150では刃部の片減りと使用に伴う線条痕の付きかたから、左図を左主面、中図を全面、右図を右主面とした。

c. 石棒 (151~155)

151は石棒片をクサビ打ちしているために両端が鋭くなっている。大きく剥離している方には研磨が加えられている。152は石剣であろう。153は乳棒状石斧の基部である可能性もある。基部を除く上部には摩耗痕が観察できる。154・155は同一個体の石棒片である。ともにSB01から出土した。

第4章 三本松遺跡

d. 石匙・搔器 (156~158)

156の右面刃部は大きな剥離を残すままで、左面に連続した剥離が認められる。157・158では下辺に調整剥離が加えられている。

e. 石錐 (159~168)

159~163は剥片の一端に剥離を加えて軸を作り出すもの、165~168は剥片の一端を鋭く尖らせるだけのものである。166は軸の部分が欠損して再生されたもののようである。

f. 搔器・削器 (169~175)

169・170・172・173・175は石材が安山岩で表面は白く風化している。そのために先行する時期の石器と見まがうものである。169は先土器時代のエンドスクレイパーのようであり、実際古いものかもしれない。

173・175は円礫から打ち剥した剥片の縁辺を刃部としている。

g. 凹石・すり石 (176~180)

擦面と敲打による凹部をもつものである。177は両極打撃が加えられ、一方には敲打痕が認められる。176・177は上下平坦面に擦面をもつだけだが、179は側面にも擦面がある。

180はすり石としたが、石棒の可能性もある。

h. 使用痕のある剥片

縁辺に微小剥離の認められる剥片が出土している。剥離された状態のままで、整形用の調整剥離は加えられていない。形態は一定ではないが、親指と中指で摘んで人差し指で押さえるにちょうど都合の良いかたちのものである点は注意される。

i. 剥片・石核

剥片は下呂石が最も多く、次にチャート・黒曜石である。石核は、下呂石に円礫と角礫の2種類が認められる。益田川（飛驒川）の河原の転石と湯ヶ峰麓の転石の2種類があったと考えられるが、おそらくは両地点採取物の素材としての流れが西三河山間部で交錯しているためであろう。

B. 弥生時代以降(図版 62)

(1) 弥生土器 (322~324)

縄文土器の包含層である第3層(黒褐色シルト)から弥生土器が3点(同一個体であろう)出土した。壺の肩の部分と思われ、櫛によるゆるやかな波状文が横走している。323は波状文の上に接して下向きの連弧文がみられるようである。弥生時代中期後半の土器と思われる。

(2) 灰釉陶器⁽¹⁾ (351・352)

灰釉陶器が破片数で5点ほど出土した。351は高い高台をもち、外面は高台まで灰釉が刷毛塗りされている。10世紀前半の黒笹90号窯式と思われる。352は高台の内側が軽くふくらみ外側が直立する高台をもち、11世紀後半の百代寺式に比定される。その他、小さくて図示はできないが壺や広口瓶の破片もみられる。

(3) 中世陶器⁽²⁾ (353~392)

中世の山茶椀(灰釉系陶器)が破片数で280点ほど出土した。多くは第1層(青灰色粘質シルト)からの出土であるが、第2層(黄灰色粘質シルト)や第3層(黒褐色シルト)からも出土している。全形を図示できるものはほとんどない。353~380は椀である。353~364は比較的高い高台をもち、体部は曲線的である。12世紀前葉から中葉に比定される。365~373は高台が低くて粗雑である。12世紀末から13世紀初頭のものである。374~377は高台がさらに低くて粗雑で、高台径も小さい。体部は直線的で体部内面と底部内面に稜がみられる。13世紀前葉から中葉のものである。378は高台を完全に失っており、13世紀後葉に比定される。379は椀の口縁部で、小さな輪花がみられる。380は緻密な胎土をもついわゆる北部系(均質手)山茶椀の口縁部である。北部系山茶椀はこの1点のみである。381~392は小皿である。381~385は高台をもつ小椀形態のもので、353~364の椀に伴う。386~387は高台を失った小皿で、365~373の椀に伴う。388~392は偏平な器形をもつ皿で、375~377の椀に伴う。

(4) その他の土器

第1層(青灰色粘質シルト)からは土師器の破片、緑釉陶器の小破片、青磁、常滑の鉢または甕の底部、天目茶椀の口縁部がそれぞれ1片ずつ出土した。また耕作土中より近世以降の陶器・磁器が20点余り出土している。

註

- (1) 灰釉陶器の年代観は 梶崎彰一他「猿投窯の編年について」『愛知県古窯跡群分布調査報告(III)』愛知県教育委員会 1983 に拠った。
- (2) 山茶椀(灰釉系陶器)の年代観は 藤澤良祐「瀬戸古窯址群」『瀬戸市歴史民俗資料館 研究紀要I』瀬戸市歴史民俗資料館 1982 に拠った。

第5章 考察

1. 三斗目遺跡調査結果の分析

A. 縄文土器について

縄文土器は、I群からVII群まで分類した。群別の前提は従来の編年観に求め、I群が堀之内1・2式、II群からV群が加曾利B₁式からB₃式、一乗寺K式、元住吉山I式、VI群が元住吉山II式、VII群が宮滝式に対応すると推定した。

実際の出土状況では、I群はNR01の包含層から集中して出土し、まとまりのあることが認められた。しかし、II群からV群にかけてのグループについては、各型式との対応関係が十分に整理できていないために、記載上も少なからず混乱をきたした。III群は口縁部外面の加飾方法に差異はあるものの、特に波状口縁の波頂部文様には差異を含めての高い共通性が認められるので、E・Fを除いてSB01上部に集中して出土した一群を中心にして、一定のまとまりを有するものであると考えた。VII群については層位的なまとまりではなくいわゆる宮滝式に類似するものを集成したものであることや、VI群との弁別に関して困難が少なからず存在した。VI群については、典型的な元住吉山II式が1点(375)抽出できたのみであり、他はVII群との比較において凹線文の原体が異なる点、条数の少ない点、羽状沈線文をもつ点などというように、グループ化そのものの基準も決して明確なものではない。実際、凹線文土器の弁別は難しいようであり、良好な一括資料の獲得が期待されるところである。

ところで、従来当地方では、もっぱら大参義一・増子康真両氏の先導によって縄文時代後期の編年作業が進められてきたが、資料的な脆弱さという現実については否定できないものがある。その点で、知多半島における貝塚・貝層の調査から、層位的なまとまりを基準にしての定点の整備を目指している山下勝年氏の成果には、資料的な裏付けという点で安定したものがあるように思われる。今回、三斗目遺跡の縄文土器から編年作業に接近するだけの十分な検討をすることはできなかったが、今後の課題としたい。

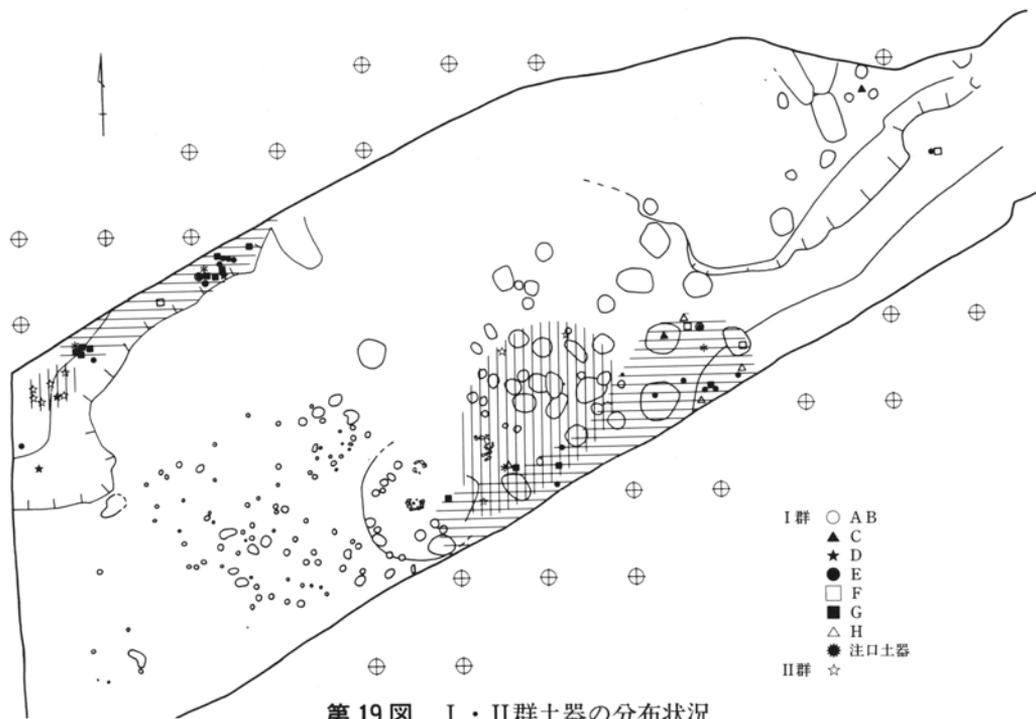
B. 三斗目遺跡の変遷

三斗目遺跡では、縄文早期、同後期、同晩期、弥生時代前期、中世の遺物が出土している。そのうち所属時期の明らかな遺構は縄文時代後期の各種遺構で、それ以外は遺物のみの検出にとどまっている。しかし、縄文時代後期についても、前半期のI群土器の多くはNR01からの出土がほとんどであり、人為的な遺構に伴うものではなかった。

ここでは、特に縄文時代後期の遺構の変遷を問題とするが、包含層中における集石・配石群およびSB01の形成をそれぞれ区切りとして、以下のように区分する。

●第1段階 SB01以前

I群土器の分布は、NR01を除けばSB01からSF04の間の調査区南辺である。しかし、それらの遺物は本来の包含層の存在を示しているというよりは、斜面地に遺跡が立地していることから



第19図 I・II群土器の分布状況

推定されるように、二次的な堆積である可能性が高い。おそらく、I群本来の包含層（および遺構が存在するとして）は調査区南方の斜面高位部分に存在するのであろう。

●第2段階

SB01の所属時期を直接示す資料は得られていないが、覆土上部にIII群土器が多量に廃棄されていたことからみて、III群により近い時期のものとして位置づけられると考える。そして、SB01に伴うSF01の他に、さらに石囲炉が2基（SF02・SF03）存在することからみて、SB01が複数炉の竪穴住居でなければ、今回の調査では残念ながら検出できなかったけれども、重複する住居の存在が想定できる。

SB01と集石・配石群との関係では、SB01に重複して集石が形成されているので、SB01以後に集石・配石群が形成されたと考える。

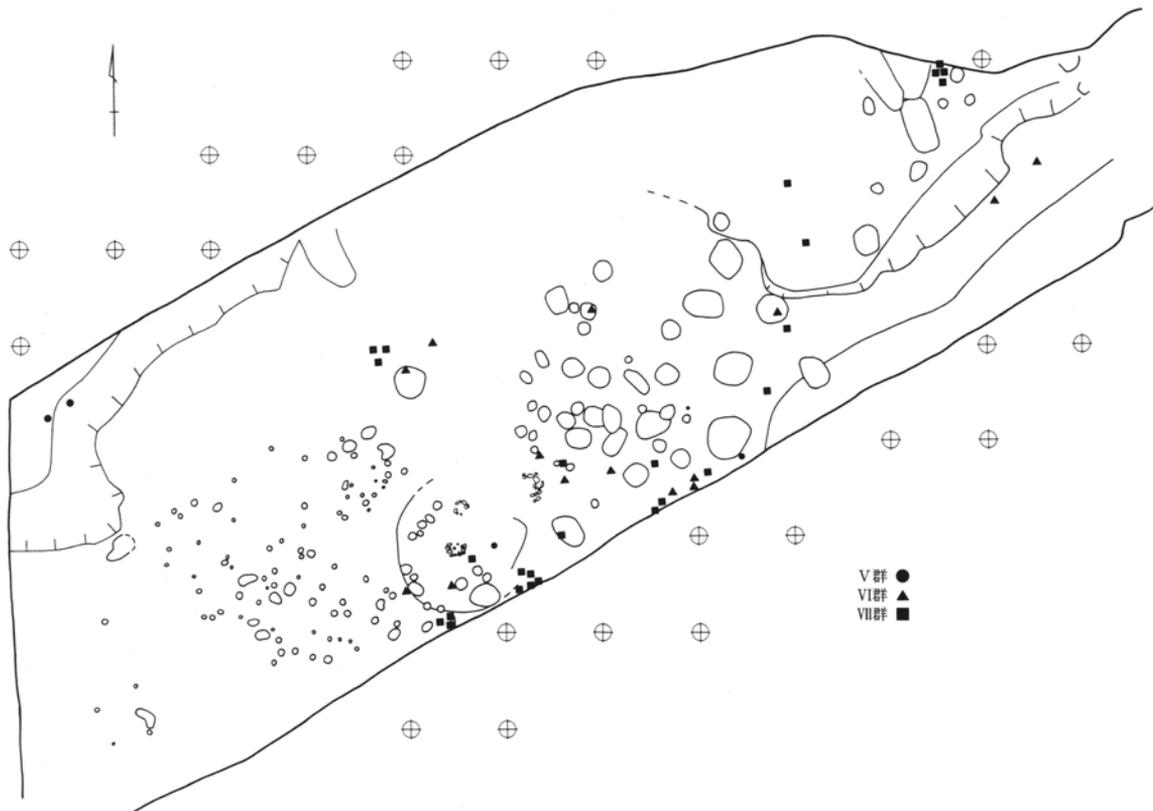
●第3段階

集石や配石の時期については、土器を伴う事例に乏しく、また仮に土器が出土しても細片であるために、直接時期を決定することは困難である。層位的な観点から、集石・配石が形成された時点の地表面を復元し、包含層出土の土器をもって時期を決定することもまたきわめて難しい。集石・配石は検出時にはその上端が水田床土に突き出し、下部は包含層中に埋没して検出されたのであり、形成時の地表面については明確ではない。

集石・配石群がすべて同時期というわけではないだろうが、SB01に重複するSX01付近ではIII群土器が同レベルからやや上位レベルで多量に出土しており、この点を重視するならば、III群土器と近い関係にあることが窺える。その他、土器分布との関係では、II群・III群・IV群土器は集石・配石と同レベルか下位レベルでの出土で、分布も重複する傾向にある。V群・VI群・VII群は同レベルか上位にあり、分布にも特に相関が認められるわけではない。集石・配石の時期は、おそらくIII群およびV群以降との関係が考えられる。



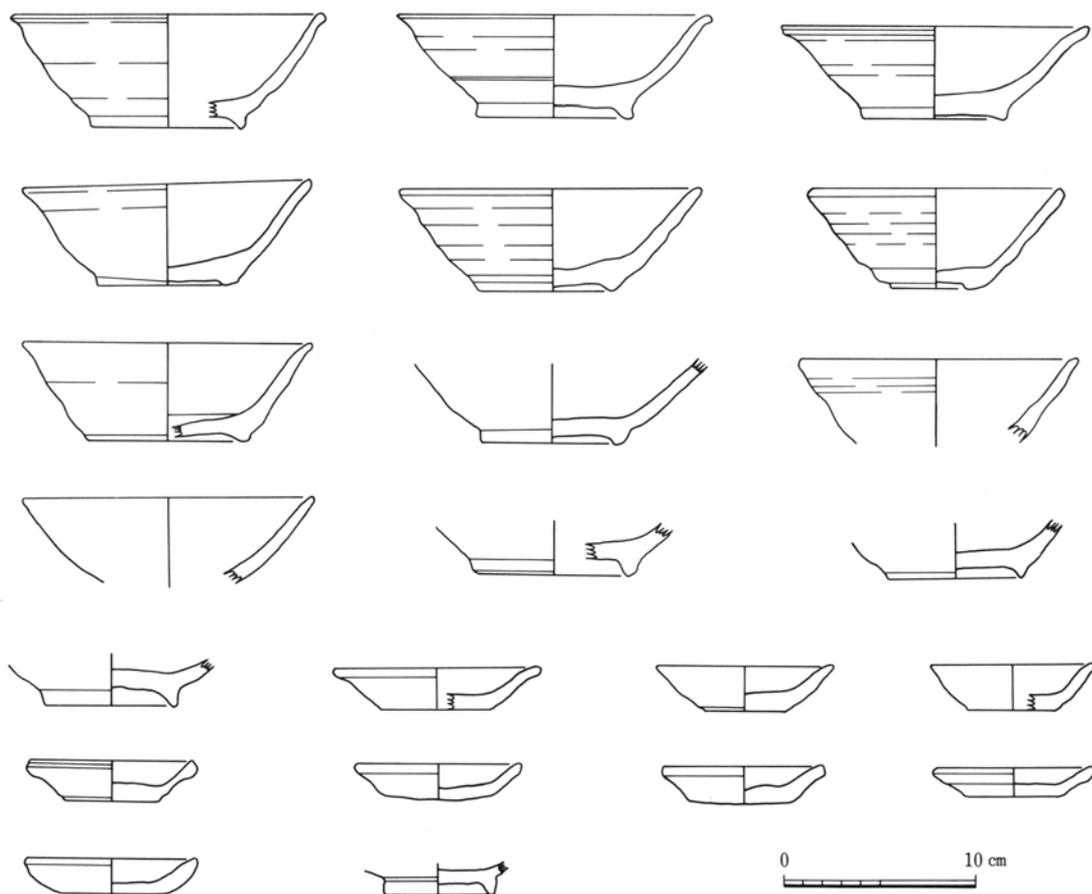
第20図 III・IV群土器の分布状況



第21図 V・VI・VII群土器の分布状況

2. 坂上の古代・中世

今回調査した三斗目遺跡・三本松遺跡が所在する豊田市坂上町の古代・中世の姿は、現在のところ文献史料からはうかがい知ることができない。しかし当時の状況をしめすものとして、町内の六所山（標高 611 m）の頂上近くに散乱している土器群がある⁽¹⁾。今回この山頂に散乱する土器を実見することはできなかったが、実測図（第 22 図）によれば 12 世紀から 13 世紀のいわゆる山茶碗⁽²⁾が中心になるものと思われる。図には示されていないが、少数の灰釉陶器や段皿も見られるという。六所山上には六所神社の上宮があるが、六所神社は伝説によれば永和三（1377）年または永享三（1431）年に松平氏の祖先である親氏（徳阿弥）によってこの地に勧進されたとされている。このため、山頂付近の土器はその前身の神社（名称は不明なのでここでは仮に原「六所神社」と呼ぶ）⁽³⁾で祭祀等に使用した土器群を廃棄したものであるという見方が有力である。この仮定が正しければ、遅くとも 12 世紀には原「六所神社」が六所山上に置かれ祭祀が行われていたことになる。さらに原「六所神社」は、本来は山岳信仰の一例として成立したものであり、当初の社地は山上ではなく六所山を遙拝できる地点に置かれたとされ、現在の県道坂上・大内線沿いに立つ「一の鳥居」（坂上町字金姓 第 23 図）がその場所ではないかと指摘されている。また現在の坂上町のうち、三斗目遺跡のある地点はかつては東加茂郡正作（しょうさく）村であった。「正作」は荘園代官の直接耕作田を示す言葉であり、またその近くに

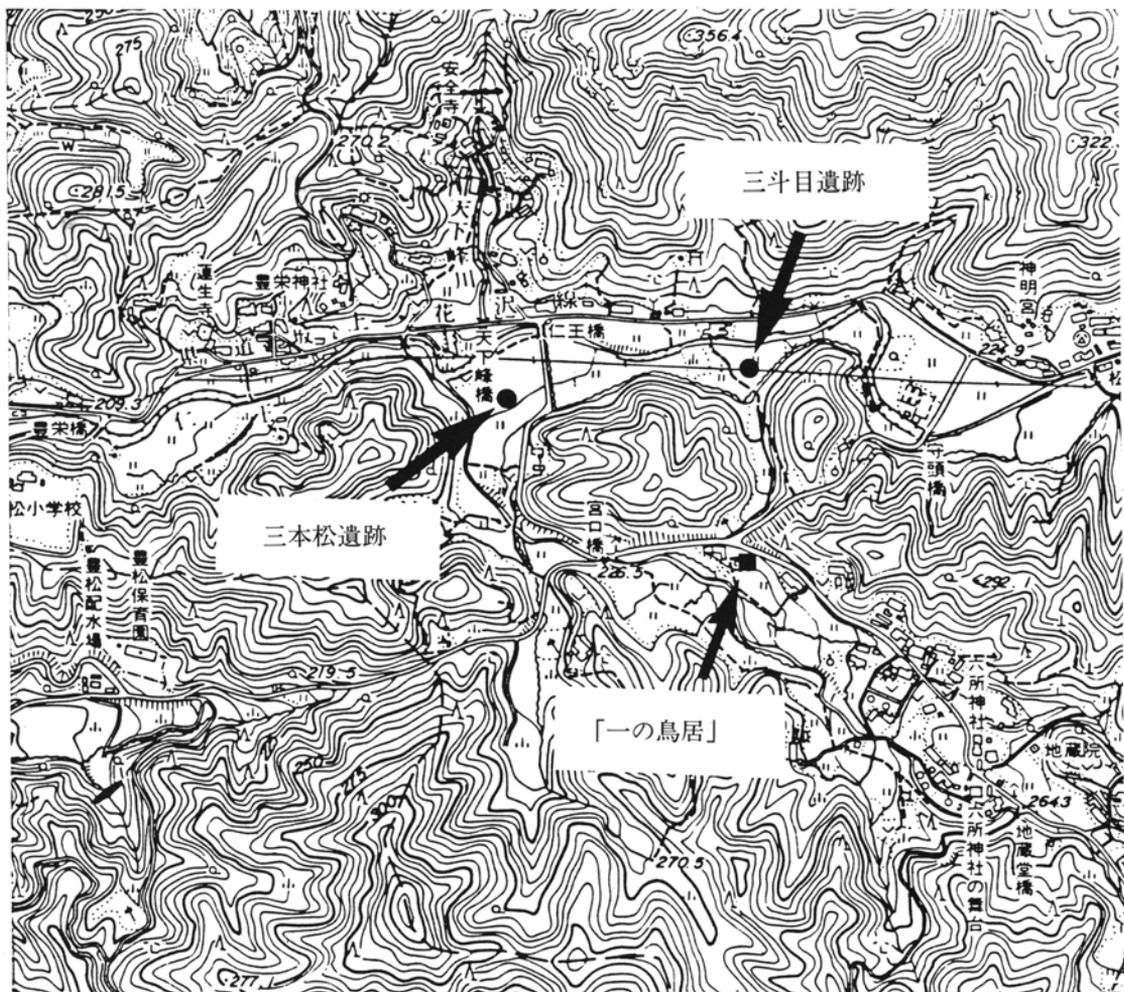


第 22 図 六所山上の土器群（『松平町誌』より転載）

に上屋敷、中屋敷などの旧地名がみられ、さらに従来から仁王川流域で山茶碗の破片等が採集されていることから、この地では中世には集落が成立していたのではないかとされている。

以上のような従来からの説⁽⁴⁾に、今回の調査結果を重ね合わせてみる。今回の三斗目遺跡・三本松遺跡の調査では、古代末から中世にかけての土器が破片数で700点ほど出土している。そのうち30点ほどが灰釉陶器で、三斗目遺跡から多く出土し三本松遺跡では数点みられるのみである。灰釉陶器は10世紀後半から11世紀前半に比定されるものがほとんどである。灰釉陶器以外はほとんどが山茶碗である。三斗目遺跡では12世紀代に比定されるものが多く、三本松遺跡では12世紀から13世紀にかけてのものがみられる。山茶碗以外の中世土器はごく少数である。15世紀以降に明確に比定される中世土器は確認されていない。

三斗目・三本松遺跡での当該期の土器の出土状況をみると、三斗目遺跡では古代・中世の土器のみを含む遺物包含層は形成されず、縄文土器や石器と同一の層位から出土し、遺構の存在も確認できなかった。この状況は仁王川の氾濫や水田の床上げの際の削平によって生じたものなのか、あるいは元から三斗目遺跡の地点には古代・中世の生活面が存在しなかったのかは不明である。三本松遺跡ではこの時期の土器は表土である耕作土の直下の青灰色粘質シルト層から多く出土し、さらにその下の黄



第23図 三斗目・三本松遺跡周辺 (1/10,000)

灰色粘質シルト層や黒褐色シルト層からも縄文土器や石器に混じって出土している。青灰色粘質シルト層は水田を開く際に削平されたためか調査区の東側にしか残存していない。青灰色粘質シルト層からは縄文土器も少なからず出土しており、またこの層の堅い粘質の土は古代・中世の生活面とは考えにくい。しかし調査で最終的に検出したピットの中には小破片ながら山茶碗を埋土に含むものもあって、この地点での中世の遺構の存在の可能性を示している。

以上のような調査結果は、縄文時代に続いて10世紀後半には人々が仁王川流域での生活を再開したことを示すものである。さらに12世紀に入ると遺物量が増加しており生活の安定を物語っている。この状況は六所山上に散乱する土器群の状況とほぼ一致する。古代末から中世にかけて六所山上の原「六所神社」で祭祀が行われ、それに対応するかのようには麓に集落が存在した可能性を補強する資料となろう。ただ三斗目遺跡・三本松遺跡ともこの時期のみの遺物包含層が検出されず、また遺構も明確ではなかったため、集落の規模や性格等については遺構の面からは明らかにできなかった。

三斗目遺跡・三本松遺跡で出土した中世土器のほとんどは山茶碗である。両遺跡のうち三本松遺跡での中世土器の出土破片数（接合後）は下表の通りである。

	山茶碗	常滑産甕	土師器※	青磁	合計
破片総数	575	3	37	2	617
%	93.2	0.5	6.0	0.3	100.0

※時期の異なるものを含む可能性がある

第3表 三本松遺跡出土の中世土器

山茶碗が圧倒的に多く90%以上をしめている。山茶碗以外の土器類は破片ばかりで器形の分かるものはほとんどない。愛知県西春日井郡清洲町の土田遺跡では山茶碗に対してそれ以外の土器類（土師器・施釉陶器・常滑・中国陶磁器）が口縁部計測法による数量計算で7.1%、破片総数で19.7%をしめ（城ヶ谷 1991）、豊川市の郷中遺跡のSD06・07では底部計測法で山茶碗（報告書では中世陶器）以外の土器が約20%をしめている（前田 1989）。三本松遺跡では土田遺跡や郷中遺跡との比較でも山茶碗の多さが目を引く。もちろん三本松遺跡が中世の集落跡である確証はなく、また出土遺物は一括遺物ではない。さらに平野部に展開する土田遺跡や郷中遺跡と三本松遺跡とは立地条件が違うために単純に比較することはできない。しかし三本松遺跡における中世土器は、矢作川流域の山間部における中世の遺物のあり方をしめす資料のひとつになると思われる。

その他、今回の調査では本来は麓にあったといわれる原「六所神社」の初現の時期や形態、中世後期に現れた松平氏と仁王川流域との関わりなどについての知見が期待されたが、新たな資料を得ることはできなかった。また、いわゆる中世後期以降の土器も少ない。これは今回の調査区の中世後期以降の土地利用のあり方と関わるものかもしれない。三河山間部での中世集落の今後の調査例の増加を待ちたい。

第5章 考察

註

- (1) 『愛知県遺跡分布地図(Ⅱ) 知多・西三河』 愛知県教育委員会 1988 による遺跡番号は63359。ただし種別は古窯跡となっている。
- (2) ここでは「山茶碗」をひろく瓷器系陶器第Ⅱ類全般をさす用語として使用した。
- (3) 六所神社上宮の奥に存在する蜂ヶ峰神社がそれに相当するという説もある。
- (4) 坂上町や六所山に関する記述は主に次の文献によった。
 - 『豊田市史 1』 豊田市教育委員会 1976
 - 『豊田市史 6』 豊田市教育委員会 1978
 - 『坂上町誌』 豊田市坂上町 1991
 - 『松平町誌』 豊田市教育委員会 1976

参考文献

- 城ヶ谷和広 1991 「土田遺跡における中世土器の様相」『土田遺跡Ⅱ』愛知県埋蔵文化財センター
- 前田清彦 1989 「Ⅴ期の遺物」『郷中・雨谷』豊川市教育委員会

3. 自然科学的分析

A. 堆積層と¹⁴C年代

(1) はじめに

三斗目遺跡および三本松遺跡の発掘調査の際に、それぞれの遺跡において地層の堆積状況を観察し、あわせて、¹⁴C年代測定および植物珪酸体分析用の試料を採取した。豊田市周辺の三河山地の沖積層についての報告は今まで行われていなかったため、ここで年代測定値とあわせて報告する。

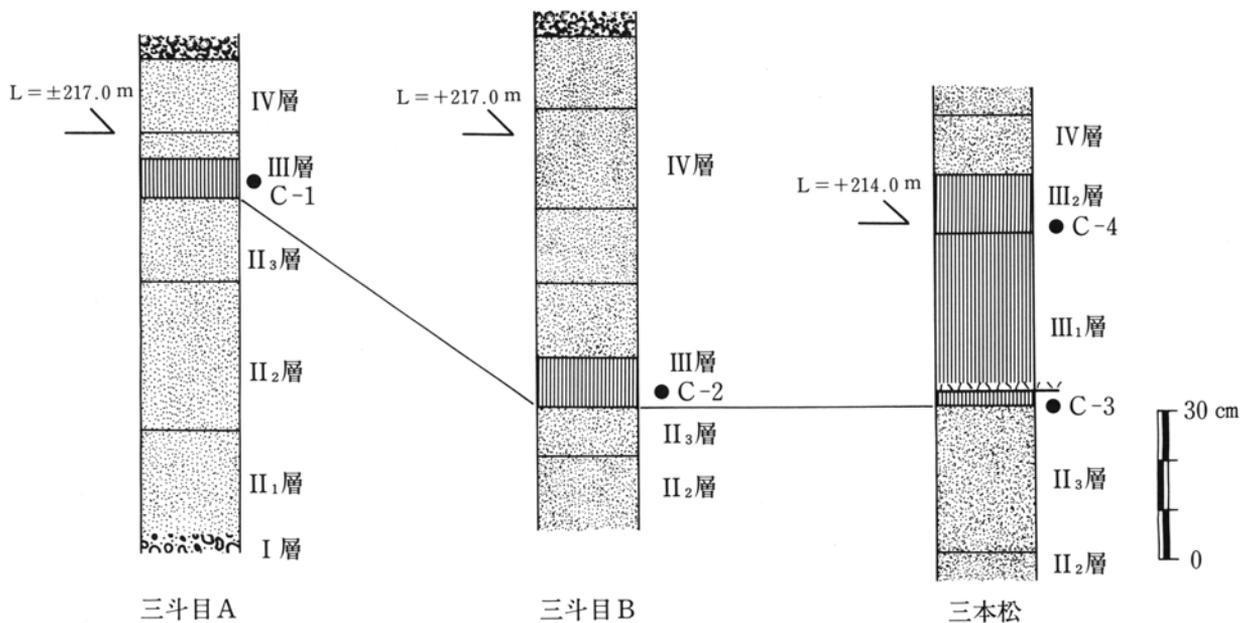
(2) 堆積層についての記載

a. 三斗目遺跡の堆積層

三斗目遺跡については、調査区の北壁において堆積層の観察をおこなった。ここでみられる堆積層は、仁王川旧流路の堆積環境の変化を表している。

隣接する仁王川の現河床には、基盤岩である伊奈川花こう岩が露出しており、その上位に、三斗目遺跡周辺の沖積層基底礫層に相当する1 m前後の層厚の巨礫層 (I層) が直接堆積している。この礫層はおもに花こう岩礫で構成されており、仁王川旧流路の河床礫であると考えられる。I層の上位には、層厚 60 cm程度に達するおもに中粒から粗粒の砂層で構成されるII層が発達する。II層は、その粒度・色調などからさらに3層に細分できる。II₁層は、I層直上の淡灰色細粒砂層で、層厚 20 cmに達する。II₂層は、暗褐色から暗黄褐色の粗粒砂層で、層厚は 30 cmに達する。III₃層は、黄灰色から黄褐色の中粒砂層で、層厚は 20 cm程度である。

III層は、この周辺の鍵層となりうる暗灰色から黒灰色の一部砂質なシルト層で、層厚 15 cm程度であるが、比較的連続性がよい。III層形成時には、何らかの原因で仁王川がせき止められ、遺跡周辺に湿



第24図 三斗目・三本松遺跡の堆積層

第5章 考察

地状の環境が展開したものと思われる。IV層は、再び砂層で、層厚 60～70 cm程度の灰色から暗灰色の中粒砂層の堆積が認められる。

b. 三本松遺跡の堆積層

三本松遺跡については、調査区東端に広がる湿地状部分を観察した。この部分では、三斗目遺跡におけるIII層が厚く（50 cm程度）堆積しており、この下底に近い部分より1枚の火山灰層を発見した。

確認できた最下層は、三斗目遺跡のII層の黄褐色粗粒砂層で、30 cm程度の層厚であった。II層の上位には、III層が層厚 50 cm程度発達し、その色調からさらにIII₁層とIII₂層に細分できた。III₁層は暗灰色砂質シルト層で層厚約 35 cm、III₂層は暗褐色砂質シルト層で層厚約 12 cmであった。III₁層の下底から3 cm付近の層準に桃褐色細粒ガラス質火山灰層が挟まれる。この火山灰層は、後述するように、縄文時代後・晩期境界付近に位置する松河戸火山灰層に対比可能である。この火山灰層層準付近からは縄文時代後期から晩期にかけての遺物が出土しており、その絶対年代を考えるうえで重要な発見となる。

IV層は、灰褐色の粗粒砂層で、一部に細礫を含む。層厚は 20 cm程度である。

(3) ¹⁴C年代測定値

第24図に示した4試料の¹⁴C年代測定法による絶対年代の測定を、学習院大学理学部に依頼し実施した。その結果を以下に列記するが、ここでの年代値はすべて1950年より起算したものである。

<絶対年代>	<分析試料>
C-4 3,100±160 y.B.P.<GaK-16364>	腐植質シルト
C-3 4,690±160 y.B.P.<GaK-16363>	腐植質シルト
C-2 4,370±100 y.B.P.<GaK-16362>	砂質シルト
C-1 3,740±90 y.B.P.<GaK-16361>	砂質シルト

B. 三本松遺跡より発見された縄文時代後期・晩期の火山灰層について

(1) はじめに

三本松遺跡の発掘調査において、縄文時代後期～晩期の遺物を含む暗黒灰色砂質シルト層中（標高+214 m付近）より桃褐色細粒ガラス質火山灰層が発見された。この火山灰層は、考古遺物および¹⁴C年代測定値との関係から1990年4月に春日井市の松河戸・町田両遺跡で発見された松河戸火山灰層（MT）（森ほか 1990）との対比が考えられる。ここでは、三本松遺跡の火山灰層の岩石記載的性質を詳しく記載し、関連する県内の火山灰層、さらに他地域の火山灰との対比を検討する。

(2) 記載方法

火山灰層の岩相は、肉眼観察によって層厚・色調・粒度・構成物の種類などを記載する。なお、火山灰の粒度については、碎屑物の粒度とは区別して、それぞれ粗粒が中粒～粗粒砂程度、中粒が細粒～極細粒砂程度、細粒がシルト程度、極細粒が粘土程度の粒子から構成されているものとする。

岩石記載的性質は、吉川（1976）、YOSHIKAWA（1984）の火山灰の記載にならって鉱物組成、重鉱物組成、火山ガラスの色・形状・屈折率、各種鉱物の特徴などについて記載する。なお、火山ガラスの屈折率の測定には大阪市立大学の機材を使用させていただいた。

(3) 火山灰の記載

a. 三本松遺跡の火山灰層

三本松遺跡の縄文時代後期～晩期にかけての遺物を含む黒色砂質シルト層中より発見された。レンズ状に挟まれ、厚さは平均で約8 mm程度の薄い桃褐色の細粒ガラス質火山灰層である。火山ガラスは主に中間型で、特にC a型のものが多い。屈折率は、 $n = 1.500 - 1.502$ (1.500) である。重鉱物は角閃石・斜方輝石・単斜輝石・黒雲母からなる。

b. 松河戸火山灰層 (MT) (森ほか 1990)

春日井市松河戸・町田両遺跡において発見された縄文時代後・晩期の境界付近に位置する広域火山灰層で、厚さ約4 mm、薄い赤褐色ないしは桃白色の細粒～中粒ガラス質火山灰層である。ガラスは主に中間型で、屈折率は、 $n = 1.499 - 1.504$ (1.501-1.502) である。重鉱物は角閃石・黒雲母・単斜輝石からなる。

c. 山中遺跡の火山灰層

一宮市萩原町の山中遺跡の標高+1.07 m付近の暗褐色腐植質シルト層中より発見された。レンズ状に挟まれ、厚さ最大で約1 cm、桃色がかった灰白色の細粒ガラス質火山灰層である。火山ガラスは主に中間型で、特にC a型のものが多い。屈折率は、 $n = 1.500 - 1.502$ (1.501) である。重鉱物は角閃石・斜方輝石・単斜輝石・黒雲母からなる。

(4) 火山灰の対比と ^{14}C 年代測定値

三本松遺跡で発見された火山灰層は、縄文時代後期～晩期にかけての層準に挟まれること、火山ガラスの屈折率・形状、重鉱物組成の類似性などから松河戸火山灰層 (MT) に対比可能である。

県内において、模式地である春日井市付近以外でMTが発見された例は、濃尾平野における一宮市の山中遺跡と西上免遺跡、そして三本松遺跡だけである(いずれも平成3年度調査による発見)。特に、縄文時代の遺跡中から発見されたことは、火山灰層による一つの時間軸を、この地方の縄文土器の偏年に組み込むことにつながり、今後の考古学に果たす役割も大きい。

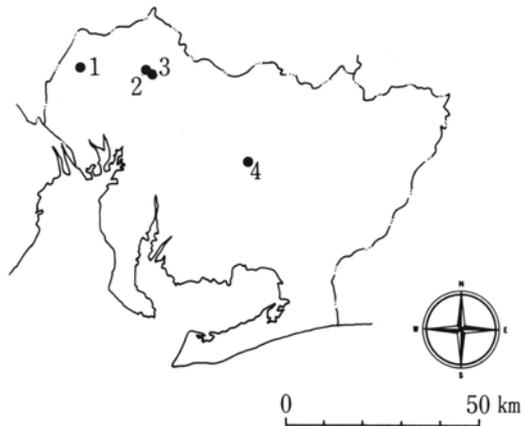
松河戸火山灰層の ^{14}C 年代測定値は、森ほか (1990) により春日井市町田・松河戸両遺跡について報告されており、その年代は、 $3,120 \pm 120 \text{ y.B.P.}$ とされている。今回、三本松遺跡においても、火山灰層を挟む暗黒灰色砂質シルト層の ^{14}C 年代測定をおこない、火山灰層直下において $4,690 \pm 160 \text{ y.B.P.}$ 、最上部において $3,100 \pm 160 \text{ y.B.P.}$ の測定値を得た(第24図)。これらの年代値、特に火山灰層直下の年代値は、森ほか (1990) により報告されている年代値よりも若干古いのが、火山灰層を挟む地層が砂質であることから、測定に使用された試料そのものが2次堆積のものであり、その結果古い年代を示した可能性が高い。そこでここでは、この火山灰層の年代は、比較的信頼性の高い森ほか (1990) の $3,120 \pm 120 \text{ y.B.P.}$ を支持する。

その他、MTに対比可能な火山灰層としては大垣市荒川遺跡の火山灰層、大阪市港区天保山のボーリング試料中より発見された難破累層最上部火山灰層(吉川ほか, 1986)、滋賀県琵琶湖底200 mボーリング試料中のBB7火山灰層(YOSHIKAWA, 1982)、琵琶湖高島沖ボーリングのBT1火山灰層(吉川・井内, 1991)があり、近畿～東海地方にかけての分布が確実なものになろうとしている。

このことは、近畿～東海地方の縄文時代後・晩期の遺跡の同時性を考えるうえで重要な鍵層となりう

第5章 考察

ることを示している。



1. 山中遺跡（一宮市） 2. 町田遺跡（春日井市）
3. 松河戸遺跡（春日井市） 4. 三本松遺跡（豊田市）

第25図 愛知県における松河戸火山灰層確認地点

Volcanic ash	Mineral composition				Glass				Heavy mineral composition										
	Gl.	Fl.	Qz.	Hm.	Shape (%)				Refractive Index (mode)				Bi.	Am.	Op.	Cp.	Zr.	Ap.	Oq.
					H.	C.	T.	O.											
Sanbonmatsu	85	10	3	2	16	71	12	1	1.500-1.502(1.500)	8	36	31	6	2	17				
Yamanaka	85	7	3	5	4	67	27	2	1.500-1.502(1.501)	9	38	27	10		16				
Matsukawado62A	90	4	2	4	11	56	33	0	1.499-1.504(1.501-1.502)	10	38	26	9	1	16				
Matsukawado62E	89	7	2	2	13	64	23	0	1.497-1.505(1.501-1.503)	3	45	33	9	1	9				
Matsukawado63H	85	12	1	2	5	74	21	0	1.499-1.504(1.502)	6	39	35	10	1	9				
Chouda62B	82	13	1	4	16	71	13	0	1.498-1.504(1.501-1.502)	4	39	39	8		10				
BT1	93	5	1	1	2	39	50	9	1.497-1.503(1.499-1.502)	8	29	32	4	3	24				

Mineral composition Gl:Glass Fl:Feldspar Qz:Quartz Hm:Heavy minerals
 Shape of glass H:H-type shards C:C-type shards T:T-type shards
 Heavy mineral composition Bi:Biotite Am:Amphibole Op:Orthopyroxene Cp:Clinopyroxene Zr:Zircon
 Ap:Apatite Oq:Opaque minerals

*分析値は松河戸・町田については森ほか(1990)、BT1については吉川ほか(1991)による。

第4表 三本松遺跡関連の火山灰の岩石記載的性質

参考文献

森勇一・伊藤隆彦・宮田英嗣 (1990)、愛知県町田・松河戸遺跡から発見された縄文時代後・晩期の境界付近に位置する火山灰層について。第四紀研究, 29,17-23.

吉川周作 (1976)、大阪層群の火山灰層について。地質学雑誌, 82,497-515.

YOSHIKAWA,S.(1982), Volcanic glass in the 200 m core sample from Lake Biwa. Paleolimnology of Lake Biwa and the Japanese Pleistocene,9,35-49.

————— (1984), Volcanic Ash Layers in the Osaka and Kobiwako Groups, Kinki District, Japan. Jour. Geosci. Osaka City Univ., 27,1-40.

吉川周作・那須孝悌・樽野博幸・古谷正和 (1986)、近畿地方中部に分布する後期更新世～完新世の火山灰層について。地球科学, 41,231-241.

井内美郎 (1991)、琵琶湖高島沖ボーリングコアの火山灰層序。地球科学, 45,81-100.

C. 三斗目遺跡等の植物珪酸体分析

(1) はじめに

植物珪酸体は、植物体内で形成されたガラス質の細胞であり、植物が枯れた後も微化石（プラント・オパール）となって土壤中に半永久的に残っている。植物珪酸体（プラント・オパール）分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定、および古植生・古環境の推定などに応用されている（杉山 1987）。

本調査は、同分析を用いて三斗目遺跡等における古植生・古環境の推定を試みたものである。

(2) 試料

試料は、西三河山間部に位置する三斗目遺跡、三本松遺跡において、縄文時代の土層を対象に採取された。試料数は計16点である。

(3) 分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、「プラント・オパール定量分析法（藤原 1976）」をもとに、次の手順で行った。

(1)試料の絶乾（105°C・24時間）

(2)試料約1gを秤量、ガラスビーズ添加（直径約40μm、約0.02g）

※電子分析天秤により1万分の1gの精度で秤量

(3)電気炉灰化法による脱有機物処理

(4)超音波による分散（300W・42KHz・10分間）

(5)沈底法による微粒子（20μm以下）除去、乾燥

(6)封入剤（オイキット）中に分散、プレパラート作成

(7)検鏡・計数

同定は、機動細胞珪酸体由来する植物珪酸体をおもな対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中の植物珪酸体個数を求めた。

また、この値に試料の仮比重（1.0と仮定）と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位：10⁻⁵g）をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。換算係数は、イネは赤米、ヨシ属はヨシ、ウシクサ族はススキの値を用いた。その値はそれぞれ2.94（種実重は1.03）、6.31、1.24である（杉山・藤原 1987）。タケ亜科については数種の平均値を用いて葉身重を算出した。ネザサ節の値は0.24、クマザサ属は0.22である（杉山 1987）。

(4) 結果および考察

(1)三斗目遺跡

縄文時代後・晩期とされる土層（試料1～5）について分析を行った。その結果、すべての試料が

第5章 考察

らタケ亜科Alaタイプ（ネザサ節など）およびその他のタケ亜科が多量に検出された（第26図）。その他の分類群では、不明Bタイプ（ウシクサ族類似）や棒状珪酸体などが見られたが、いずれも少量である。

これらの結果から、同層準の堆積当時はネザサ節などのタケ亜科植物が多く生育するイネ科植生であったものと推定される。

(2) 三本松遺跡

縄文時代後・晩期とされる土層（試料6～16）について分析を行った。その結果、すべての試料からタケ亜科Alaタイプ（ネザサ節など）およびその他のタケ亜科が多量に検出された（第27図）。その他の分類群では、タケ亜科B1タイプ（クマザサ属など）不明Bタイプ（ウシクサ族類似）、棒状珪酸体などが見られたが、いずれも少量である。

これらの結果から、同層準の堆積当時はネザサ節などのタケ亜科植物が多く生育するイネ科植生であったものと推定される。

(5) 遺跡周辺の古環境

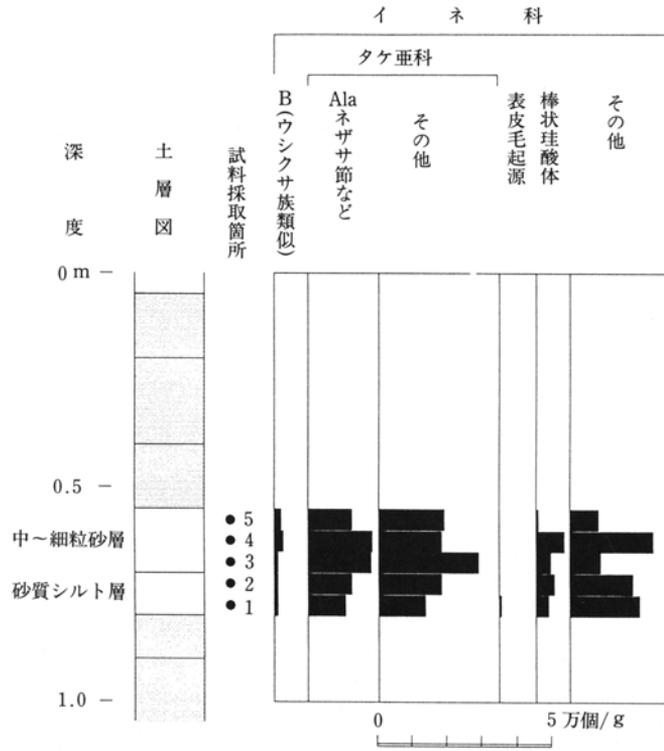
以上のように、三斗目遺跡と三本松遺跡の縄文時代後・晩期とされる土層では、ネザサ節などのタケ亜科植物が多く生育するイネ科植生が継続されたものと考えられ、それ以外のイネ科植物の生育にはあまり適さない環境であったと推定される。

ネザサ節などのタケ亜科植物は比較的乾いた土壌条件を好むことから、当時は比較的乾いた土壌条件で推移したものと推定される。また、ネザサ節は森林の林床では生育しにくいことから、当時の遺跡周辺は森林で覆われたような状況ではなく、比較的開かれた環境であったものと推定される。

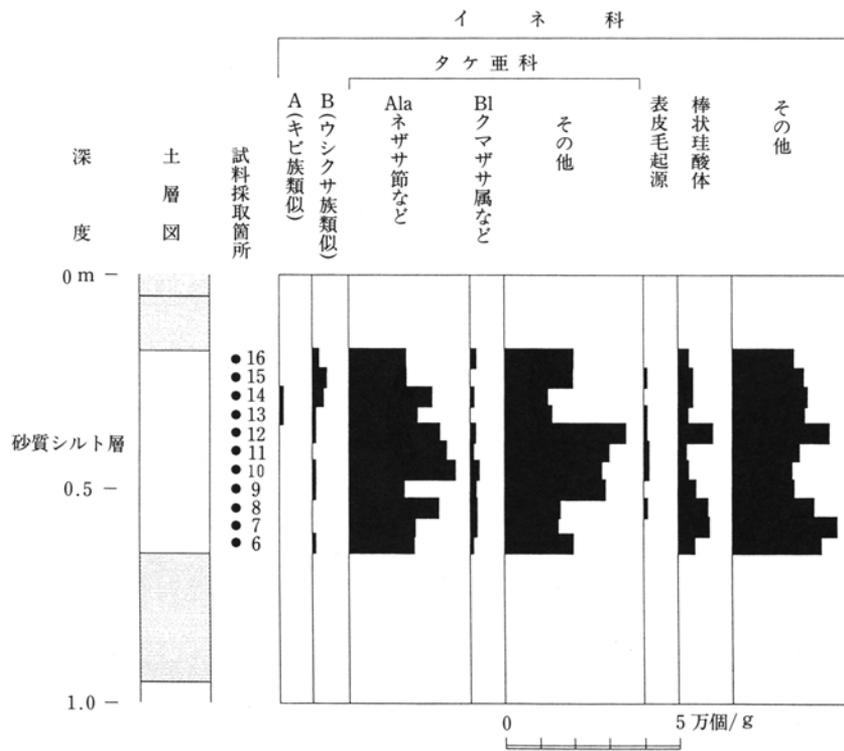
なお、ネザサ節などのタケ亜科植物はその有用性から燃料や道具、住居の屋根材や建築材などとして盛んに利用されていたものと考えられ、また鹿などの草食動物の食料としても重要であったものと考えられる。

参考文献

- 杉山真二（1987）、遺跡調査におけるプラント・オパール分析の現状と問題点。植生史研究，第2号，27-37
- （1987）、タケ亜科植物の機動細胞珪酸体。富士竹類植物園報告，第31号，70-83。
- ・藤原宏志（1987）、川口市赤山陣屋跡遺跡におけるプラント・オパール分析。赤山—古環境編—。川口市遺跡調査会報告，第10集，281-298。
- 藤原宏志（1976）、プラント・オパール分析法の基礎的研究〈1〉—数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法—。考古学と自然科学，9，15-29。
- （1979）、プラント・オパール分析法の基礎的研究〈3〉—福岡・板付遺跡（夜白式）水田および群馬・日高遺跡（弥生時代）水田におけるイネ（*O. sativa* L.）生産総量の推定—。考古学と自然科学，12，29-41。



第 26 図 三斗目遺跡北壁における植物珪酸体分析結果



第 27 図 三本松遺跡東西ベルトにおける植物珪酸体分析結果

第5章 考察

(単位：×100個/g)

分類群	三本松遺跡											三斗目遺跡				
	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
イネ科																
イネ																
サヤヌカグサ属																
ヨシ属																
ウシクサ族(エスキ属など)																
不明Aタイプ(キビ族類似)				7	7											
不明Bタイプ(ウシクサ族類似)	14	39	29	7	7		6	7			7	22	25	7	6	15
タケ亜科																
Alaタイプ(ネザサ節など)	160	174	234	202	256	274	300	162	253	186	187	130	188	182	123	104
B1タイプ(クマザサ属など)	14		7		14	7	24	14	20	21	7					
B2タイプ(メダケ節など)																
A2タイプ(マダケ属など)																
その他	208	200	125	137	342	295	281	296	164	158	194	195	188	297	181	134
表皮毛起源		6		7	7	14	12		7							7
棒状珪酸体	21	39	44	26	100	21	37	49	82	89	49	7	81	47	58	45
その他	187	207	220	208	285	197	177	183	246	302	264	80	244	88	181	202
樹木起源(広葉樹)																
植物珪酸体総数	604	665	667	592	1010	807	838	711	772	756	708	434	725	620	550	507

第5表 植物珪酸体分析結果

(単位：kg/m²・cm)

分類群	三本松遺跡											三斗目遺跡				
	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
イネ科																
イネ																
ヨシ属																
ウシクサ族(エスキ属など)																
タケ亜科																
Alaタイプ(ネザサ節など)	0.38	0.42	0.56	0.48	0.61	0.66	0.72	0.39	0.61	0.45	0.45	0.31	0.45	0.44	0.30	0.25
B1タイプ(クマザサ属など)	0.03		0.02		0.03	0.02	0.05	0.03	0.05	0.05	0.02					

第6表 主な分類群の推定生産量

D. 三斗目・三本松遺跡出土石器の使用石材について

今回の調査で出土した石器について、表面観察によって使用石材の岩石名を決定した。この結果を検討するにあたり、最初に三斗目・三本松遺跡周辺に分布する岩石について簡単に述べておく。三斗目・三本松遺跡周辺は、領家帯と呼ばれる地質構造区に属し、おもに中生代白亜紀から新生代古第三紀にかけての火成岩より構成される基盤岩類が広く露出している。遺跡周辺には伊奈川花こう岩と呼ばれる花こう閃緑岩や黒雲母花こう岩が分布する。谷を隔てた南の地域には、おもに細～中粒の複雲母花こう岩からなる武節花こう岩や神原石英閃緑岩が分布している。さらに、局地的ではあるが珪質片麻岩などからなる領家変成岩類も分布している。

つぎに、分析結果から各石材の産地について検討する。

まず、花こう岩は分布規模に違いはあるが、遺跡周辺で産出するため比較的容易に入手できる石材である。アプライトや石英も花こう岩に伴って形成されることから、遺跡周辺で入手可能である。また、安山岩・ハンレイ岩も小岩体として遺跡周辺に産出するため、産地の特定はできないが遺跡周辺で入手可能である。さらに、接触変成岩・片岩・砂岩は領家変成岩類の一部であると思われるためやはり遺跡周辺で入手可能である。これらの遺跡周辺で入手可能な石材は、たたき石や凹石、石棒など比較的大型の石器に使用される傾向がみられることから、遺跡周辺での入手の可能性が高い。なお、安山岩については、表面が風化作用によって灰白色を呈しているもの・新鮮なもの・斜長石の斑晶の見られるものと、少なくとも3種類が検出されたが、このうち、黒色で緻密な組織の安山岩はサヌカイトの可能性はある。しかし、顕微鏡下での観察を行っておらず、古銅輝石の存在を確認できていないので、サヌカイトであるとは断定できなかった。

チャート・ガラス質黒雲母石英安山岩（以下、下呂石とする）・玄武岩・黒曜石・流紋岩・凝灰岩はいずれも、遺跡周辺には分布しない岩石である。これらの岩石について、それぞれ遺跡から最も近い産地を求めるならば次のようになる。チャートは木曽川中流域の愛知県犬山市周辺、下呂石は飛騨川上流の岐阜県下呂町湯ヶ峰周辺、黒曜石は天竜川上流域の和田峠周辺、流紋岩および凝灰岩は愛知県東部の鳳来町付近、玄武岩は木曽川流域や豊川流域などの小岩体である。また、遺跡周辺で入手しにくい石材は、おもに石鏃やスクレーパーなど小型の石器に使用される傾向がみられた。このことは、ここであげた石材が搬入材である可能性を示唆している。さらに、三斗目・三本松遺跡の小型の石器における石材の比較を行った。その結果、下呂石については、三斗目遺跡 26%、三本松遺跡 60.2%、風化した安山岩については、三斗目遺跡 53.3%、三本松遺跡 4.2%となり、わずか数 100 m しか離れていない両遺跡間で、使用石材の割合にかなりの差がみられた。

今回、石器の使用石材の検討を行った2つの遺跡は、ともに石材入手の比較的容易な山間地に立地しているにもかかわらず、搬入材も多くみられた。このことは、当時の人々が、石器の利用目的に応じた石材を選択し収集していたことを意味するのではないであろうか。今後、広範囲の遺跡の石器と石材の関係を検討し、使用石材の産地と流通経路を解明することが1つの課題になろう。

第6章 まとめ

(1) 三斗目遺跡の調査から

今回の調査で出土した縄文土器は、三斗目遺跡では後期の前葉から末葉の、三本松遺跡では後期の終末から晩期前半にかけてのものが主体である。従来この地方の縄文時代後期から晩期にかけての時期の遺跡は、沖積平野に展開する貝塚、例えば刈谷市の天子神社貝塚(加藤 1968)や本刈谷貝塚(加藤 1972)、西尾市の八王子貝塚や枯木宮貝塚(牧他 1973)などが著名であり、土器や縄文文化のありかたの研究もこれらの貝塚を中心に行われてきた。

増子康真氏は、縄文時代後期前半は沿海部を中心に地域色の強い文化が成立するが、その後の海退によってこの文化は大打撃を受け、後期後半には地域性は消えて近畿圏文化に同調するとしている(増子 1981)。三斗目遺跡では、後期前半から末葉にかけての土器が、数の多少はあるものの継続して出土している。それぞれの時期の土器の様相は沿海部の貝塚と大きな相違はないと思われることから、海退現象の影響を直接受けない山間部においても、後期後半には近畿圏文化は抵抗なく受け入れられたということになるのであろうか。

三斗目遺跡で検出された配石・集石遺構の性格については明らかではない。東加茂郡足助町の今朝平遺跡(天野他 1979)や馬場遺跡(天野他 1981)で縄文時代後期に属すると考えられる環状配石遺構が検出されているが、三斗目遺跡の配石・集石遺構と様相の異なる点もあり関連は不明である。

(2) 三本松遺跡の調査から

縄文時代晩期になると、西三河地方から尾張地方にかけて再び海岸部を中心に地域性をもつ土器型式が成立する。三本松遺跡の土器の様相も、半截竹管による施文が中心になるなど沿岸部と同一の文化圏にあったことがわかる。また、三本松遺跡の土器の中には矢作川流域にのみ分布する桜井式と思われるものが含まれ、矢作川の支流に沿ったこの土地にも桜井式土器を使用する人々の勢力が広がっていたことがしられる。ただ、三本松遺跡では同時期の遺跡、例えば枯木宮貝塚や本刈谷貝塚、あるいは豊田市の丸根遺跡(田端他 1975)などで出土している大洞系の精製土器が全く出土していない。これが山間部でのこの時期の特色なのか、あるいは三本松遺跡のみの例外なのかは、今後の矢作川流域の縄文晩期前半の調査例の増加によって明らかになろう。

なお、調査では三斗目遺跡と三本松遺跡の直接の関わりは明らかにならなかった。しかし、両遺跡にみられる縄文土器の型式は連続し、またわずかに500mほどの距離で近接して存在していることから、両者が全く無関係であるとは考えにくい。もし両遺跡が何らかの関連をもっているならば、仁王川流域のこの土地は、縄文時代後期から晩期前半にかけて人々が長期にわたって足跡を残した場所であり、本書で別個に述べた遺構や遺物のありかたは、大きなまとまりとして一括して考察を加える必要があろう。

(3) 坂上町の中世土器

三斗目・三本松遺跡では、少なからぬ量の中世土器が出土した。土器は小破片が多く、またこの時

期の明確な遺構を捉えることができなかつたために、当時の生活の状況を復元するにはいたらなかつたが、中世前半にはこの地域で人々が再び生活を始めたことは確実である。この人々が、後の松平氏とどのように関わるかは不明である。しかし両遺跡が所在する坂上町は徳川氏発祥の地である松平郷に近く、この地域に住んだ人々が松平（徳川）氏と何らかの関連をもち、後に松平氏をして平野部へ大発展させる基盤となった可能性もある。近年は豊田市が松平郷を史跡整備するなど徳川氏発祥に関する関心が高まっているが、今後は文献や伝承のみならず考古学の面からも、アプローチが行われることが期待される。

参考文献

- 天野暢保他 1979 『今朝平遺跡概報』 足助町教育委員会
 1981 『馬場遺跡概報』 足助町教育委員会
 加藤岩蔵 1968 『天子神社貝塚』 天子神社貝塚保存会
 加藤岩蔵他 1972 『本刈谷貝塚』 刈谷市教育委員会
 田端勉他 1975 「丸根遺跡」『豊田市埋蔵文化財調査集報第二集』 豊田市教育委員会
 牧富也他 1973 「原始・古代」『西尾市史一』 西尾市
 増子康眞 1981 「東海地方西部の縄文文化」『東海先史文化の諸段階 本文編・補足改訂版』

付表(1)

三斗目遺跡遺構一覧表

遺構番号	旧遺構番号	底レベル	遺構番号	旧遺構番号	底レベル	遺構番号	旧遺構番号	底レベル
N R 0 1	N R 0 1	216.229	P 0 6 1	P 0 4 6	217.820	S K 0 3	S K 0 4	
N R 0 2			P 0 6 2	P 0 4 7	217.930	S K 0 4	S K 0 8	
N R 0 3	S X 0 2		P 0 6 3	P 0 6 4		S K 0 5		
P 0 0 1	P 0 0 3	218.110	P 0 6 4	P 0 6 5		S K 0 6	S K 2 0	217.993
P 0 0 2	P 0 0 1	217.850	P 0 6 5	S K 0 9	217.690	S K 0 7	S K 1 6 A	217.441
P 0 0 3	P 0 0 2	218.110	P 0 6 6	P 0 7 9		S K 0 8	S K 1 5	217.820
P 0 0 4	P 0 0 4	218.105	P 0 6 7	P 0 8 0	217.510	S K 0 9	S K 1 4	217.758
P 0 0 5	P 0 0 5	217.890	P 0 6 8	P 0 8 1		S K 1 0	S K 1 7	217.672
P 0 0 6	P 0 1 3	217.670	P 0 6 9	P 0 8 2	217.740	S K 1 1		
P 0 0 7	P 0 1 2	217.630	P 0 7 0	P 0 6 8		S K 1 2		
P 0 0 8	P 0 1 1	217.620	P 0 7 1	P 0 6 9		S K 1 3		
P 0 0 9	P 0 1 5	217.400	P 0 7 2	P 0 7 0		S K 1 4	S K 1 9	217.853
P 0 1 0	P 0 1 4		P 0 7 3	P 0 7 1	217.730	S K 1 5	S K 2 1	217.880
P 0 1 1	P 0 1 6		P 0 7 4	P 0 7 4		S K 1 6	S K 2 2	217.972
P 0 1 2	P 0 2 2		P 0 7 5	P 0 7 2	217.840	S K 1 7	S K 2 5 A	218.025
P 0 1 3	P 0 1 7	217.670	P 0 7 6	P 0 7 3	217.880	S K 1 8		
P 0 1 4	P 0 1 0		P 0 7 7	P 0 7 8	217.730	S K 1 9	S K 2 8	217.922
P 0 1 5	P 0 0 9	217.900	P 0 7 8	P 0 7 5	217.820	S K 2 0		
P 0 1 6	P 0 0 6	217.990	P 0 7 9	P 0 7 7		S K 2 1	S K 3 0 C	217.697
P 0 1 7	P 0 0 7	218.010	P 0 8 0	P 0 7 6	217.630	S K 2 2	S K 3 0 A	217.830
P 0 1 8	P 0 0 8	217.900	P 0 8 1	P 0 5 9		S K 2 3	S K 3 1	
P 0 1 9	P 0 2 3	217.600	P 0 8 2	P 0 5 8		S K 2 4	S K 3 2	217.606
P 0 2 0	P 0 2 1		P 0 8 3	P 0 5 7		S K 2 5	S K 3 3	217.756
P 0 2 1	P 0 1 8	217.780	P 0 8 4	S K 1 0	217.820	S K 2 6		
P 0 2 2	P 0 1 9		P 0 8 5	P 0 5 6		S K 2 7	S K 3 4	217.361
P 0 2 3	P 0 2 0		P 0 8 6	P 0 5 5	217.830	S K 2 8	S K 3 5	
P 0 2 4	P 0 2 4	217.970	P 0 8 7	S K 1 1		S K 2 9	S K 3 6	217.441
P 0 2 5	P 0 2 5		P 0 8 8	S K 1 2		S K 3 0		
P 0 2 6	S K 0 3		P 0 8 9	P 0 8 5		S K 3 1	S K 4 1	217.407
P 0 2 7	S K 0 2		P 0 9 0	P 0 9 1		S K 3 2	S K 3 8	217.414
P 0 2 8	P 0 2 6		P 0 9 1	P 0 9 0		S K 3 3	S K 3 7	217.435
P 0 2 9	P 0 6 2	217.700	P 0 9 2	P 0 8 9		S K 3 4		
P 0 3 0	P 0 6 3		P 0 9 3	P 0 8 8		S K 3 5	S K 3 9	
P 0 3 1	P 0 6 1	217.740	P 0 9 4	P 0 8 7		S K 3 6	S K 4 0	217.381
P 0 3 2	P 0 6 0	217.630	P 0 9 5	S K 4 5		S K 3 7	S K 0 5	
P 0 3 3	P 0 6 6		P 0 9 6	P 0 8 6		S K 3 8	S K 0 6	
P 0 3 4	P 0 6 7	217.730	P 0 9 7	S K 4 4		S K 3 9	S K 0 7	
P 0 3 5	P 0 2 7	217.940	P 0 9 8	P 0 8 3		S X 0 1	S X 2 8	
P 0 3 6	P 0 3 1		P 0 9 9	P 0 8 4		S X 0 2	S X 3 1	
P 0 3 7	P 0 2 8		P 1 0 0	P 0 9 2		S X 0 3	S X 3 0	
P 0 3 8	P 0 2 9	217.890	P 1 0 1	P 0 9 3		S X 0 4	S X 2 5	217.480
P 0 3 9	P 0 3 0		P 1 0 2	P 0 9 4		S X 0 5	S X 2 4	
P 0 4 0	P 0 3 2	217.900	P 1 0 3			S X 0 6	S X 2 4	
P 0 4 1	P 0 5 2		P 1 0 4	S K 1 8		S X 0 7	S X 2 6	
P 0 4 2	P 0 5 1	217.920	P 1 0 5			S X 0 8	S X 2 7	217.800
P 0 4 3	P 0 5 3	217.850	P 1 0 6			S X 0 9	S X 1 5	217.680
P 0 4 4	P 0 5 4		P 1 0 7			S X 1 0	S X 0 7	
P 0 4 5	P 0 5 0		P 1 0 8	S K 2 3	218.045	S X 1 1	S X 1 6	217.870
P 0 4 6	P 0 4 9	217.730	P 1 0 9			S X 1 2	S X 0 5	217.640
P 0 4 7	P 0 3 5		P 1 1 0	S K 2 5 B	217.882	S X 1 3	S X 0 3	
P 0 4 8	P 0 3 4	217.645	P 1 1 1			S X 1 4	S X 0 6	217.500
P 0 4 9	P 0 3 6	217.710	P 1 1 2	S K 3 0 B	217.750	S X 1 5	S X 2 2	
P 0 5 0	P 0 3 3	217.880	P 1 1 3	S K 1 6 B	217.505	S X 1 6	S X 0 8	
P 0 5 1	P 0 3 7	217.910	P 1 1 4			S X 1 7	S X 1 8	
P 0 5 2	P 0 3 8	217.980	P 1 1 5	S K 2 9		S X 1 8	S X 1 4	
P 0 5 3	P 0 3 9		S B 0 1	S B 0 1		S X 1 9	S X 1 9	
P 0 5 4	P 0 4 3		S F 0 1	S F 0 1		S X 2 0	S X 1 0	
P 0 5 5	P 0 4 2		S F 0 2	S F 0 2		S X 2 1	S X 0 9	
P 0 5 6	P 0 4 0	217.720	S F 0 3	S F 0 3		S X 2 2	S X 2 1	217.730
P 0 5 7	P 0 4 1	217.640	S F 0 4	SX01(SK65)		S X 2 3	S X 2 0	
P 0 5 8	P 0 4 4		S F 0 5	S X 1 7		S X 2 4	S X 1 1	
P 0 5 9	P 0 4 8	217.660	S K 0 1			S X 2 5	S X 1 2	
P 0 6 0	P 0 4 5	217.590	S K 0 2	S K 0 1		S X 2 6	S X 1 3	218.040

附表(2)

三斗目遺跡土製品(1)

番号	登録番号	出土地点	旧遺構番号
001	696	VH14i ⅰ 包含層	
002	008	NRO1X-103676.046 Y9717.024	NRO1
003	003	NRO1X-103676.055 Y9716.777	NRO1
004	004	NRO1X-103683.433 Y9746.424	NRO1
005	137	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1
006	038	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1
007	134	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1
008	493	X-103684.175 Y9744.438	
009	225	NRO1X-103683.721 Y9743.166	NRO1
010	135	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1
011	261	VH14k 包含層	
012	216	NRO1X-103677.453 Y9715.668	NRO1
013	104	NRO1	NRO1
014	065	NRO1	NRO1
015	082	NRO1	NRO1
016	237	NRO1X-103684.581 Y9741.646	NRO1
017	117	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1
018	122	NRO1 包含層ⅡX-103684.172 Y9745.066	NRO1
019	090	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1
020	474	X-103686.767 Y9704.854	
021	156	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1
	173		
022	103	NRO1	NRO1
023	026	NRO1	NRO1
024	546	X-103676.333 Y9716.589	
025	255	NRO3X-103670.475 Y9757.926	SX02
026	060	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1
027	041	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1
	042		
028	019	NRO1X-103675.707 Y9717.394 X-103675.628 Y9717.461	NRO1
029	136	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1
030	133	NRO1	NRO1
031	132	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1
032	491		
033	180	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1
034	073	NRO1 包含層Ⅰ	NRO1
035	555	X-103689.806 Y9735.739	
036	023	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1
037	185	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1
038	012	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1
039	032	NRO1X-103681.847 Y9709.013	NRO1
040	192	NRO1X-103676.083 Y9717.177	NRO1
041	154	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1
042	149	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1
043	181	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1
044	095	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1
045	501	X-103687.396 Y9736.181	
046	062	NRO1 包含層Ⅰ	NRO1
047	178	NRO1 包含層Ⅰ	NRO1
048	152	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1
049	551	X-103688.641 Y9733.549	
050	313	VH18g 包含層	
051	016	NRO1	NRO1
052	014	NRO1	NRO1
053	188	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1

番号	登録番号	出土地点	旧遺構番号
054	169	NRO1 包含層Ⅰ	NRO1
055	022	NRO1 包含層Ⅰ	NRO1
056	187	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1
057	105	NRO1	NRO1
058	037	NRO1 包含層Ⅰ	NRO1
059	213	NRO1X-103681.033 Y9708.821	NRO1
060	130	NRO1X-103677.053 Y9716.263	NRO1
061	193	NRO1X-103675.313 Y9718.212	NRO1
062	141	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1
063	190	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1
064	033	NRO1 包含層X-103676.075 Y9716.640	NRO1
065	024	NRO1	NRO1
066	131	NRO1X-103690.268 Y9729.430	NRO1
067	127	NRO1	NRO1
068	198	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1
069	197	NRO1	NRO1
070	292	VH18b	
071	189	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1
072	537	X-103677.154 Y9715.613	
073	489	X-103684.020 Y9744.840	
074	209	NRO1X-103681.362 Y9708.374 X-103681.384 Y9708.260 X-103681.177 Y9708.296	NRO1
075	666		
076	207	NRO1X-103676.571 Y9716.512	NRO1
077	083	NRO1	NRO1
078	058	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1
079	072	NRO1	NRO1
080	145	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1
081	140	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1
082	098	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1
083	492	X-103688.435 Y9735.859	
084	048	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1
	050		
085	259	NRO3X-103681.148 Y9742.132	SX02
086	271	VH18b 包含層	
087	034	NRO1	NRO1
088	001	NRO1	NRO1
089	020	NRO1	NRO1
090	221	NRO1X-103668.917 Y9753.988	NRO1
091	013	NRO1	NRO1
092	075	NRO1 包含層Ⅰ	NRO1
093	166	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1
094	201	NRO1X-103688.016 Y9705.825	NRO1
095	164	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1
096	144	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1
097	094	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1
098	468	X-103684.066 Y9706.996	
099	054	NRO1	NRO1
100	165	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1
101	162	NRO1 包含層Ⅰ	NRO1
102	206	NRO1X-103676.571 Y9716.512	NRO1
103	071		
104	021	NRO1	NRO1
105	346	SBO1 覆土	SBO1

番号	登録番号	出土地点	旧遺構番号
106	311	VH18b	
	336		
107	029	NRO1	NRO1
108	226	NRO1X-103680.601 Y9744.171	NRO1
109	036	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1
110	030	NRO1 包含層X-103677.099 Y9715.424	NRO1
	585		
111	159	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1
112	107	NRO1	NRO1
113	046	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1
114	194	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1
115	222	NRO1X-103681.734 Y9746.698	NRO1
116	258	NRO3X-103670.475 Y9757.926	SX02
117	172	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1
118	056	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1
119	257	NRO3X-103680.527 Y9743.435	SX02
120	170	NRO1 包含層Ⅰ	NRO1
121	118	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1
122	199	NRO1X-103678.596 Y9712.805	NRO1
123	158	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1
124	186	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1
125	119	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1
126	175	NRO1	NRO1
127	339	VH18h 包含層	
128	049	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1
129	047	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1
130	114	NRO1X-103676.657 Y9715.674	NRO1
131	238	NRO3X-103681.838 Y9744.394	SX02
132	337	VH18h 包含層	
	338		
133	147	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1
134	529	X-103688.226 Y9732.894	
135	006	NRO1X-103681.178 Y9708.283	NRO1
136	085	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1
137	059	NRO1	NRO1
138	361	X-103684.831 Y9744.323	
139	444	X-103678.842 Y9743.363	
140	262	VH19f 包含層	
141	055	NRO1 包含層Ⅰ	NRO1
142	002	NRO1X-103677.006 Y9716.148	NRO1
143	507	X-103688.226 Y9732.894	
144	223	NRO1X-103683.066 Y9746.530	NRO1
145	691	X-103683.921 Y9705.398	
146	017	NRO1	NRO1
147	239	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1
148	031	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1
149	430	X-103685.126 Y9706.477	
150	316	VH14k 包含層	
151	562	X-103687.760 Y9732.448	
152	241	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1
153	608	X-103690.524 Y9731.397	
154	604		
155	278	VH18b 包含層	
156	329	VH17h SX 2.6 付近	
157	236	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1

番号	登録番号	出土地点	旧遺構番号
158	246	SK38	SK06
159	697		
160	364		
161	191	NRO1X-103683.955 Y9706.954	NRO1
162	043	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1
163	352	X-103682.575 Y9707.181	
164	123	NRO1	NRO1
165	155	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1
166	355	X-103684.308 Y9705.721	
167	425	X-103683.806 Y9705.515	
168	357	X-103680.934 Y9736.402	
169	057	NRO1	NRO1
170	124	NRO1 包含層	NRO1
171	688	X-103684.942 Y9738.657	
172	146	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1
173	167	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1
174	051	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1
175	267	包含層	
176	102	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1
177	297	VH17j	
178	344	VH17h 包含層	
179	275	VH13l 包含層	
180	652		
181	253	SBO1 覆土	SBO1
182	436	X-103683.980 Y9704.726	
183	279	SBO1 覆土	SBO1
184	264	VH18f 包含層	
185	571	X-103691.629 Y9725.331	
186	341	SFO3	
187	588	X-103691.722 Y9727.639	
188	512	X-103689.157 Y9733.410	
189	589	X-103692.195 Y9726.843	
190	692	X-103691.779 Y9725.581	
191	300	VH16h 包含層	
192	658		
193	343	VH17h 包含層	
194	121	NRO1	NRO1
195	582	X-103689.529 Y9733.594	
196	675		
197	318	VH18g 包含層	
198	399	X-103688.785 Y9725.714	
199	157	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1
200	254	VH19f 包含層	
201	495	X-103689.055 Y9727.626	
202	396	X-103679.476 Y9739.766	
203	298	VH16g 包含層	
204	478	X-103687.457 Y9733.680	
205	011	NRO1 包含層	NRO1
206	240	NRO1 包含層Ⅱ	NRO1
207	283	SBO1 覆土	SBO1
208	005	X-103684.762 Y9741.376 X-103684.814 Y9741.386 X-103684.839 Y9741.437	
209	204	NRO1X-103676.324 Y9716.299	NRO1
210	486	X-103685.761 Y9704.849	
211	326	VH17g 包含層	
212	530	X-103688.322 Y9733.042	

付表(3)

三斗目遺跡土製品(2)

番号	登録番号	出土地点	旧遺構番号
2 1 3	3 8 0	X-103694.508 Y9725.530	
2 1 4	6 6 3		
2 1 5	3 0 7	VH 1 7 1 8 g h 包含層	
2 1 6	2 6 3	SK 0 6	SK 2 0
2 1 7	2 5 1	S B 0 1 覆土	S B 0 1
2 1 8	6 7 6		
2 1 9	2 0 8	N R 0 1 X-103683.768 Y9706.469	N R 0 1
2 2 0	4 2 7	X-103681.141 Y9737.305	
2 2 1	3 6 3		
2 2 2	0 5 3	N R 0 1	N R 0 1
2 2 3	1 0 8	N R 0 1	N R 0 1
2 2 4	2 4 9	N R 0 3	S X 0 2
2 2 5	4 4 5	X-103686.067 Y9740.597	
2 2 6	1 3 9	N R 0 1 包含層 II	N R 0 1
2 2 7	5 2 2	X-103687.685 Y9732.797	
2 2 8	0 2 8	N R 0 1 包含層	N R 0 1
2 2 9	5 7 8	X-103692.215 Y9725.677	
2 3 0	5 9 9	X-103692.454 Y9726.548	
2 3 1	4 2 3	X-103691.160 Y9727.224	
2 3 2	6 1 1	X-103691.805 Y9724.672	
2 3 3	4 8 8	X-103686.088 Y9702.523	
2 3 4	3 2 2	VH 1 8 f 包含層	
2 3 5	1 7 7	N R 0 1 包含層 II	N R 0 1
2 3 6	6 6 2		
2 3 7	3 3 4	VH 1 7 1 8 g h	
2 3 8	2 8 4	VH 1 8 1 9 f 包含層	
2 3 9	3 5 3	X-103692.366 Y9725.603 X-103692.479 Y9725.573 X-103692.365 Y9725.719	
2 4 0	5 5 4	X-103693.046 Y9726.303 X-103693.028 Y9726.583	
2 4 1	0 8 1	N R 0 1 包含層 I	N R 0 1
2 4 2	1 0 1	N R 0 1 包含層 I	N R 0 1
2 4 3	6 8 3	X-103693.714 Y9726.316	
2 4 4	6 1 6		
2 4 5	6 6 1		
2 4 6	6 0 7	X-103678.067 Y9734.522	
2 4 7	2 8 0	S B 0 1 覆土	S B 0 1
2 4 8	6 8 7	X-103692.295 Y9726.000	
2 4 9		N R 0 1 X-103686.500 Y9705.016	N R 0 1
2 5 0	2 3 4	N R 0 1 包含層 II	N R 0 1
2 5 1	3 7 5	X-103678.271 Y9734.673	
2 5 2	6 8 1		
2 5 3	2 5 5	S B 0 1 下部	S B 0 1
2 5 4	2 3 3	N R 0 1 包含層 II	N R 0 1
2 5 5	6 1 4		
2 5 6	5 3 6	X-103684.286 Y9737.095	
2 5 7	3 8 4	X-103694.414 Y9725.950	
2 5 8	3 9 7	X-103694.817 Y9726.264	
2 5 9	1 0 6	N R 0 1	N R 0 1
2 6 0	6 2 0		
2 6 1	3 4 8	X-103693.401 Y9726.973	
2 6 2	6 8 4	X-103691.689 Y9726.760	
2 6 3	2 2 8	N R 0 1 包含層 II	N R 0 1
2 6 4	6 5 9		
2 6 5	2 3 2	N R 0 1 包含層 II	N R 0 1
2 6 6	5 5 0	X-103677.344 Y9736.439	

番号	登録番号	出土地点	旧遺構番号
3 2 0	4 9 7	X-103688.621 Y9737.654	
3 2 1	0 6 7	N R 0 1 包含層 I	N R 0 1
3 2 2	4 4 0	X-103683.885 Y9705.695	
3 2 3	4 3 7	X-103683.080 Y9706.375	
3 2 4	6 3 6		
3 2 5	3 2 7	VH 1 7 g 包含層	
3 2 6	3 0 1	VH 1 7 i j 包含層	
3 2 7	4 6 4	X-103684.546 Y9745.077	
3 2 8	2 9 1	VH 1 8 b	
3 2 9	2 3 0	N R 0 1	N R 0 1
3 3 0	0 1 0	N R 0 1 包含層	N R 0 1
3 3 1	3 2 5	VH 1 7 g 包含層	
3 3 2	0 1 8	N R 0 1	N R 0 1
3 3 3	6 4 4		
3 3 4	2 8 5	VH 1 5 1 6 g h 包含層	
3 3 5	6 9 3		
3 3 6	6 3 9		
3 3 7	3 1 5	VH 1 4 k 包含層	
3 3 8	5 7 7	X-103693.495 Y9725.622	
3 3 9	3 0 2	VH 1 7 i j 包含層	
3 4 0	0 0 9	N R 0 1	N R 0 1
3 4 1	3 4 2	S F 0 3	S F 0 3
3 4 2	6 3 8		
3 4 3	4 4 1	X-103684.489 Y9731.580	
3 4 4	0 2 5	N R 0 1	N R 0 1
3 4 5	0 8 7	N R 0 1 包含層 I	N R 0 1
3 4 6	2 1 5	N R 0 1 X-103681.467 9708.198	N R 0 1
3 4 7	4 5 0	X-103681.155 Y9710.397	
3 4 8	5 7 6	X-103693.561 Y9726.381	
3 4 9	3 6 6	X-103693.593 Y9726.377 X-103693.546 Y9726.329	
3 5 0	5 8 1	X-103690.882 Y9725.338	
3 5 1	3 6 2	X-103692.504 Y9725.034 X-103692.710 Y9725.004	
3 5 2	1 0 0	N R 0 1	N R 0 1
3 5 3	6 9 0	X-103685.987 Y9702.662	
3 5 4	5 3 1	X-103685.885 Y9742.335	
3 5 5	3 2 1	VH 1 8 g 包含層	
3 5 6	5 5 8	X-103682.865 Y9707.245	
3 5 7	4 2 1	X-103683.664 Y9706.063	
3 5 8	1 2 5	N R 0 1 包含層	N R 0 1
3 5 9	2 2 7	N R 0 1 包含層 II	N R 0 1
3 6 0	4 9 4	X-103690.605 Y9729.265	
3 6 1	6 7 3		
3 6 2	2 3 5	N R 0 1 包含層 II	N R 0 1
3 6 3	5 2 6	X-103691.514 Y9728.263	
3 6 4	6 3 0	X-103677.977 Y9734.428	
3 6 5	4 6 7	X-103687.311 Y9739.858	
3 6 6	4 8 7	X-103687.792 Y9738.801	
3 6 7	6 7 1		
3 6 8	5 2 4	X-103687.105 Y9739.825	
3 6 9	5 3 9	X-103692.486 Y9727.421	
3 7 0	4 9 0	X-103686.585 Y9735.538	
3 7 1	2 6 6	VH 1 7 g h 包含層	
3 7 2	2 8 6	VH 1 4 k 1 包含層	
3 7 3	2 4 7	VH 1 4 k 1 包含層	
3 7 4	6 2 6		

番号	登録番号	出土地点	旧遺構番号
2 6 7	6 6 5		
2 6 8	4 7 3	X-103690.903 Y9732.737	
2 6 9	6 8 6	X-103694.313 Y9726.611 X-103694.066 Y9726.648 X-103694.056 Y9726.380	
2 7 0	5 2 7	X-103692.743 Y9727.530	
2 7 1	4 1 7	X-103690.596 Y9726.949	
2 7 2	6 0 4	X-103692.868 Y9729.043	
2 7 3	2 9 9	VH 1 6 g h 包含層	
2 7 4	3 8 5	X-103693.326 Y9726.578	
2 7 5	4 3 1	X-103678.114 Y9733.771	
2 7 6	3 7 4	X-103677.281 Y9734.512	
2 7 7	3 9 5	X-103671.907 Y9758.524	
2 7 8	5 1 3	X-103691.326 Y9728.251	
2 7 9	4 7 7	X-103690.367 Y9726.366	
2 8 0	1 2 6	N R 0 1 包含層	N R 0 1
2 8 1	6 5 7		
2 8 2	5 6 4	X-103692.021 Y9726.651	
2 8 3	5 0 5	X-103685.201 Y9743.138	
2 8 4	3 2 0	VH 1 8 g 包含層	
2 8 5	4 7 9	X-103689.631 Y9726.977 X-103689.828 Y9727.321	
2 8 6	4 8 0		
2 8 7	2 8 2	S B 0 1 覆土	S B 0 1
2 8 8	2 9 4	VH 1 7 i j	
2 8 9	2 5 2	S B 0 1 下部	S B 0 1
2 8 9	6 1 2	X-103691.848 Y9724.918	
2 9 0	5 6 1	X-103692.675 Y9725.943	
2 9 1	5 8 3	X-103692.521 Y9727.229	
2 9 2	2 8 1	S B 0 1 覆土	S B 0 1
2 9 3	6 2 8		
2 9 4	5 4 2	X-103692.102 Y9726.760	
2 9 5	3 5 6	X-103676.806 Y9742.864 X-103676.649 Y9742.734	
2 9 6	6 2 1		
2 9 7	3 6 5	X-103677.889 Y9734.019 X-103677.825 Y9734.155	
2 9 8	2 4 8	SK 0 7	SK I 6
2 9 9	2 4 5	S F 0 4	S X 0 1
3 0 0	3 4 5	VH 1 7 h 包含層	
3 0 1	2 2 4		
3 0 2	2 9 6	VH 1 7 i j	
3 0 3	5 3 2	X-103690.346 Y9734.224	
3 0 4	4 3 2	X-103687.072 Y9732.411	
3 0 5	6 7 7		
3 0 6	4 7 1	X-103690.952 Y9733.412	
3 0 7	4 7 5	X-103677.867 Y9734.595	
3 0 8	5 0 9	X-103687.770 Y9733.004	
3 0 9	6 6 4		
3 1 0	3 4 7	S B 0 1 覆土	S B 0 1
3 1 1	2 7 7	包含層	
3 1 2	4 7 6	X-103684.528 Y9744.231	
3 1 3	5 1 0	X-103684.551 Y9736.647	
3 1 4	0 6 4	N R 0 1 包含層 I	N R 0 1
3 1 5	4 2 4	X-103682.690 Y9736.142	
3 1 6	6 5 1		
3 1 7	3 0 5	VH 1 8 g 包含層	
3 1 8	2 7 4	包含層 X-103683.223 Y9740.613	
3 1 9	0 6 8	N R 0 1 包含層 I	N R 0 1

番号	登録番号	出土地点	旧遺構番号
3 7 5	5 0 3		
3 7 6	6 4 0		
3 7 7	6 6 0		
3 7 8	4 0 0	X-103681.158 Y9724.941	
3 7 9	5 5 7	X-103678.236 Y9744.353	
3 8 0	4 9 9	X-103687.053 Y9733.184	
3 8 1	3 0 8	VH 1 7 1 8 g h 包含層	
3 8 2	6 1 0	X-103670.475 Y9757.926	
3 8 3	4 0 2	X-103679.774 Y9726.306	
3 8 4	4 6 5	X-103692.618 Y9724.870	
3 8 5	6 4 6		
3 8 6	5 8 0	X-103672.354 Y9755.619	
3 8 7	3 0 3	VH 1 8 g 包含層	
3 8 8	4 4 8	X-103685.602 Y9731.961	
3 8 9	1 9 6	N R 0 1	N R 0 1
3 9 0	6 1 7		
3 9 1	4 1 8	X-103680.051 Y9723.854	
3 9 2	6 1 8		
3 9 3	4 8 3	X-103689.779 Y9732.787	
3 9 4	6 7 4		
3 9 5	3 3 3	VH 1 7 1 8 g h	
3 9 6	4 6 6	X-103674.629 Y9745.916	
3 9 7	3 3 0	VH 1 5 1 6 k 1	
3 9 8	6 3 4		
3 9 9	5 9 8	X-103692.785 Y9730.829	
4 0 0	6 2 2		
4 0 1	3 6 0	X-103692.446 Y9730.716 X-103692.344 Y9730.677	
4 0 2	3 7 8	X-103691.854 Y9731.069	
4 0 3	6 0 0	X-103691.894 Y9731.002	
4 0 4	3 9 0	X-103666.111 Y9753.009	
4 0 5	6 3 3		
4 0 6	3 9 1	X-103665.521 Y9752.971	
4 0 7	2 3 1	N R 0 1 包含層 II	N R 0 1
4 0 8	0 0 7	N R 0 1 X-103685.492 Y9752.938 X-103685.304 Y9752.976	N R 0 1
4 0 9	4 9 6	X-103686.006 Y9732.933	
4 1 0	4 8 1	X-103688.423 Y9738.135	
4 1 1	3 1 7	VH 1 8 g 包含層	
4 1 2	3 7 7	X-103671.343 Y9744.949	
4 1 3	3 4 0	VH 1 8 h 包含層	
4 1 4	2 9 3	VH 1 5 1 6 i j 包含層	
4 1 5	4 3 5	X-103686.189 Y9737.936	
4 1 6	5 4 0	X-103679.076 Y9744.865	
4 1 7	3 1 4	VH 1 7 1 8 g h 包含層	
4 1 8	5 2 8	X-103686.549 Y9740.661	
4 1 9	4 3 9	X-103680.729 Y9723.674	
4 2 0	3 9 4		
4 2 1	5 6 7	X-103688.648 Y9737.939	
4 2 2	3 5 1	X-103694.316 Y9727.088 X-103694.408 Y9726.854	
4 2 3	2 7 0	VH 1 7 i j 包含層	
4 2 4	5 9 1	X-103694.338 Y9727.060	
4 2 5	6 4 5		
4 2 6	2 6 8	包含層	
4 2 7	6 3 1		
4 2 8	6 0 9	X-103691.086 Y9728.298	

附表(4)

三斗目遺跡土製品(3)

番号	登録番号	出土地点	旧遺構番号
4 2 9	4 8 5	X-103682.283 Y9743.897	
4 3 0	4 2 0	X-103680.026 Y9723.212	
4 3 1	3 2 3	WH 1 8 f 包含層	
4 3 2	6 9 8		
1 0 0 1	N R O 1		N R O 1
1 0 0 2	X-103692.363 Y9728.618		
1 0 0 3	X-103682.751 Y9736.895		
1 0 0 4			
1 0 0 5	N R O 1 包含層 II		
1 0 0 6	WH 1 8 g 包含層 II		

三斗目遺跡石器(1)

番号	登録番号	重量	長軸	短軸	先端角	分類	石質	出土地点	旧遺構番号
0 0 1	0 3 9	1.3	2.0	1.5	48	石鏃	下呂石	S B O 1 覆土	S B O 1
0 0 2	1 0 8	1.2	2.0	1.3	58	石鏃	下呂石	WH 1 4 k - i 包含層	
0 0 3	1 0 2	0.9	2.0	1.3	53	石鏃	チャート	WH 1 8 g 包含層	
0 0 4	2 4 0	1.5	2.3	1.4	52	石鏃	(安山岩)	X-103690.907 Y9727.574	
0 0 5	2 4 2	1.3	2.5	1.7	70	石鏃	(安山岩)	X-103665.955 Y9754.613	
0 0 6	1 2 3	1.4	2.2	1.9	79	石鏃	(安山岩)	WH 1 9 f 包含層	
0 0 7	0 5 8	2.0	2.7	2.1	70	石鏃	(安山岩)	WH 1 6 - 1 7 b - c	
0 0 8	2 0 7	1.2	1.9	1.4	70	石鏃	安山岩	X-103677.644 Y9743.654	
0 0 9	1 4 9	1.7	2.3	1.7	62	石鏃	(安山岩)	X-103686.832 Y9735.536	
0 1 0	0 6 1	0.9	2.0	1.7	66	石鏃	(安山岩)	WH 1 4 g - h 包含層	
0 1 1	0 4 6	0.8	1.8	1.3	50	石鏃	(安山岩)	S B O 1 覆土	S B O 1
0 1 2	0 1 1	2.0	2.2	1.6	69	石鏃	安山岩	S B O 1 覆土	S B O 1
0 1 3	0 9 1	0.4	1.7	1.2	60	石鏃	安山岩	包含層	
0 1 4	0 0 5	1.0	2.6	1.5	73	石鏃	下呂石	WH 1 4 k S K 3 3 南	S K 3 7
0 1 5	2 6 2	1.3	2.4	1.5	58	石鏃	下呂石	X-103683.702 Y9731.932	
0 1 6	0 6 5	0.5	1.6	1.1	68	石鏃	下呂石	WH 1 7 - 1 8 g - h	
0 1 7	0 3 8	0.5	1.4	1.5	60	石鏃	下呂石	WH 1 8 h 包含層	
0 1 8	0 9 9	0.5	1.5	1.3	50	石鏃	下呂石	WH 1 4 k 包含層	
0 1 9	0 5 7	0.5	1.4	1.2	61	石鏃	下呂石	S B O 1 覆土	S B O 1
0 2 0	1 6 6	1.6	1.9	1.6	62	石鏃	チャート		
0 2 1	1 8 3	0.4	1.7	1.4	81	石鏃	(安山岩)	X-103679.079 Y9738.620	
0 2 2	1 0 7	1.3	1.9	1.7	76	石鏃	下呂石	WH 1 4 k - i 包含層	
0 2 3	2 6 4	1.9	2.1	1.8	57	石鏃	下呂石	X-103686.468 Y9736.385	
0 2 4	0 2 0	0.3	1.4	1.0	85	石鏃	下呂石	WH 1 7 - 1 8 g - h 包含層	
0 2 5	1 9 9	0.7	1.6	1.3	63	石鏃	下呂石	X-103690.573 Y9726.890	
0 2 6	1 2 1	0.9	2.0	1.6	57	石鏃	(安山岩)	X-103688.903 Y9733.735	
0 2 7	1 4 6	0.7	1.8	1.3	50	石鏃	安山岩	X-103691.696 Y9728.179	
0 2 8	1 8 0	1.4	2.5	1.6	73	石鏃	下呂石	X-103666.837 Y9753.469	
0 2 9	1 7 2	1.0	1.8	1.5	64	石鏃	下呂石	X-103687.579 Y9728.678	
0 3 0	0 6 6	1.7	2.4	1.5	70	石鏃	安山岩	N R O 1 包含層	N R O 1
0 3 1	0 2 4	0.2	1.3	1.3	57	石鏃	(安山岩)	N R O 1	N R O 1
0 3 2	2 1 9	0.5	1.3	1.3	59	石鏃	下呂石	X-103676.633 Y9748.341	
0 3 3	1 5 6	0.4	1.3	1.4	48	石鏃	安山岩	X-103691.063 Y9727.052	
0 3 4	1 0 4	0.4	1.7	1.5	60	石鏃	下呂石	WH 1 8 g 包含層	
0 3 5	0 1 4	0.5	1.7	1.3	53	石鏃	下呂石	WH 1 5 k 包含層	
0 3 6	1 3 9	0.5	1.6	1.2	63	石鏃	下呂石	X-103668.285 Y9751.452	
0 3 7	2 1 2	0.4	1.6	2.0	47	石鏃	流紋岩	X-103691465 Y9727.098	
0 3 8	2 2 7	0.7	1.8	1.5	69	石鏃	(流紋岩質 凝灰岩)	X-103691.237 Y9729.096	
0 3 9	1 7 4	0.7	2.3	1.3	36	石鏃	下呂石	X-103690.511 Y9726.759	
0 4 0	1 8 2	0.8	2.0	1.4	45	石鏃	下呂石	X-103678.790 Y9737.759	
0 4 1	0 9 0	0.4	1.7	1.0	48	石鏃	下呂石	包含層	
0 4 2	0 8 7	0.8	2.0	1.1	70	石鏃	下呂石	包含層	
0 4 3	1 4 0	1.8	2.6	1.9	46	石鏃	下呂石	X-103674.614 Y9736.918	
0 4 4	2 2 2	1.6	2.3	1.8	42	石鏃	(安山岩)	X-103689.103 Y9726.331	
0 4 5	1 3 1	1.1	1.8	2.0	53	石鏃	下呂石	X-103685.813 Y9738.951	
0 4 6	2 1 1	0.6	1.5	1.8	50	石鏃	下呂石	X-103691.448 Y9727.416	
0 4 7	1 4 4	0.6	2.2	1.4	33	石鏃	(安山岩)	X-103691.563 Y9727.067	
0 4 8	1 5 3	0.4	2.0	1.4	42	石鏃	(安山岩)	X-103686.529 Y9729.906	
0 4 9	1 3 5	0.6	1.5	1.7	65	石鏃	(安山岩)	X-103683.316 Y9744.881	
0 5 0	1 8 4	0.3	1.7	0.8	37	石鏃	黒曜石	N R O 1	N R O 1
0 5 1	2 8 1	0.3	1.1	1.1	40	石鏃	下呂石	WH 1 9 f 包含層	
0 5 2	0 3 6	0.4	1.7	1.2	51	石鏃	(安山岩)	S B O 1 覆土	S B O 1
0 5 3	0 8 4	0.6	1.6	1.2	58	石鏃	下呂石	WH 1 7 h 包含層	
0 5 4	1 5 0	1.0	1.9	1.6	60	石鏃	下呂石	X-103688.689 Y9727.603	
0 5 5	0 9 4	0.3	1.2	1.3	79	石鏃	下呂石	包含層	
0 5 6	0 9 3	0.4	1.4	1.2	60	石鏃	下呂石	包含層	
0 5 7	2 5 4	0.3	1.5	1.1	60	石鏃	安山岩	X-103686.388 Y9737.051	
0 5 8	2 7 0	0.2	1.5	1.1	50	石鏃	下呂石	X-103691.732 Y9728.318	
0 5 9	1 2 9	0.2	1.3	1.0	48	石鏃	安山岩	X-103677.773 Y9749.468	
0 6 0	2 3 9	0.3	1.6	1.2	52	石鏃	下呂石	X-103691.047 Y9727.076	
0 6 1	1 7 0	0.3	1.6	1.1	49	石鏃	流紋岩	X-103684.027 Y9728.175	
0 6 2	1 4 1	0.4	1.4	1.3	43	石鏃	安山岩	X-103690.369 Y9734.132	
0 6 3	1 2 4	0.6	1.7	1.5	43	石鏃	下呂石	X-103672.080 Y9756.921	
0 6 4	1 1 7	0.3	1.5	1.5	88	石鏃	下呂石	WH 1 9 g 包含層	
0 6 5	1 0 9	0.7	1.7	1.9	86	石鏃	下呂石	WH 1 4 i 包含層	
0 6 6	0 5 2	0.6	1.5	1.7	48	石鏃	(安山岩)	WH 1 4 k - i 包含層	
0 6 7	1 6 7	0.5	1.5	1.7	47	石鏃	下呂石	X-103687.086 Y9729.316	
0 6 8	2 6 7	0.6	2.2	1.4	36	石鏃	(安山岩)	X-103689.298 Y9735.785	
0 6 9	0 0 7	1.0	2.7	1.6	52	石鏃	下呂石	S K 0 7 部	S K 1 6
0 7 0	2 6 6	1.3	3.0	1.4	42	石鏃	(安山岩)	X-103688.886 Y9735.515	
0 7 1	0 9 5	1.1	1.8	1.6	61	石鏃	下呂石	WH 1 7 i - j	
0 7 2	2 2 3	1.2	2.2	1.6	80	石鏃	石英	X-103690.762 Y9728.159	
0 7 3	2 3 0	0.8	2.0	1.5	58	石鏃	(安山岩)	X-103691.116 Y9728.834	
0 7 4	2 6 5	0.7	2.0	1.4	64	石鏃	下呂石	X-103689.176 Y9737.282	
0 7 5	0 7 3	0.9	2.3	1.5	46	石鏃	下呂石	WH 1 8 b 包含層	
0 7 6	2 6 0	0.7	2.1	1.4	53	石鏃	下呂石	X-103690.696 Y9729.466	
0 7 7	2 6 1	0.5	1.8	1.4	55	石鏃	安山岩	X-103691.540 Y9729.348	
0 7 8	1 3 6	0.6	2.0	1.3	50	石鏃	下呂石	X-103675.184 Y9746.301	
0 7 9	1 1 6	0.6	2.2	1.2	45	石鏃	下呂石	WH 1 6 i 包含層	
0 8 0	1 7 9	0.9	2.4	1.6	55	石鏃	下呂石	X-103670.976 Y9743.726	
0 8 1	0 6 0	0.4	1.5	1.2	42	石鏃	安山岩	WH 1 9 - 2 0 e - f	
0 8 2	0 6 9	0.7	1.5	1.4	47	石鏃	下呂石	WH 1 5 - 1 6 k - l	
0 8 3	1 7 7	0.4	1.8	1.2	42	石鏃	下呂石	X-103690.986 Y9731.152	
0 8 4	0 7 4	0.5	1.7	1.3	67	石鏃	下呂石	WH 1 7 i 包含層	
0 8 5	1 4 3	0.5	1.7	1.3	50	石鏃	下呂石	X-103691.860 Y9729.468	
0 8 6	0 8 9	0.6	1.7	1.4	70	石鏃	下呂石	包含層	
0 8 7	2 1 6	1.1	2.1	1.9	67	石鏃	下呂石	X-103686.216 Y9754.422	
0 8 8	0 4 1	1.0	1.9	1.9	70	石鏃	チャート	N R O 1 包含層	N R O 1
0 8 9	2 6 9	3.0	2.2	2.2	70	石鏃	下呂石	X-103691.314 Y9724.990	
0 9 0	0 1 2	5.3	3.3	1.8	60	石鏃	下呂石	S B O 1 覆土	S B O 1
0 9 1	3 4 7	5.6	3.9	2.1	70	石鏃	下呂石	(安山岩)	X-103684.338 Y9735.436
0 9 2	3 6 3	4.3	3.7	2.2	70	石鏃	下呂石	WH 1 7 - 1 8 g - h 包含層	
0 9 3	1 1 9	1.4	1.9	1.9	70	石鏃	下呂石	WH 1 6 g - h 包含層	
0 9 4	0 7 6	1.9	2.0	1.9	70	石鏃	チャート	WH 1 8 g 包含層	
0 9 5	1 9 0	1.2	1.8	1.4	70	石鏃	下呂石	X-103685.743 Y9738.881	
0 9 6	1 2 2	1.9	2.2	1.8	70	石鏃	下呂石	(安山岩)	X-103680.755 Y9748.798
0 9 7	1 0 1	2.9	2.3	1.9	70	石鏃	下呂石	N R O 1 包含層	N R O 1
0 9 8	0 1 0	1.5	2.0	1.5	70	石鏃	下呂石	WH 1 9 e - f 2 0 e - g 包含層	
0 9 9	0 8 1	2.3	2.8	1.6	70	石鏃	下呂石	WH 1 7 - 1 8 g - h 包含層	
1 0 0	2 5 5	2.1	2.5	1.7	70	石鏃	下呂石	(安山岩)	X-103682.230 Y9744.321
1 0 1	0 0 8	4.6	3.9	2.1	70	石鏃	下呂石	S B O 1 覆土	S B O 1
1 0 2	2 5 3	2.5	3.0	2.0	70	石鏃	下呂石	X-103691.229 Y9731.297	
1 0 3	0 7 0	1.8	2.7	1.5	70	石鏃	安山岩	WH 1 7 - 1 8 e - f 包含層	
1 0 4	1 1 3	1.7	2.8	1.6	70	石鏃	下呂石	(安山岩)	X-103688.785 Y9727.456
1 0 5	2 4 9	3.4	4.7	1.9	70	石鏃	下呂石	(安山岩)	X-103683.672 Y9737.855
1 0 6	0 1 8	2.6	2.3	1.9	70	石鏃	下呂石	(安山岩)	WH 1 7 - 1 8 e - f 包含層
1 0 7	0 2 8	3.1							

付表(5)

三斗目遺跡石器(2)

(写真)

番号	登録番号	重量	長軸	短軸	先端角	分類	石質	出土地点	旧遺構番号
1 0 9	1 6 8	1.1	2.4	1.3		石錐	下呂石	X-103689.076 Y9724.096	
1 1 0	0 6 3	2.8	2.7	1.3		石錐	下呂石	VH H 1 5 - 1 6 i · j	
1 1 1	0 4 9	0.7	2.5	1.0		石錐	下呂石	VH H 1 7 - 1 8 g · h 包含層	
1 1 2	1 0 6	1.1	2.8	0.9		石錐	下呂石	VH H 1 5 k 包含層	
1 1 3	0 2 9	2.7	2.0	1.3		石錐	チャート	VH H 1 3 - 1 4 k · l 包含層	
1 1 4	2 8 3	1.7	3.9	1.5		石錐	下呂石	X-103671.242 Y9752.786	
1 1 5	0 8 5	2.9	3.1	2.0		石錐	下呂石	包含層	
1 1 6	0 2 6	7.3	6.0	2.5		石匙	流紋岩質溶結凝灰岩	包含層	
1 1 7	2 1 8	5.6	4.7	1.2		アトライト	下呂石	X-103675.414 Y9749.496	
1 1 8	0 2 1	8.0	3.2	3.0		アトライト	安山岩	包含層	
1 1 9	3 4 0	8.8	3.2	2.5		アトライト	下呂石	VH H 1 5 - 1 6 k · l 包含層	
1 2 0	3 4 1	12.0	3.6	3.0		アトライト	下呂石	X-103677.516 Y9733.189	
1 2 1	1 1 2	14.0	4.8	3.1		アトライト	下呂石	VH H 1 8 f 包含層	
1 2 2	2 4 5	22.0	5.0	4.2		アトライト	下呂石	X-103682.996 Y9735.927	
1 2 3	0 2 5	32.0	4.7	4.1		アトライト	下呂石	包含層	
1 2 4	0 1 6	26.0	5.5	3.6		アトライト	下呂石	VH H 1 7 i · j 包含層	
1 2 5	0 4 7	91.4	8.7	5.4		刃器	(安山岩)	N R O 1 包含層	N R O 1
1 2 6	1 2 6	169.7	11.0	7.6		刃器	砂岩	X-103681.230 Y9746.457	
1 2 7	0 9 8	18.2	4.1	3.6		刃器	(安山岩)	VH H 1 5 i l 1 6 i · j 包含層	
1 2 8	1 8 9	45.2	8.8	4.0		刃器	(安山岩)	X-103684.077 Y9739.451	
1 2 9	1 9 3	70.6	8.0	5.3		刃器	(安山岩)	N R O 1	N R O 1
1 3 0	1 9 2	30.5	5.0	4.5		刃器	(安山岩)	N R O 1	N R O 1
1 3 1	1 2 7	56.7	6.9	5.9		刃器	(安山岩)	X-103682.714 Y9744.573	
1 3 2	1 8 8	289.1	13.6	12.5		刃器	(安山岩)	X-103684.998 Y9743.688	
1 3 3	1 3 7	23.0	5.1	3.8		刃器	(安山岩)	X-103673.542 Y9747.819	
1 3 4	1 7 6	34.4	7.5	4.3		刃器	(安山岩)	X-103694.132 Y9728.294	
1 3 5	2 0 1	103.5	7.0	6.1		刃器	(安山岩)	N R O 1	N R O 1
1 3 6	2 2 5	69.0	6.8	4.3		刃器	(安山岩)	X-103694.098 Y9727.196	
1 3 7	0 4 8	64.1	7.0	4.7		刃器	(安山岩)	VH H 1 7 - 1 8 g · h 包含層	
1 3 8	0 5 1	131.5	6.6	6.0		刃器	(安山岩)	N R O 1 包含層	N R O 1
1 3 9	1 8 1	103.2	10.5	7.0		刃器	砂岩	X-103675.437 Y9741.587	
1 4 0	0 3 5	41.1	6.7	5.9		刃器	(安山岩)	包含層	
1 4 1	0 0 2	111.6	14.5	4.8		打製石斧	(安山岩)	S K 2 2 南	S K 3 0
1 4 2	2 5 7	142.7	12.4	4.2		打製石斧	(安山岩)	X-103679.476 Y9744.347	
1 4 3	1 3 2	84.5	12.5	4.2		打製石斧	細粒花コウ岩	X-103685.600 Y9738.664	
1 4 4	2 4 6	97.1	10.6	4.3		打製石斧	(安山岩)	X-103683.904 Y9737.205	
1 4 5	0 0 1	225.8	16.9	7.2		打製石斧	(安山岩)	S K 2 4	S K 3 2
1 4 6	2 5 0	41.9	7.7	4.6		打製石斧	(安山岩)	X-103695.491 Y9737.254	
1 4 7	1 4 8	69.0	7.9	3.9		打製石斧	総質接軸変成岩	X-103684.159 Y9736.762	
1 4 8	3 4 2	27.0	5.0	4.5		打製石斧	(安山岩)	X-103691.657 Y9728.430	
1 4 9	0 1 5	229.0	6.7	5.4		磨石	アトライト	包含層	
1 5 0	2 7 8	290.2	7.5	5.0		磨石	花コウ岩	X-103690.299 Y9733.559	
1 5 1	0 4 0	526.0	8.5	7.2		磨石	花コウ岩	包含層	
1 5 2	1 8 6	563.7	9.1	8.2		磨石	花コウ岩	X-103696.108 Y9741.248	
1 5 3	3 9 9	342.9	11.6	4.8		磨石	花コウ岩	N R O 1 包含層	N R O 1
1 5 4	2 7 6	679.9	11.1	8.2		磨石	アトライト	X-103689.949 Y9733.795	
1 5 5	2 0 4	1207.7	14.2	10.2		凹石	アトライト	X-103685.318 Y9731.947	
1 5 6	2 7 7	965.0	15.2	8.9		凹石	アトライト	X-103689.896 Y9733.581	
1 5 7	2 0 5	1606.2	12.2	14.5		石皿	アトライト	X-103691.102 Y9734.126	
1 5 8	4 0 8	10000.0	36.1	24.8		石皿	花コウ岩		
1 5 9	1 6 2	190.6	7.0	6.3		凹石	花コウ岩	X-103700257 Y9715.257	

番号	登録番号	重量	長軸	短軸	先端角	分類	石質	出土地点	旧遺構番号
①	1 1 1	0.9	1.6	1.3		石錐	チャート	VH H 1 7 h 包含層	
②	0 1 3	1.4	2.1	1.9		石錐	チャート	S B O 1 覆土	S B O 1
③	0 4 6	0.8	1.8	1.3		石錐	(安山岩)	S B O 1 覆土	S B O 1
④	2 2 4	0.5	1.7	1.1		石錐	下呂石	X-103690.735 Y9726.946	
⑤	1 5 2	0.4	1.9	1.2		石錐	(安山岩)	X-103686.986 Y9724.655	
⑥	1 8 5	1.0	2.2	1.5		石錐	下呂石	X-103685.698 Y9739.421	
⑦	3 3 8	33.7	7.0	5.2		刃器	(安山岩)	N R O 1 包含層	N R O 1
⑧	2 5 2	78.2	7.9	5.6		刃器	(安山岩)	X-103676.809 Y9744.888	
⑨	2 6 8	229.5	7.2	7.2		石核	(安山岩)	X-103684.958 Y9742.680	
⑩	3 2 8	23.2	3.6	3.3		石核	下呂石	包含層	
⑪	3 1 6	24.0	4.3	4.0		石核	下呂石	VH H 1 5 k 包含層	
⑫	1 9 6	59.7	6.4	4.1		石核	下呂石	X-103688.880 Y9727.539	
⑬	0 4 3	23.4	4.2	3.8		石核	流紋岩質溶結凝灰岩	N R O 1 包含層	N R O 1
⑭	1 8 7	432.1	14.9	9.9		石核	(安山岩)	X-103685.726 Y9742.963	
⑮	1 6 3	477.5	12.0	9.6		石核	安山岩	X-103681.943 Y9728.697	
⑯	3 1 9	277.8	8.1	8.1		石核	(安山岩)	X-103691.374 Y9728.940	

番号	登録番号	重量	長軸	短軸	先端角	分類	石質	出土地点	旧遺構番号
1 6 0	2 1 4	661.2	5.0	9.5		凹石	花コウ岩	X-103668.246 Y9757.818	
1 6 1	0 7 5	181.0	6.8	6.4		タタキ石	花コウ岩	N R O 1 包含層	N R O 1
1 6 2	2 3 1	981.5	13.7	9.5		凹石	花コウ岩	X-103691.116 Y9730.878	
1 6 3	2 3 2	920.2	11.7	7.4		凹石	花コウ岩	X-103694.141 Y9727.170	
1 6 4	0 2 2	406.5	7.6	7.6		凹石	花コウ岩	包含層	
1 6 5	2 0 3	880.8	12.3	8.2		凹石	花コウ岩	X-103684.815 Y9732.635	
1 6 6	0 4 5	339.1	13.0	6.2		凹石	アトライト	VH H 1 6 j 包含層	
1 6 7	1 2 8	910.9	13.1	9.5		凹石	花コウ岩	X-103682.628 Y9747.072	
1 6 8	4 1 1	1545.0	15.0	9.1		凹石	花コウ岩	S X 2 4	S X 1 1
1 6 9	2 8 0	1996.3	21.6	8.2		凹石	花コウ岩		
1 7 0	4 0 3	3063.4	19.2	10.6		砥石	アトライト		
1 7 1	4 0 7	11500.0	35.3	24.9		石皿	花コウ岩	S F 0 2	S F 0 2
1 7 2	4 1 3	19000.0	47.0	30.7		石皿	花コウ岩	VH H 1 8 b	
1 7 3	4 0 5	10000.0	32.6	23.3		石皿	花コウ岩	S X 1 9	S X 1 9
1 7 4	4 0 6	9500.0	26.1	24.2		石皿	花コウ岩	S X 1 9	S X 1 9
1 7 5	4 1 0	4000.0	17.4	17.0		石皿	花コウ岩	S X 1 9	S X 1 9
1 7 6	4 1 2	12500.0	31.8	25.6		石皿	花コウ岩	S X 1 9	S X 1 9
1 7 7	4 1 7	9000.0	29.7	25.7		石皿	花コウ岩	S X 0 4	S X 2 5
1 7 8	4 1 5	4000.0	22.3	19.6		石皿	花コウ岩	S X 0 9	S X 1 5
1 7 9	4 1 6	6500.0	27.5	23.1		石皿	花コウ岩	S X 2 4	S X 1 1
1 8 0	4 0 4	14000.0	33.9	24.1		石皿	花コウ岩	S X 0 6	S X 2 4
1 8 1	4 0 9	13000.0	27.9	26.9		石皿	花コウ岩	S X 0 4	S X 2 5
1 8 2	1 6 0	166.0	9.3	5.4		磨製石斧	溶結凝灰岩		
1 8 3	1 6 1	104.0	7.0	4.9		磨製石斧	溶結凝灰岩	X-103700.245 Y9715.316	
1 8 4	2 7 9	282.0	9.5	6.2		磨製石斧	安山岩	N R O 3	S X 0 2
1 8 5	1 7 8	1.9	2.6	0.9		垂飾	流紋岩質溶結凝灰岩	X-103674.542 Y9751.206	
1 8 6	1 9 5	54.3	6.0	3.2		有溝石錐		X-103689.339 Y9726.206	
1 8 7	4 1 9		9.8	7.0		石棒			
1 8 8	4 0 0	3554.3	16.7	13.1		石棒	凝灰岩or (安山岩)	S X 1 0	S X 0 7
1 8 9	1 9 1	1235.8	10.6	12.4		石棒	凝灰岩	X-103983.510 Y9738.086	
1 9 0	4 1 8	5500.0	29.4	12.6		石棒	凝灰岩	S X 0 3	S X 3 0
1 9 1	1 4 7	140.8	14.8	2.7		石棒	結晶片岩	X-103678.314 Y9732.500	
1 9 2	2 1 3	716.3	14.4	6.8		石棒	凝灰岩	X-103685.139 Y9743.170	
1 9 3	4 0 1	669.4	16.8	5.3		石棒	変遷基性岩	X-103665.263 Y9749.237	
1 9 4	4 0 2	2148.8	28.7	8.9		石棒	結晶片岩		

三斗目遺跡古代・中世遺物

番号	登録番号	器種	口径	器高	底径
451	E - 716		14.5		
452	E - 722			6.9	
453	E - 721			6.1	
454	E - 730			7.6	
455	E - 709			7.5	
456	E - 714			8.5	
457	E - 697			7.2	
458	E - 710			7.4	
459	E - 707			8.2	
460	E - 732			7.2	
461	E - 708			8.0	
462	E - 723			7.0	
463	E - 712		11.8	2.0	7.4
464	E - 711			7.0	
465	E - 726	椀		7.8	
466	E - 728	皿	8.0	2.8	3.5
467	E - 729	皿	7.5	2.1	4.3
468	E - 727	皿	7.8	1.7	4.6
469	E - 713	椀		8.0	
470	E - 703	椀	16.7	5.9	7.8
471	E - 701		17.6		
472	E - 724	椀		6.9	
473	E - 704	椀	17.0	4.4	11.3
474	E - 699	椀		9.7	
475	E - 731	皿		4.4	
476	E - 702	皿	9.1	2.7	4.6
477	E - 700	皿	9.6	2.6	4.9
478	E - 720	皿	7.8	2.5	4.1
479	E - 733	土錘	長さ4.1	最大径1.8	

付表(6)

三本松遺跡土器

番号	登録番号	分類	出土地点	番号	登録番号	分類	出土地点
1	E-1	3群a類	S B 0 1	57	E-10	3群a類	S B 0 1
2	E-5	4群a類	S K 1 5	58	E-399	3群a類	第2層
3	E-6	3群a類	S K 1 5	59	E-126	3群a類	S K 0 7
4	E-4	8群b類	S K 0 8	60	E-63	3群a類	第3層
5	E-228	4群a類	S X 0 3	61	E-67	3群a類	第3層
6	E-3	3群a類	S X 0 3	62	E-19	3群a類	S B 0 1
7	E-2	8群b類	S X 0 3	63	E-65	3群a類	第3層
8	E-84	1群a類	第3層	64	E-422	3群a類	その他
9	E-262	1群a類	第3層	65	E-364	3群a類	第2層
10	E-381	1群a類	その他	66	E-399	3群a類	その他
11	E-173	1群a類	第3層	67	E-354	3群a類	第2層
12	E-380	1群a類	その他	68	E-347	3群a類	第2層
13	E-411	1群a類	その他	69	E-8	3群a類	S B 0 1
14	E-169	1群a類	第3層	70	E-309	3群a類	第3層
15	E-175	1群a類	第3層	71	E-428	3群a類	その他
16	E-92	1群a類	第3層	72	E-207	3群a類	第3層
17	E-91	1群a類	第3層	73	E-238	3群a類	第3層
18	E-93	1群a類	第3層	74	E-66	3群a類	第3層
19	E-351	1群a類	第2層	75	E-60	3群a類	第3層
20	E-61	1群a類	第3層	76	E-7	3群a類	S K 1 5
21	E-434	1群a類	その他	77	E-211	3群a類	第3層
22	E-294	1群a類	第3層	78	E-272	3群a類	第3層
23	E-333	1群a類	第3層	79	E-11	3群a類	S B 0 1
24	E-227	1群a類	S K 1 1	80	E-359	3群a類	第2層
25	E-329	1群a類	第3層	81	E-17	3群a類	S B 0 1
26	E-109	1群a類	第3層	82	E-248	3群a類	第3層
27	E-99	1群b類	第3層	83	E-170	3群a類	第3層
28	E-174	1群b類	第3層	84	E-239	3群a類	第3層
29	E-110	1群b類	第3層	85	E-64	3群a類	第3層
30	E-286	2群b類	第3層	86	E-423	3群a類	第3層
31	E-138	1群b類	S K 0 7	87	E-56	3群b類	第3層
32	E-266	1群b類	第3層	88	E-204	3群b類	第3層
33	E-297	1群b類	第3層	89	E-206	3群b類	第3層
34	E-392	2群a類	その他	90	E-205	3群b類	第3層
35	E-188	2群a類	S K 1 9	91	E-162	3群b類	S K 1 8
36	E-431	2群a類	その他	92	E-212	3群b類	第3層
37	E-440	2群a類	その他	93	E-437	3群b類	その他
38	E-439	2群b類	その他	94	E-344	3群b類	第2層
39	E-290	2群b類	第3層	95	E-128	3群b類	S K 0 7
40	E-52	2群c類	S B 0 1	96	E-214	3群b類	第3層
41	E-36	2群c類	S B 0 1	97	E-71	3群b類	第3層
42	E-48	2群c類	S B 0 1	98	E-9	3群b類	S B 0 1
43	E-106	2群c類	第3層	99	E-338	3群b類	第2層
44	E-108	2群c類	第3層	100	E-270	3群b類	第3層
45	E-16	3群a類	S B 0 1	101	E-334	3群b類	第2層
46	E-208	3群a類	第3層	102	E-165	3群b類	S K 1 8
47	E-182	3群a類	S K 4 6	103	E-21	3群b類	S B 0 1
48	E-224	3群a類	第3層	104	E-231	3群b類	第3層
49	E-386	3群a類	その他	105	E-94	3群b類	第3層
50	E-57	3群a類	第3層	106	E-222	3群b類	第3層
51	E-345	3群a類	第2層	107	E-390	3群b類	その他
52	E-406	3群a類	その他	108	E-429	3群b類	その他
53	E-12	3群a類	S B 0 1	109	E-249	3群b類	第3層
54	E-209	3群a類	第3層	110	E-32	3群b類	S B 0 1
55	E-336	3群a類	第2層	111	E-164	3群b類	S K 1 8
56	E-58	3群a類	第3層	112	E-59	3群b類	第3層

番号	登録番号	分類	出土地点	番号	登録番号	分類	出土地点
225	E-415	7群	その他	281	E-226	8群b類	第3層
226	E-425	7群	その他	282	E-42	8群b類	S B 0 1
227	E-367	7群	第2層	283	E-259	8群b類	第3層
228	E-51	7群	S B 0 1	284	E-125	9群	第3層
229	E-95	7群	第3層	285	E-118	9群	第3層
230	E-357	7群	第2層	286	E-113	9群	第3層
231	E-397	7群	その他	287	E-122	9群	第3層
232	E-335	7群	第2層	288	E-393	9群	その他
233	E-218	7群	第3層	289	E-114	9群	第3層
234	E-35	7群	S B 0 1	290	E-116	9群	第3層
235	E-247	7群	第3層	291	E-413	9群	その他
236	E-421	7群	その他	292	E-419	9群	その他
237	E-50	7群	S B 0 1	293	E-160	9群	S K 1 4
238	E-258	7群	第3層	294	E-217	9群	第3層
239	E-151	7群	S K 0 8	295	E-265	9群	第3層
240	E-291	7群	第3層	296	E-112	9群	第3層
241	E-146	7群	S K 0 8	297	E-276	9群	第3層
242	E-30	7群	S B 0 1	298	E-404	9群	その他
243	E-286	7群	第3層	299	E-441	9群	その他
244	E-47	7群	S B 0 1	300	E-111	9群	第3層
245	E-385	7群	その他	301	E-323	9群	第3層
246	E-101	8群a類	第3層	302	E-216	9群	第3層
247	E-148	8群a類	S K 0 8	303	E-281	9群	第3層
248	E-372	8群a類	第3層	304	E-194	9群	S K 4 2
249	E-271	8群a類	第3層	305	E-123	9群	第3層
250	E-38	8群a類	S B 0 1	306	E-119	9群	第3層
251	E-251	8群a類	第3層	307	E-444	9群	その他
252	E-136	8群a類	S K 0 7	308	E-327	9群	第3層
253	E-149	8群a類	S K 0 8	309	E-250	9群	第3層
254	E-256	8群a類	第3層	310	E-152	9群	S K 0 8
255	E-132	8群a類	S K 0 7	311	E-361	9群	第2層
256	E-418	8群a類	その他	312	E-115	9群	第3層
257	E-260	8群a類	第3層	313	E-120	9群	第3層
258	E-355	8群a類	第2層	314	E-396	9群	その他
259	E-324	8群a類	第3層	315	E-215	9群	第3層
260	E-288	8群b類	第3層	316	E-53	9群	S B 0 1
261	E-371	8群b類	第2層	317	E-368	9群	第2層
262	E-33	8群b類	S B 0 1	318	E-229	9群	第3層
263	E-321	8群b類	第3層	319	E-54	9群	S B 0 1
264	E-147	8群b類	S K 0 8	320	E-153	9群	S K 0 8
265	E-133	8群b類	S K 0 7	321	E-275	9群	第3層
266	E-317	8群b類	第3層	322	E-318	弥生土器	第3層
267	E-280	8群b類	第3層	323	E-319	弥生土器	第3層
268	E-322	8群b類	第3層	324	E-320	弥生土器	第3層
269	E-41	8群b類	S B 0 1				
270	E-124	8群b類	第3層				
271	E-408	8群b類	その他				
272	E-379	8群b類	その他				
273	E-257	8群b類	第3層				
274	E-388	8群b類	その他				
275	E-326	8群b類	第3層				
276	E-395	8群b類	その他				
277	E-278	8群b類	第3層				
278	E-141	8群b類	S K 0 7				
279	E-159	8群b類	S K 1 4				
280	E-198	8群b類	S K 1 2				

番号	登録番号	分類	出土地点	番号	登録番号	分類	出土地点
113	E-203	4群a類	P 0 8	169	E-90	4群c類	第3層
114	E-387	4群a類	その他	170	E-98	4群c類	第3層
115	E-382	4群a類	その他	171	E-255	4群c類	第3層
116	E-236	4群a類	第3層	172	E-29	4群c類	S B 0 1
117	E-373	4群a類	第2層	173	E-299	4群c類	第3層
118	E-241	4群a類	第3層	174	E-310	4群c類	第3層
119	E-378	4群a類	その他	175	E-426	5群a類	その他
120	E-254	4群a類	第3層	176	E-389	5群a類	その他
121	E-377	4群a類	その他	177	E-82	5群a類	第3層
122	E-295	4群a類	第3層	178	E-340	5群a類	第2層
123	E-298	4群a類	第3層	179	E-78	5群a類	第3層
124	E-185	4群a類	S K 3 1	180	E-131	5群a類	S K 0 7
125	E-24	4群a類	S B 0 1	181	E-343	5群a類	第2層
126	E-73	4群a類	第3層	182	E-264	5群a類	第3層
127	E-72	4群a類	第3層	183	E-432	5群a類	その他
128	E-23	4群a類	S B 0 1	184	E-83	5群a類	第3層
129	E-435	4群a類	その他	185	E-443	5群a類	その他
130	E-70	4群a類	第3層	186	E-202	5群a類	S K 1 0
131	E-325	4群a類	第3層	187	E-88	5群a類	第3層
132	E-302	4群a類	第3層	188	E-331	5群a類	第3層
133	E-69	4群a類	第3層	189	E-363	5群a類	第2層
134	E-306	4群a類	第3層	190	E-77	5群a類	第3層
135	E-242	4群a類	第3層	191	E-376	5群a類	その他
136	E-296	4群a類	第3層	192	E-163	5群a類	S K 1 8
137	E-85	4群a類	第3層	193	E-80	5群b類	第3層
138	E-312	4群a類	第3層	194	E-181	5群b類	S K 4 6
139	E-253	4群a類	第3層	195	E-155	5群b類	S K 1 4
140	E-283	4群a類	第3層	196	E-79	5群b類	第3層
141	E-245	4群a類	第3層	197	E-201	5群b類	P 3 8
142	E-74	4群a類	第3層	198	E-199	5群b類	S K 1 2
143	E-365	4群a類	第2層	199	E-25	5群b類	S B 0 1
144	E-26	4群a類	S B 0 1	200	E-283	5群b類	第3層
145	E-427	4群a類	その他	201	E-383	5群b類	その他
146	E-75	4群a類	第3層	202	E-362	5群b類	第2層
147	E-277	4群a類	第3層	203	E-145	6群	S K 0 8
148	E-360	4群a類	第2層	204	E-137	6群	S K 0 7
149	E-20	4群a類	S B 0 1	205	E-97	6群	第3層
150	E-195	4群a類	S K 3 6	206	E-142	6群	S K 0 7
151	E-197	4群a類	S X 0 2	207	E-34	7群	S B 0 1
152	E-403	4群a類	その他	208	E-183	7群	S K 3 1
153	E-305	4群a類	第3層	209	E-237	7群	第3層
154	E-353	4群a類	第2層	210	E-156	7群	S K 1 4
155	E-328	4群a類	第3層	211	E-233	7群	第3層
156	E-394	4群a類	その他	212	E-352	7群	第2層
157	E-176	4群a類	第3層	213	E-184	7群	S K 3 1
158	E-22	4群a類	S B 0 1	214	E-190	7群	S K 2 9
159	E-374	4群a類	第2層	215	E-349	7群	第2層
160	E-76	4群a類	第3層	216	E-87	7群	第3層
161	E-191	4群a類	S K 0 1	217	E-86	7群	第3層
162	E-384	4群a類	その他	218	E-89	7群	第3層
163	E-292	4群a類	第3層	219	E-438	7群	その他
164	E-81	4群b類	第3層	220	E-107	7群	第3層
165	E-240	4群b類	第3層	221	E-220	7群	第3層
166	E-350	4群b類	第2層	222	E-313	7群	第3層
167	E-243	4群b類	第3層	223	E-96	7群	第3層
168	E-244	4群b類	第3層	224	E-100	7群	第3層

付表(7)

三本松遺跡石器(1)

番号	登録番号	重量	長軸	短軸	先端角	分類	石質	出土地点
001	050	0.8	1.7	1.6	90	石鏃	下呂石	SK07
002	327	0.8	1.7	1.4	78	石鏃	チャート	
003	194	1.6	2.1	1.8	51	石鏃	下呂石	VE10c
004	296	1.8	1.7	1.9	57	石鏃	下呂石	
005	289	1.6	2.3	1.7	57	石鏃	下呂石	
006	177	0.3	1.3	1.0	86	石鏃	下呂石	VE12b
007	280	1.0	1.8	1.3	62	石鏃	チャート	VD12s
008	144	0.6	1.7	1.3	49	石鏃	下呂石	VD12t
009	307	1.3	1.9	1.7	55	石鏃	下呂石	
010	175	1.1	1.8	1.5	61	石鏃	黒曜石	VE12b
011	036	1.7	2.0	1.6	67	石鏃	下呂石	SB01
012	243	0.6	1.5	1.4	71	石鏃	下呂石	VE10c-d
013	062	0.4	1.3	1.2	80	石鏃	下呂石	SK08
014	219	0.7	1.7	1.6	85	石鏃	安山岩	VE11b
015	058	0.4	1.3	1.2	58	石鏃	下呂石	SK08
016	320	0.4	1.4	1.2	60	石鏃	下呂石	VE11-12a-b
017	104	0.7	1.5	1.7	59	石鏃	下呂石	VD9-10q 稜形
018	046	0.6	1.6	1.6	49	石鏃	下呂石	SK07
019	311	0.9	1.8	1.7	58	石鏃	チャート	
020	146	0.9	2.1	1.9	59	石鏃	安山岩	VD10p 稜形
021	138	0.5	1.2	1.4	71	石鏃	下呂石	VD12t
022	044	0.6	1.5	1.4	50	石鏃	下呂石	SK02
023	054	1.1	1.9	1.7	49	石鏃	下呂石	SK07
024	285	0.8	1.6	1.5	57	石鏃	下呂石	
025	076	0.8	1.8	1.8	57	石鏃	下呂石	P13
026	051	0.5	1.9	1.3	52	石鏃	下呂石	SK07
027	097	1.2	2.3	1.7	44	石鏃	下呂石	VD13t
028	217	1.2	1.9	1.7	78	石鏃	安山岩	VD13t
029	297	0.4	0.8	1.7	46	石鏃	溶結凝灰岩	
030	328	0.7	1.4	1.6	33	石鏃	下呂石	
031	028	1.1	1.6	2.0	46	石鏃	下呂石	SB01
032	242	1.0	1.8	1.6	65	石鏃	下呂石	VD13q
033	190	1.2	1.8	2.2	67	石鏃	下呂石	VE11-12a-b
034	081	0.9	1.9	1.4	60	石鏃	下呂石	VE12a
035	011	0.5	1.5	1.3	79	石鏃	下呂石	VD12s
036	083	1.2	1.7	1.7	69	石鏃	チャート	VE12b
037	281	1.2	1.6	1.7	70	石鏃	黒曜石	VE12a
038	248	0.3	1.4	1.1	50	石鏃	チャート	VE12b
039	300	0.3	1.4	1.0	32	石鏃	下呂石	
040	139	1.3	1.8	1.9	72	石鏃	チャート	VE12a
041	319	0.5	1.8	1.6	49	石鏃	下呂石	
042	218	0.7	1.8	1.5	56	石鏃	安山岩	VD9-10o-p
043	052	0.5	1.0	1.7	56	石鏃	下呂石	SK07
044	019	0.5	1.7	1.5	62	石鏃	安山岩	SB01
045	186	0.8	1.9	1.4	52	石鏃	下呂石	VD11-12q-r
046	293	1.0	1.9	1.6	62	石鏃	下呂石	
047	012	0.5	1.7	1.4	60	石鏃	下呂石	SB01
048	103	0.6	1.7	1.4	60	石鏃	下呂石	VE10a-b
049	009	0.6	1.7	1.5	52	石鏃	安山岩	SB01
050	049	0.6	1.8	1.6	60	石鏃	安山岩	SK07
051	259	0.8	1.9	1.7	59	石鏃	安山岩	VD13f
052	115	1.6	2.6	2.0	61	石鏃	白色流紋岩	VD11-12q
053	107	1.2	1.8	1.5	53	石鏃	下呂石	VD10p 稜形
054	007	1.2	2.5	1.7	64	石鏃	下呂石	SB01
055	326	0.2	1.0	1.0	59	石鏃	黒曜石	

番号	登録番号	重量	長軸	短軸	先端角	分類	石質	出土地点
111	074	0.8	1.9	1.5	66	石鏃	下呂石	SK47
112	284	2.0	2.3	1.9	46	石鏃	下呂石	
113	137	0.6	1.6	1.4	65	石鏃	下呂石	VD9-10o-p
114	148	0.2	1.2	1.0	53	石鏃	(安山岩)	VE12b
115	208	0.8	2.4	1.4	65	石鏃	安山岩	
116	110	0.9	2.3	1.4	50	石鏃	黒曜石	VE12b
117	068	0.6	2.3	1.3	67	石鏃	下呂石	VE11-12a-b
118	261	1.7	2.0	2.0	44	石鏃	下呂石	VE12a
119	236	1.6	2.9	1.9	79	石鏃	下呂石	VE12c
120	227	0.9	2.2	1.6	70	石鏃	下呂石	VE10d
121	204	0.7	1.6	1.6	60	石鏃	下呂石	VE12a
122	015	1.0	2.1	1.8	78	石鏃	安山岩	SB01
123	056	0.7	1.9	1.9	53	石鏃	安山岩	SK08
124	004	0.7	2.4	1.6	85	石鏃	下呂石	SB01
125	018	0.9	2.3	1.5	63	石鏃	下呂石	SB01
126	166	0.9	2.3	1.7	31	石鏃	下呂石	VE10-11c-d
127	191	1.0	1.9	1.8	70	石鏃	下呂石	VE11a-b
128	020	0.8	2.1	1.4	69	石鏃	下呂石	SB01
129	031	1.0	2.1	1.5	69	石鏃未成品	安山岩	SB01
130	262	1.3	2.0	1.5	69	石鏃未成品	下呂石	VE12a
131	090	2.2	2.2	1.8	69	石鏃未成品	下呂石	VD9-10o-p
132	029	2.4	2.1	1.6	69	石鏃未成品	溶結凝灰岩	SB01
133	171	1.4	2.0	1.9	69	石鏃未成品	黒曜石	VE11-12a
134	316	1.8	2.5	1.4	69	石鏃未成品	下呂石	
135	170	4.1	2.7	2.3	69	石鏃未成品	下呂石	VD13s
136	021	2.6	2.4	1.5	69	石鏃未成品	下呂石	SB01
137	308	1.9	2.3	1.6	69	石鏃未成品	下呂石	
138	365	3.6	2.5	1.8	69	石鏃未成品	下呂石	SB01
139	192	3.4	2.8	1.8	69	石鏃未成品	チャート	VE12b
140	390	2.9	2.5	1.7	69	石鏃未成品	下呂石	VD12t
141	152	1.0	1.9	1.6	69	石鏃未成品	安山岩	VD13s
142	265	5.7	3.0	2.2	69	石鏃未成品	下呂石	VD11t
143	224	3.9	2.9	2.2	69	石鏃未成品	下呂石	VD13r
144	150	2.1	2.3	1.9	69	石鏃未成品	下呂石	VE10a
145	376	2.4	2.5	1.9	69	石鏃未成品	下呂石	VD13r
146	324	7.5	3.8	2.8	69	石鏃未成品	下呂石	
147	314	15.3	4.8	2.2	69	磨製石斧	凝灰岩	
148	333	81.5	4.7	4.8	69	磨製石斧	黒曜石	
149	305	54.7	5.3	4.6	69	磨製石斧	片岩	
150	059	171.2	8.0	4.6	69	磨製石斧	玄武岩	SK08
151	334	210.3	12.0	4.0	69	磨製石斧	安山岩	
152	301	148.2	8.8	4.5	69	磨製石斧	片岩	
153	039	119.7	7.0	3.6	69	磨製石斧	玄武岩	SB01
154	040	103.5	6.3	4.8	69	磨製石斧	凝灰岩	SB01
155	041	66.2	4.7	2.6	69	磨製石斧	凝灰岩	SB01
156	231	8.4	4.3	3.0	69	磨製石斧	溶結凝灰岩	VE13b
157	117	8.9	3.1	3.0	69	スクレーパー	(安山岩)	VE12b
158	179	10.1	2.7	2.6	69	スクレーパー	チャート	VE12c
159	027	1.5	2.4	1.7	69	石鏃	下呂石	SB01
160	032	0.9	1.8	1.1	69	石鏃	下呂石	SB01
161	134	0.5	1.6	1.2	69	石鏃	下呂石	VD9-10o-p
162	070	3.5	3.5	1.2	69	石鏃	下呂石	SK21
163	047	4.4	4.3	1.3	69	石鏃	下呂石	SK07
164	220	2.1	2.3	1.9	69	石鏃	下呂石	VE11b
165	184	2.1	1.9	1.7	69	石鏃	黒曜石	VE11b

番号	登録番号	重量	長軸	短軸	先端角	分類	石質	出土地点
056	013	0.2	1.3	1.2	59	石鏃	安山岩	SB01
057	162	0.4	1.6	1.4	60	石鏃	黒曜石	VE11d
058	306	0.6	1.6	1.5	86	石鏃	安山岩	
059	072	0.9	2.0	1.6	76	石鏃	安山岩	SK31
060	008	0.4	1.3	1.4	82	石鏃	下呂石	SB01
061	180	0.5	1.6	1.6	48	石鏃	黒曜石	VE11d
062	295	0.3	1.3	1.5	79	石鏃	黒曜石	
063	176	0.3	1.9	1.2	62	石鏃	黒曜石	VE12b
064	315	0.6	1.8	1.2	54	石鏃	下呂石	
065	102	0.8	2.0	1.5	62	石鏃	下呂石	VD13t
066	329	1.2	2.1	1.7	61	石鏃	下呂石	
067	161	0.8	2.0	1.7	55	石鏃	下呂石	VD13-14s-t
068	249	1.2	2.2	1.6	38	石鏃	下呂石	VE12b
069	304	1.2	2.1	2.0	49	石鏃	安山岩	
070	105	0.6	2.0	1.4	44	石鏃	チャート	VD9-10q 稜形
071	195	0.3	2.1	1.2	45	石鏃	黒曜石	VE10c
072	318	0.6	1.9	1.3	44	石鏃	チャート	
073	154	0.6	1.9	1.4	43	石鏃	流紋岩	VE11c
074	077	0.7	2.1	1.6	41	石鏃	流紋岩	VD13-14s-t
075	251	0.2	2.0	1.1	42	石鏃	黒曜石	VE12a
076	291	0.4	1.2	1.6	30	石鏃	黒曜石	
077	111	0.2	1.0	0.8	107	石鏃	下呂石	VE12a
078	140	0.2	1.3	0.9	70	石鏃	下呂石	VE10c
079	287	0.7	1.8	1.3	38	石鏃	下呂石	
080	268	0.7	2.0	1.4	77	石鏃	下呂石	VD11s
081	135	0.7	2.0	1.4	71	石鏃	下呂石	VD9-10o-p
082	130	0.7	2.0	1.4	71	石鏃	下呂石	VE11-12a-b
083	322	0.9	2.1	1.5	69	石鏃	下呂石	
084	131	1.1	2.0	1.6	59	石鏃	安山岩	VE11-12a-b
085	095	1.0	2.3	1.6	89	石鏃	下呂石	VD9-10q
086	188	1.4	1.7	2.0	100	石鏃	下呂石	VD9-10o-p
087	292	1.0	2.4	1.8	100	石鏃	下呂石	
088	106	0.3	1.5	1.1	66	石鏃	下呂石	VD10p 稜形
089	022	0.6	1.3	1.3	80	石鏃	黒曜石	SB01
090	123	0.9	1.8	1.5	106	石鏃	下呂石	VD13r
091	014	1.0	1.7	1.4	50	石鏃	安山岩	SB01
092	119	0.7	2.0	1.3	43	石鏃	安山岩	VE11b
093	286	0.6	2.0	1.3	47	石鏃	下呂石	
094	323	0.7	1.7	1.3	43	石鏃	安山岩	
095	203	0.8	2.2	1.4	67	石鏃	安山岩	VD13s
096	263	1.3	2.2	1.4	51	石鏃	下呂石	VE12a
097	149	1.1	1.9	1.7	34	石鏃	白色流紋岩	VD12t
098	212	1.4	2.5	1.7	50	石鏃	安山岩	VE11b
099	213	1.5	2.7	1.7	62	石鏃	下呂石	VE11b
100	223	1.7	2.9	1.6	44	石鏃	下呂石	VE12b
101	274	1.3	3.1	1.6				

付表(8)

三本松遺跡石器(2)(写真)

番号	登録番	重量	長軸	短軸	先端角	分類	石質	出土地点
(01)	2 2 1	0.6	0.7	0.5	43	石鏃	安山岩	VII E 1 2 b
(02)	2 3 4	0.7	2.1	1.5	92	石鏃	(安山岩)	VII D 1 0 b
(03)	1 4 3	0.6	1.8	1.4	38	石鏃	(安山岩)	VII D 1 2 t
(04)	2 3 5	0.8	2.0	1.4	34	石鏃	下呂石	VII D 1 0 b
(05)	1 0 8	0.7	1.6	1.4	57	石鏃	下呂石	VII D 1 0 p 礫層
(06)	2 8 3	0.7	1.9	1.3	54	石鏃	安山岩	2 6
(07)	0 5 7	1.1	1.6	2.0	26	石鏃	下呂石	S K 0 8
(08)	0 1 6	0.8	2.0	1.5	77	石鏃	下呂石	S B 0 1
(09)	0 8 2	0.6	1.6	1.4	50	石鏃	下呂石	VII E 1 1 b
(10)	0 2 3	0.8	1.4	1.7	35	石鏃	下呂石	S B 0 1
(11)	1 5 3	0.8	1.5	1.5	35	石鏃	下呂石	VII D 9・1 0 o・p
(12)	1 5 1	0.4	1.2	1.6	43	石鏃	安山岩	VII D 1 1・1 2 o・p
(13)	2 7 7	0.9	2.0	1.6	57	石鏃	下呂石	VII D 1 3 s
(14)	2 4 7	1.2	2.4	1.6	66	石鏃	下呂石	VII E 1 1・1 2 a・b
(15)	2 6 4	0.3	1.2	1.3	47	石鏃	安山岩	VII D 1 1 t
(16)	2 9 4	0.7	1.6	1.5	50	石鏃	安山岩	1 0 1
(17)	2 5 3	0.9	2.2	1.7	55	石鏃	下呂石	VII E 1 2 a
(18)	0 1 7	1.4	2.1	1.8	54	石鏃	下呂石	S B 0 1
(19)	3 1 0	0.6	2.0	1.4	41	石鏃	下呂石	1 7 3
(20)	3 1 3	0.2	0.8	1.2	47	石鏃	チャート	1 8 5
(21)	1 6 7	0.2	1.2	1.2	73	石鏃	チャート	VII E 1 0 c
(22)	1 6 4	0.4	1.5	1.1	46	石鏃	チャート	VII E 1 1 d
(23)	3 1 2	0.7	2.0	1.4	42	石鏃	下呂石	1 8 3
(24)	2 0 1	0.5	1.8	1.2	54	石鏃	チャート	VII E 1 1 c
(25)	1 7 3	0.6	1.8	1.5	78	石鏃	下呂石	VII E 1 2 a・b
(26)	0 7 3	0.8	1.8	1.4	58	石鏃	下呂石	S K 4 4
(27)	0 0 5	0.9	2.3	1.5	72	石鏃	下呂石	S B 0 1
(28)	2 5 6	0.9	2.1	1.6	80	石鏃	下呂石	VII D 1 3 s
(29)	1 2 9	0.5	1.8	1.3	69	石鏃	下呂石	VII D 1 2 t
(30)	2 0 6	0.4	1.8	1.2	63	石鏃	下呂石	VII E 1 1 b
(31)	3 2 1	0.3	1.2	1.2	31	石鏃	(安山岩)	2 1 5
(32)	0 3 3	1.4	2.0	1.7		石鏃未成品	下呂石	S B 0 1
(33)	1 5 9	3.3	2.5	1.8		石鏃未成品	チャート	VII D 1 4 s・t
(34)	0 0 3	3.5	2.4	2.1		石鏃未成品	安山岩	S B 0 1
(35)	1 2 0	2.6	3.0	1.9		石鏃未成品	下呂石	VII D 1 3 s
(36)	2 0 2	4.2	3.0	1.6		石鏃未成品	下呂石	VII E 1 1 c
(37)	0 6 7	3.0	2.3	2.1		石鏃未成品	(安山岩)	S K 1 7
(38)	1 2 7	2.4	2.6	1.7		石鏃未成品	下呂石	VII D 9・1 0 n
(39)	2 4 6	5.2	2.7	2.3		スクレーパー	下呂石	VII D 9・1 0 o・p

三本松遺跡古代・中世遺物

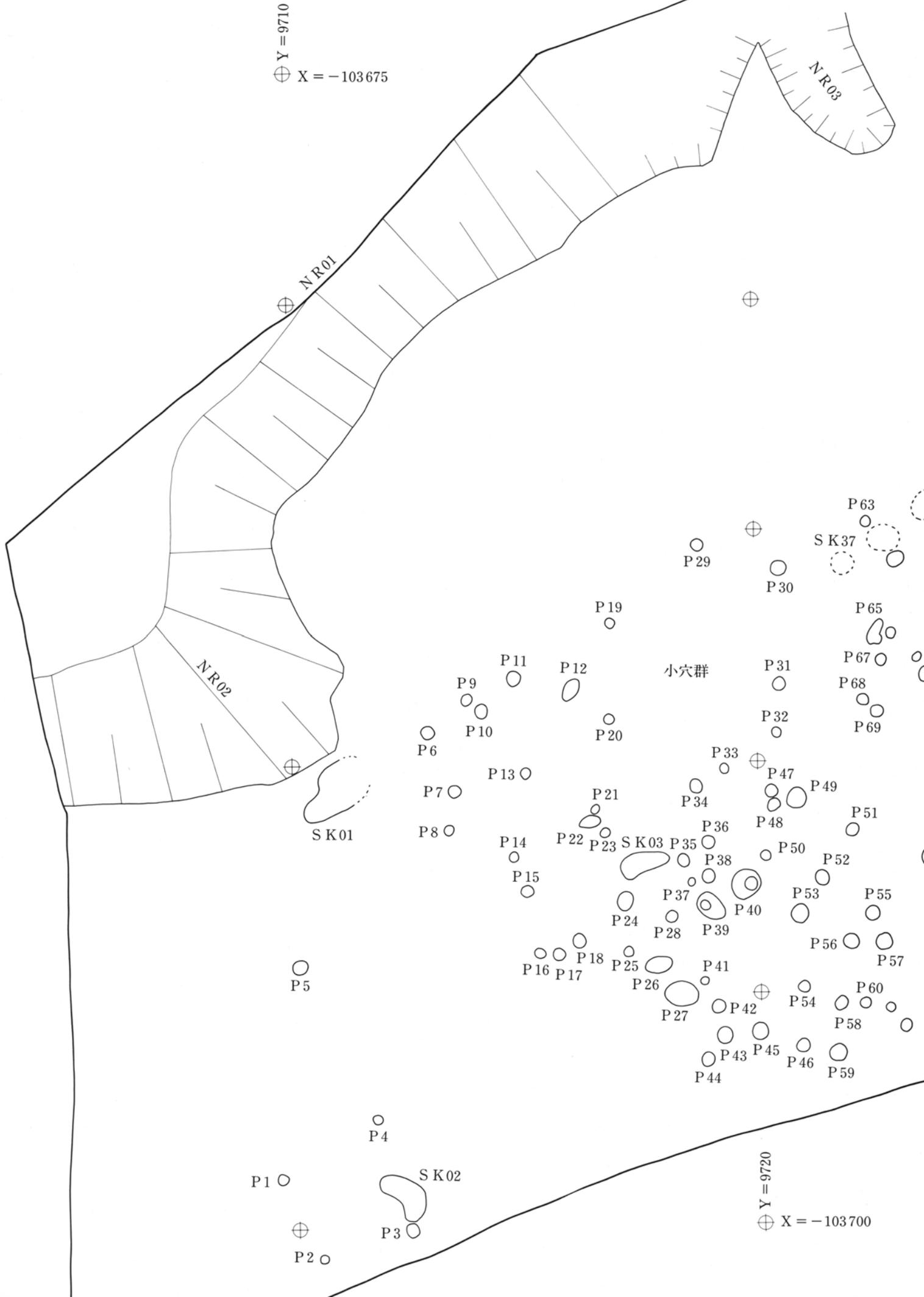
番号	登録番号	器種	口径	器高	底径
351	E-461				8.5
352	E-479				6.0
353	E-485	碗			7.6
354	E-465	碗			9.4
355	E-489	碗			6.4
356	E-470	碗			6.5
357	E-486	碗	18.0	4.9	9.0
358	E-467	碗			8.2
359	E-466	碗			7.0
360	E-490	碗			7.2
361	E-474	碗			8.3
362	E-469	碗			7.9
363	E-487	碗			7.8
364	E-492	碗			7.0
365	E-455	碗			7.8
366	E-457	碗			7.8
367	E-483	碗			8.0
368	E-476	碗			7.9
369	E-463	碗			7.8
370	E-462	碗			7.9
371	E-477	碗			7.8
372	E-471	碗			8.5
373	E-464	碗			6.8
374	E-481	碗			7.3
375	E-456	碗			5.8
376	E-460	碗			6.7
377	E-459	碗			5.3
378	E-458	碗	12.9	3.8	5.3
379	E-484	輪花碗	16.3		
380	E-488	碗	15.8		
381	E-493	皿			5.2
382	E-480	皿			7.4
383	E-491	皿			4.5
384	E-448	皿	9.1	2.6	4.6
385	E-453	皿			5.1
386	E-449	皿	8.8	1.9	3.9
387	E-452	皿			4.3
388	E-447	皿	7.8	2.0	5.0
389	E-450	皿	8.5	1.4	5.6
390	E-451	皿	7.6	1.5	4.7
391	E-482	皿	8.3	1.6	5.7
392	E-445	皿	8.3	1.7	5.2

報告書抄録

フリガナ	サンドウメ・サンボンマツイセキ							
書名	三斗目・三本松遺跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第47集							
編著者名	余合昭彦・石黒立人・服部俊之・楯真美子・杉山真二							
編集機関	財団法人 愛知県埋蔵文化財センター							
所在地	〒498 愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方 802-24							
発行年	西暦 1993年3月31日							
フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯 ° ' "	南緯 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
サンドウメ 三斗目	トヨタ シ サカウエチヨウ 豊田市坂上 町	23211	63356	35°3'54"	137°16'15"	19911111 19920331	1600	河川改修
サンボンマツ 三本松	トヨタ シ サカウエチヨウ 豊田市坂上 町	23211	——	35°3'53"	137°16'03"	19911220 19920331	940	河川改修
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
三斗目	集落跡	縄文時代 古代・中世	住居跡 1 炉跡 5 集石遺跡 26 他		縄文土器 石器 灰釉陶器、山茶碗類		多量の集石遺構 縄文時代後期	
三本松	集落跡	縄文時代 古代・中世	住居跡 1 炉跡 1 他		縄文土器 石器 灰釉陶器、山茶碗類		縄文時代晩期	

圖 版

图版1 三斗目遺跡遺構図(1)



图版2 三斗目遺跡遺構図(2)

X = -103670

Y = 9740



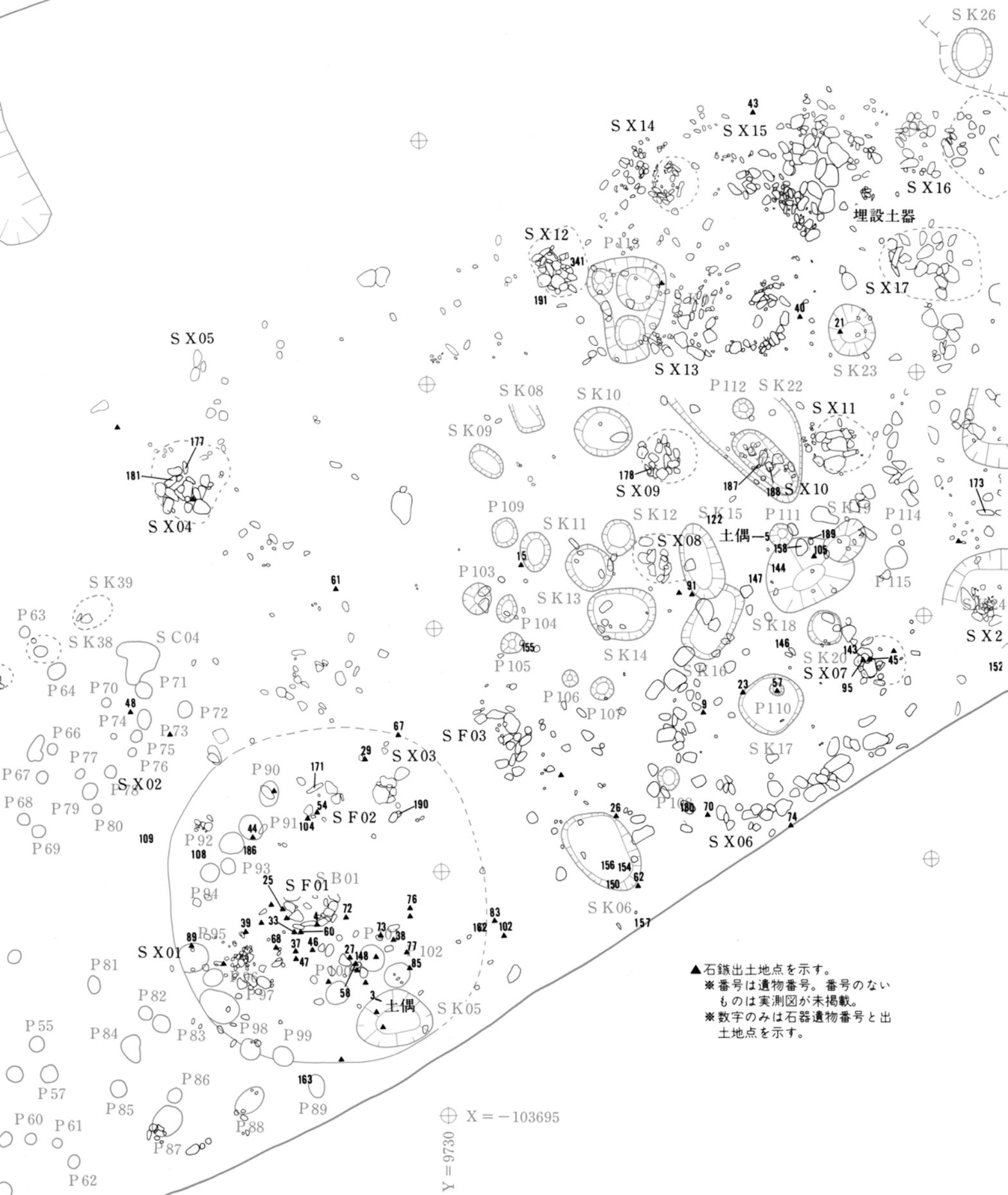
X = -103695

Y = 9730

図版2 三斗目遺跡遺構図(2)

X = -103670

⊕
Y = 9740



埋設土器

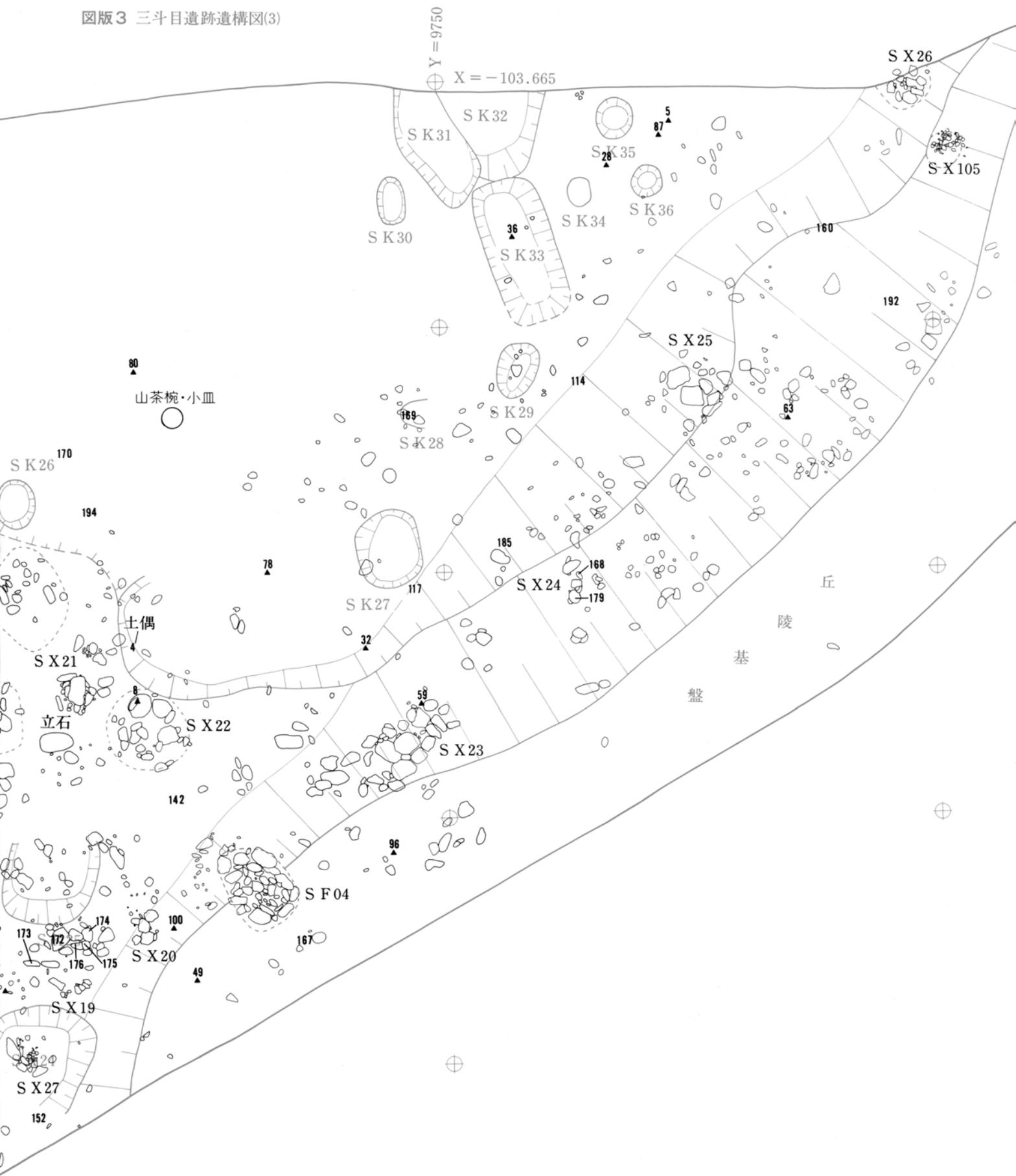
土偶

▲ 石鏃出土地点を示す。
 ※ 番号は遺物番号。番号のないものは実測図が未掲載。
 ※ 数字のみは石器遺物番号と出土地点を示す。

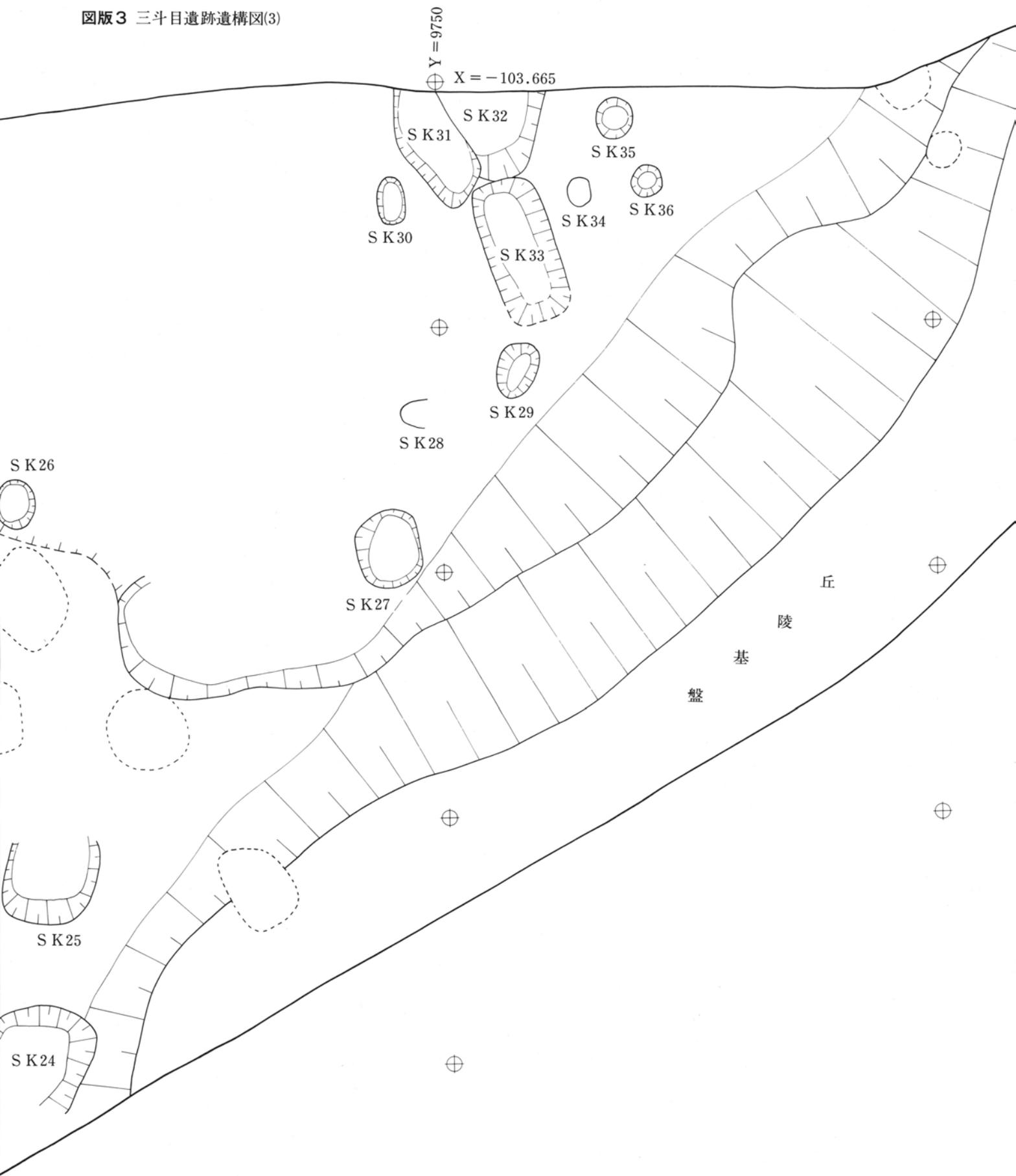
⊕ X = -103695

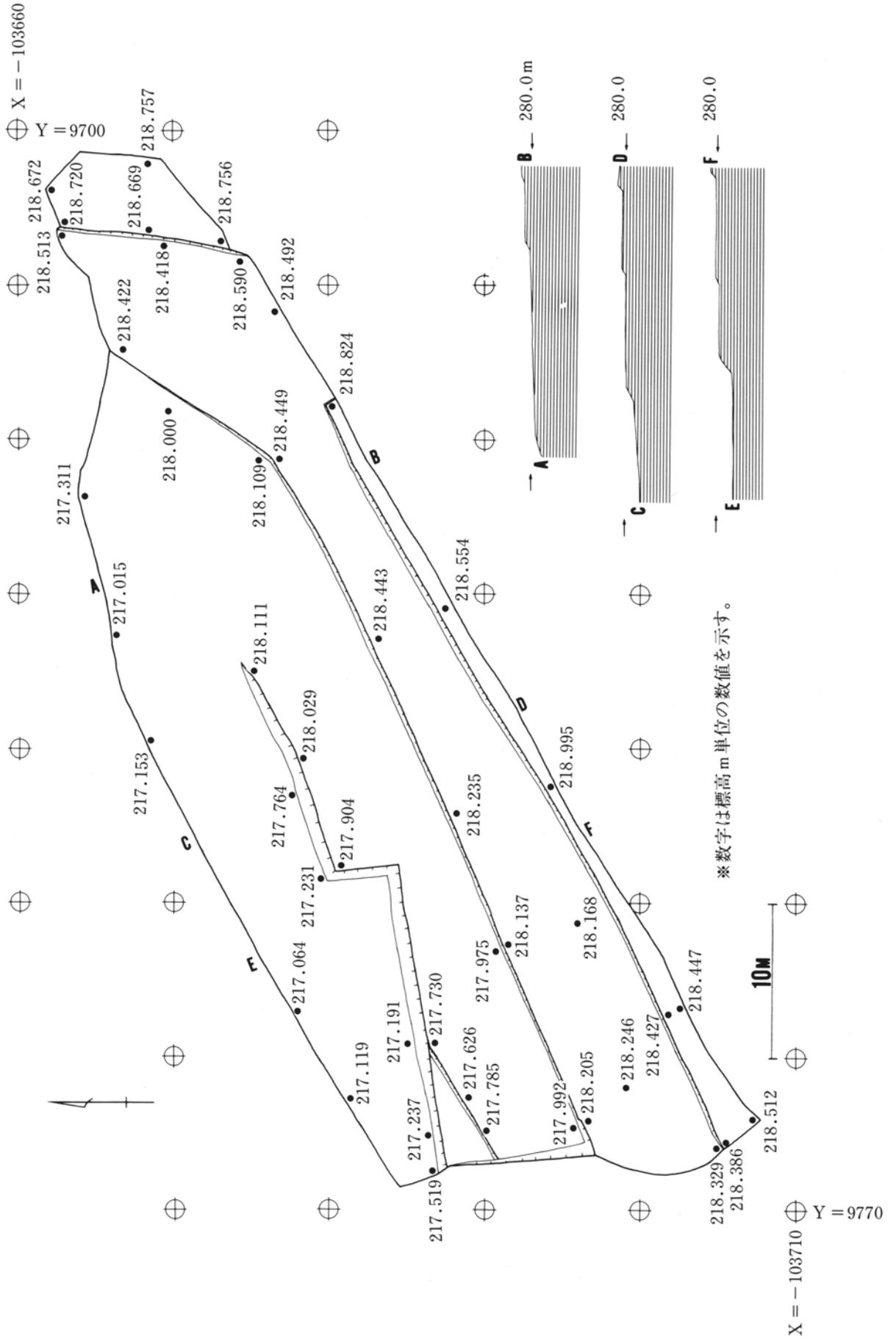
Y = 9730

図版3 三斗目遺跡遺構図(3)



图版3 三斗目遺跡遺構図(3)



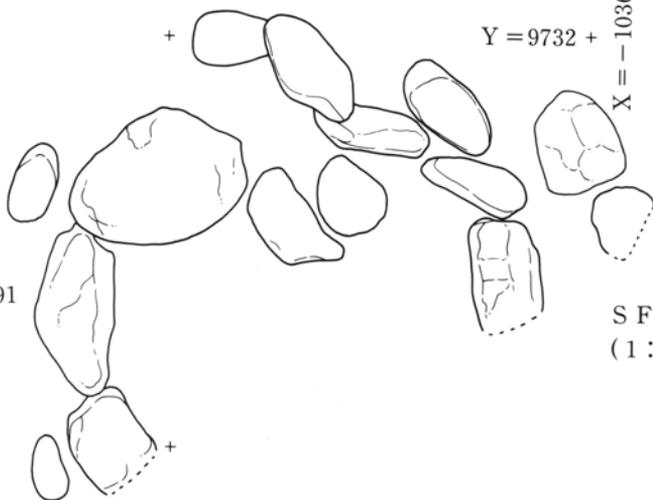


三斗目遺跡調査区全体図
(表土剥ぎ後の標高)



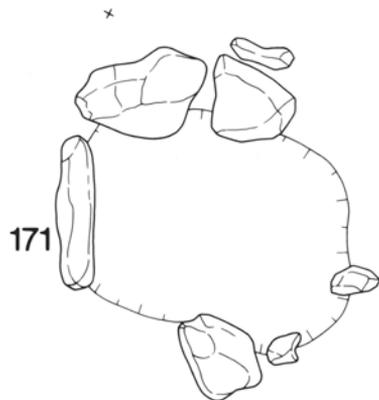
S F 01
(1:20)

+ Y = 9728
+ X = -103691



S F 03
(1:20)

Y = 9732 +
X = -103688

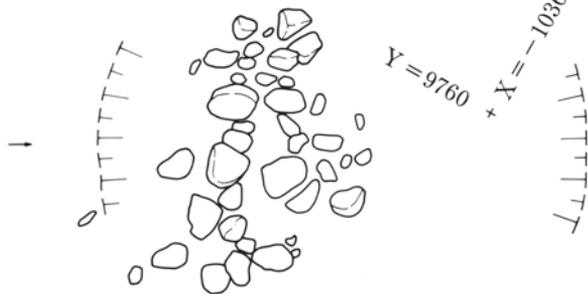


171

S F 02
(1:20)

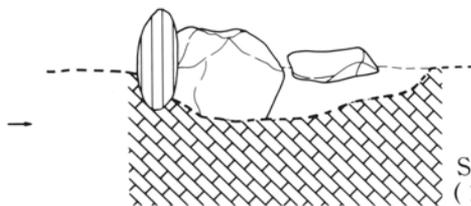
+ X = -103689
+ Y = 9728

※数字は実測図番号

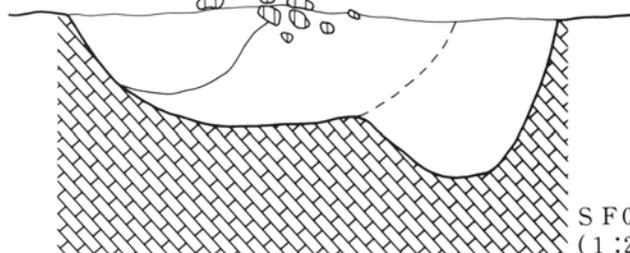


S F 05
(1:20)

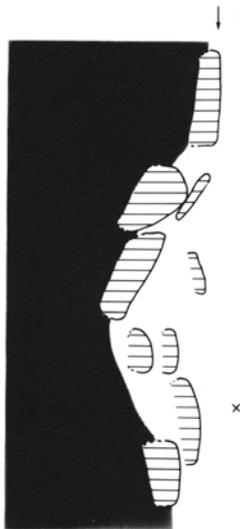
Y = 9760
+ X = -103666



← 218.0m



← 218.0



← 218.5m

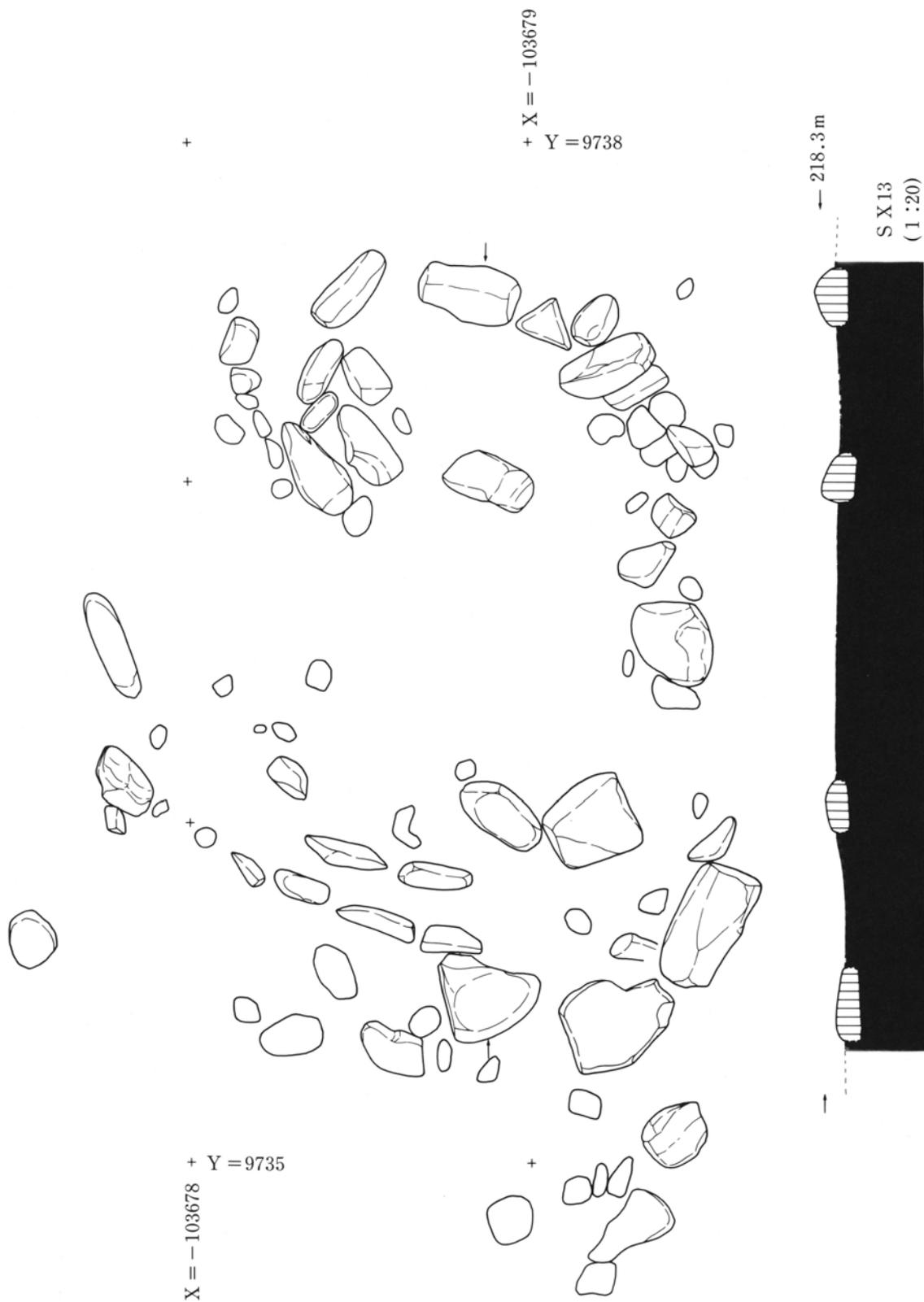


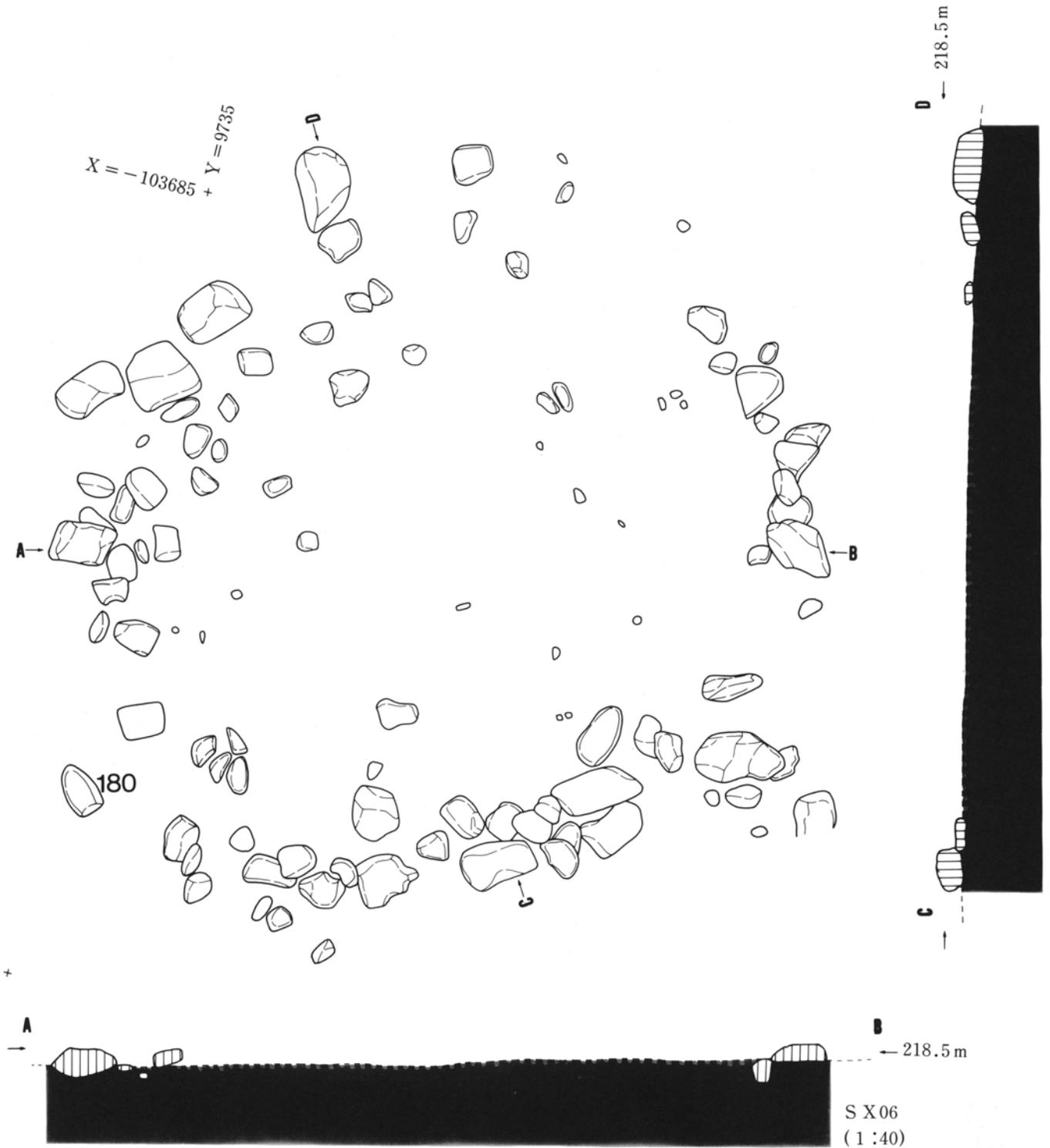
+ X = -103681
+ Y = 9745



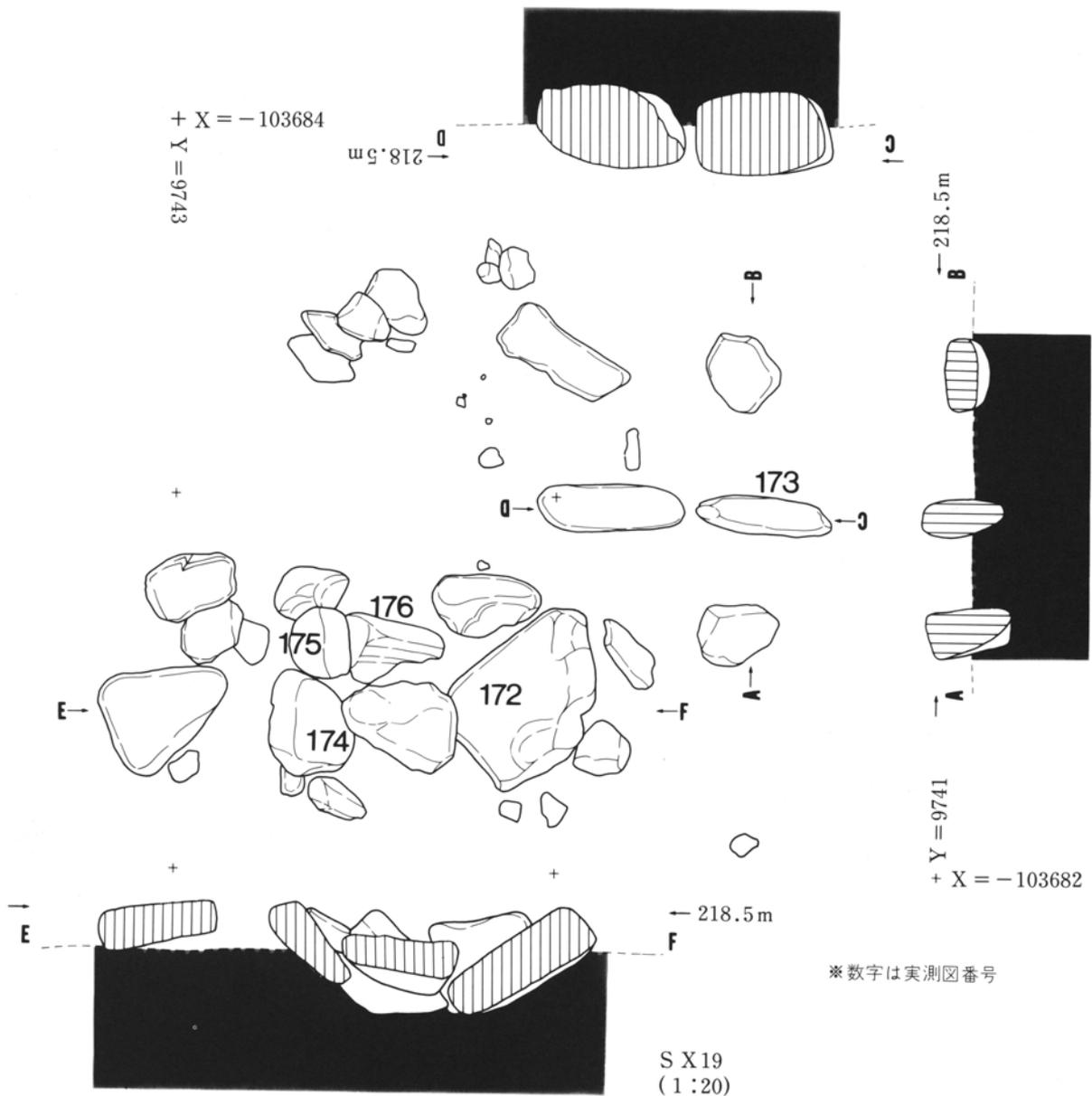
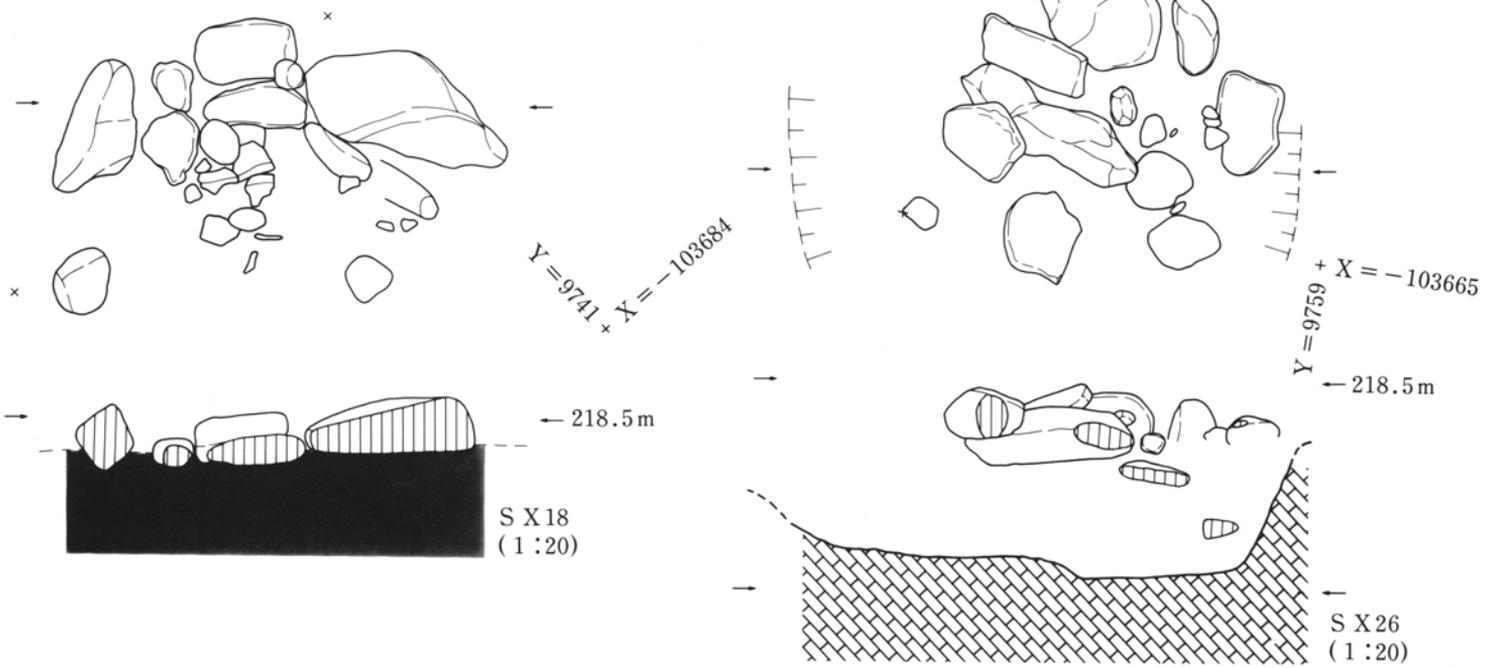
← 218.5m

S F 04
(1:20)

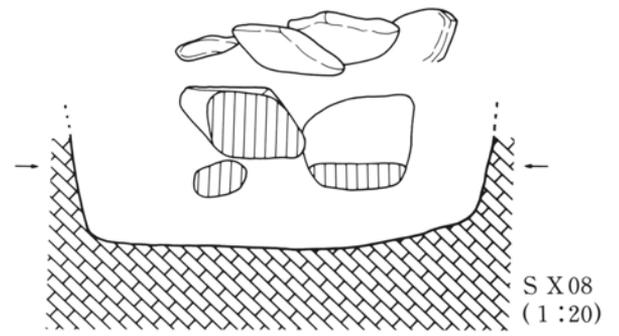
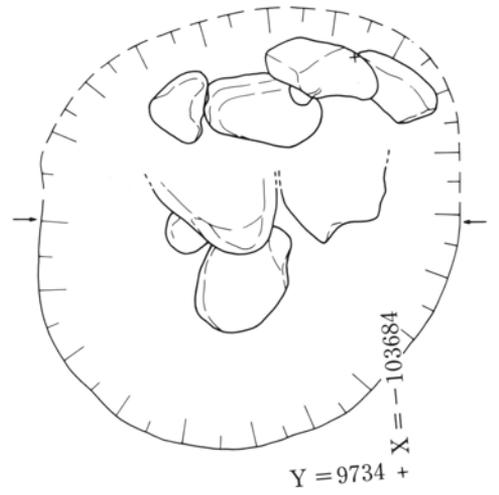
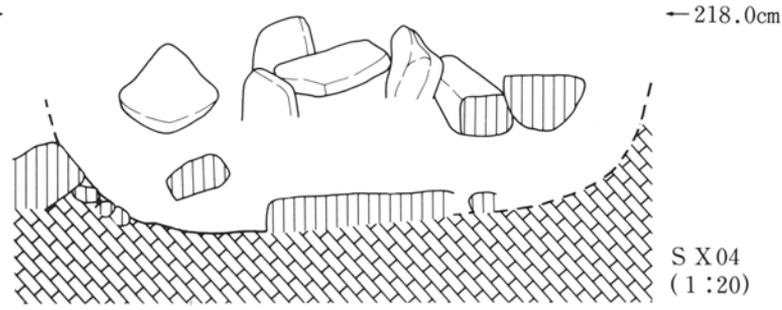
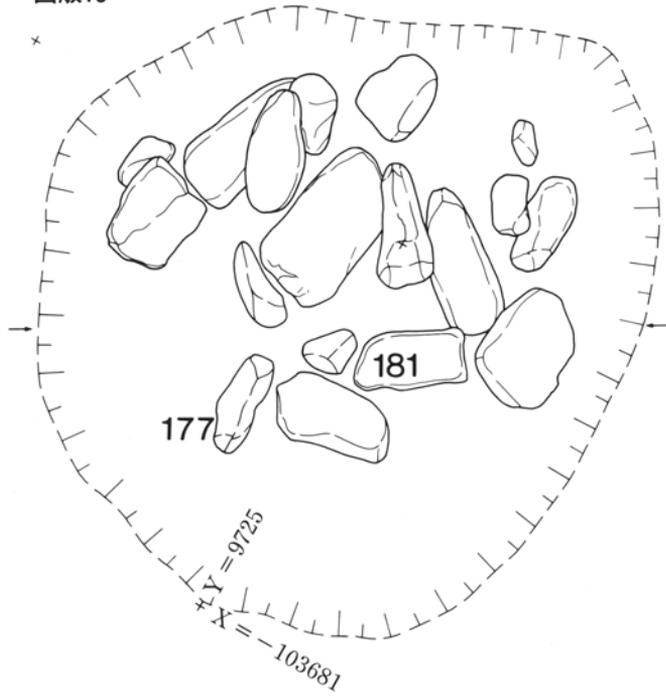




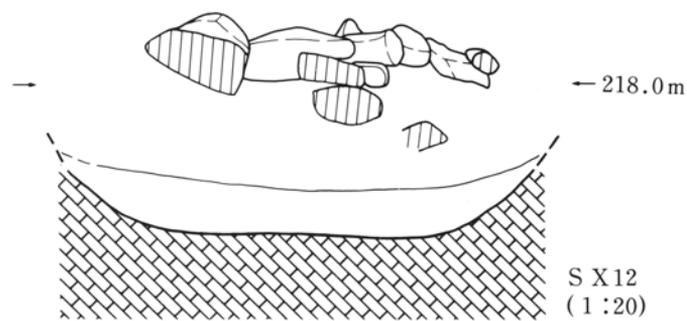
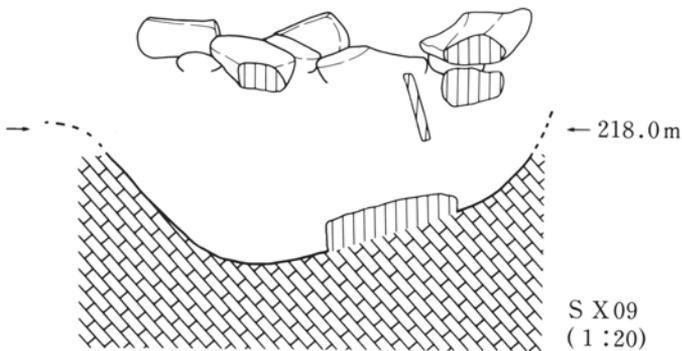
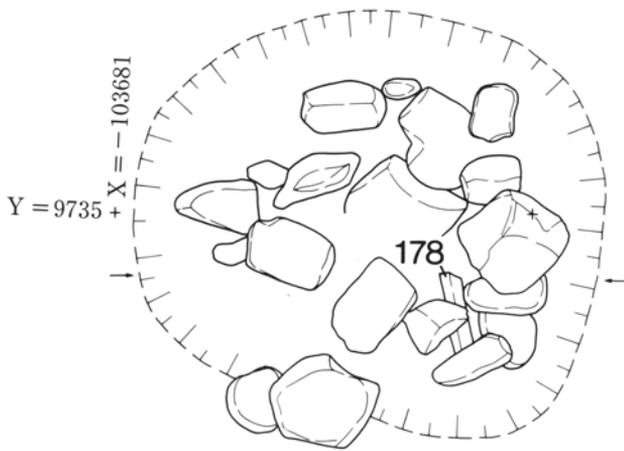
※数字は実測図番号

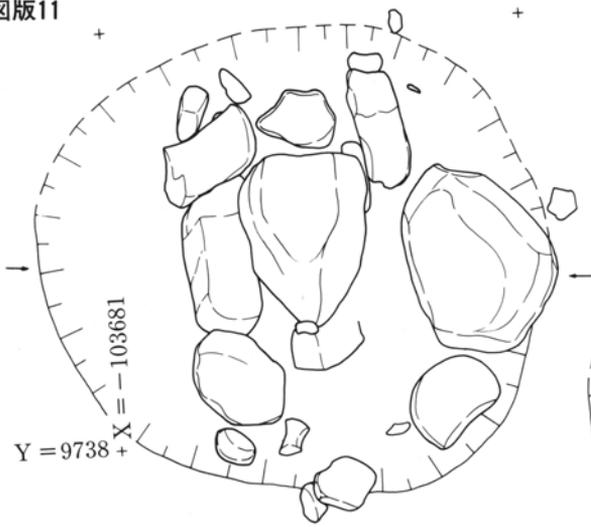


※数字は実測図番号

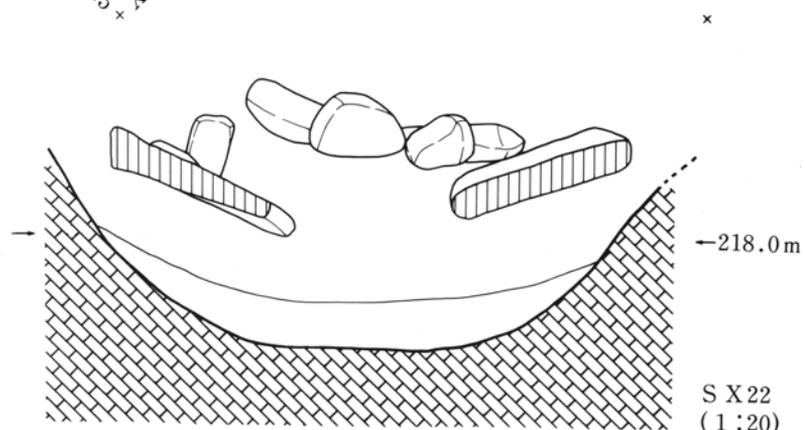
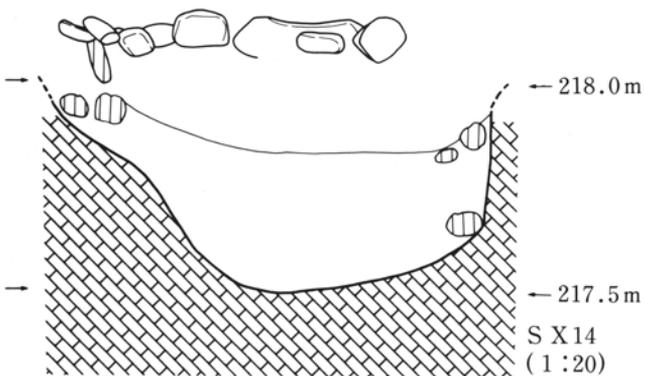
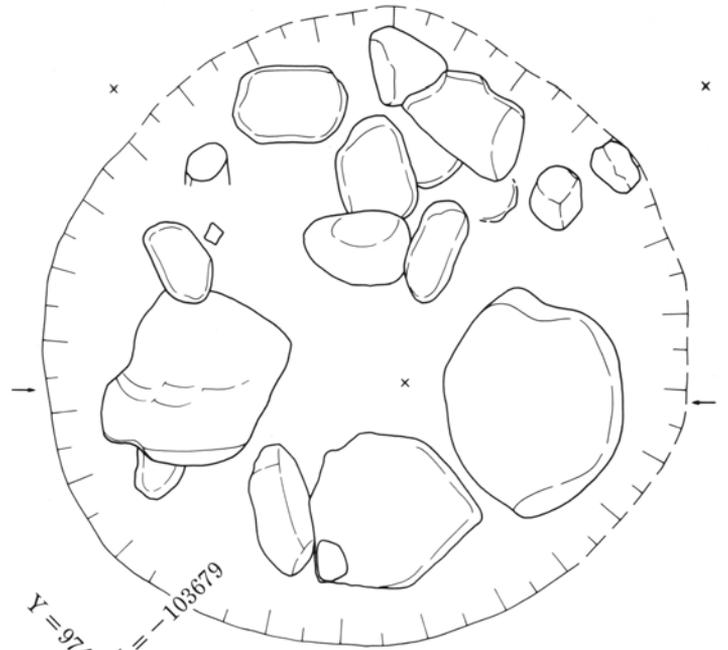
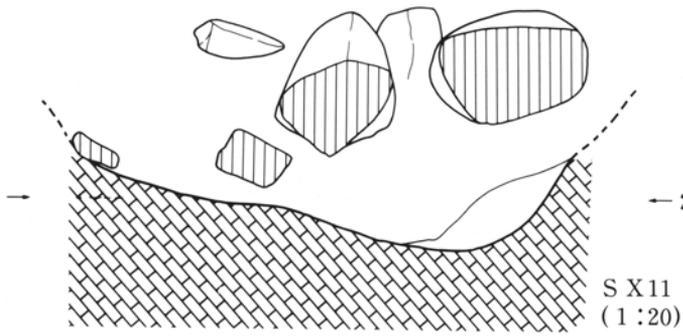


※数字は実測図番号

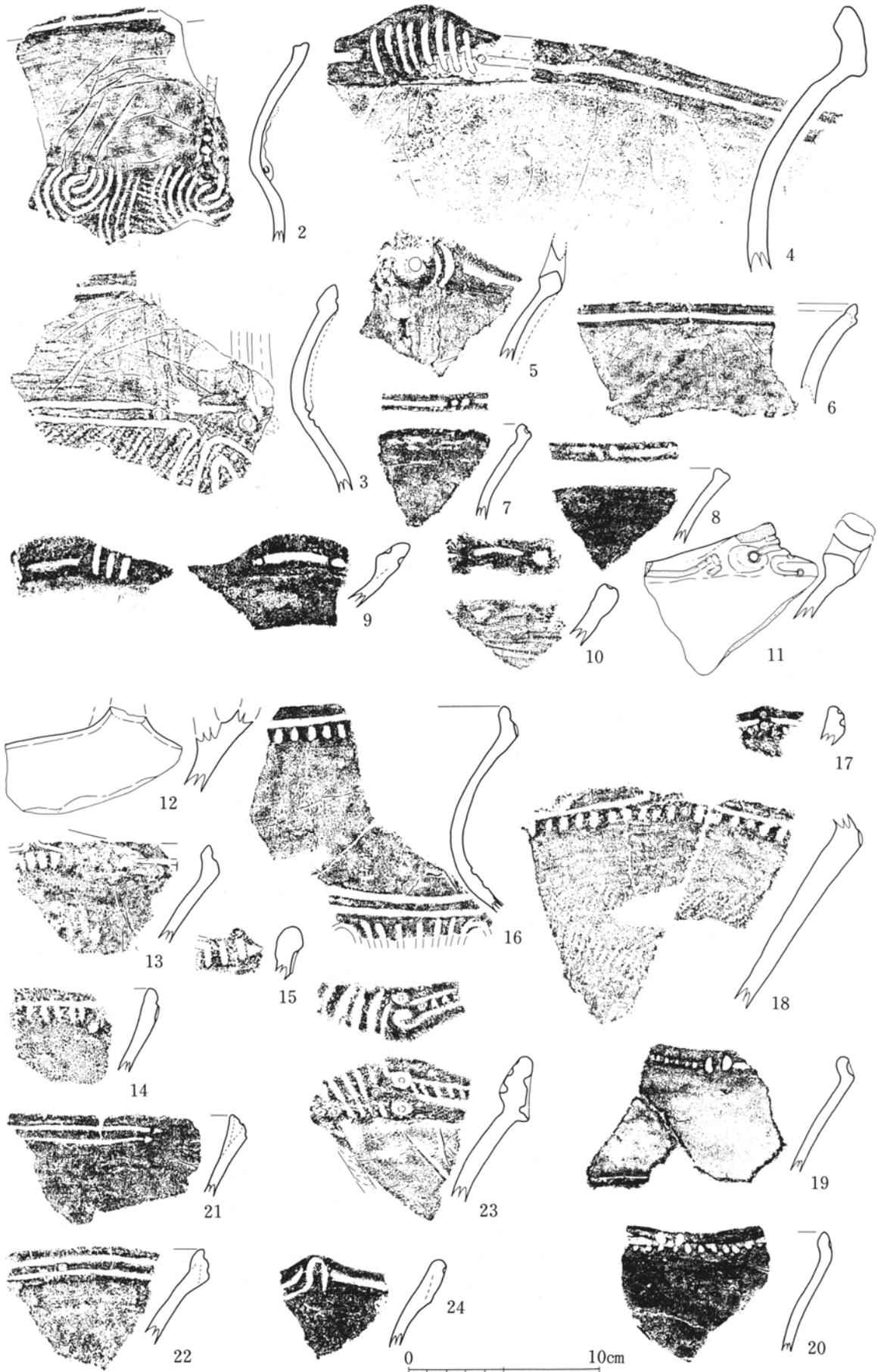




上石除去後の状態



○I群A

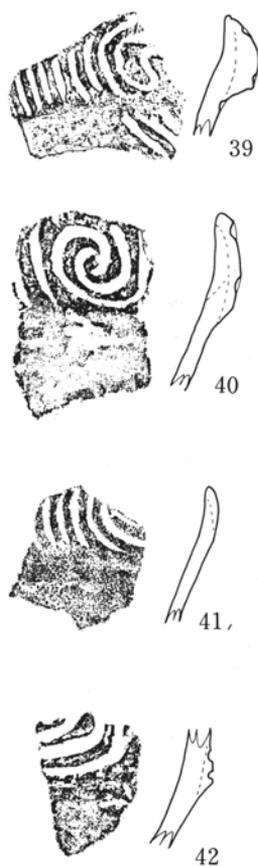


繩文土器 (I群A類)

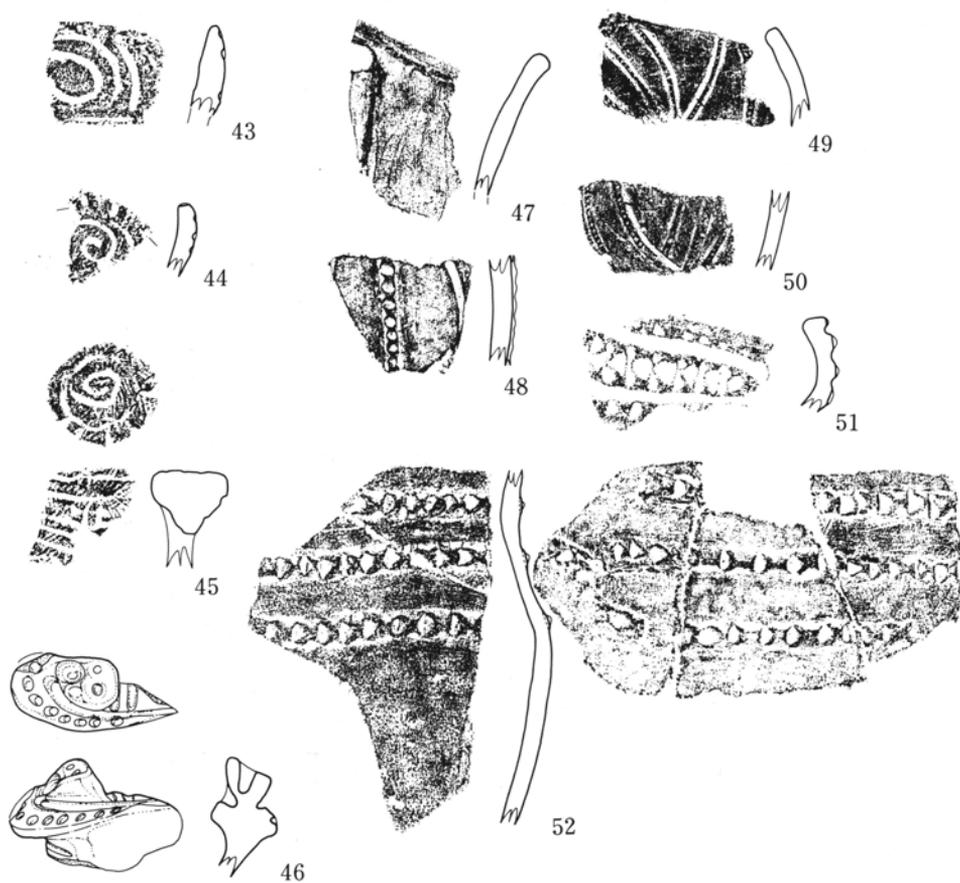
○ I 群B



○ I 群A·B

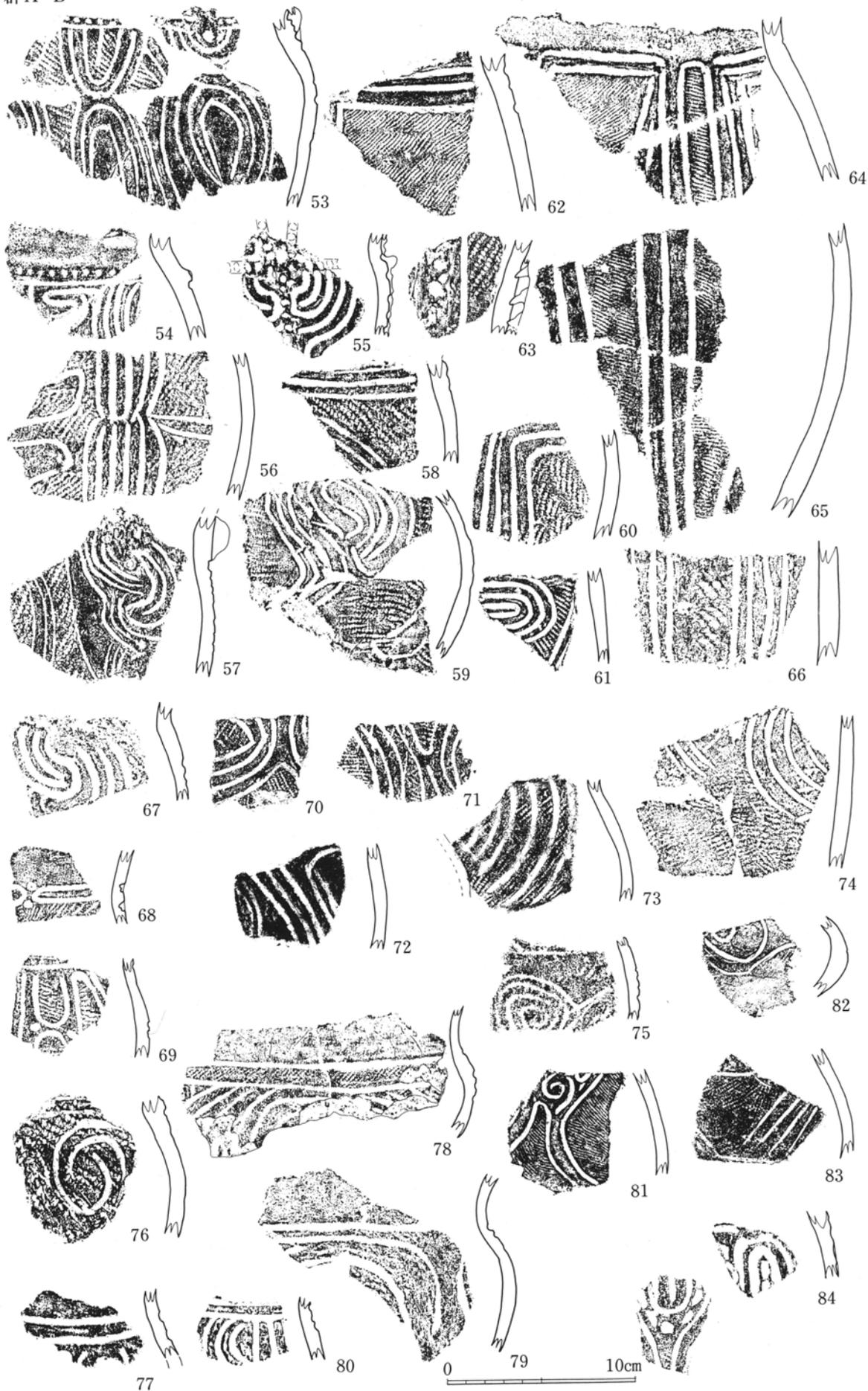


○ I 群G



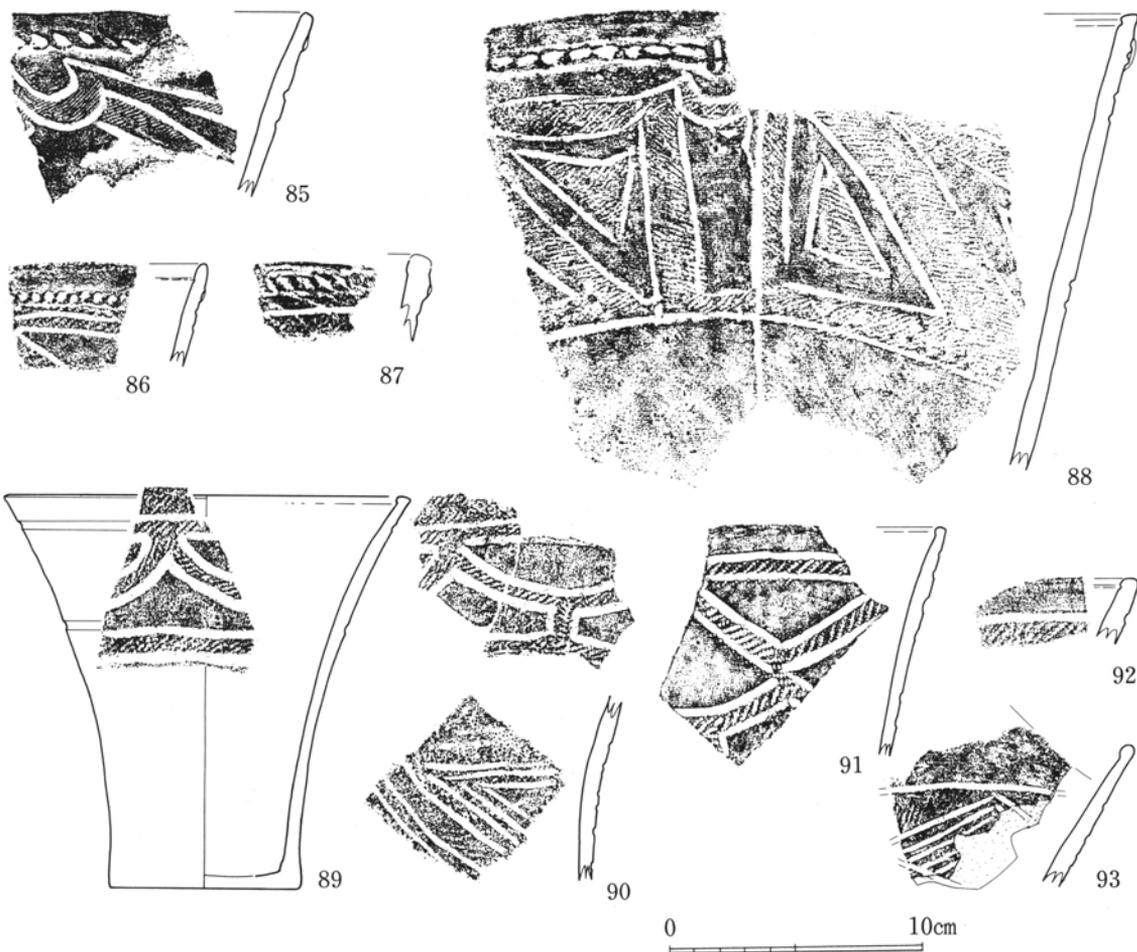
縄文土器 (I 群A類・B類・G類)

○ I 群 A·B

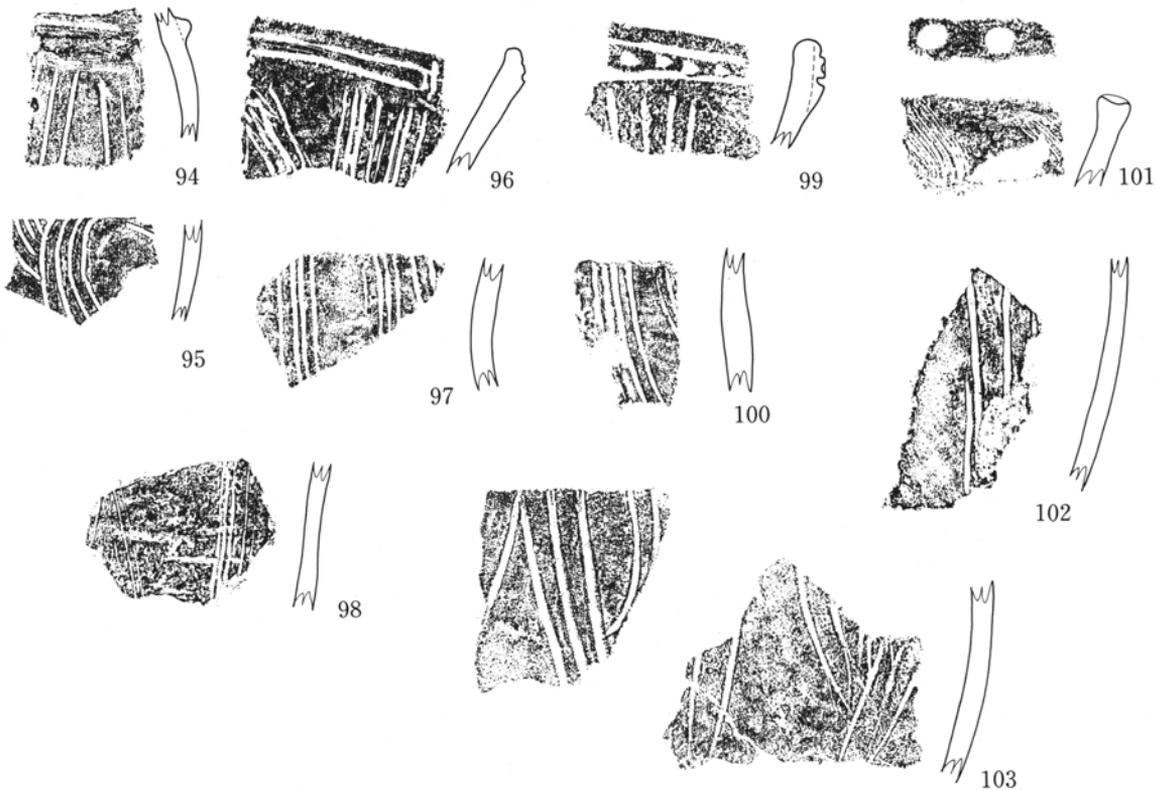


縄文土器 (I 群)

○ I 群C

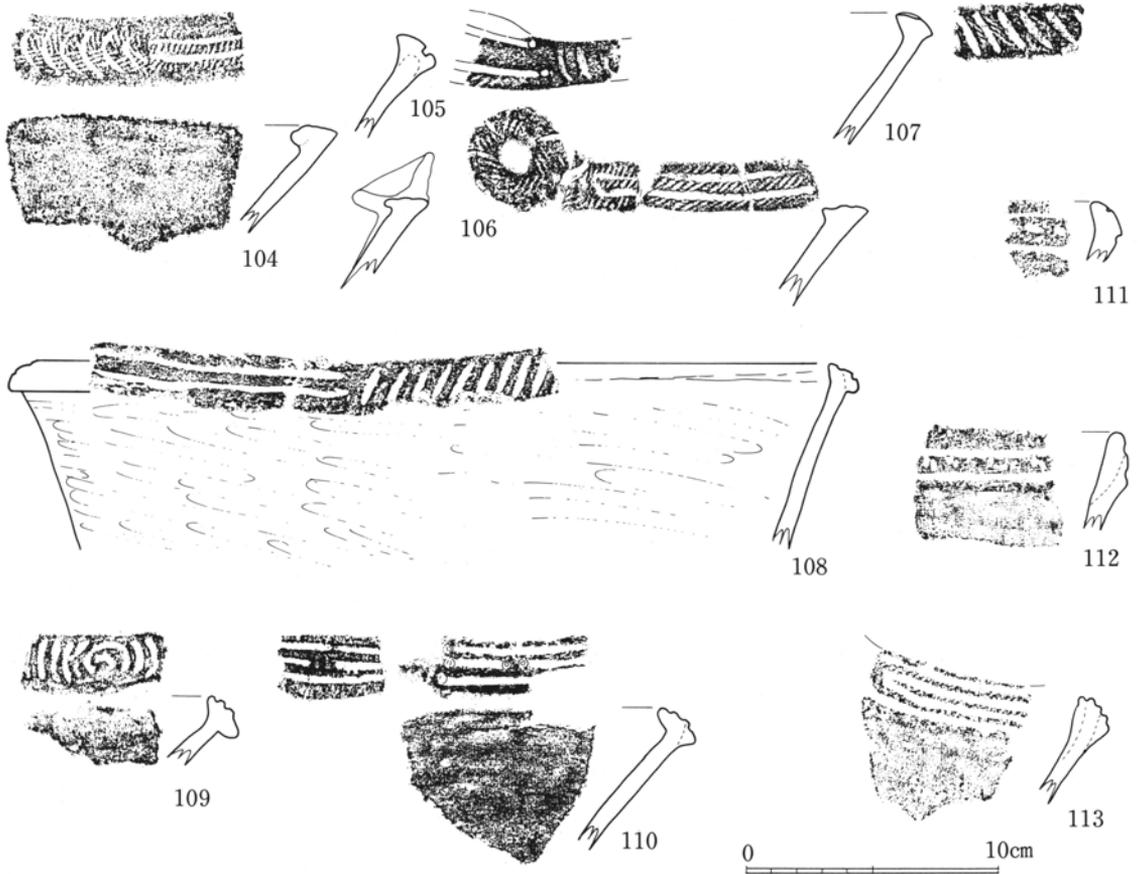


○ I 群D

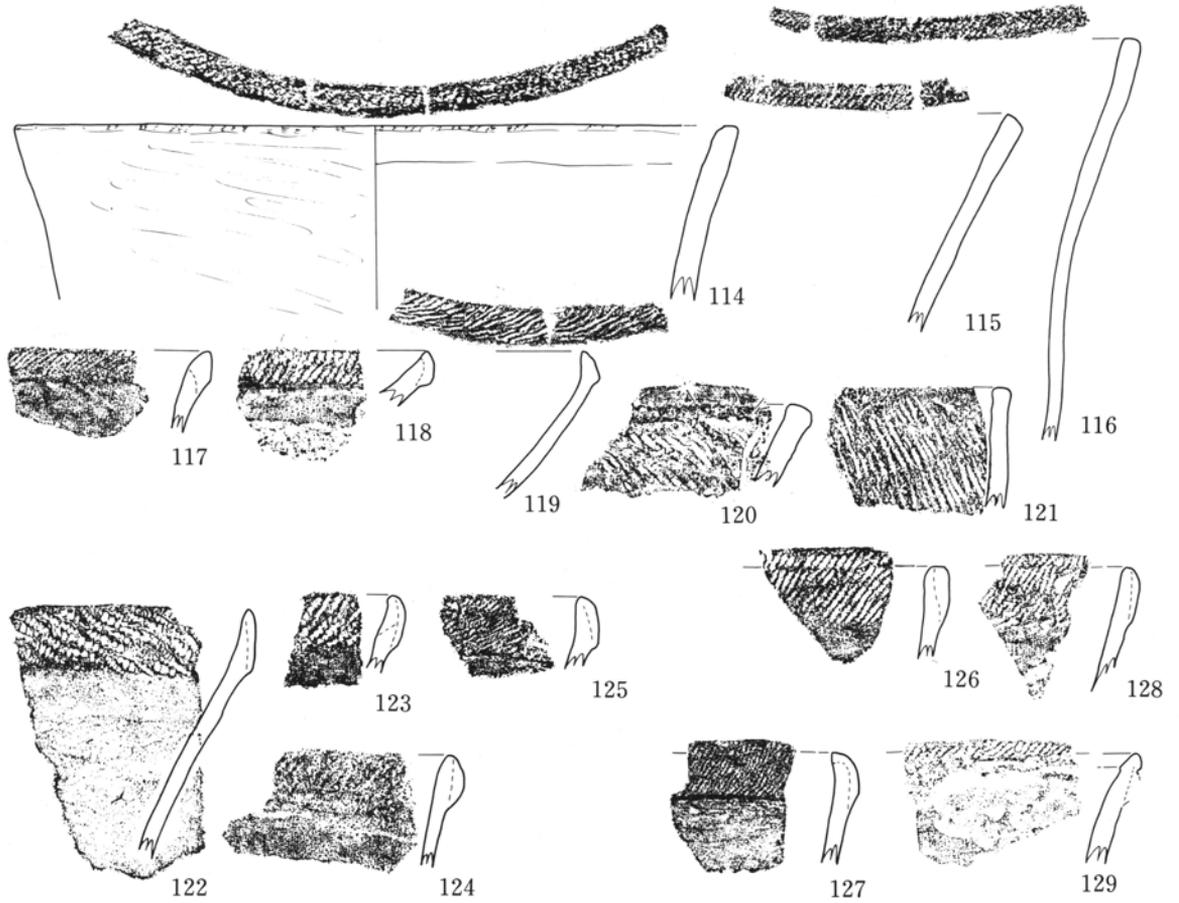


繩文土器 (I 群C類・D類)

○ I 群E

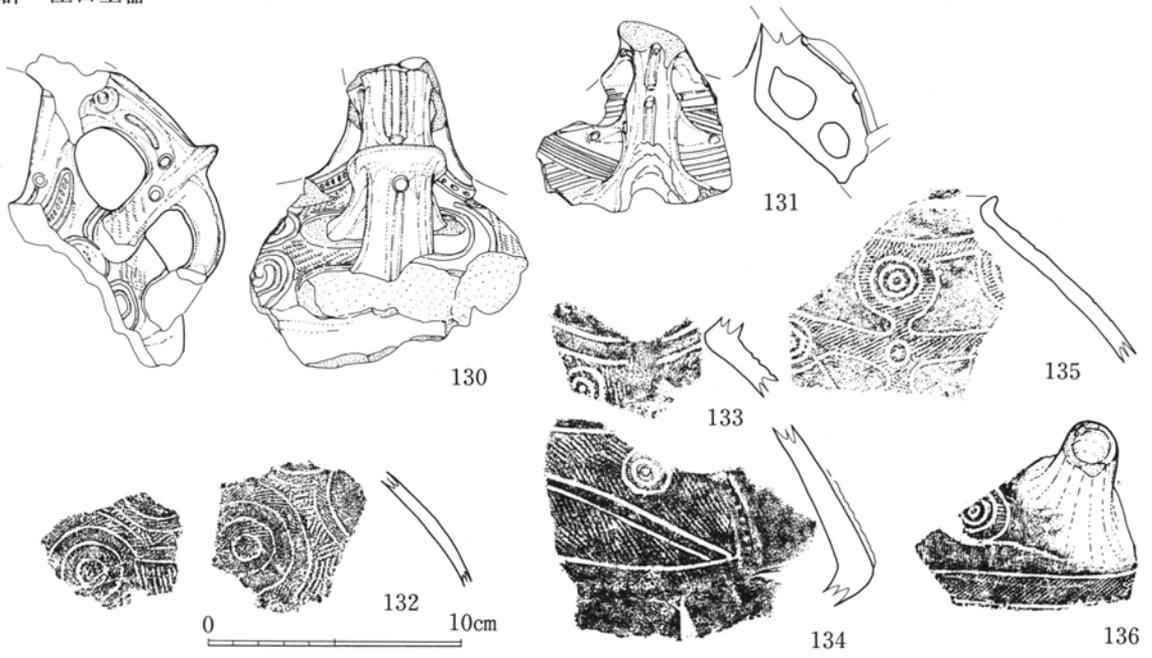


○ I 群F

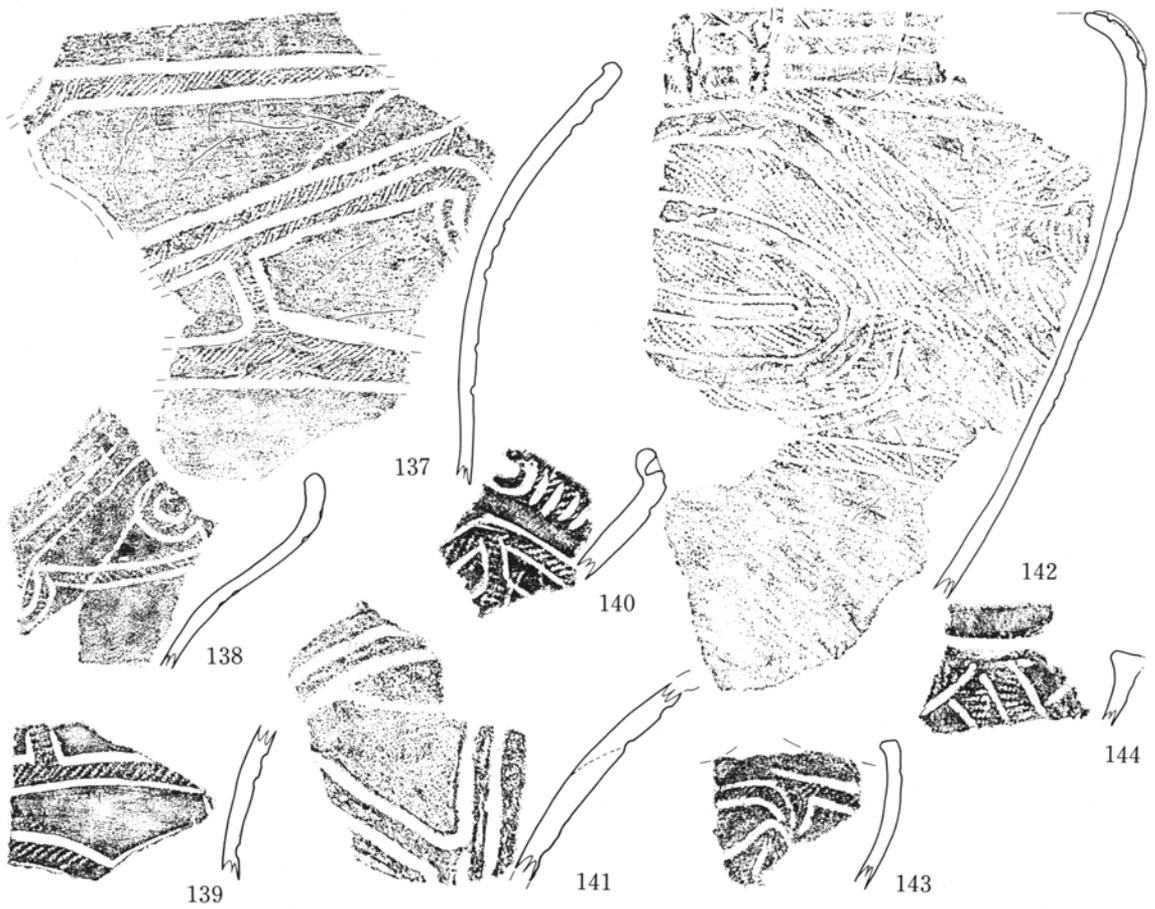


繩文土器 (I 群E類・F類)

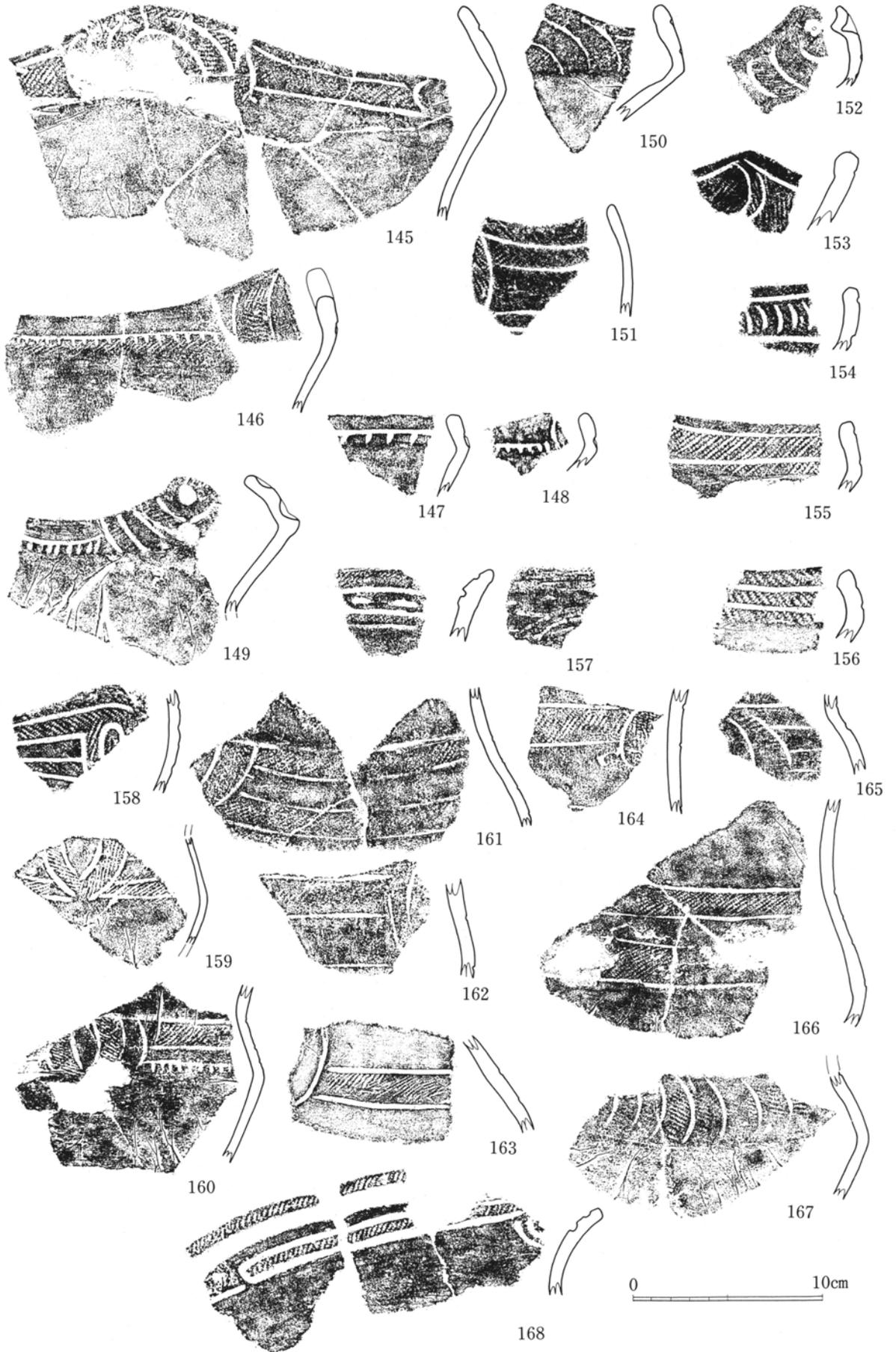
○I群 注口土器



○I群H

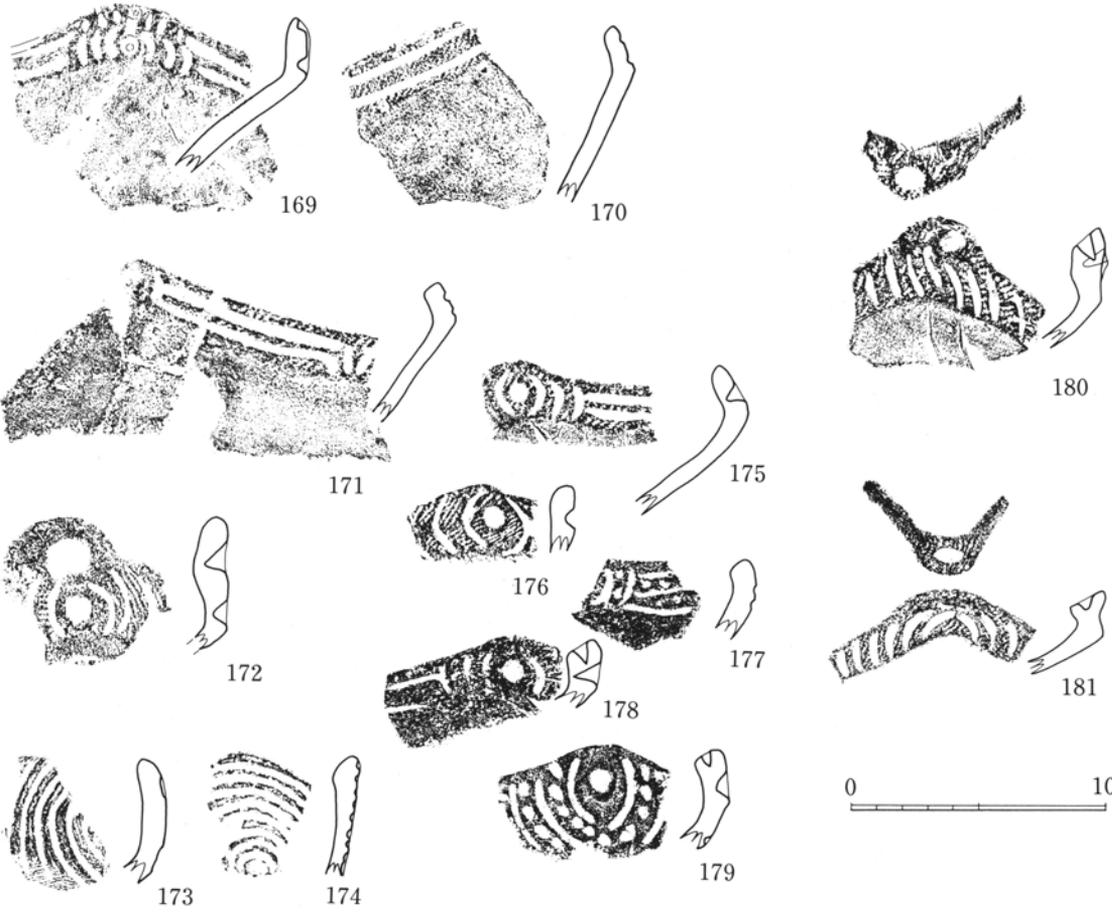


○II群

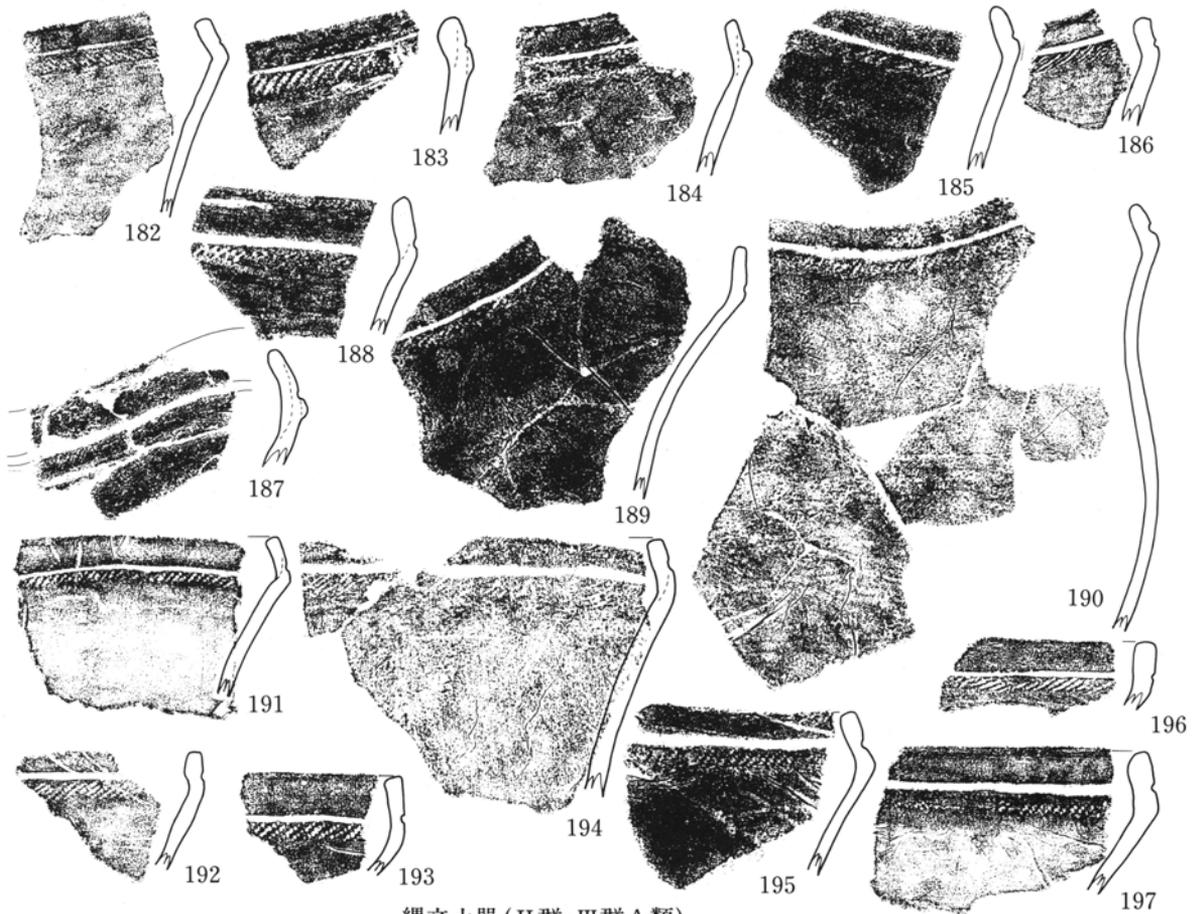


縄文土器(II群)

○II群

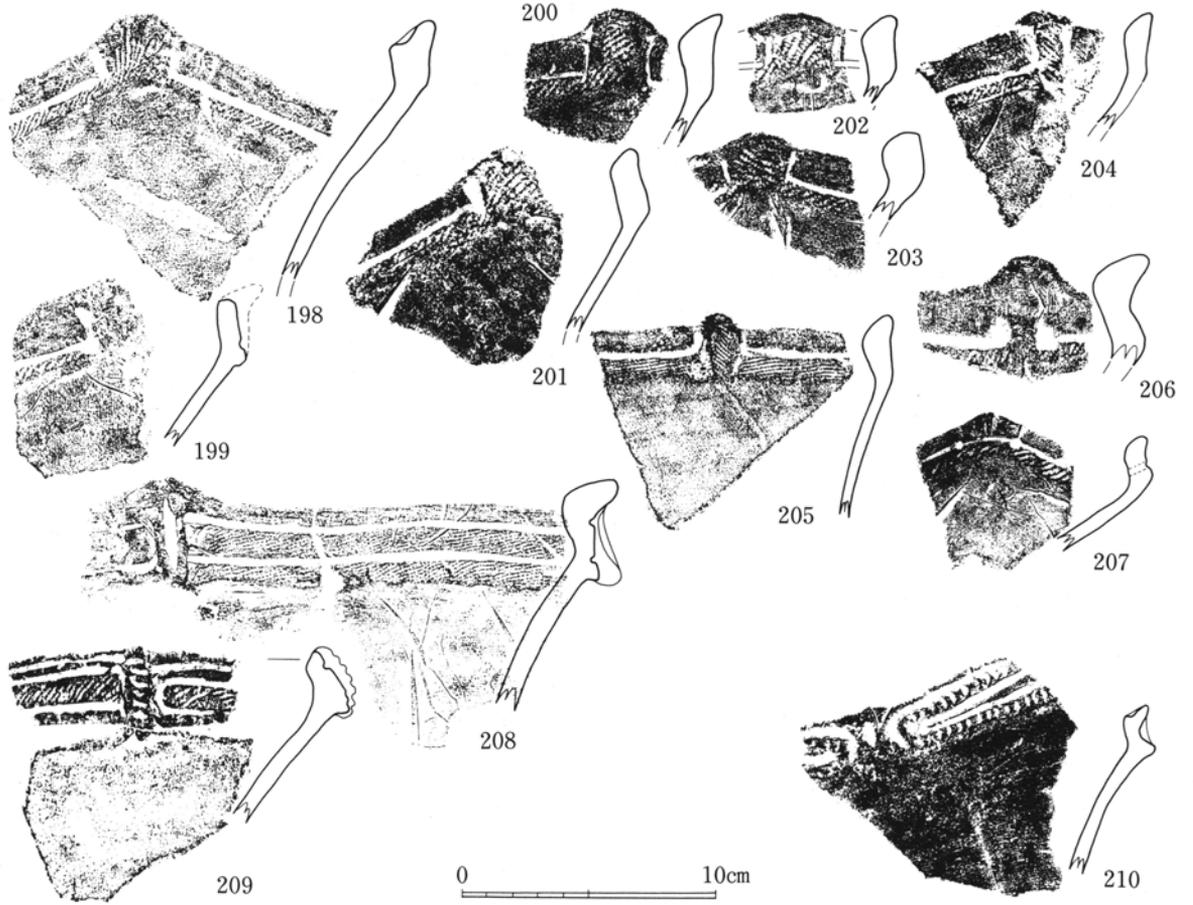


○III群A

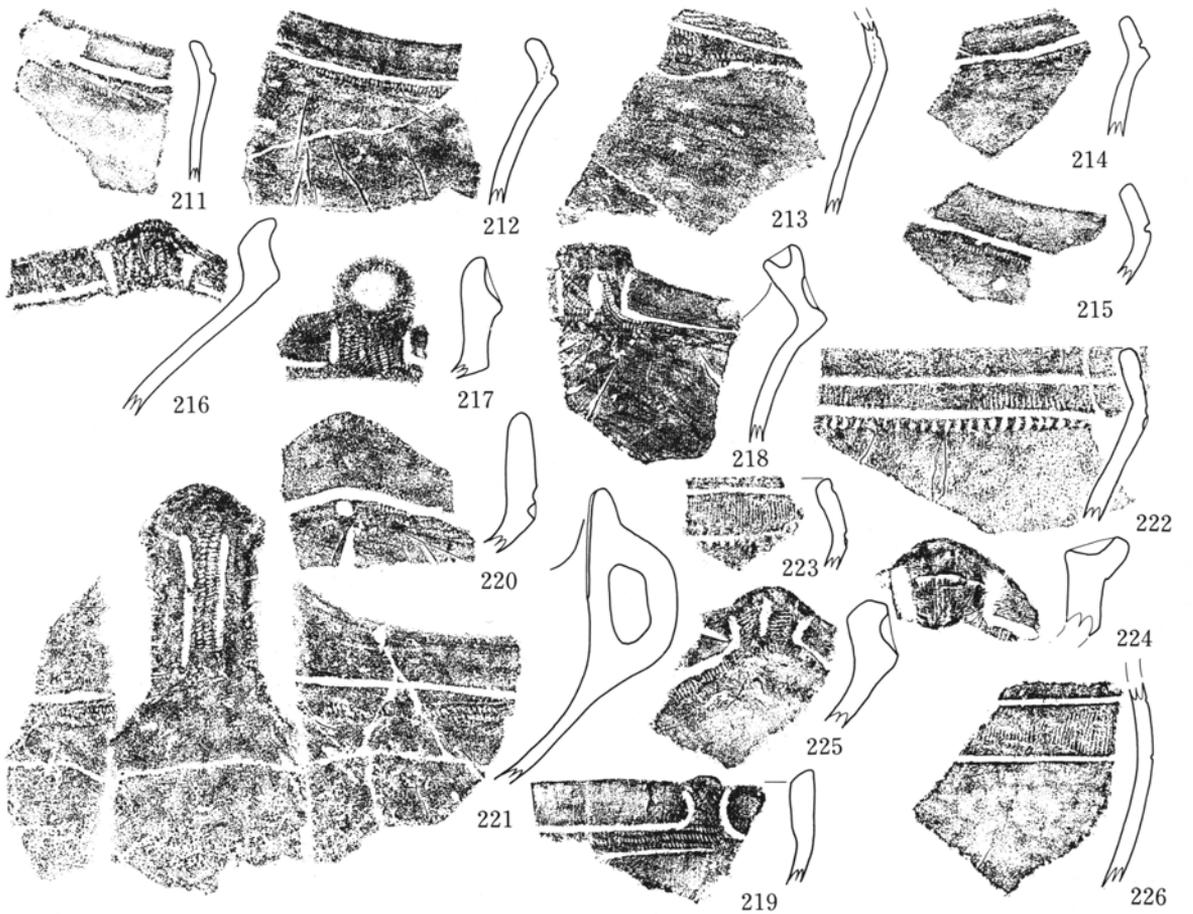


縄文土器(II群・III群A類)

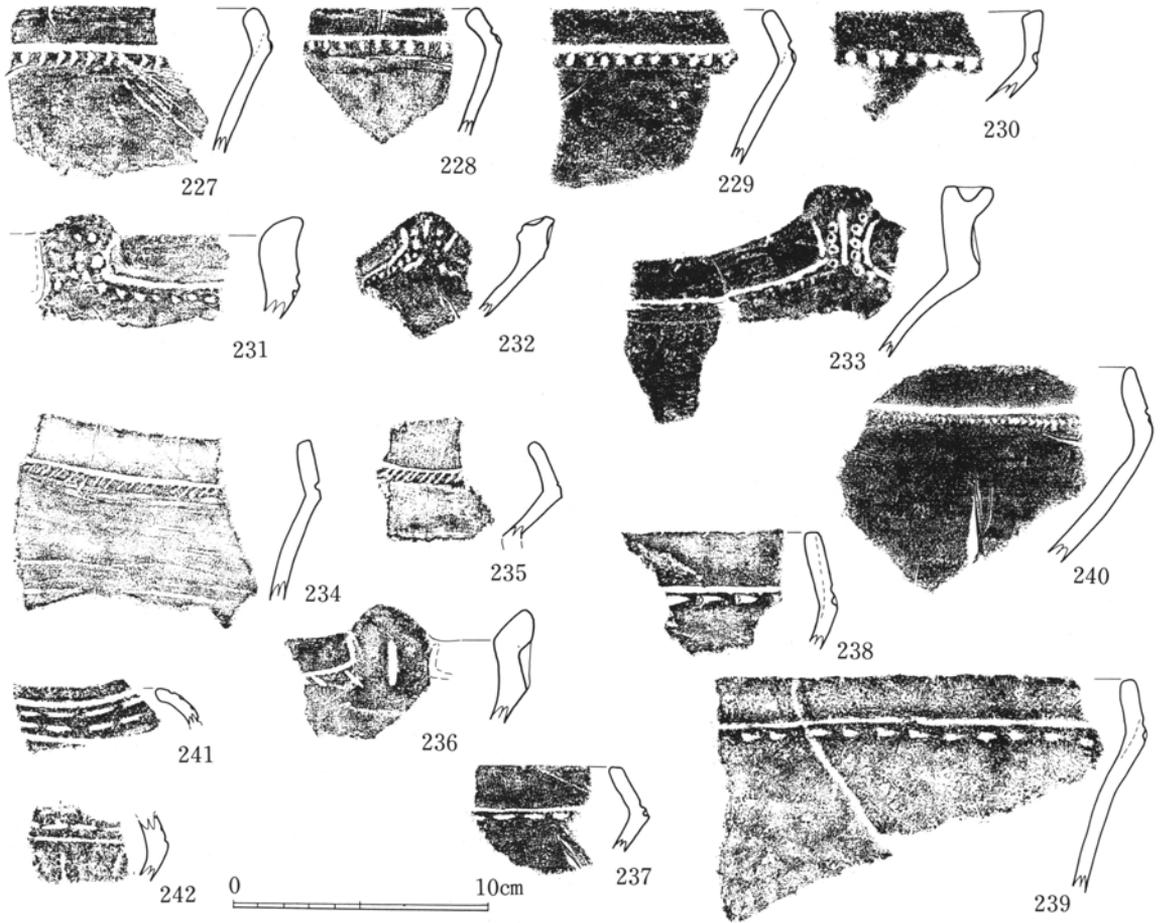
○Ⅲ群A・F



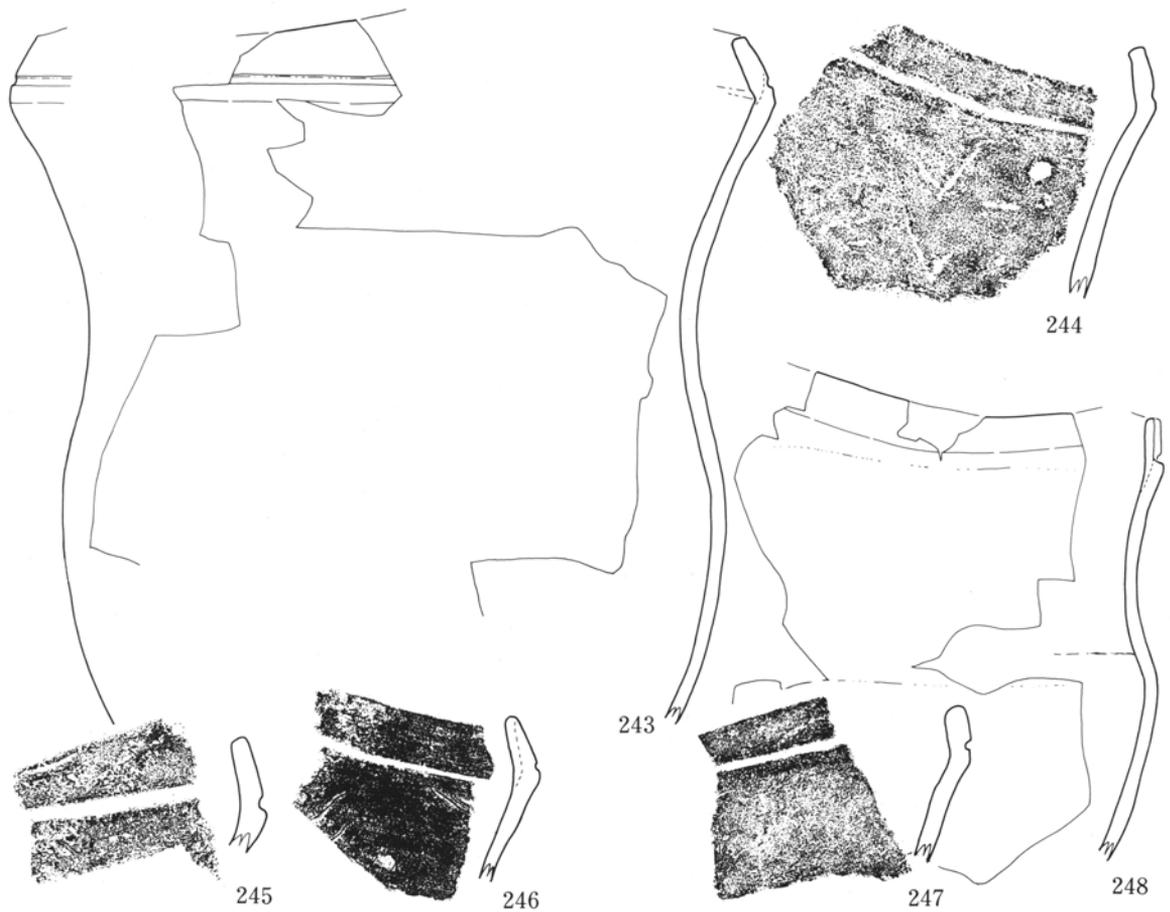
○Ⅲ群B



○Ⅲ群C

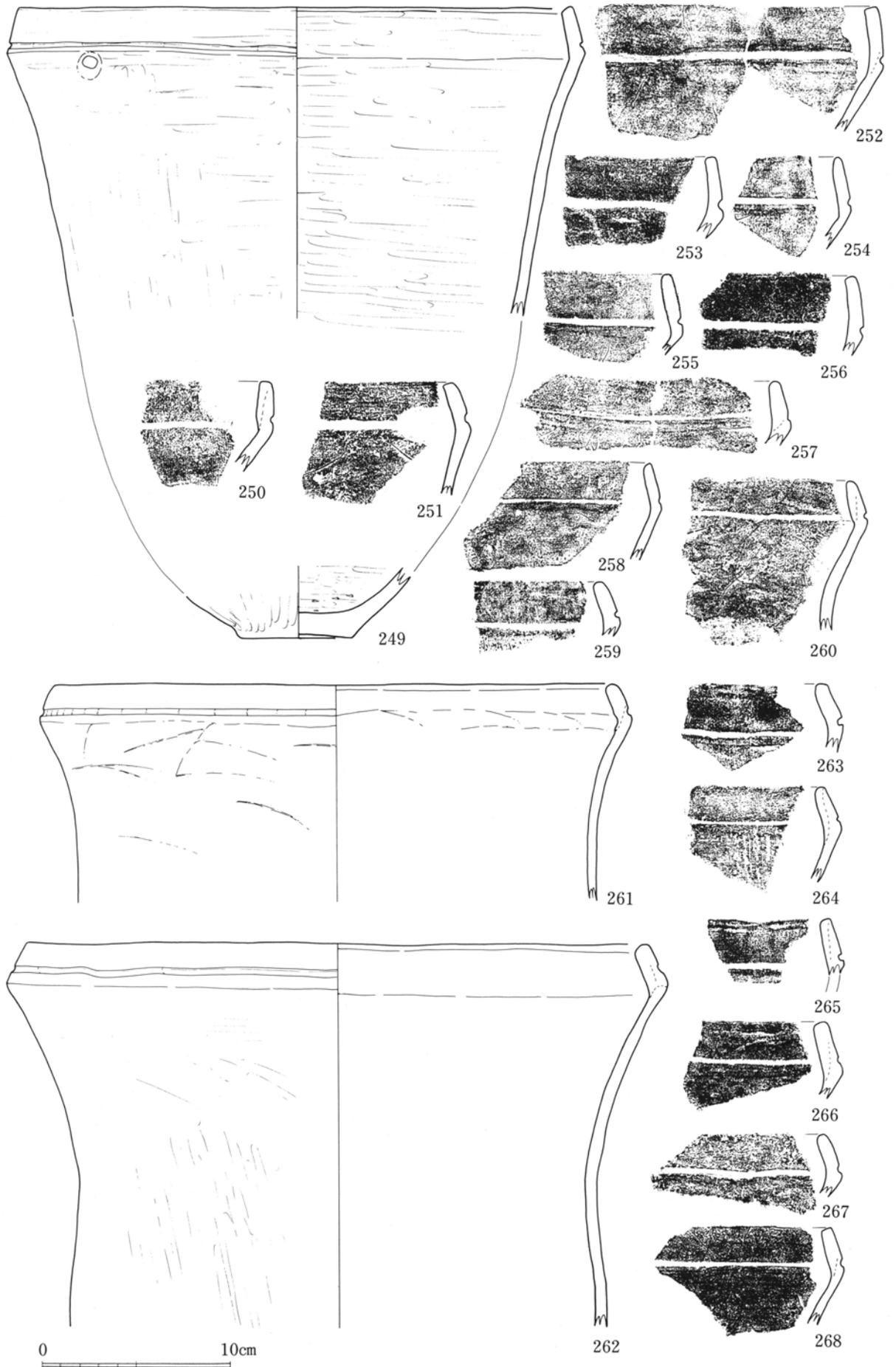


○Ⅲ群D



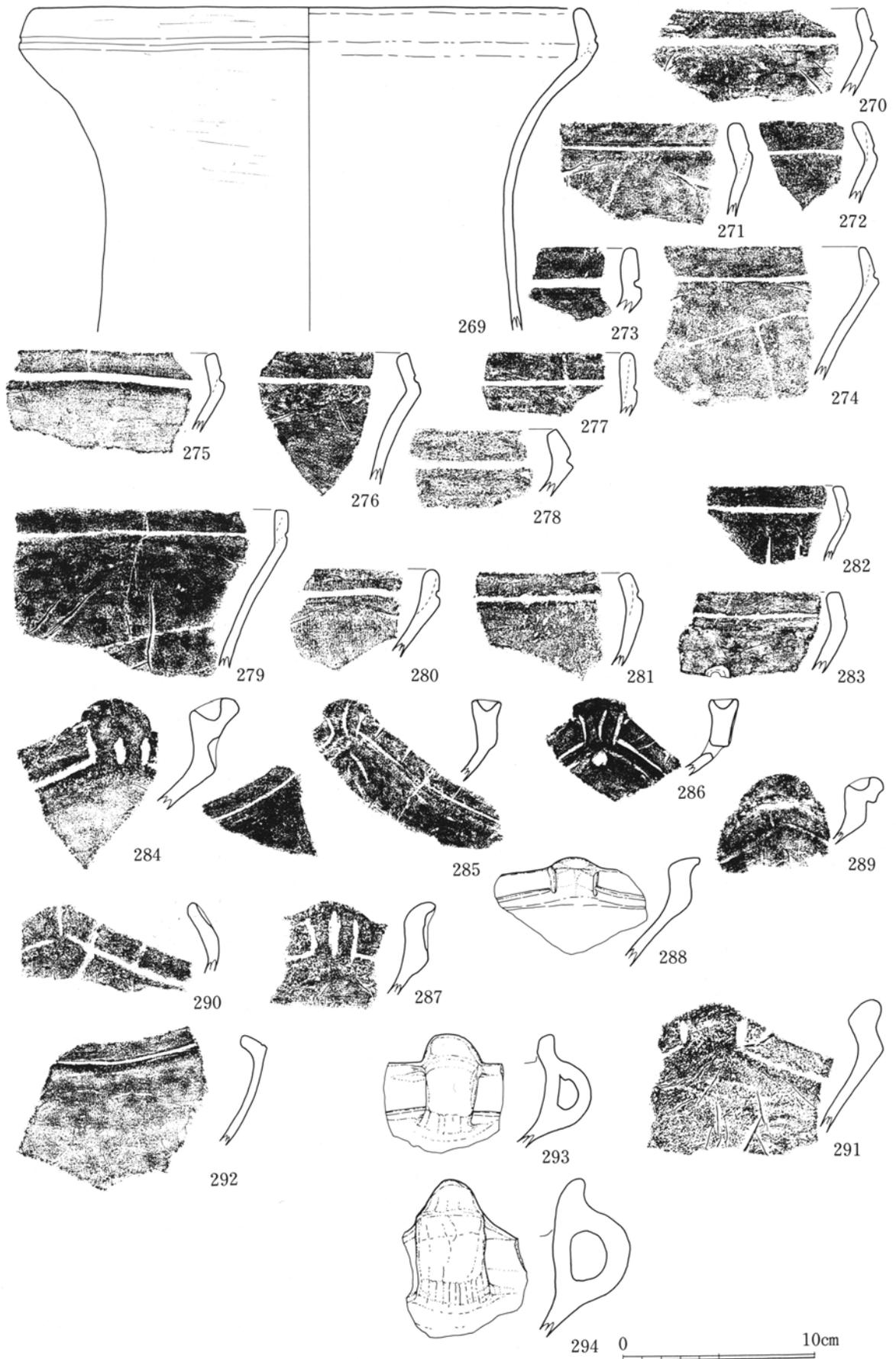
繩文土器(Ⅲ群C類・D類)

○Ⅲ群D



繩文土器(Ⅲ群D類)

○Ⅲ群D



縄文土器(Ⅲ群D類)

○Ⅲ群D



295



297



298

○Ⅲ群E



296



299



300



301



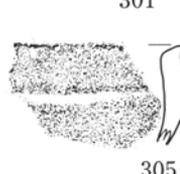
302



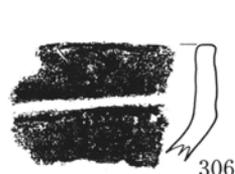
303



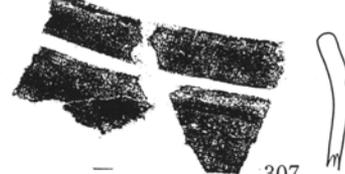
304



305



306



307



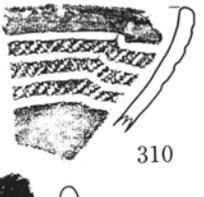
○Ⅳ群A



308



309



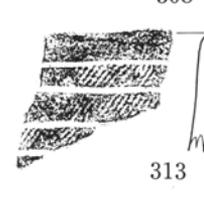
310



311



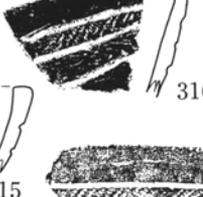
312



313



314



316



318



319



317



321



324



320



322



323



325



327



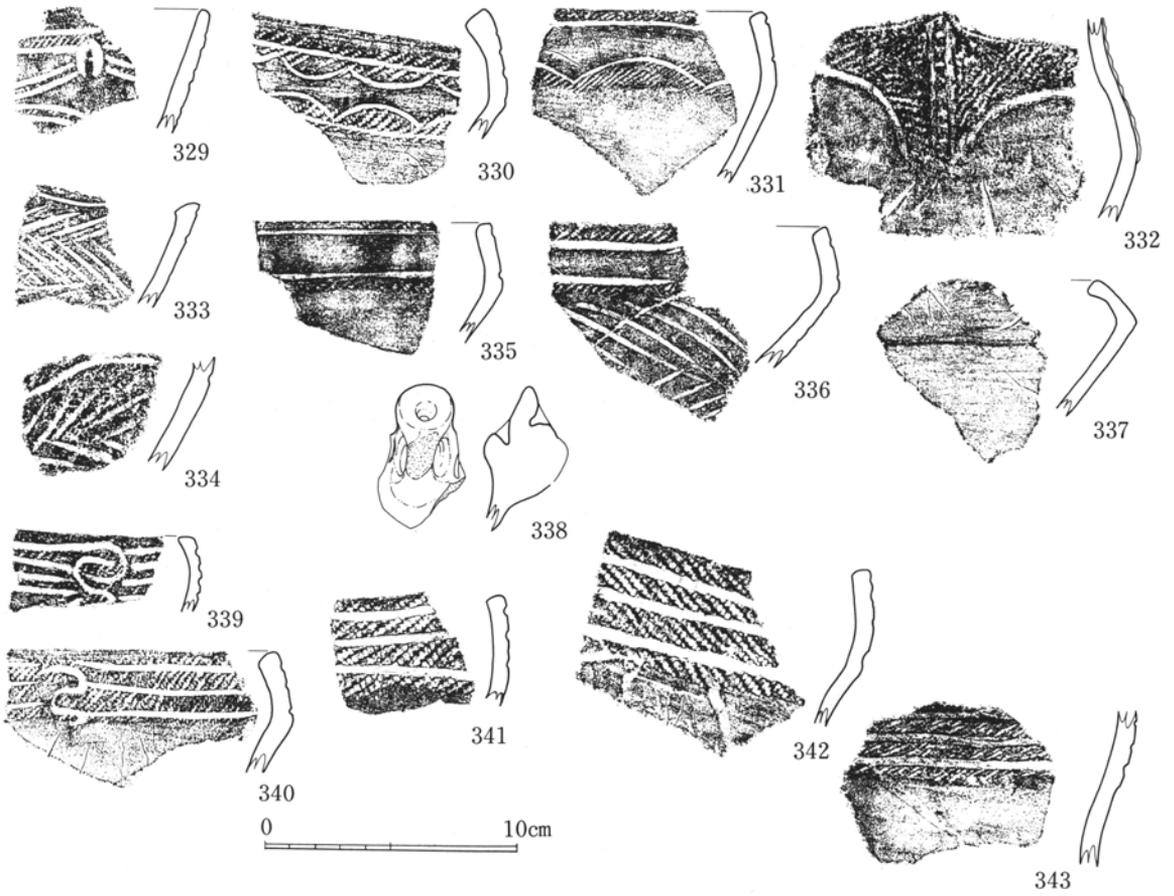
328



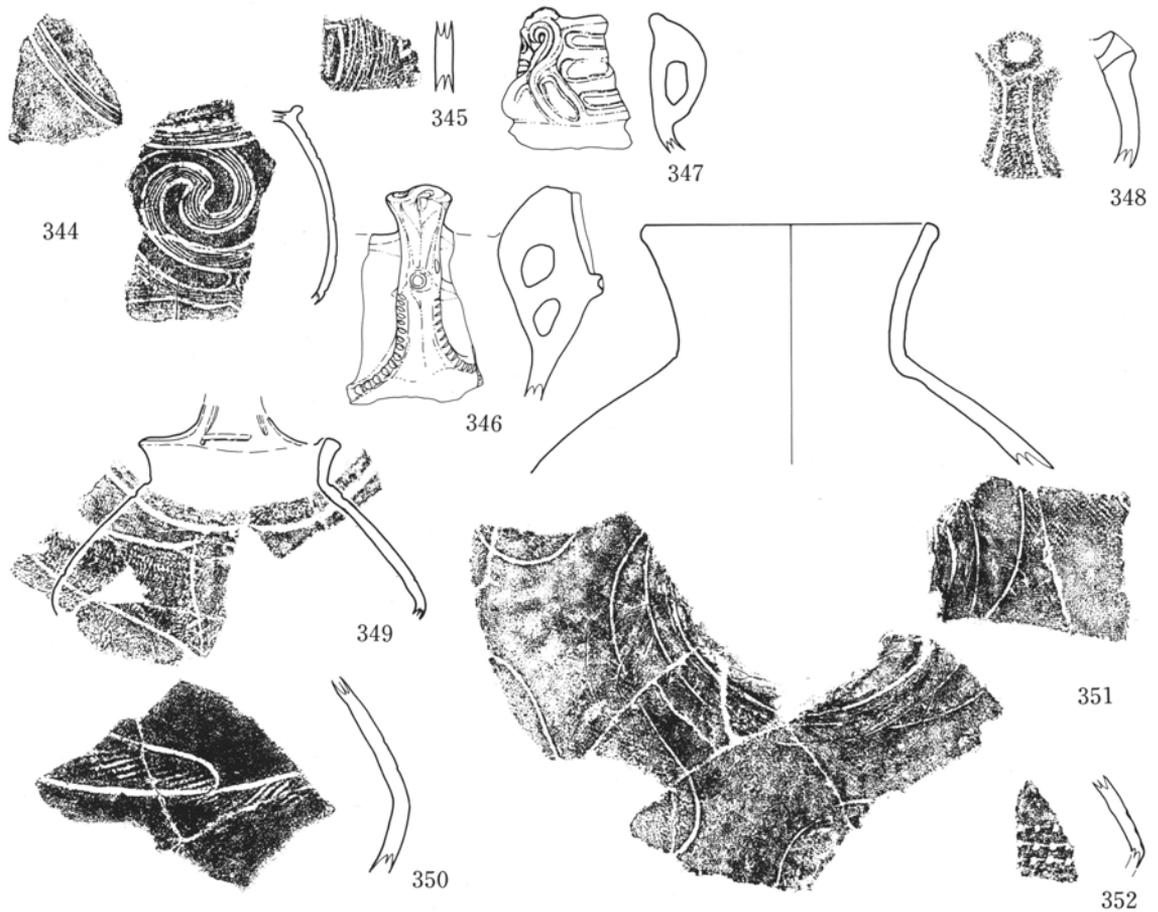
326

繩文土器(Ⅲ群E類・Ⅳ群)

○IV群B

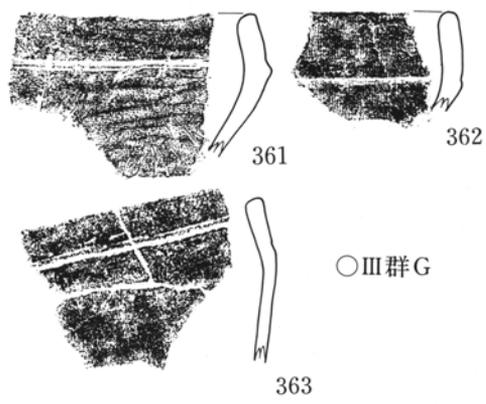
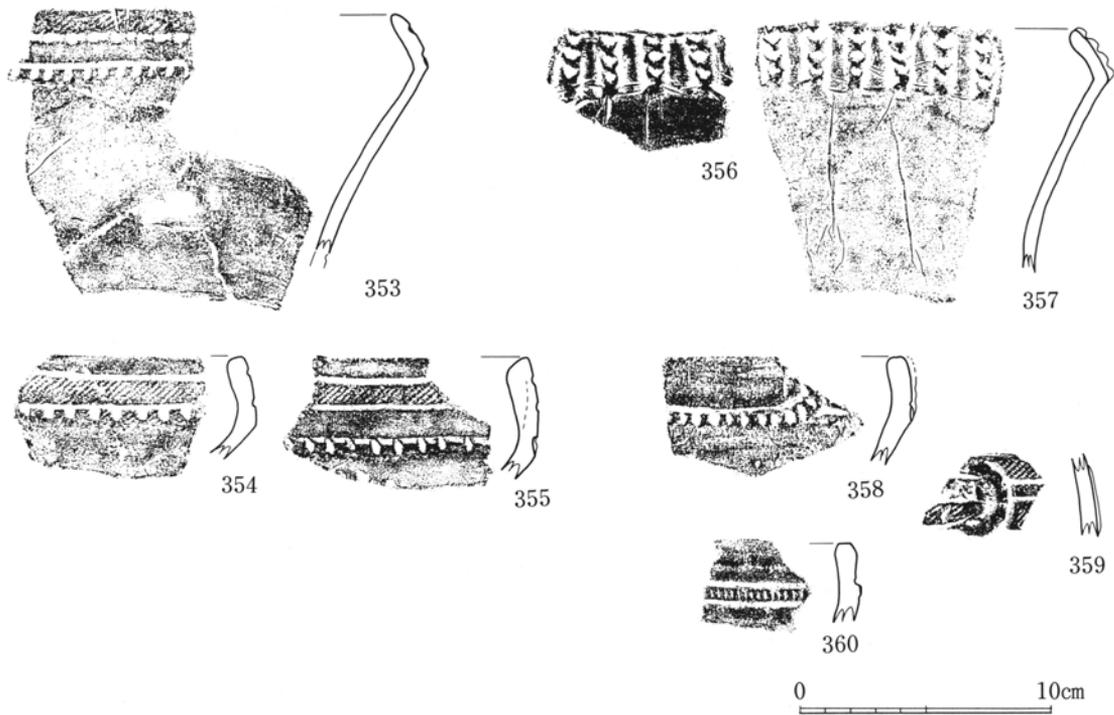


○III群・IV群

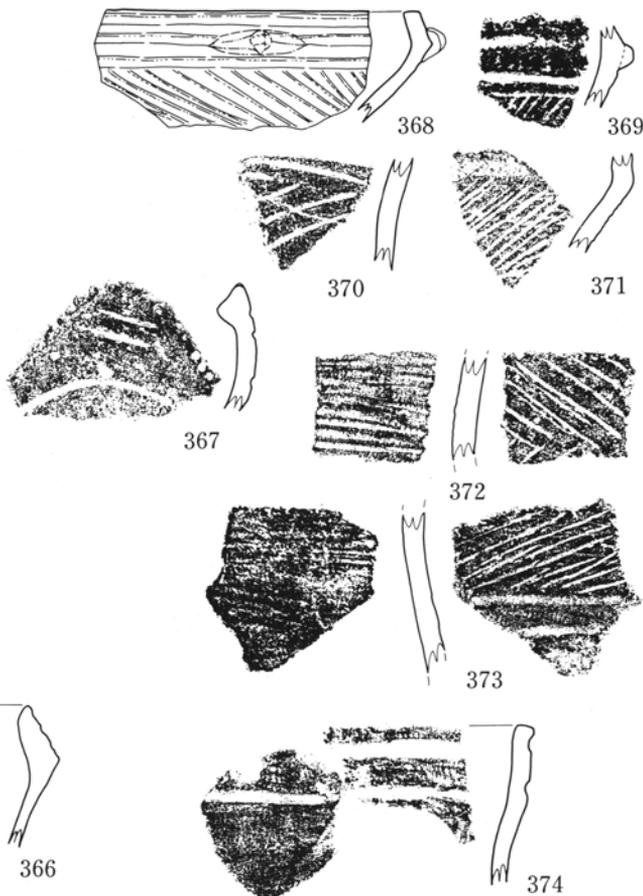


繩文土器(III群・IV群)

○V群

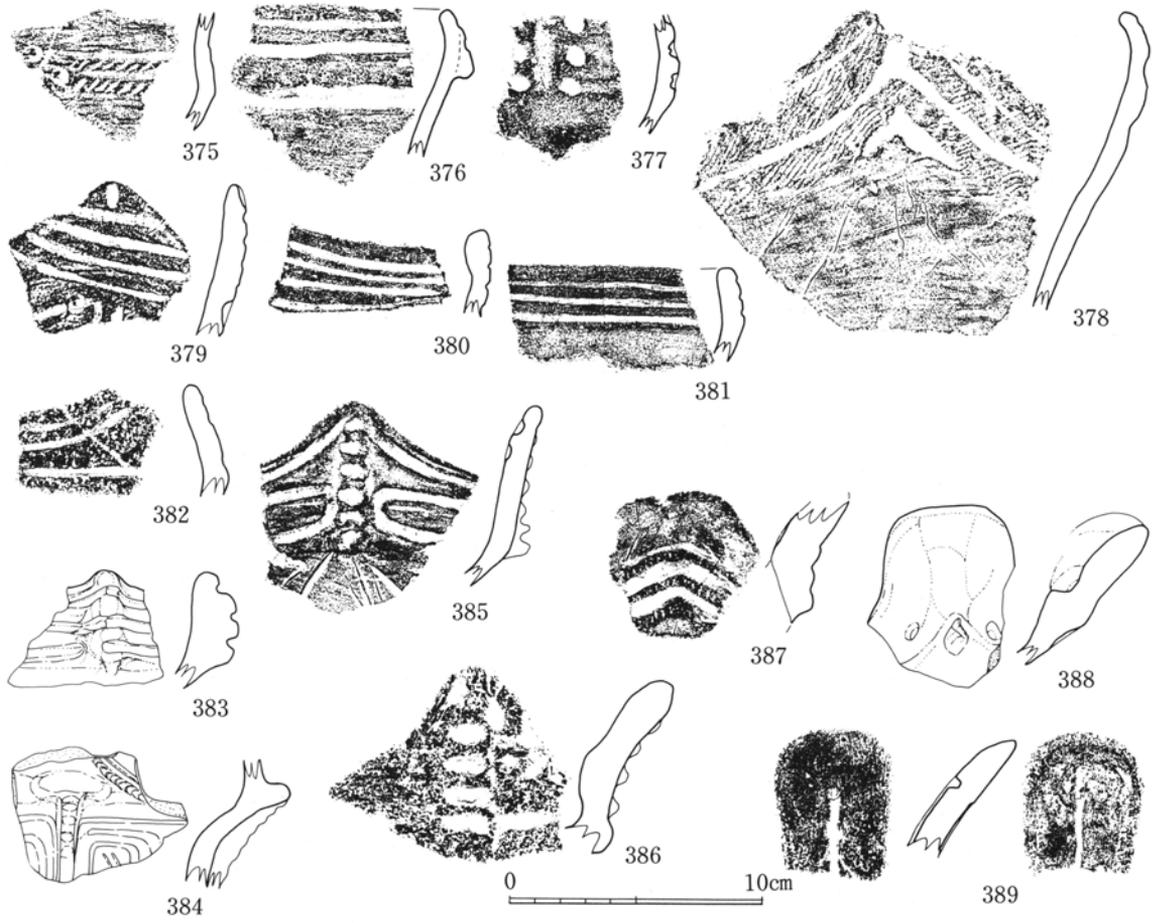


○III群G

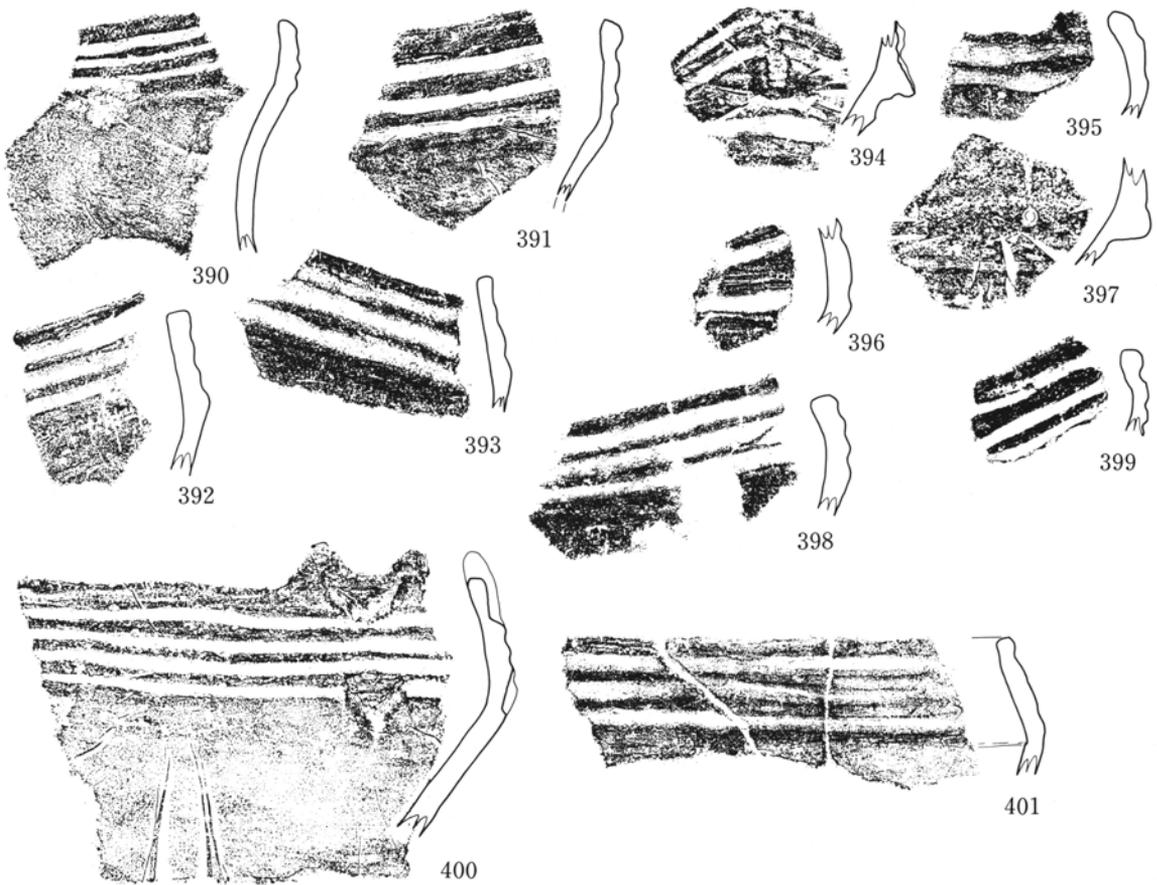


○VI群

○VI群

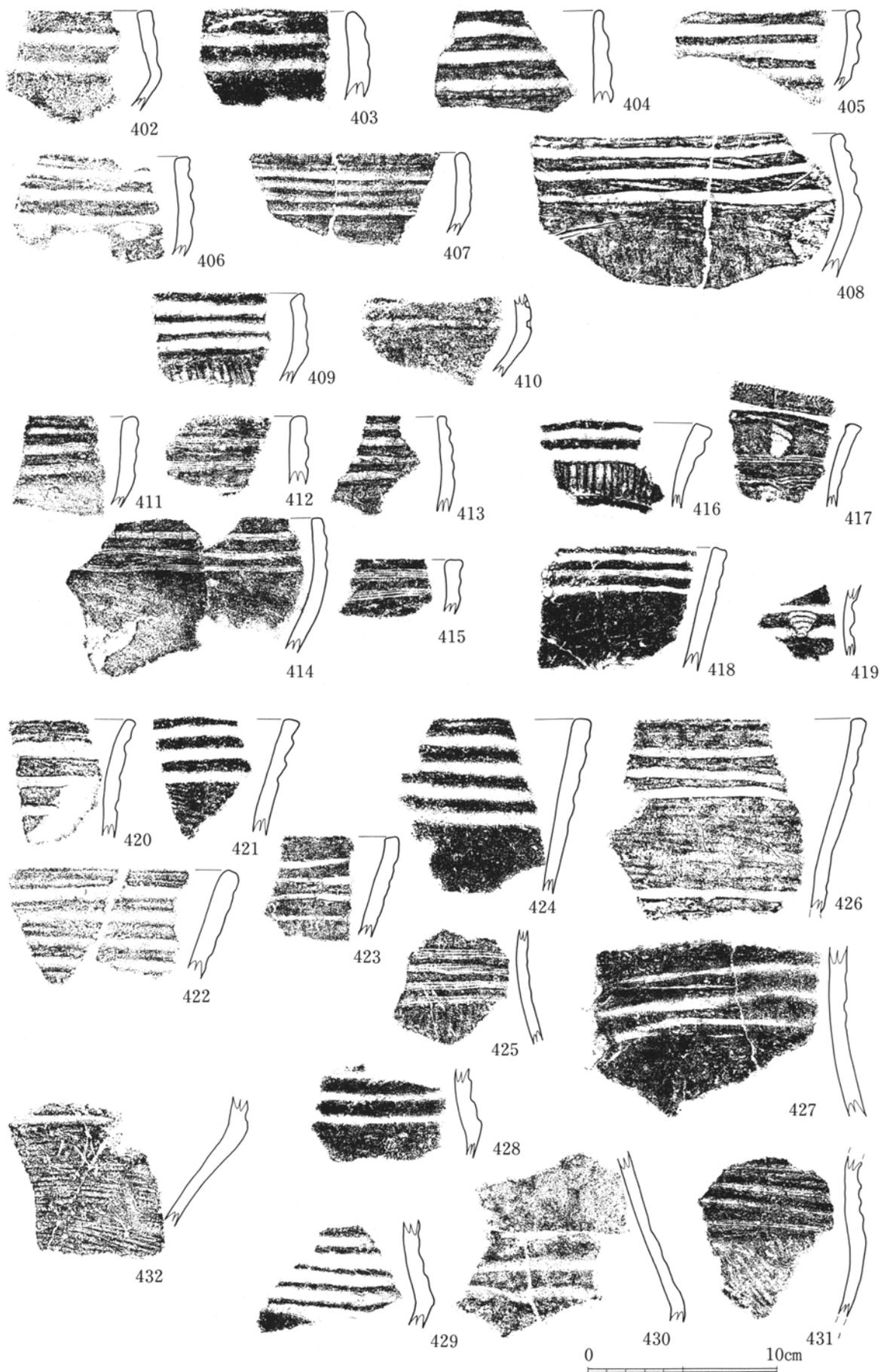


○VII群

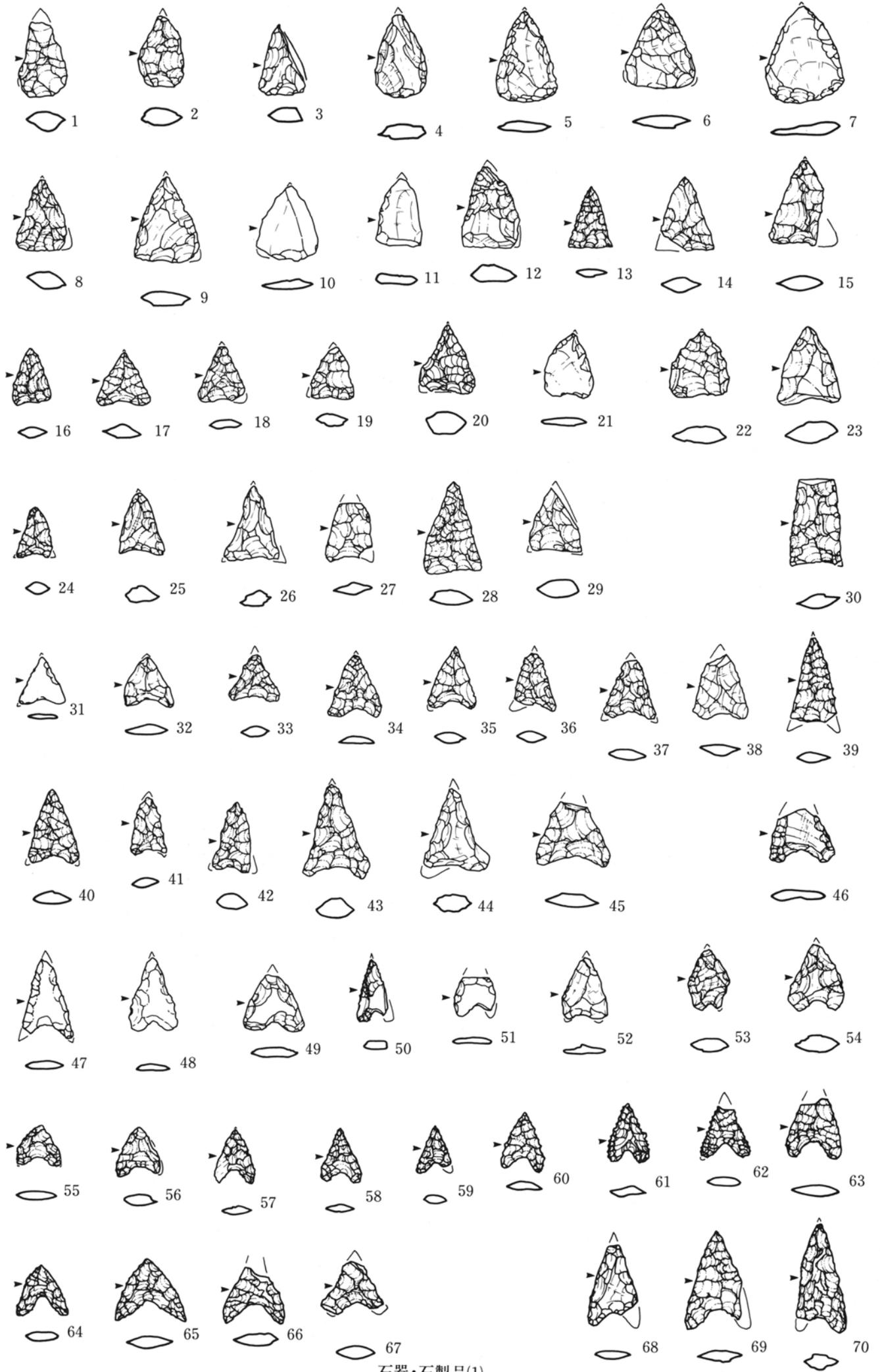


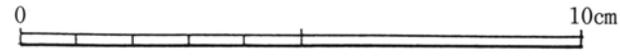
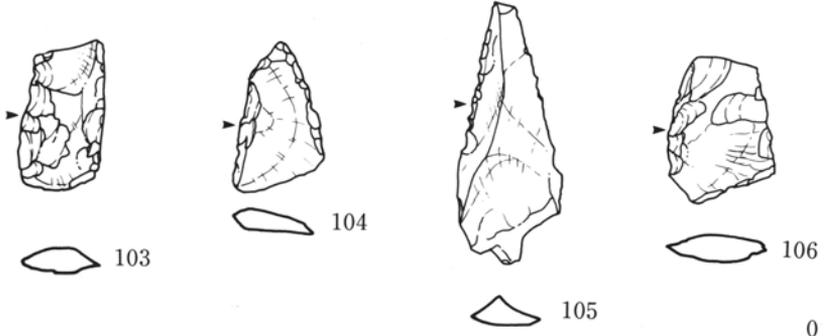
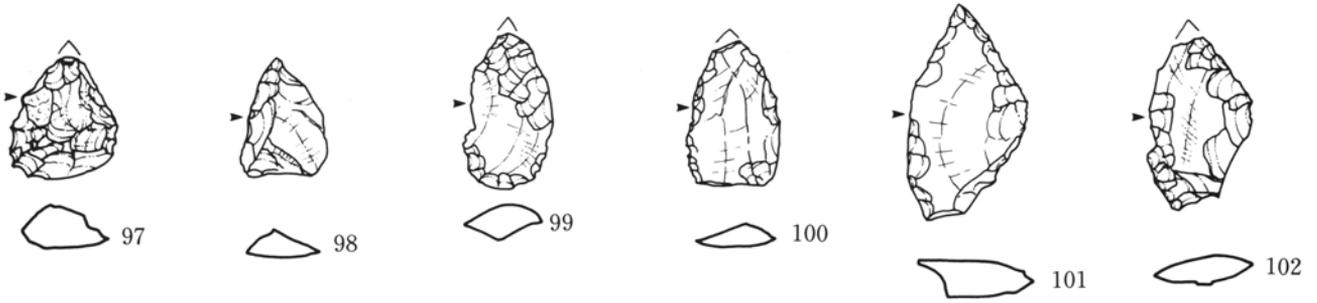
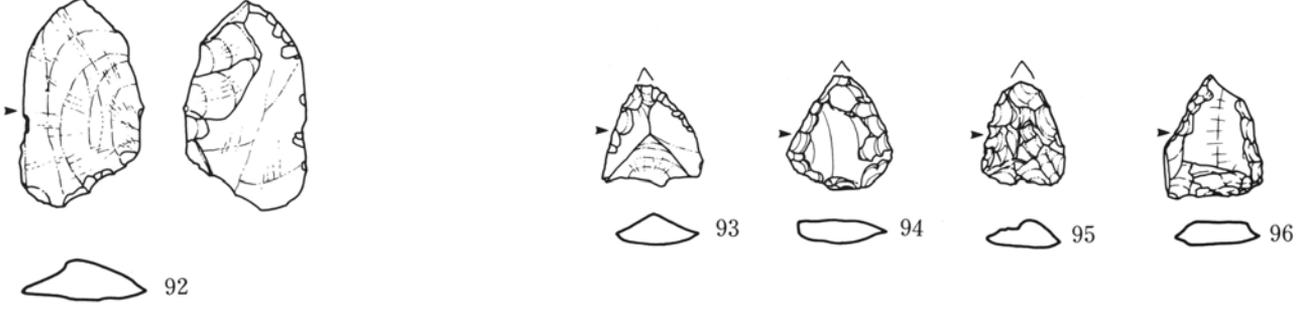
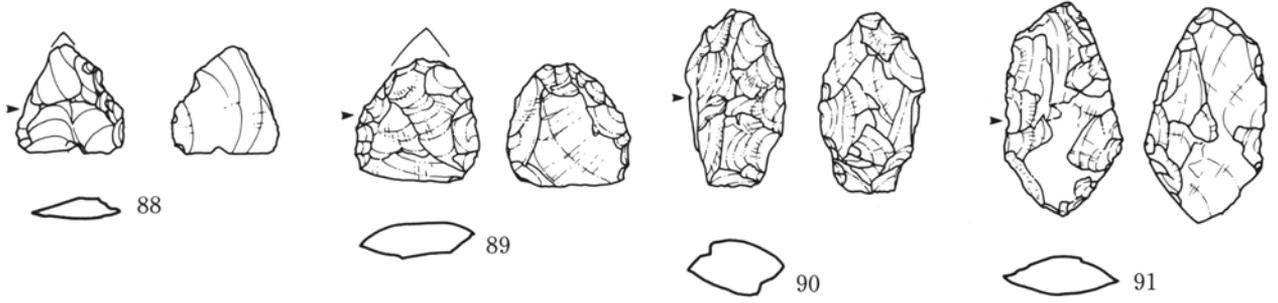
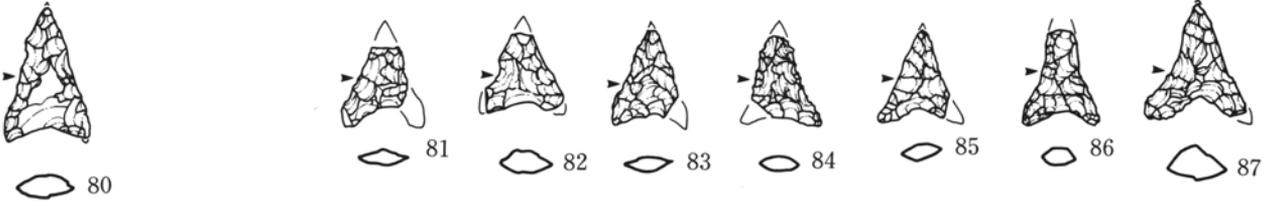
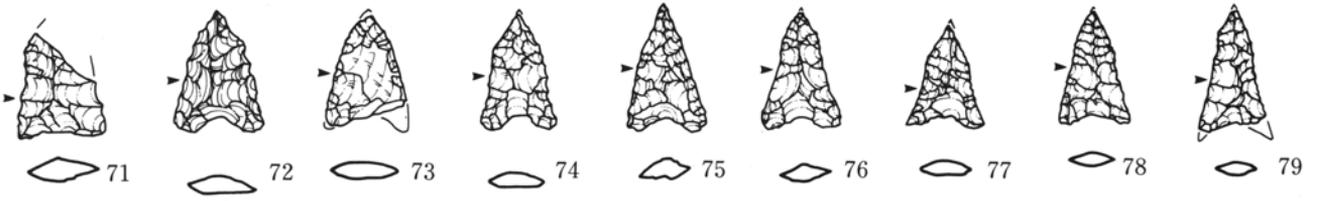
繩文土器 (VI群・VII群)

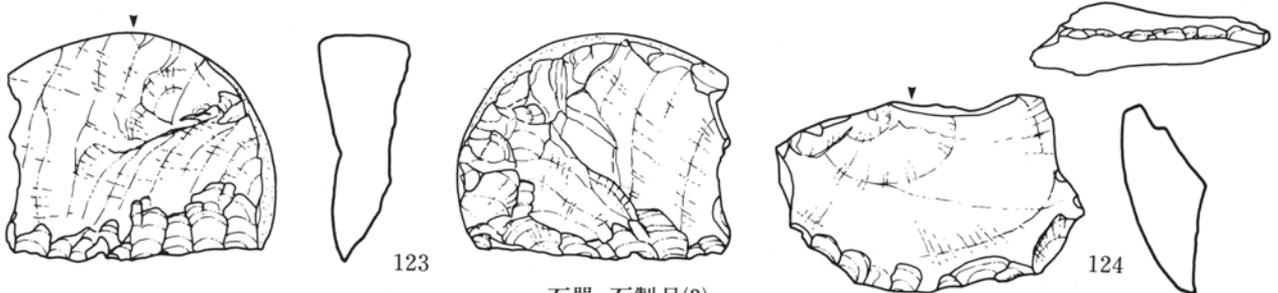
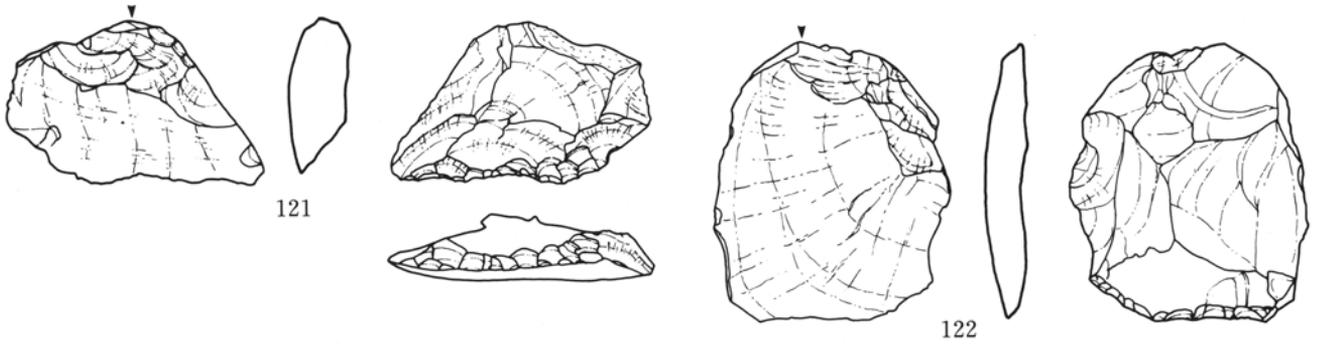
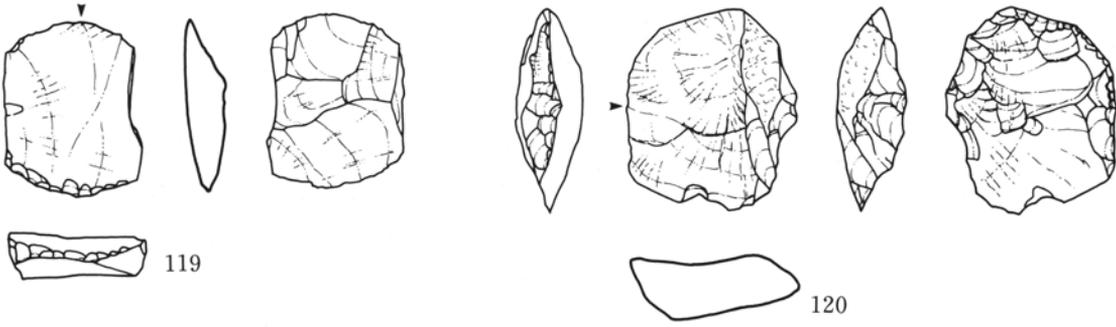
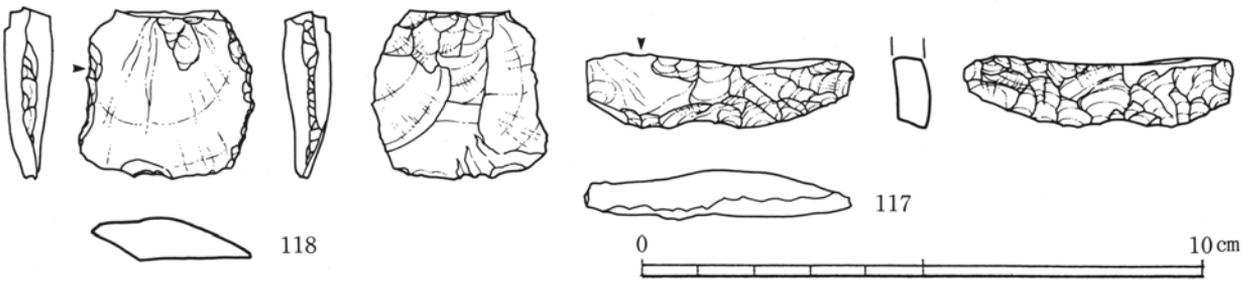
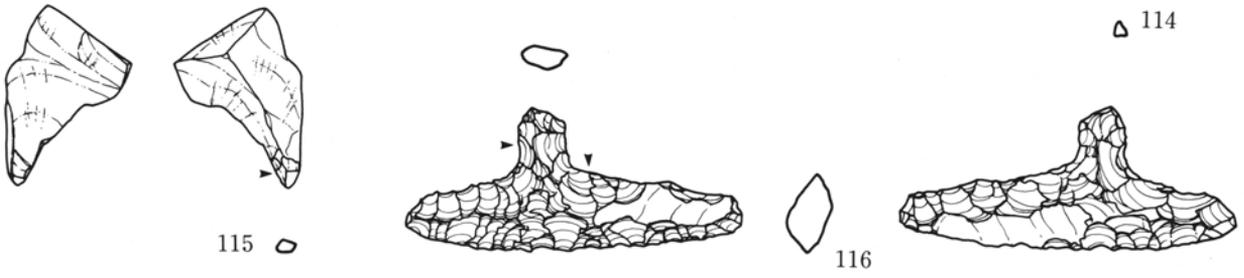
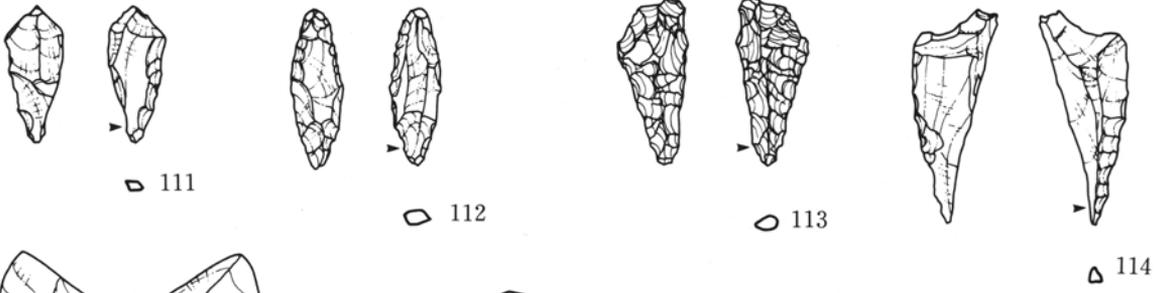
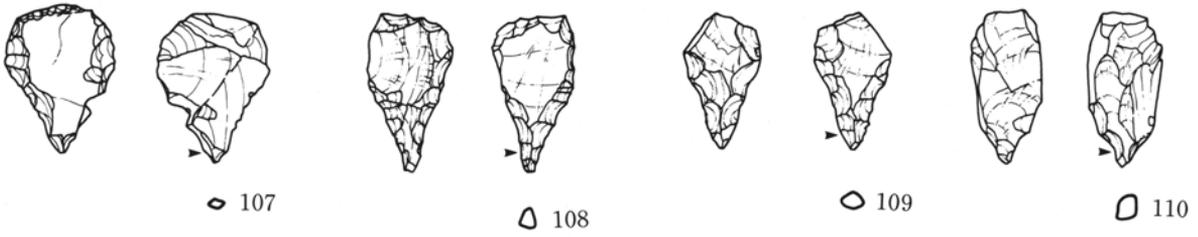
○VII群

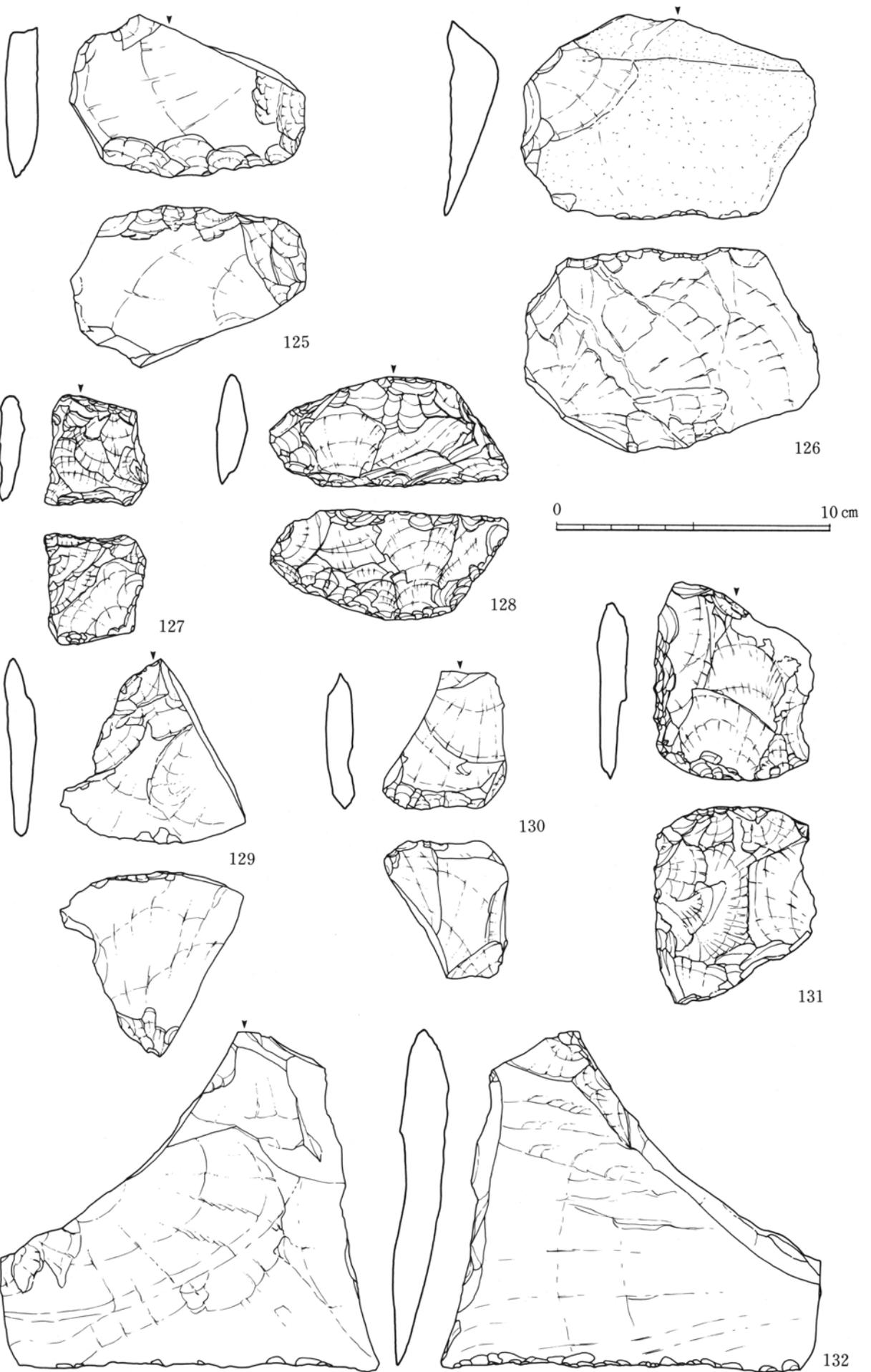


縄文土器(VII群)

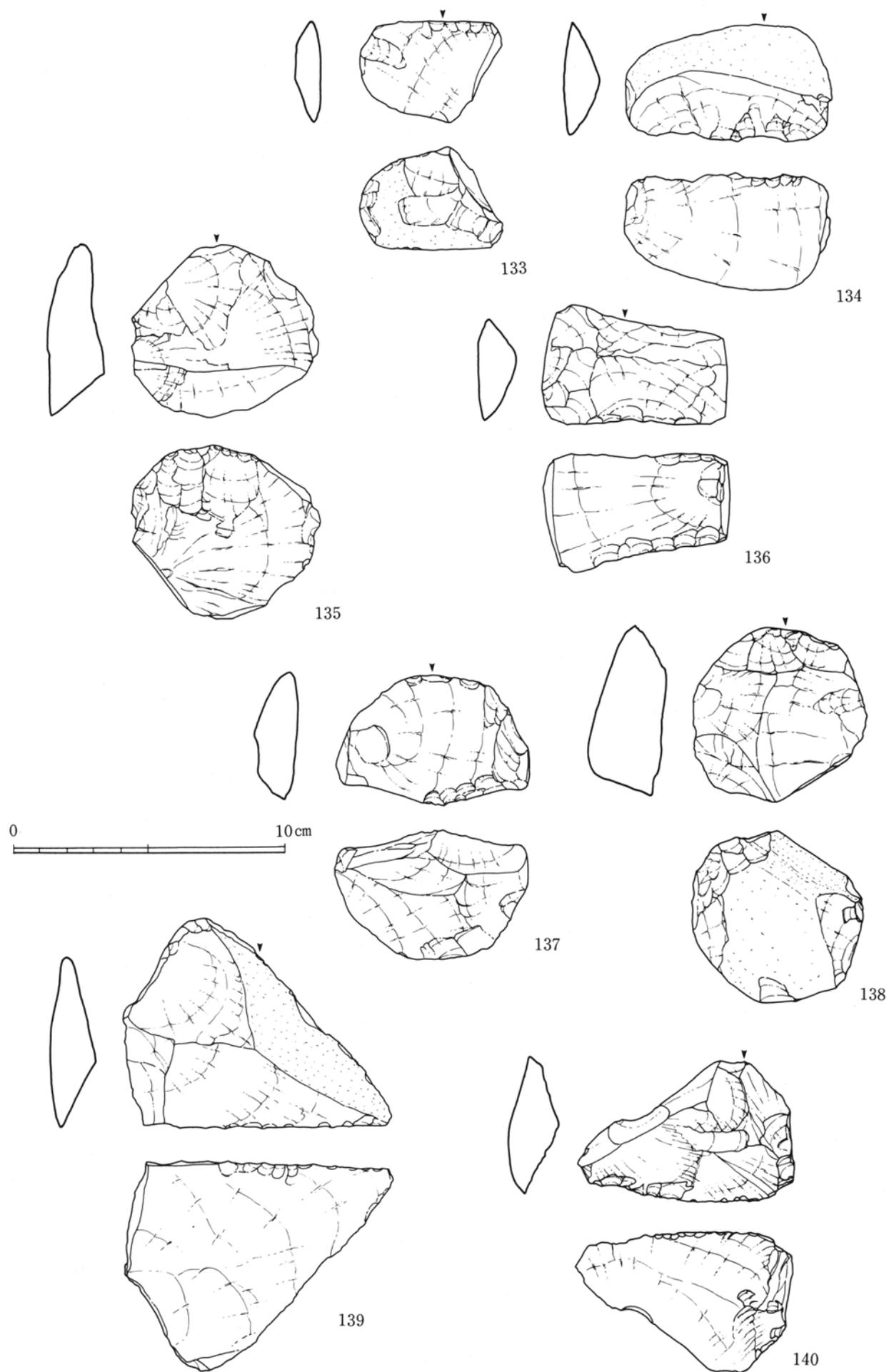


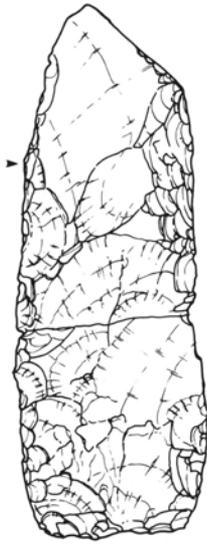




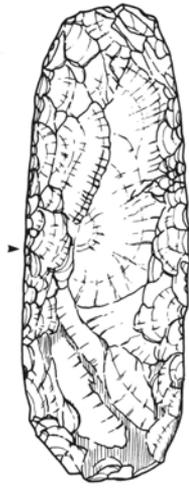


石器·石製品(4)

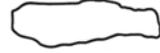




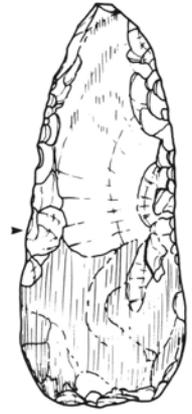
141



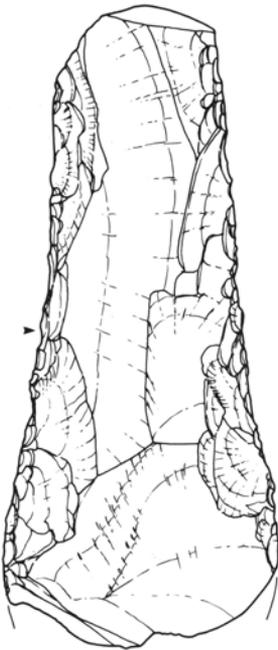
142



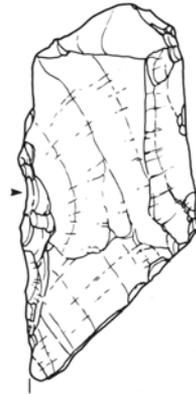
143



144



145



146

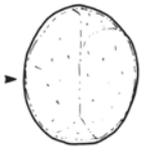


147

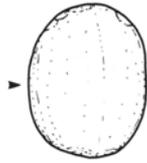


148

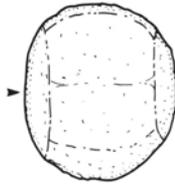




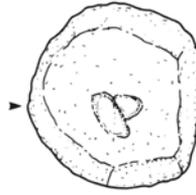
149



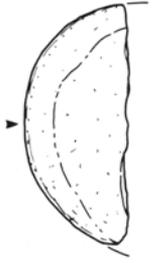
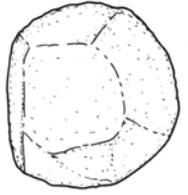
150



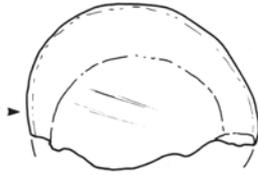
151



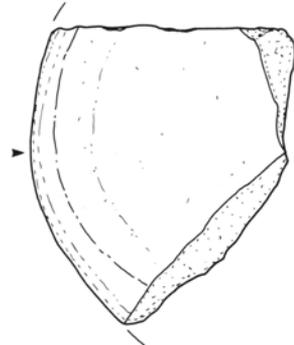
152



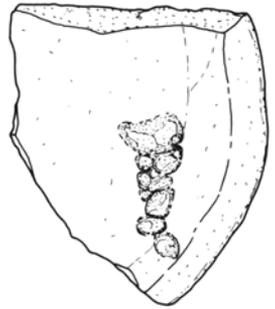
153



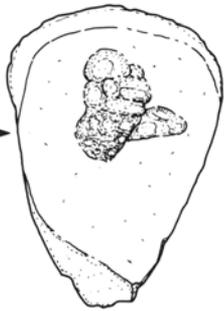
154



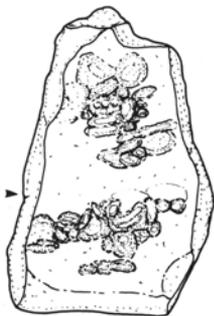
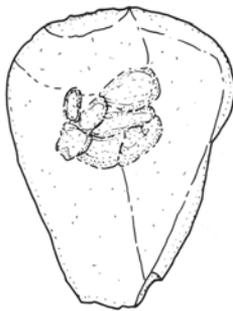
157



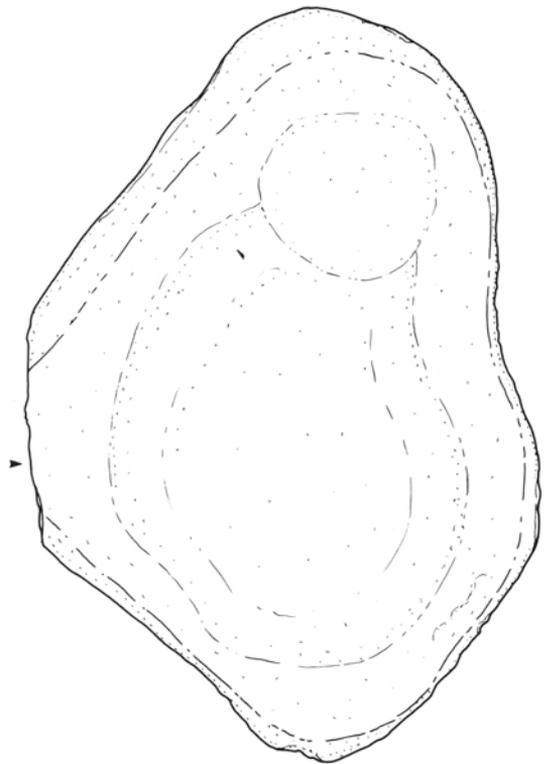
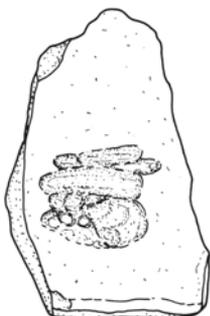
0 10 cm



155

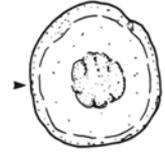
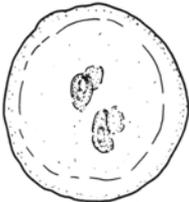
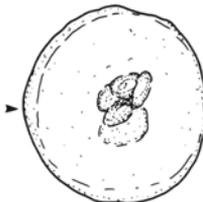
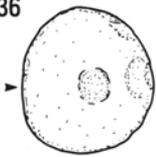


156

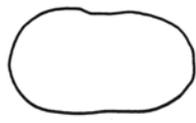


158





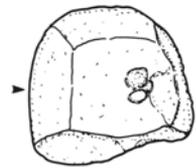
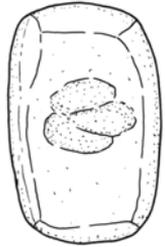
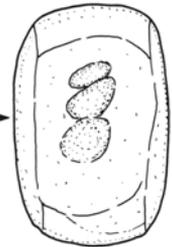
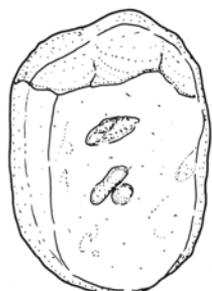
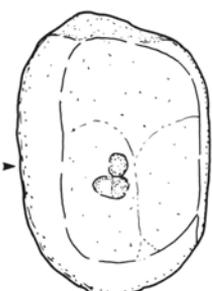
159



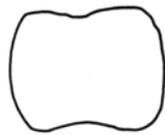
160



161



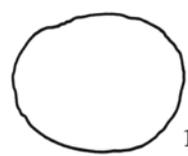
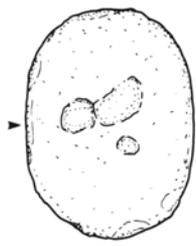
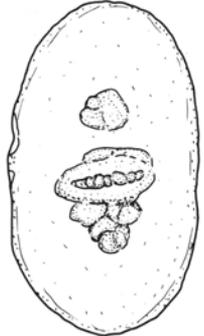
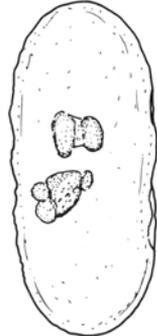
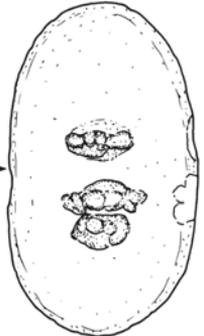
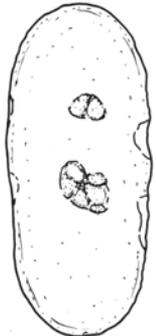
162



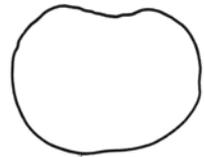
163



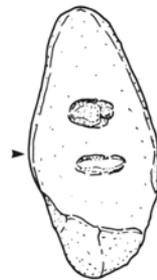
164



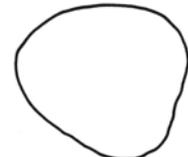
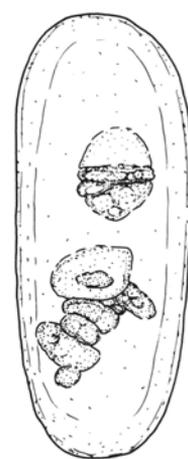
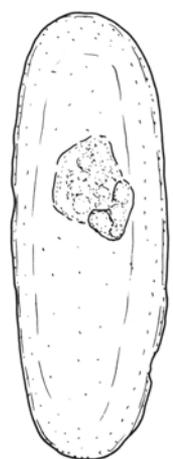
165



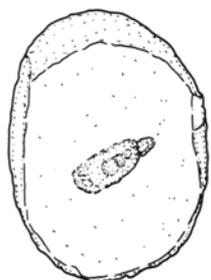
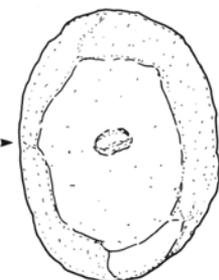
168



166

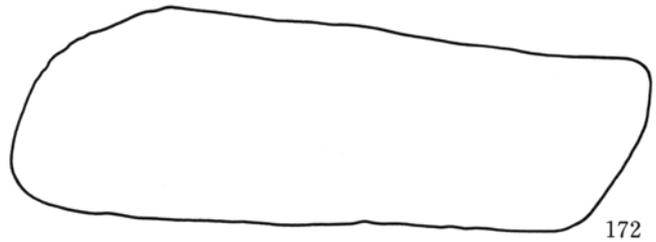
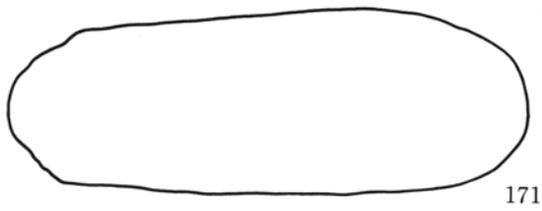
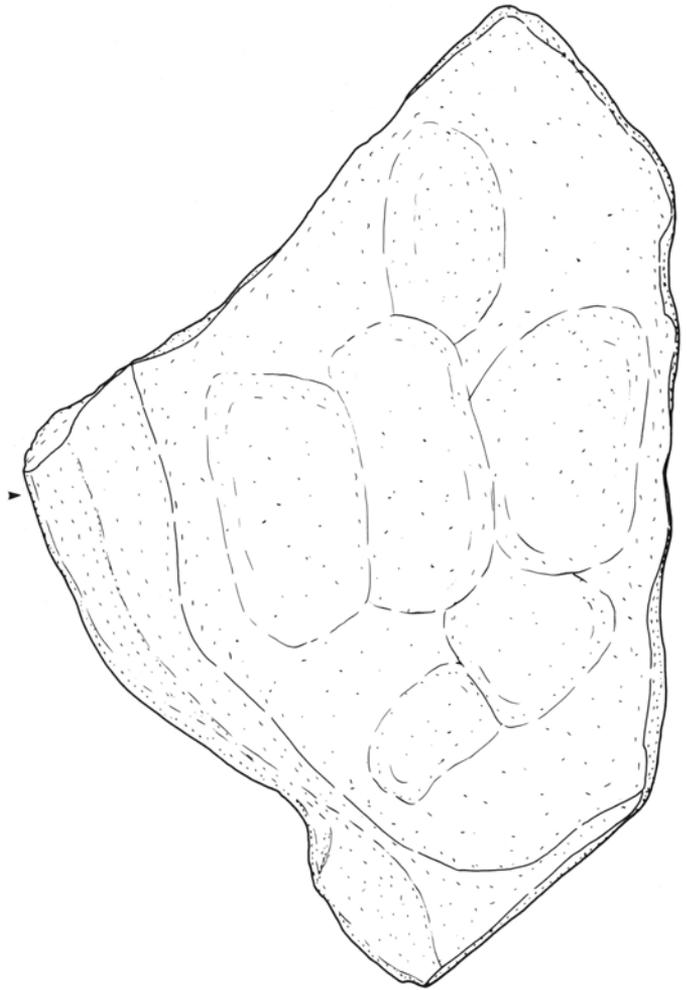
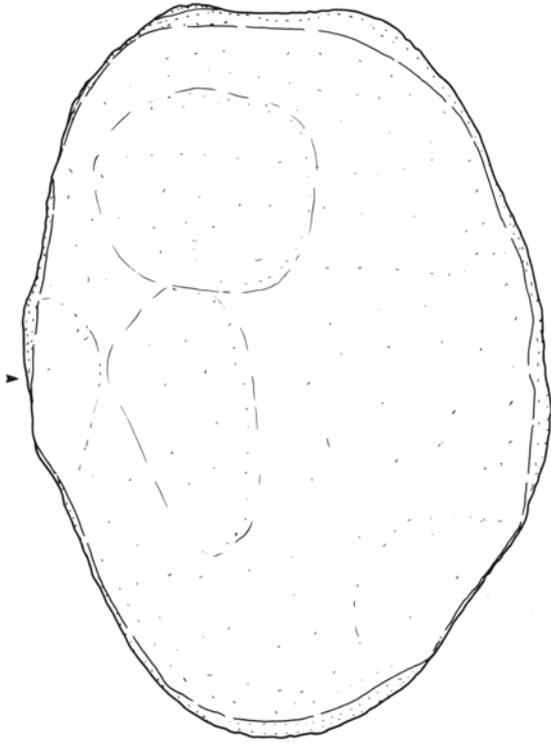
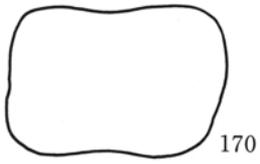
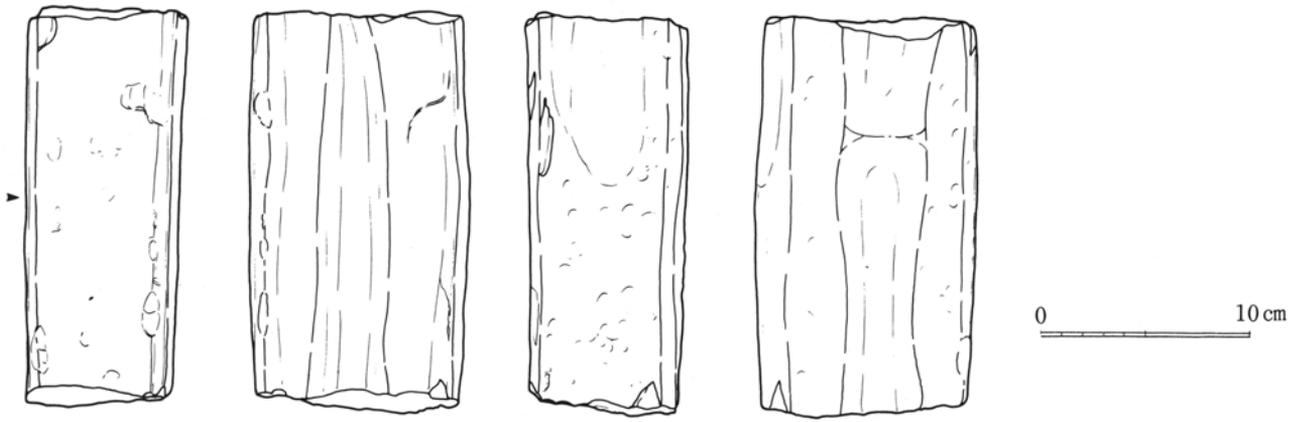


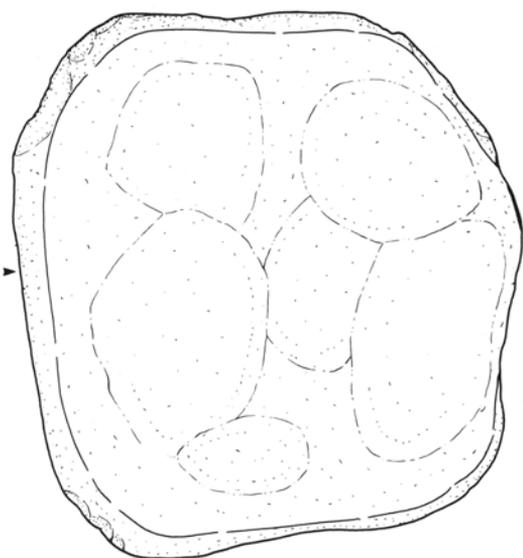
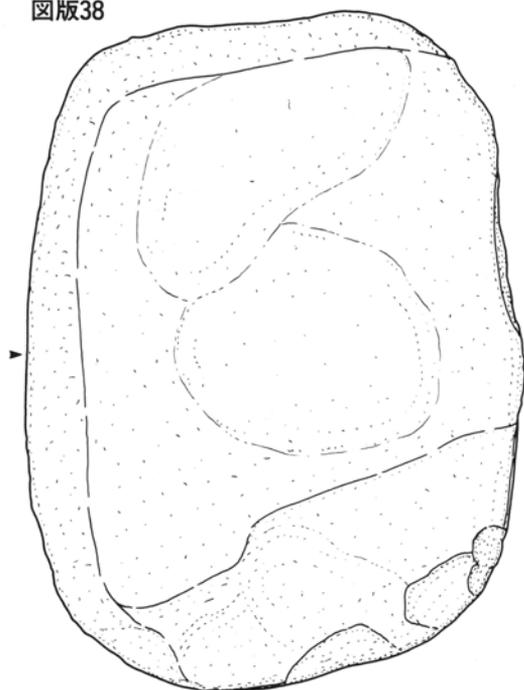
169



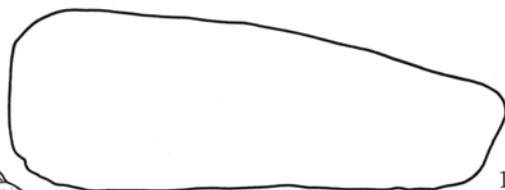
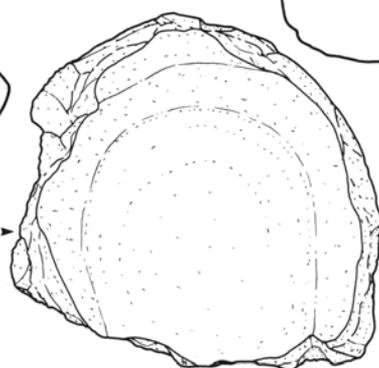
167

0 10 cm





173

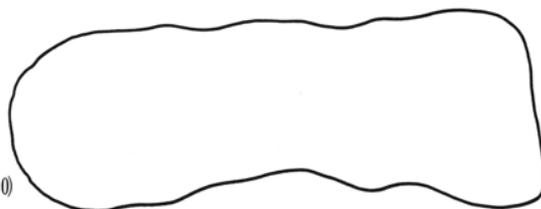
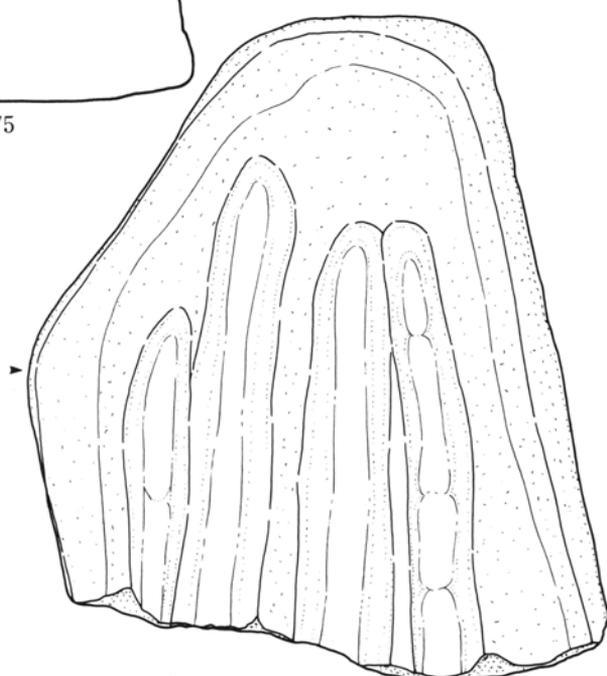
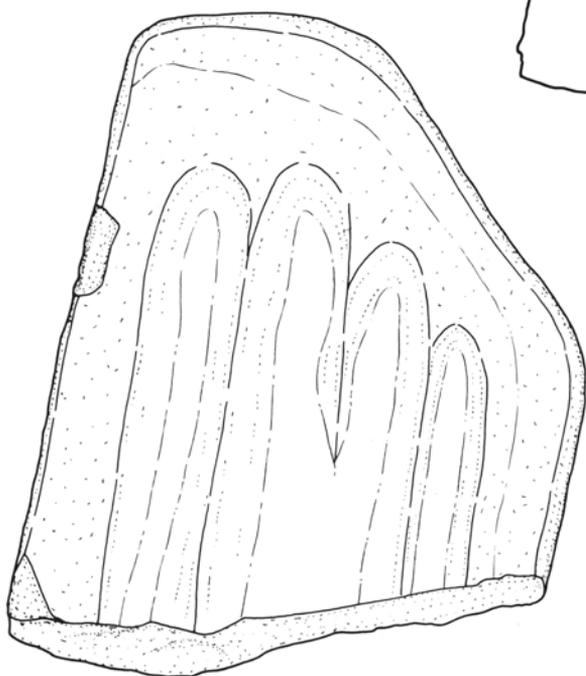


174

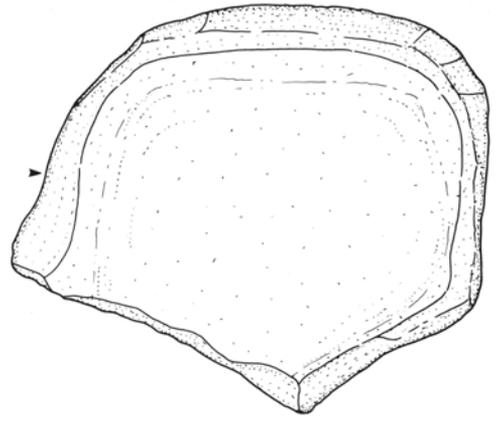
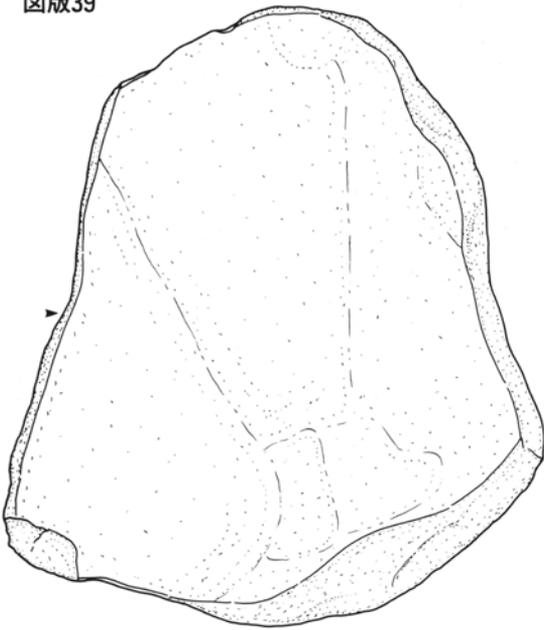
0 10 cm



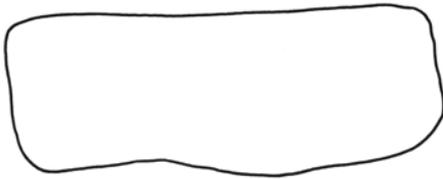
175



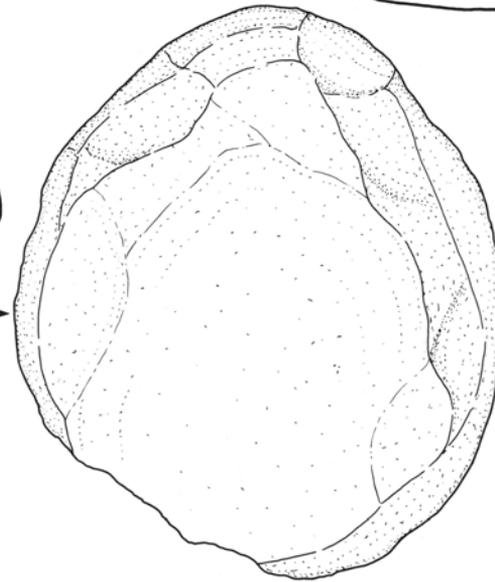
176



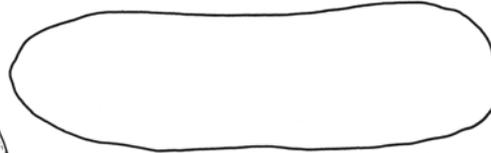
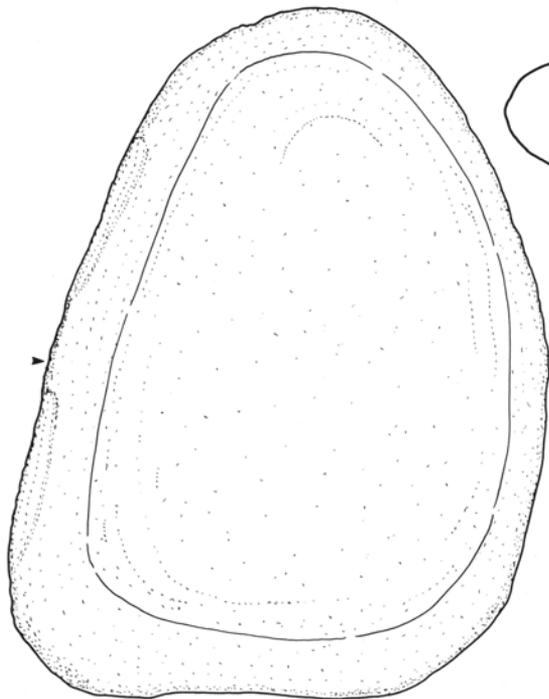
178



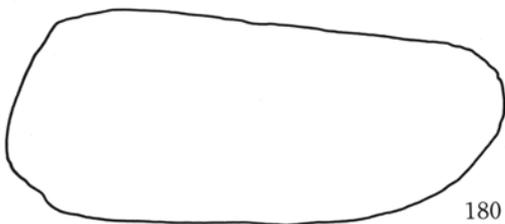
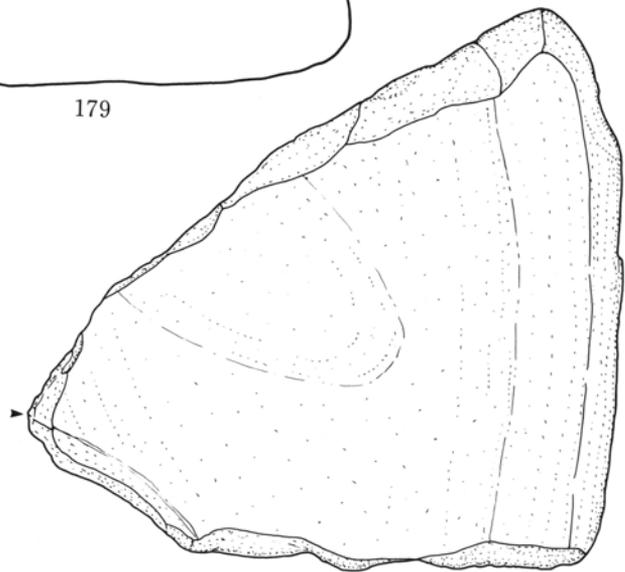
177



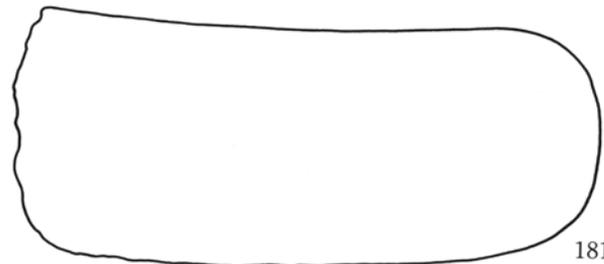
0 10cm



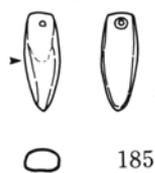
179



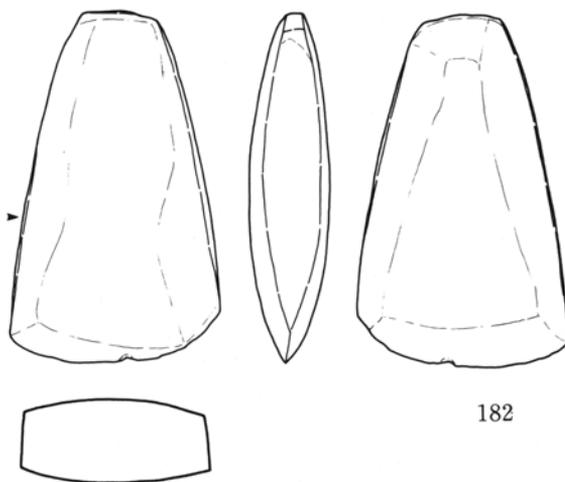
180



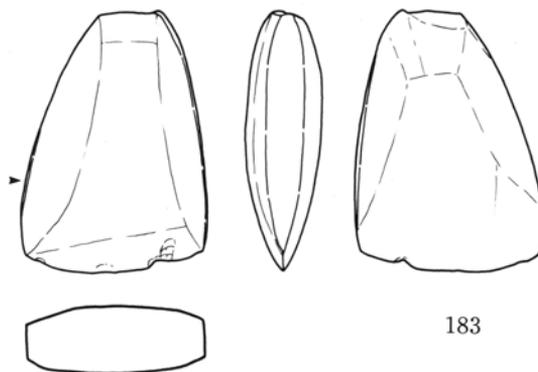
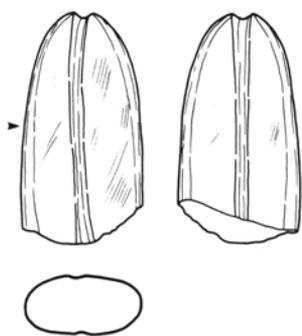
181



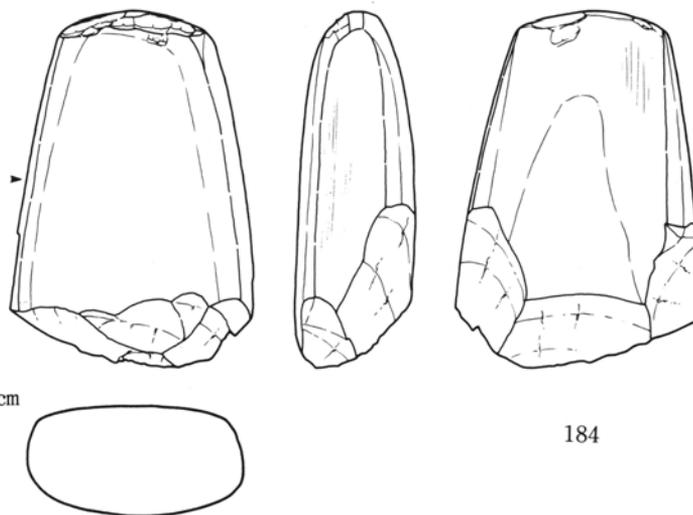
185



182

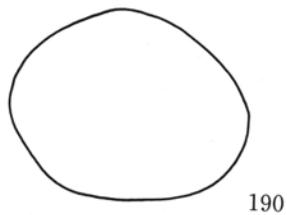
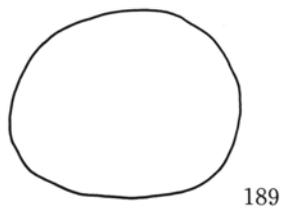
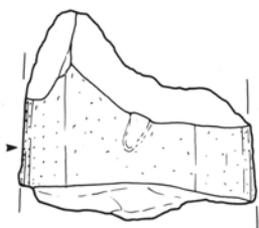
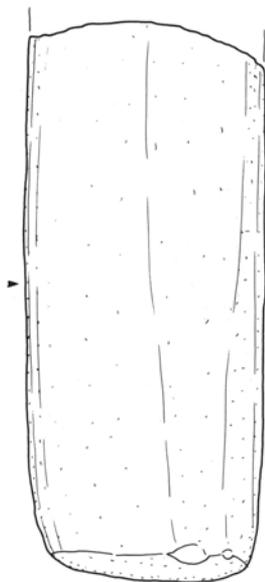
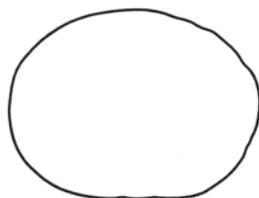
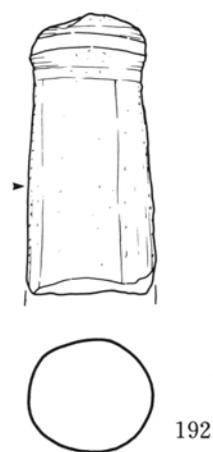
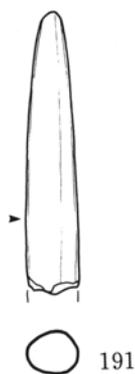
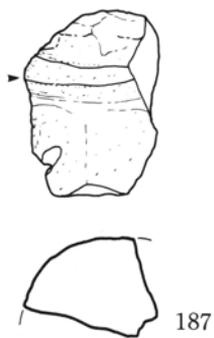


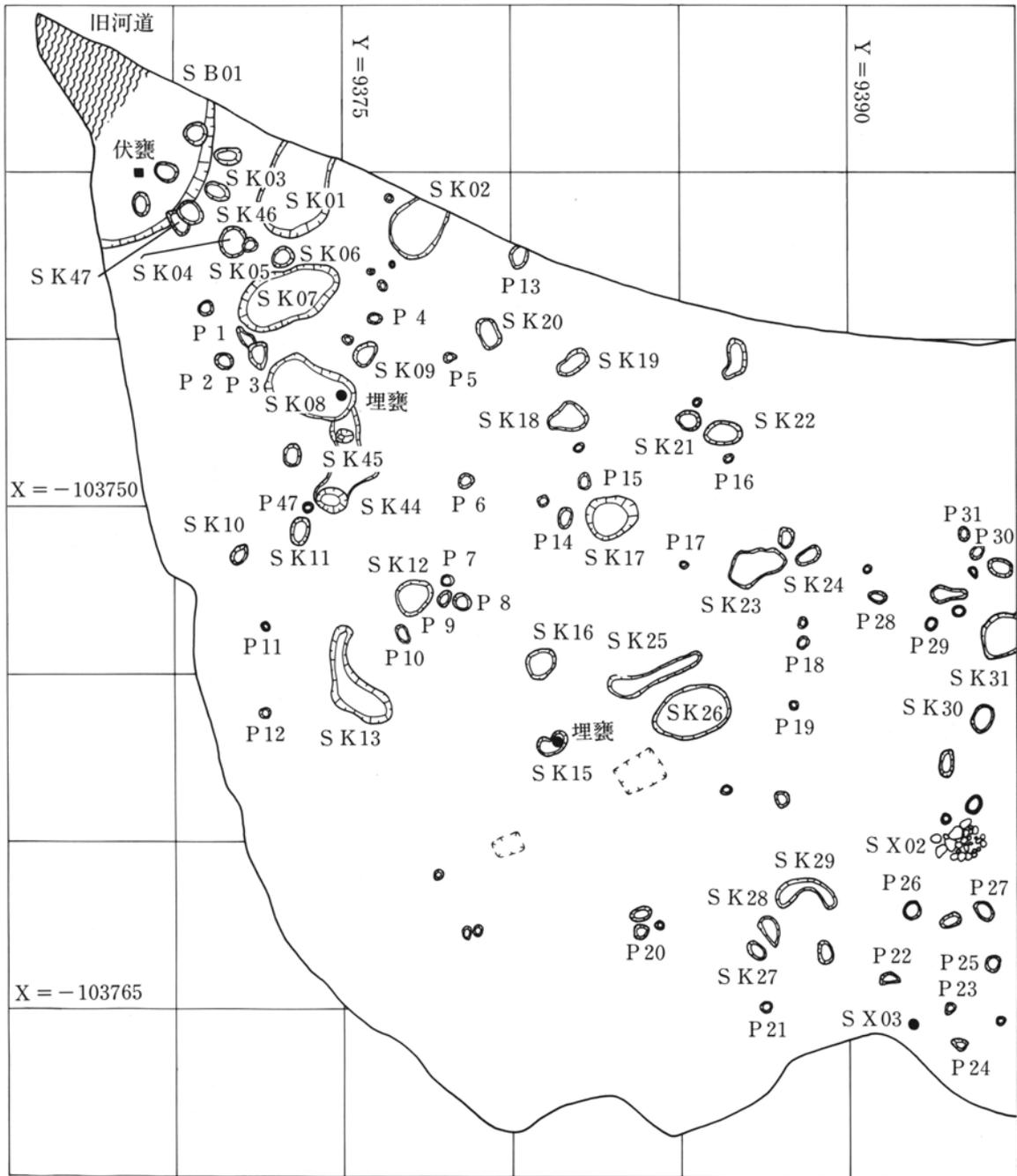
183



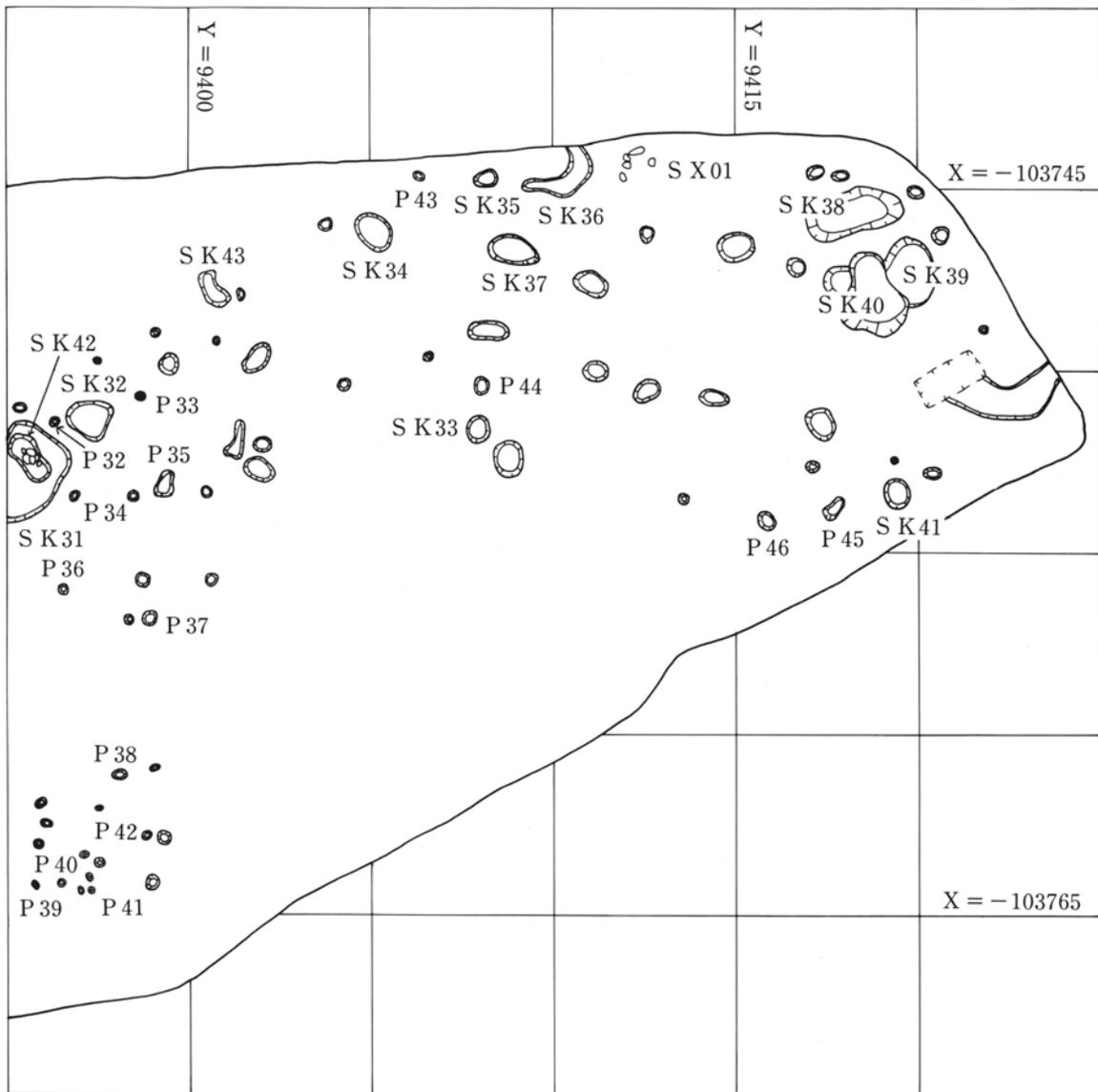
184

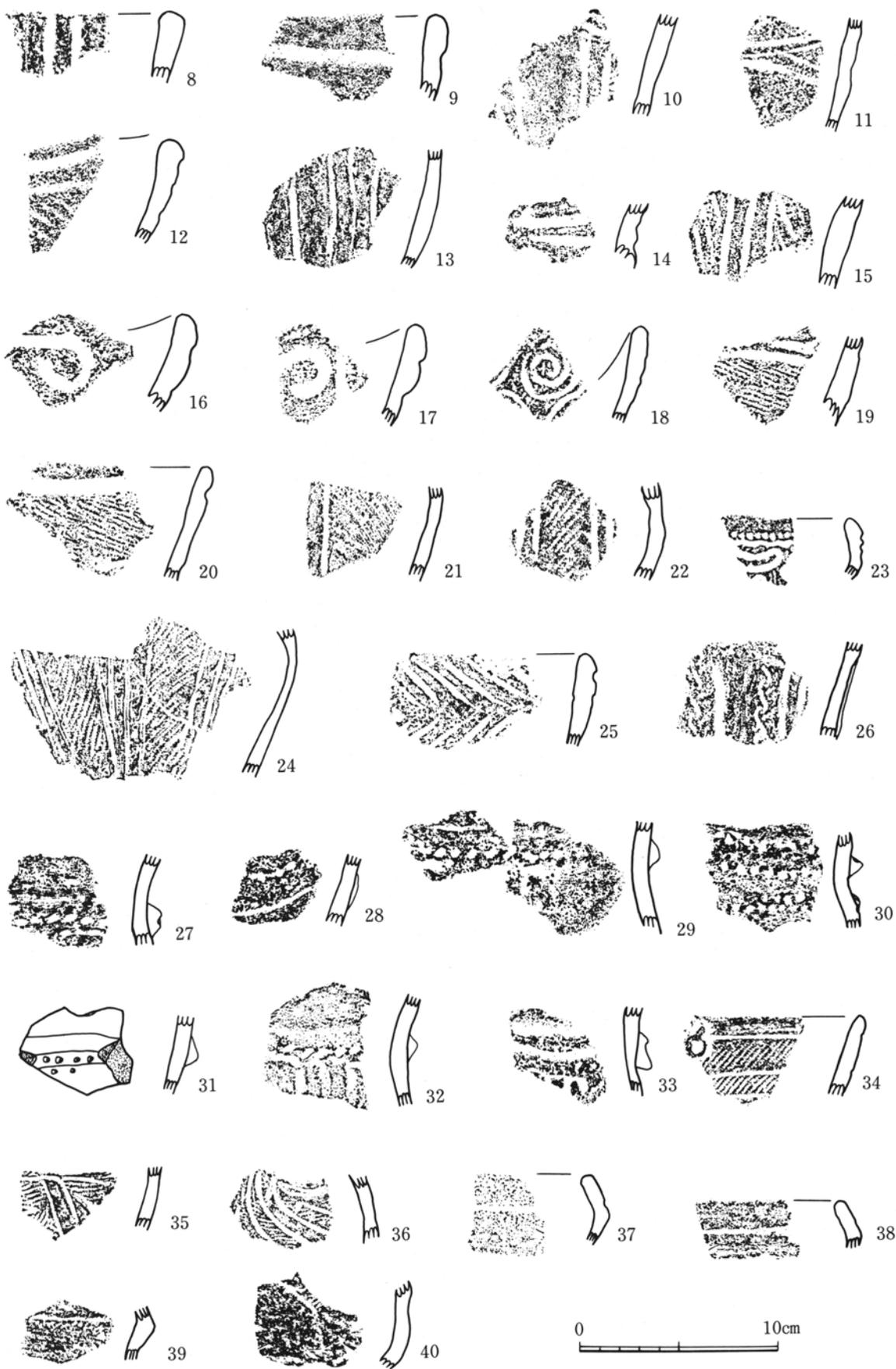






三本松遺跡遺構全体図(1) (1/200)

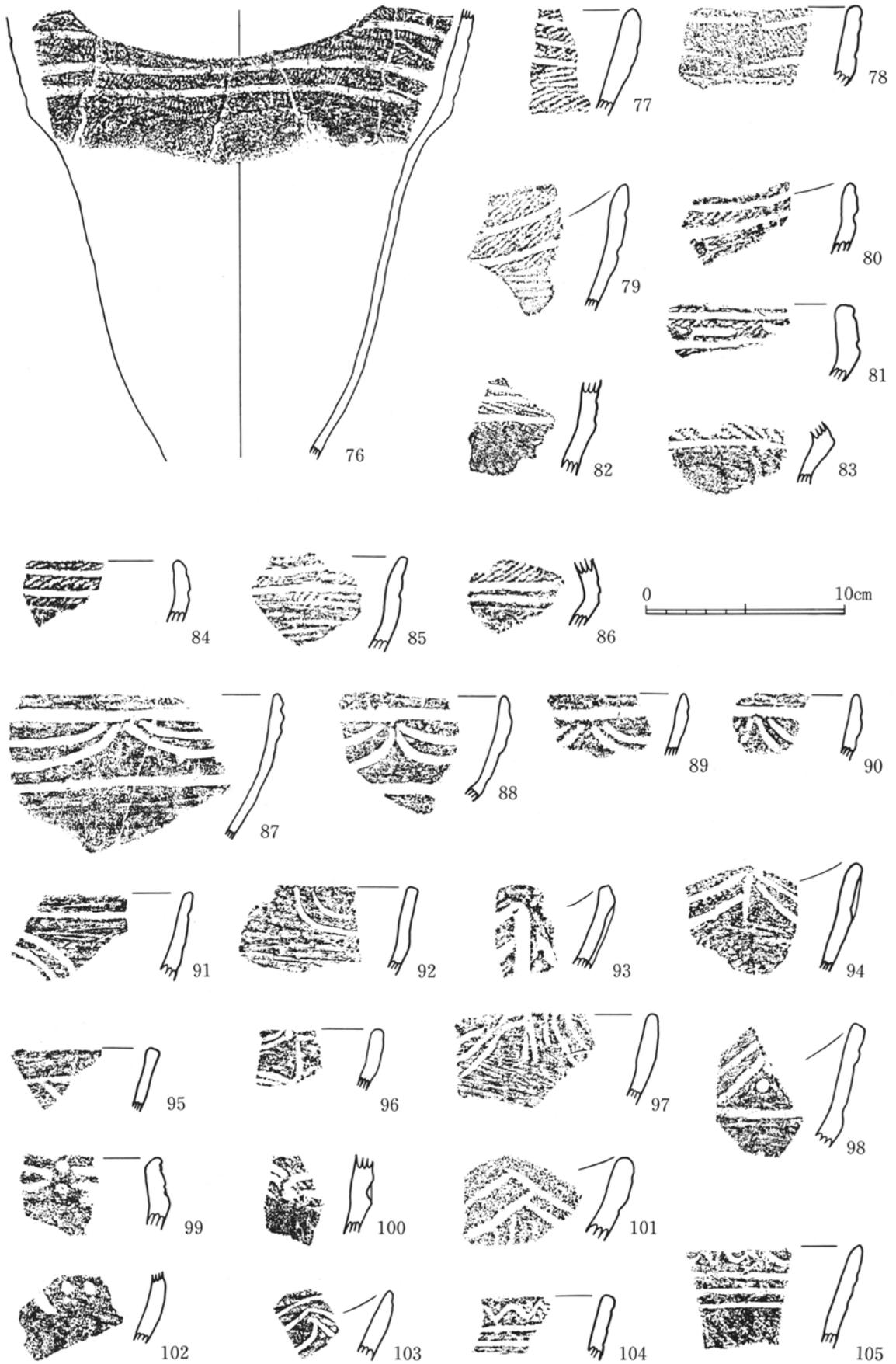




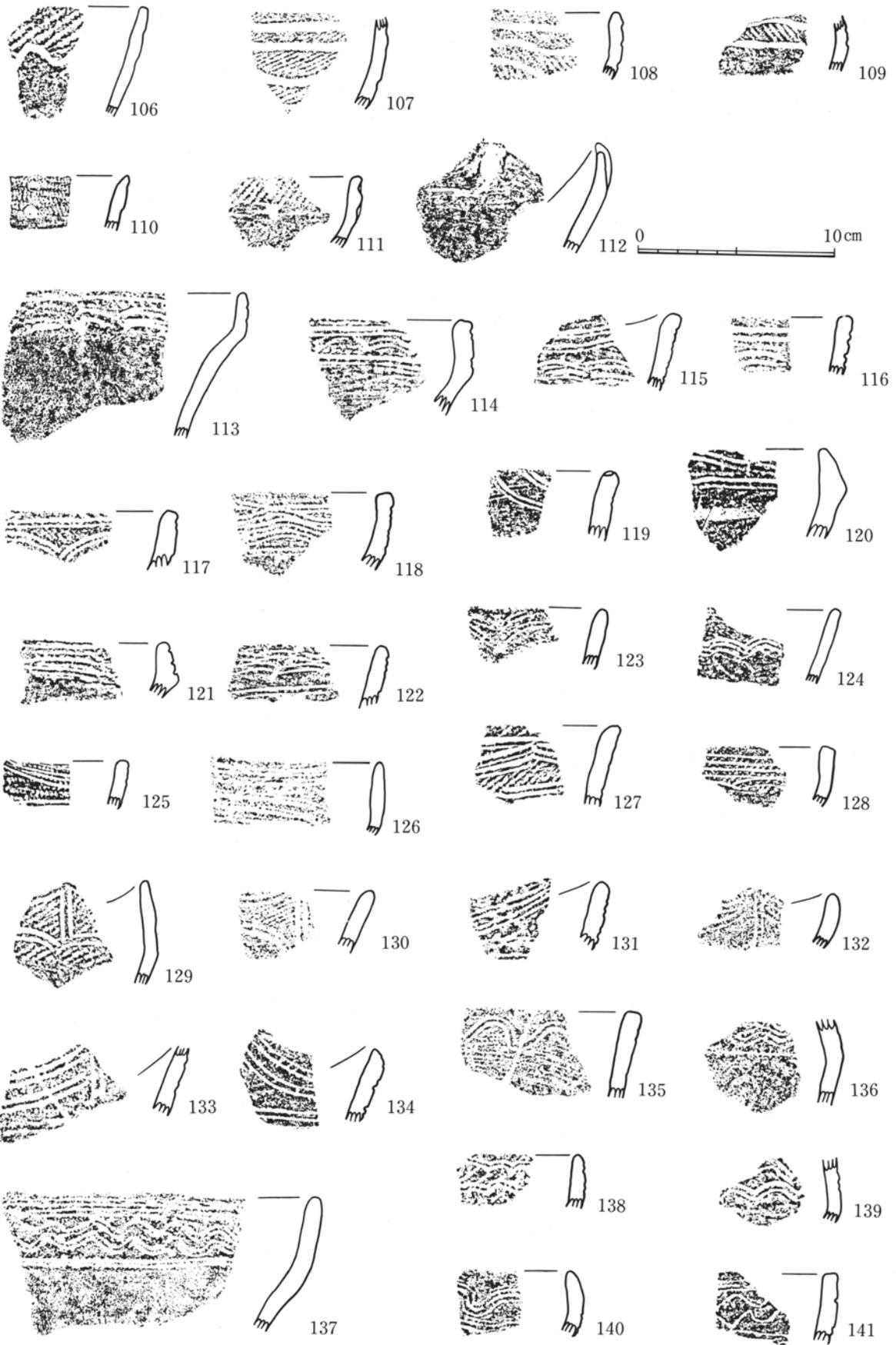
繩文土器(1群・2群)

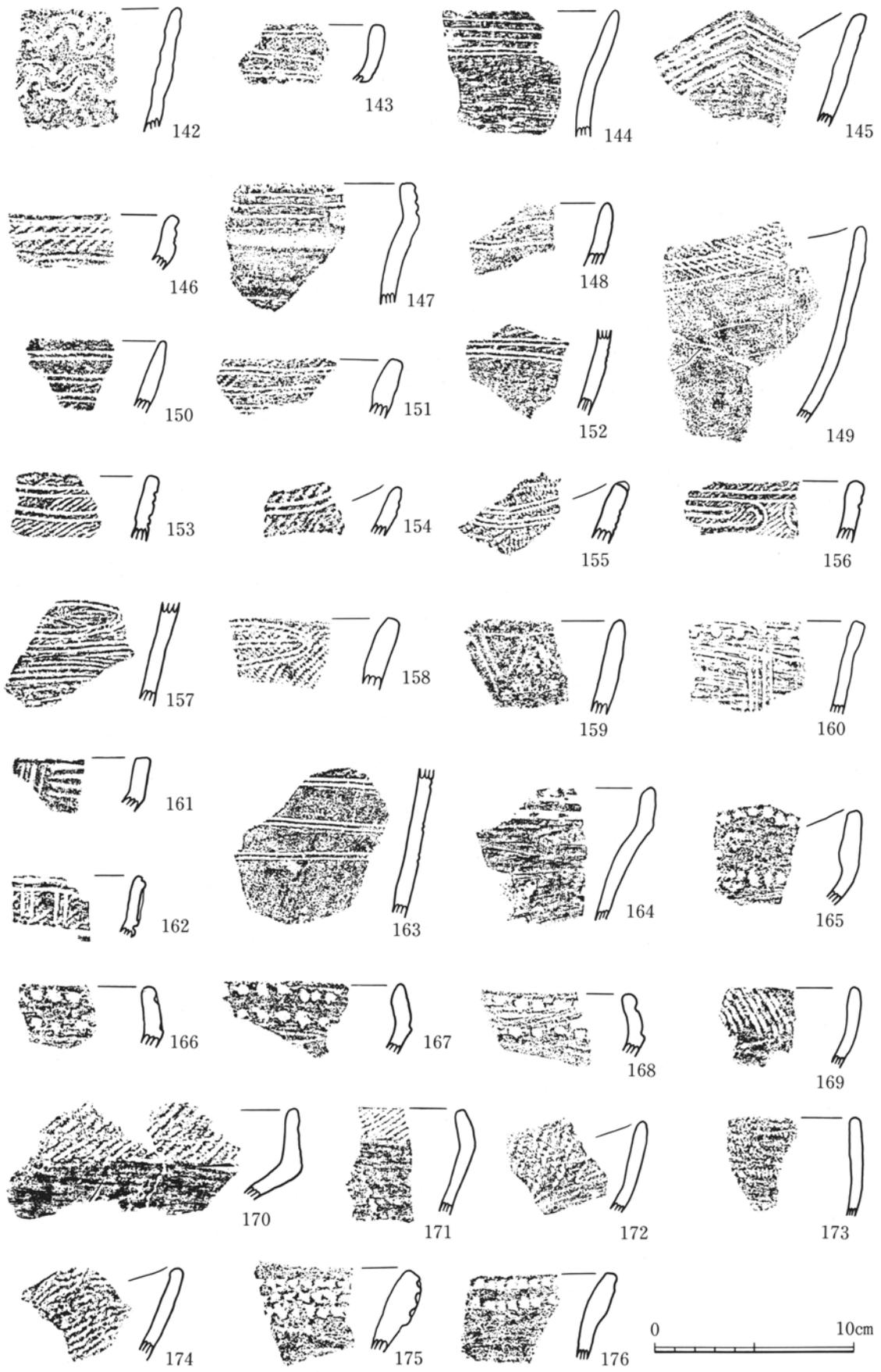


繩文土器(2群・3群a類)

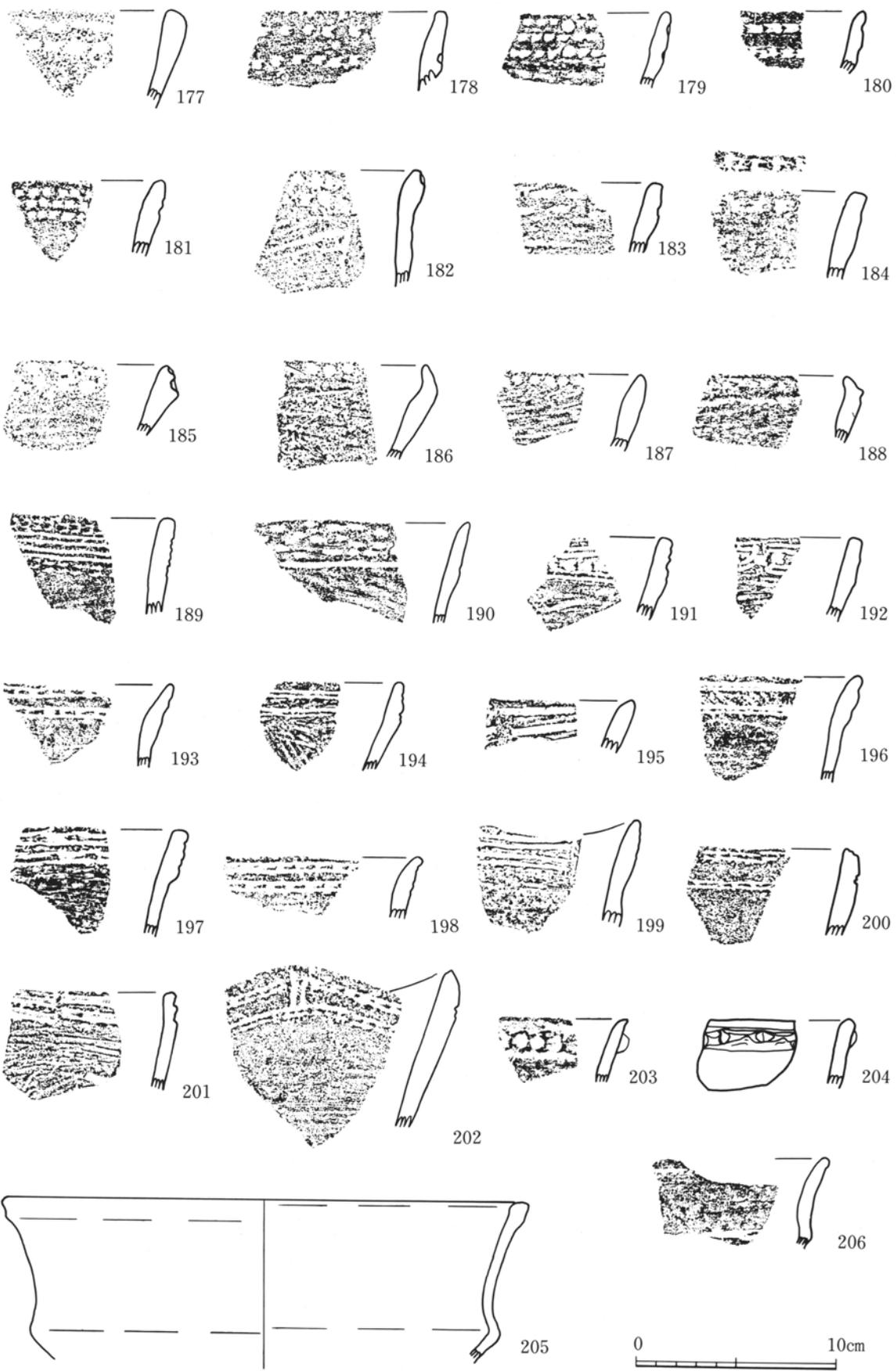


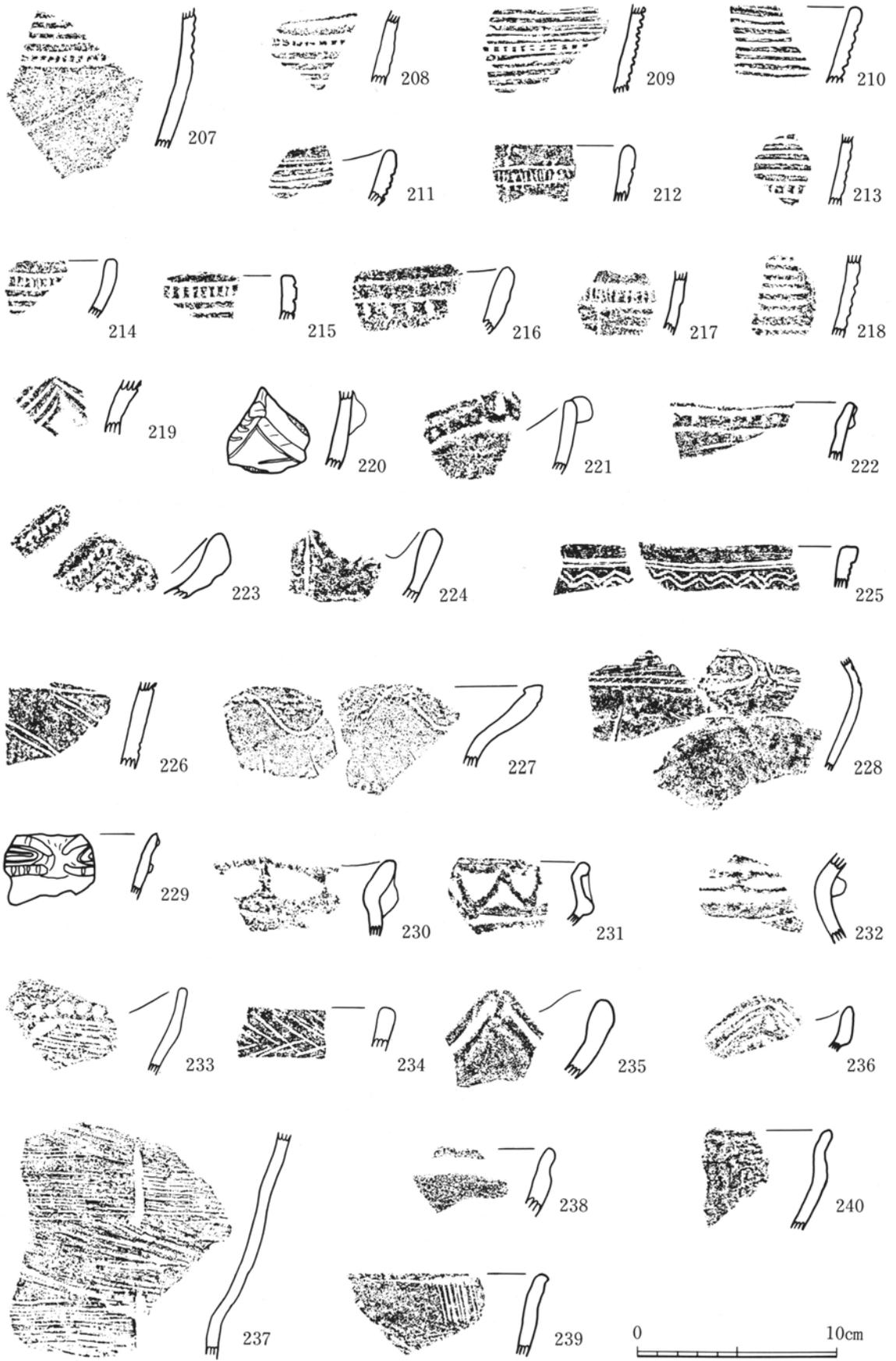
繩文土器(3群a類・b類)



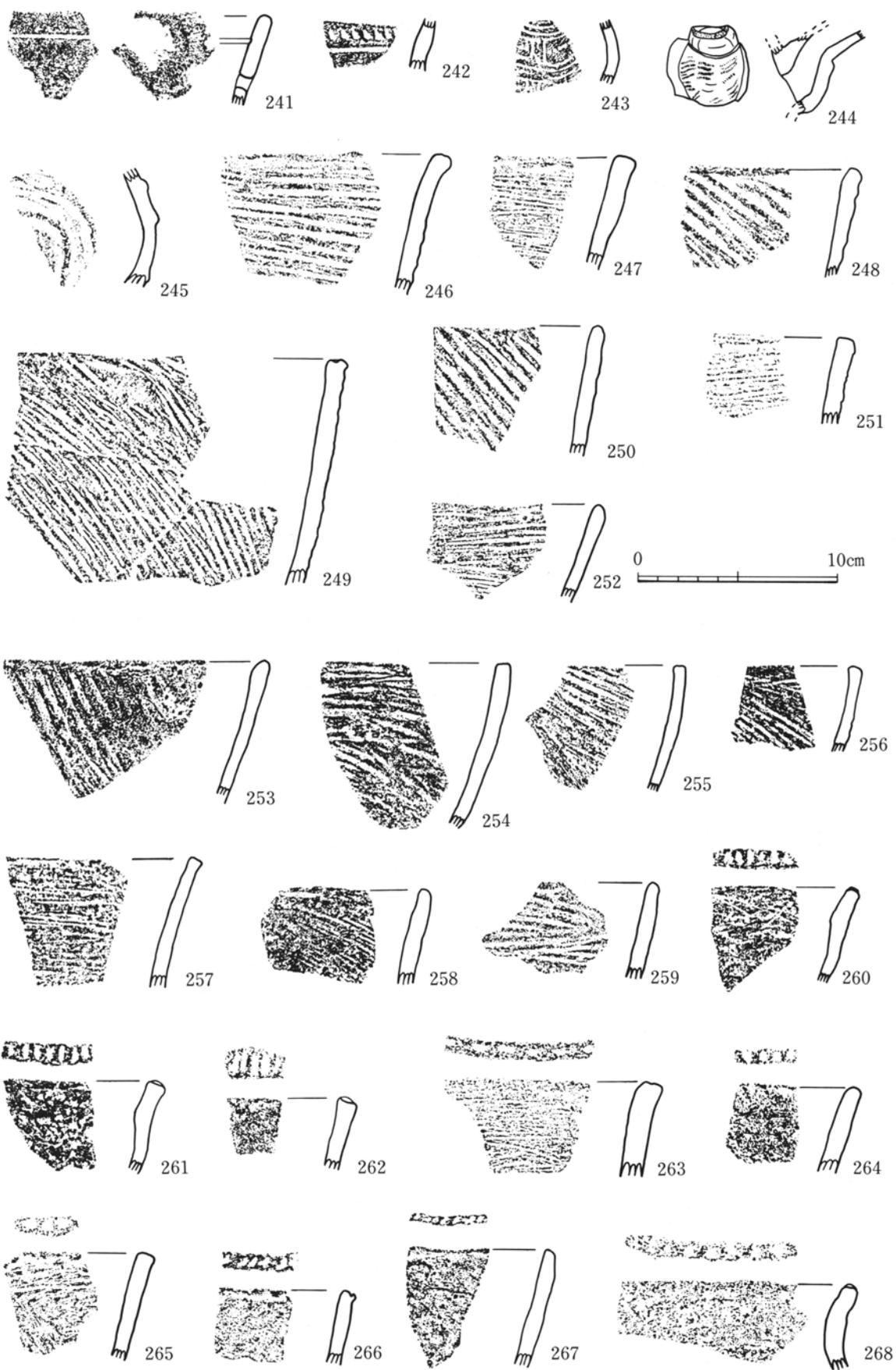


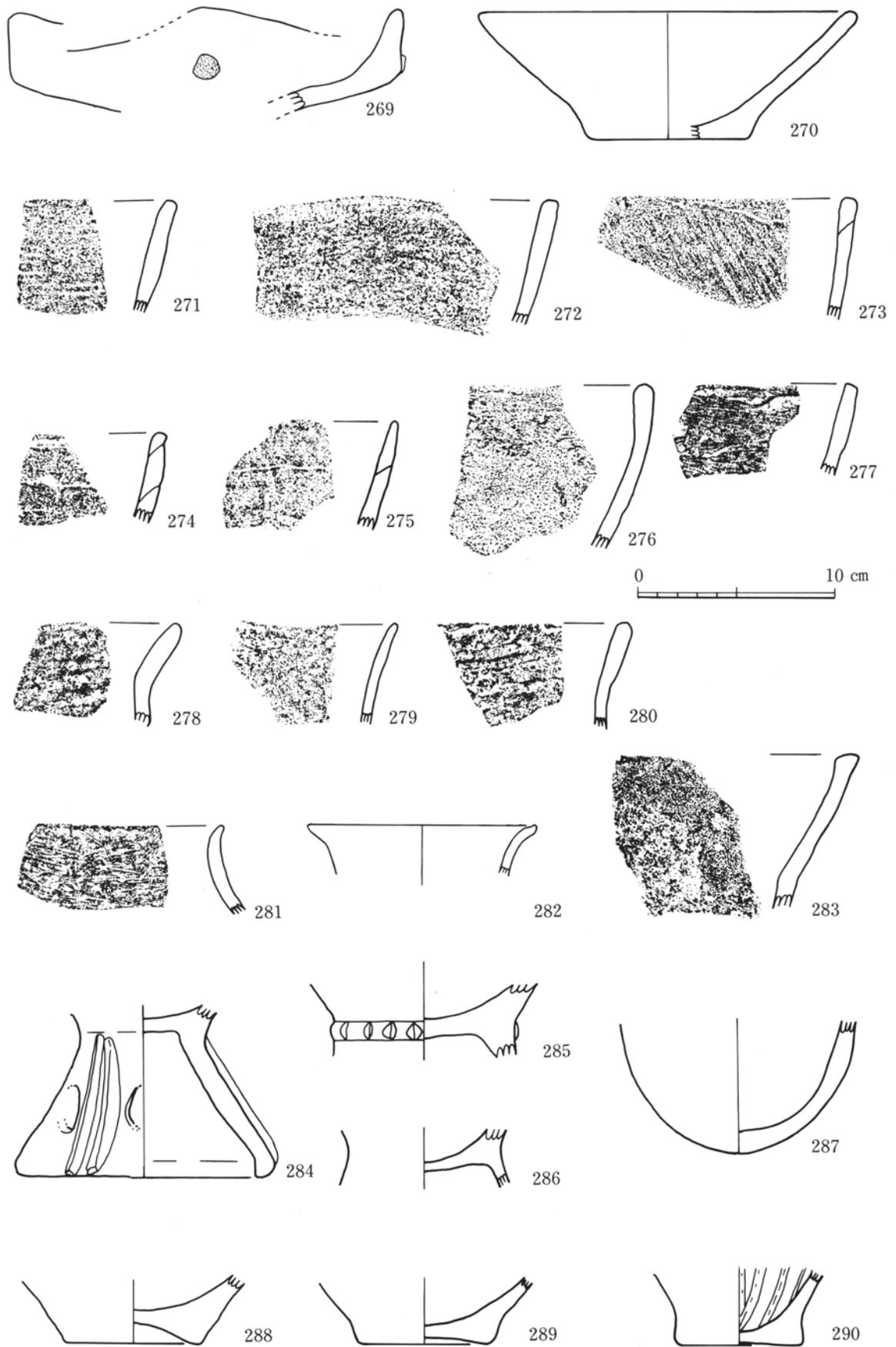
繩文土器(4群・5群a類)



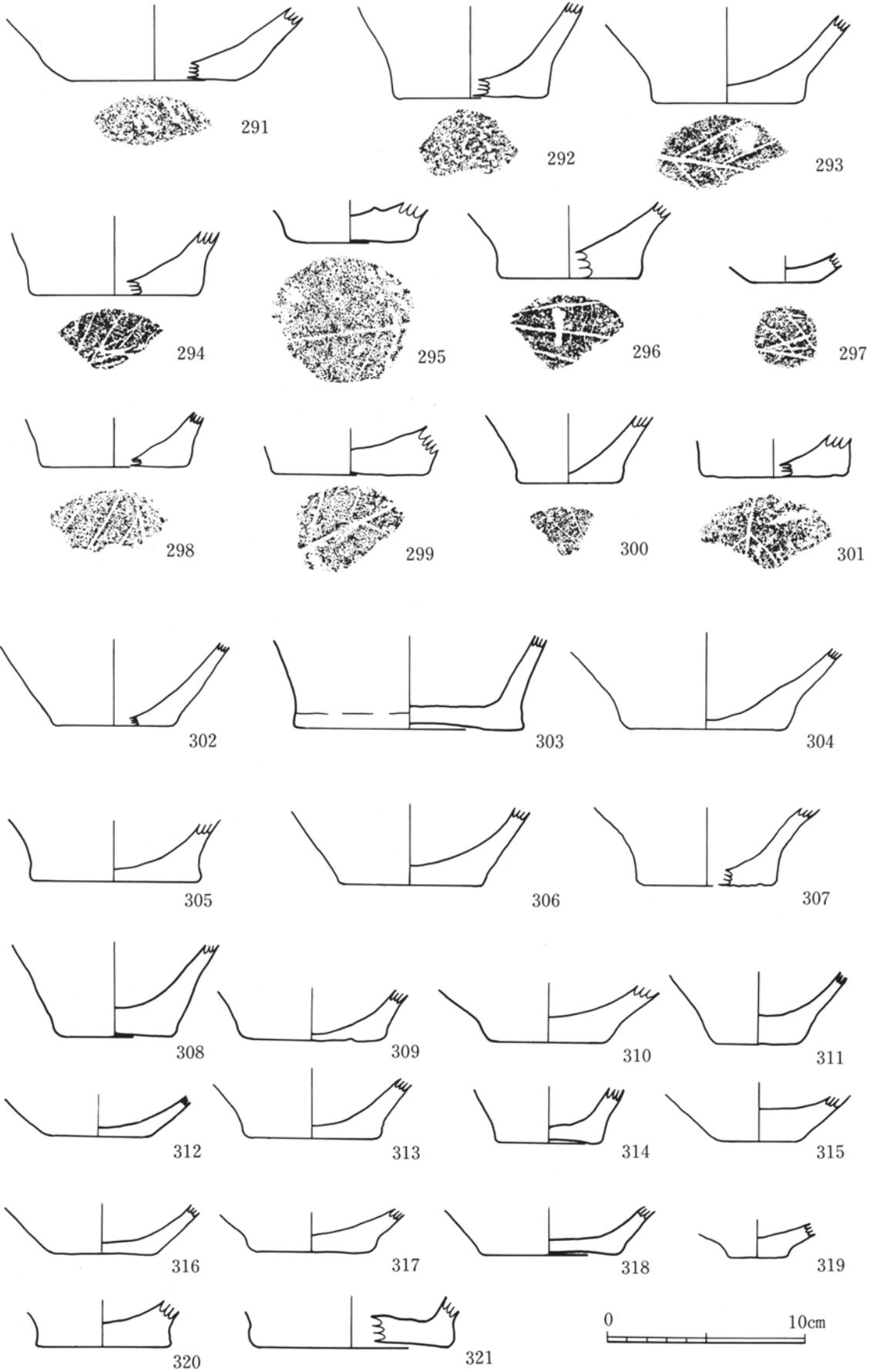


绳文土器(7群)

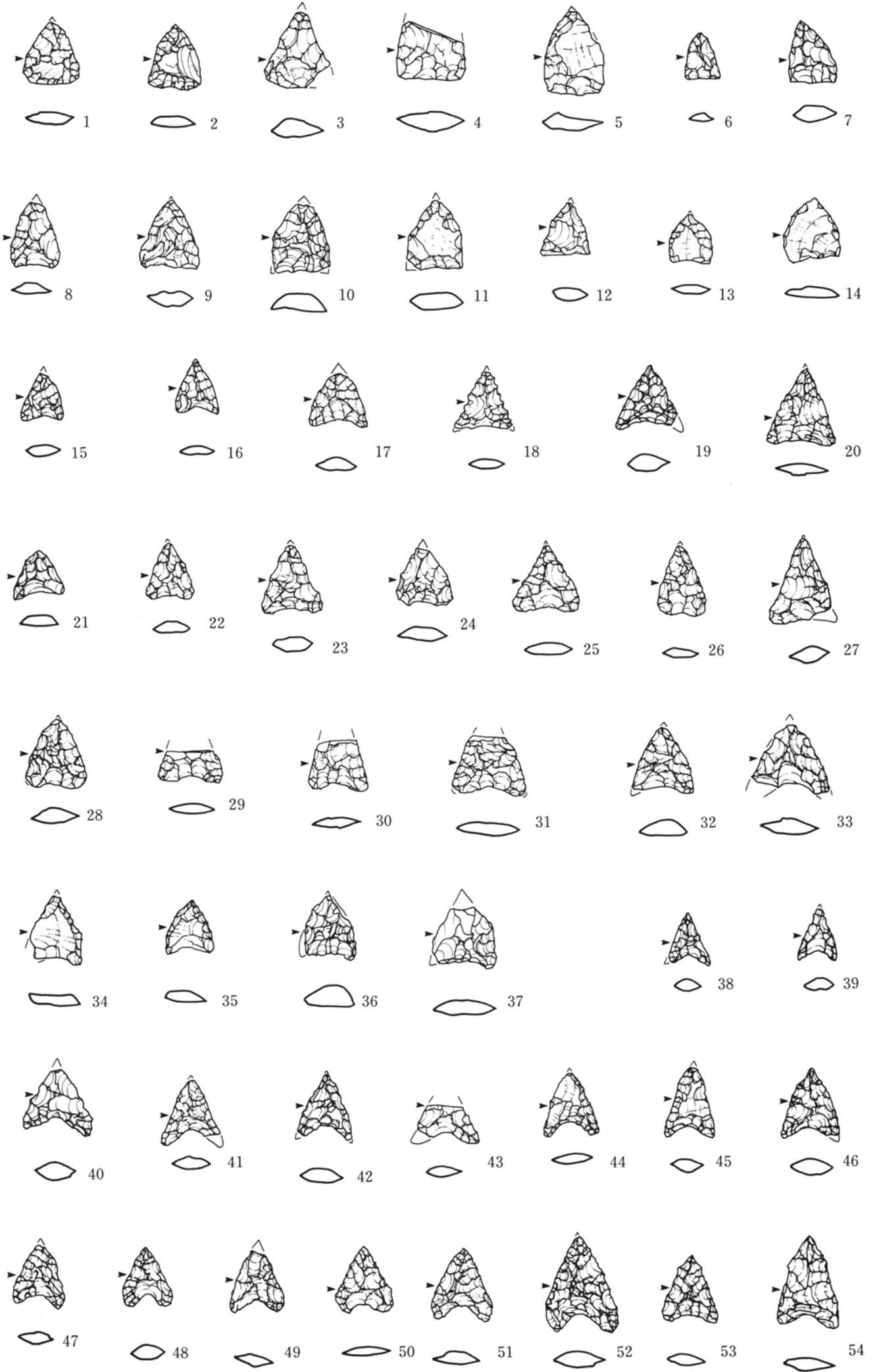


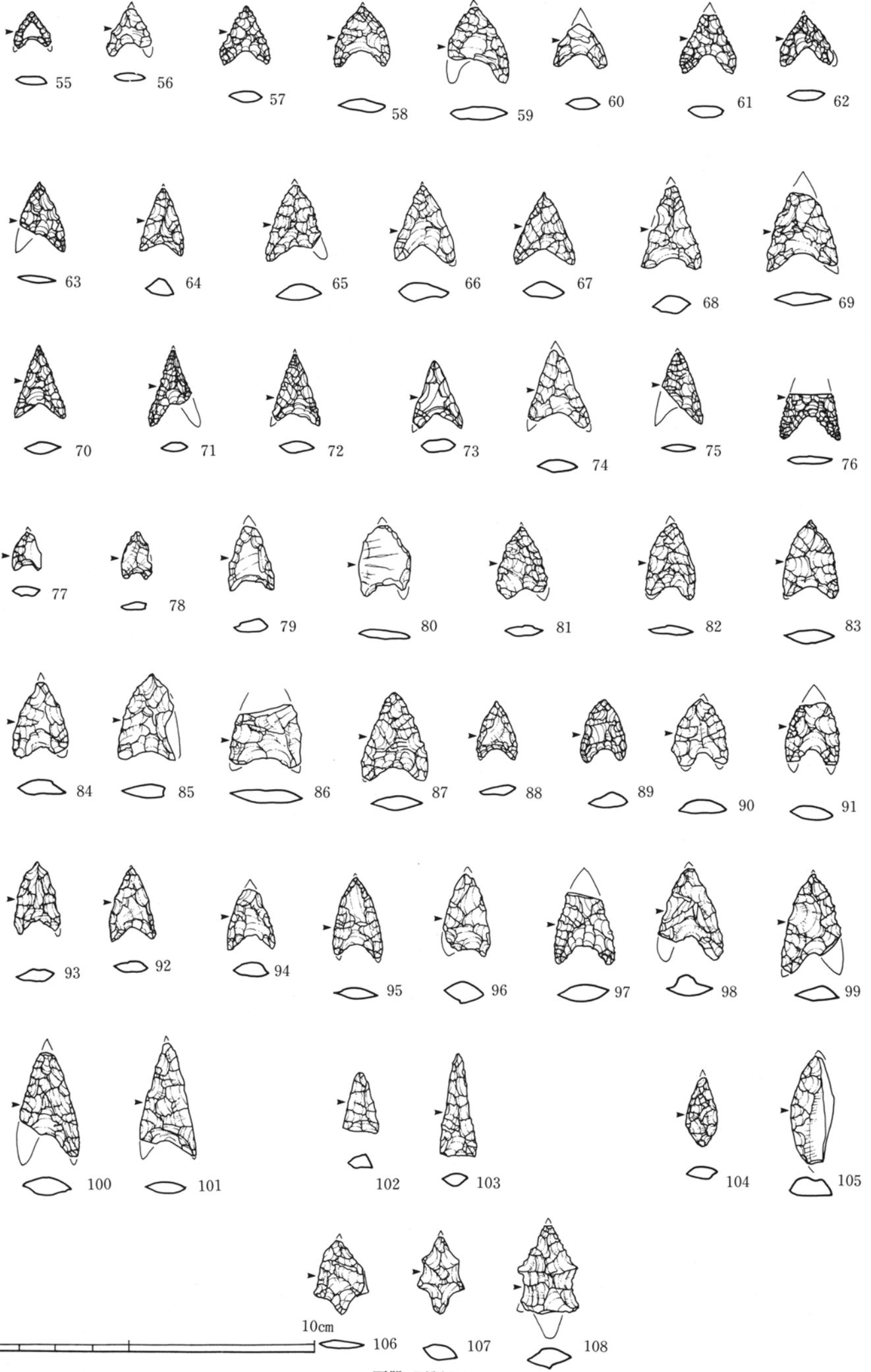


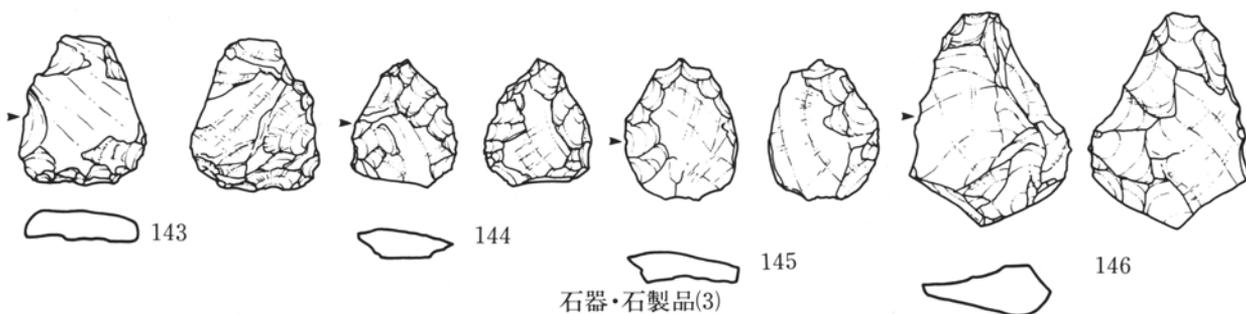
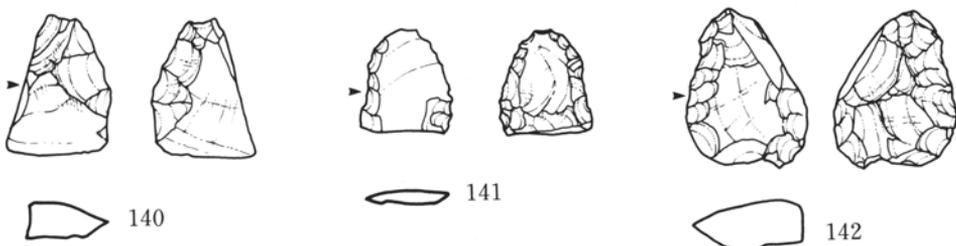
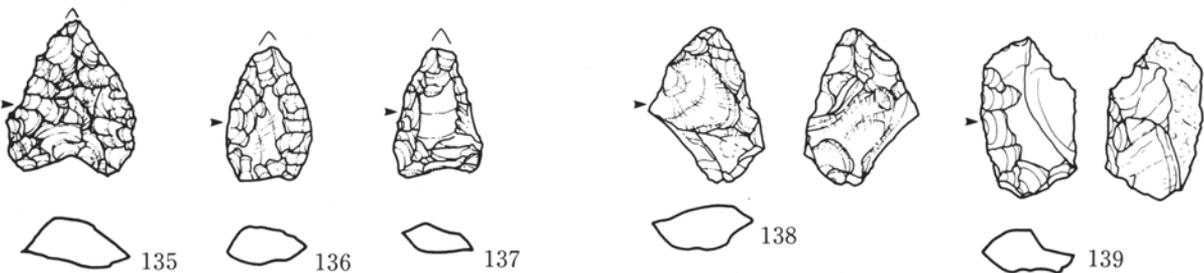
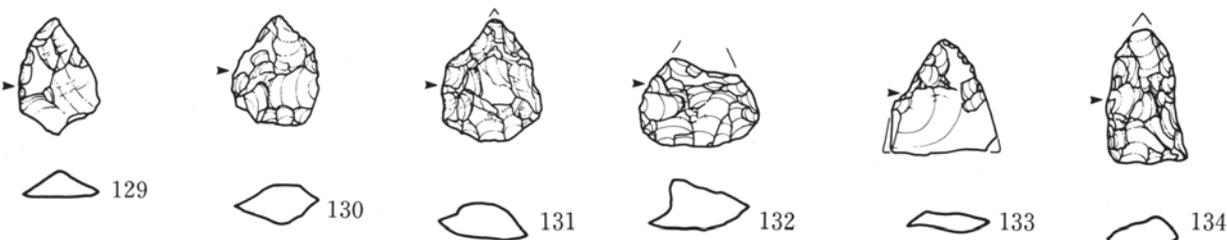
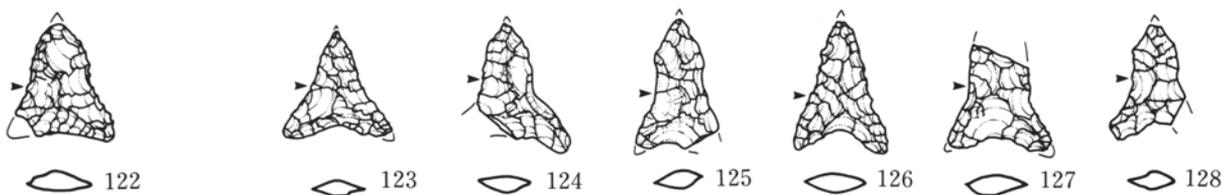
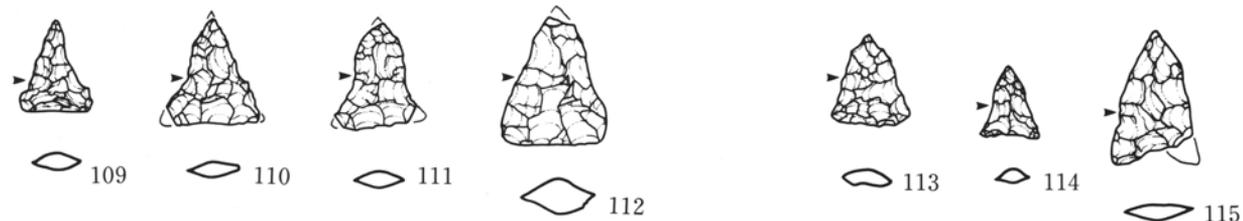
繩文土器(8群b類・9群)

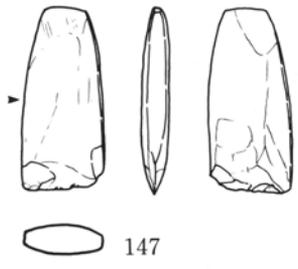


繩文土器(9群)

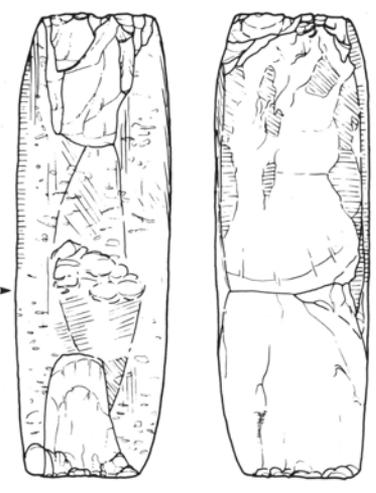




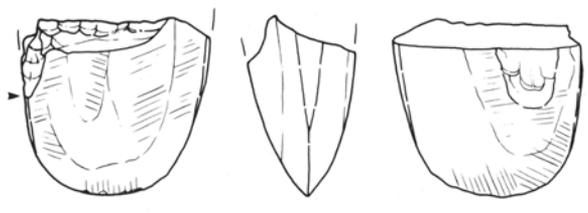




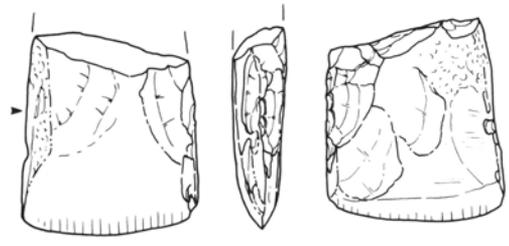
147



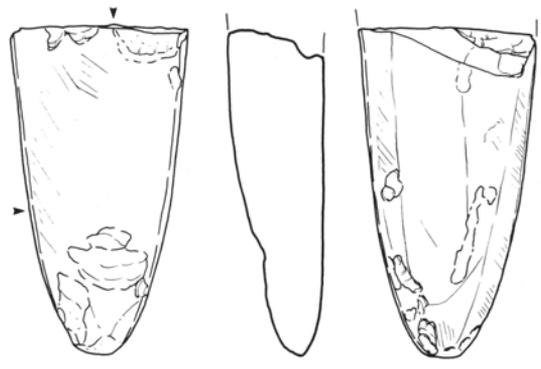
151



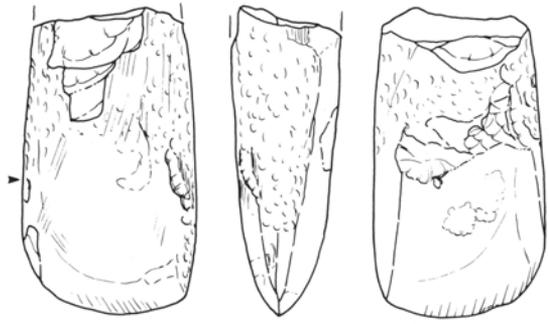
148



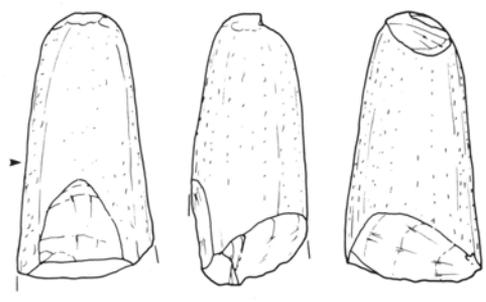
149



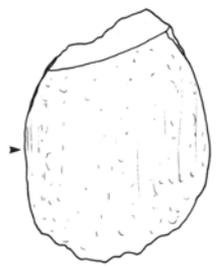
152



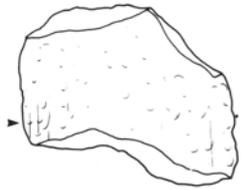
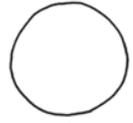
150



153

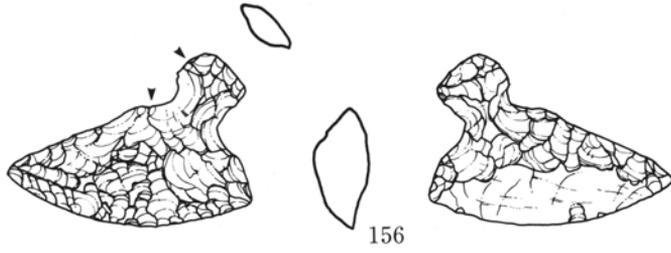


154

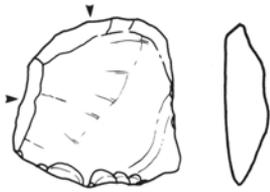


155

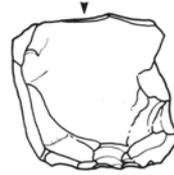




156



157



158



159



164



160



165



161



166



162



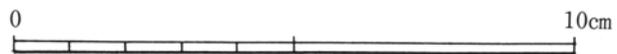
167

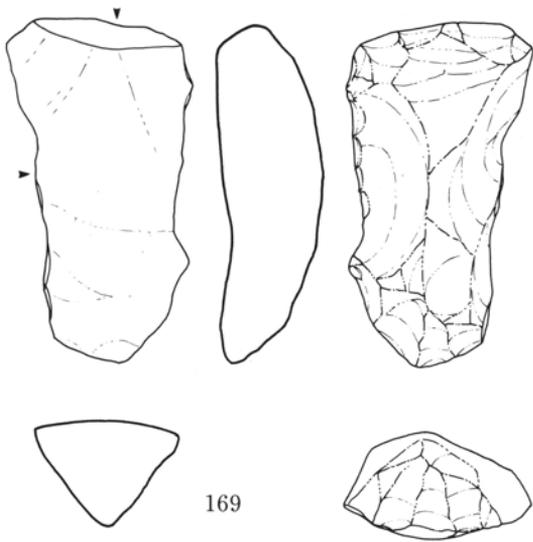


163



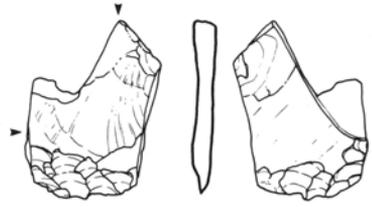
168





169

170



171

172



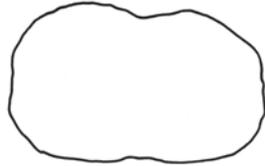
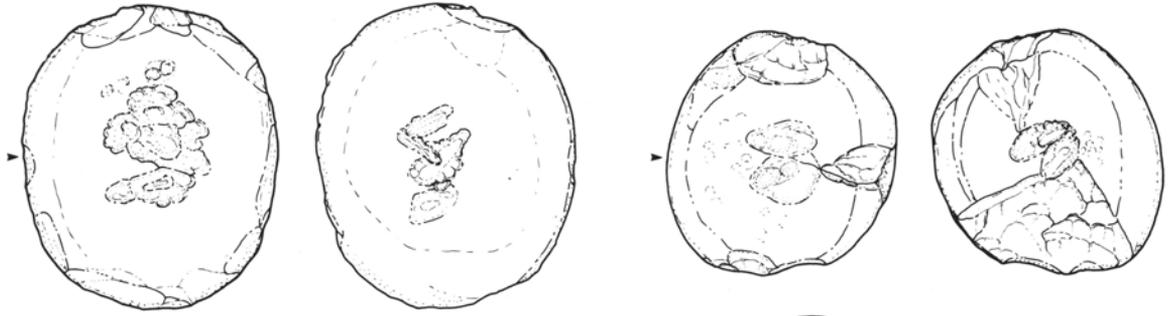
173

174



175

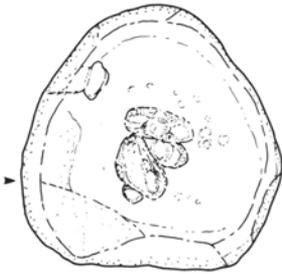




176



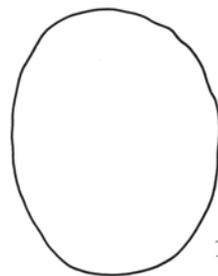
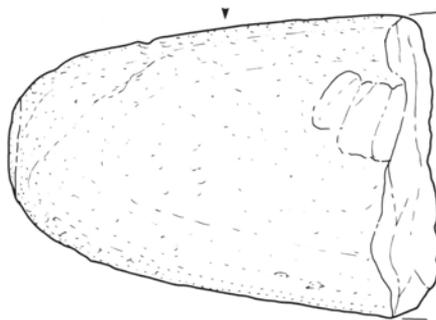
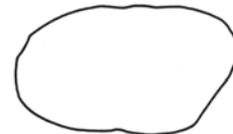
177



178

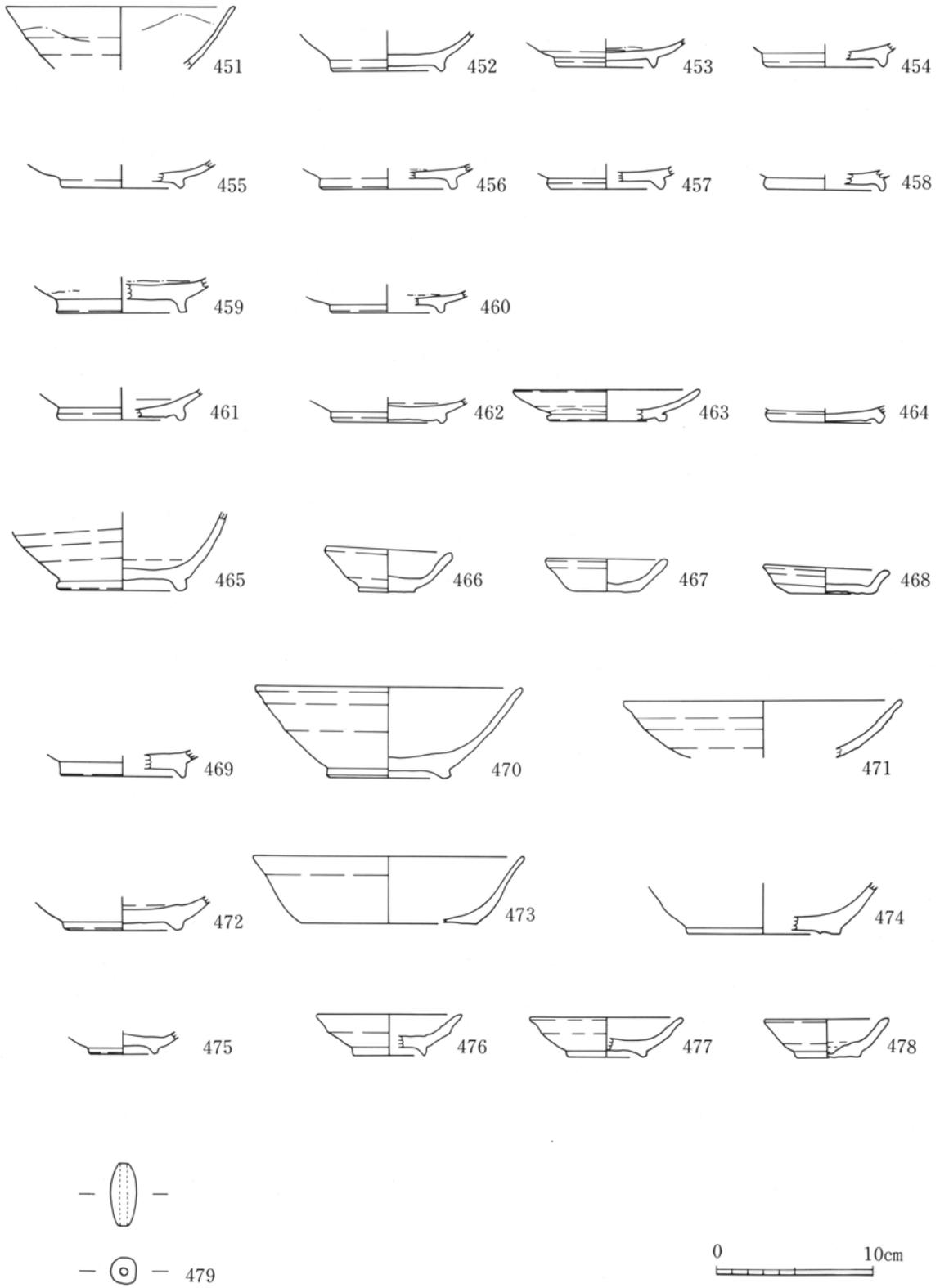


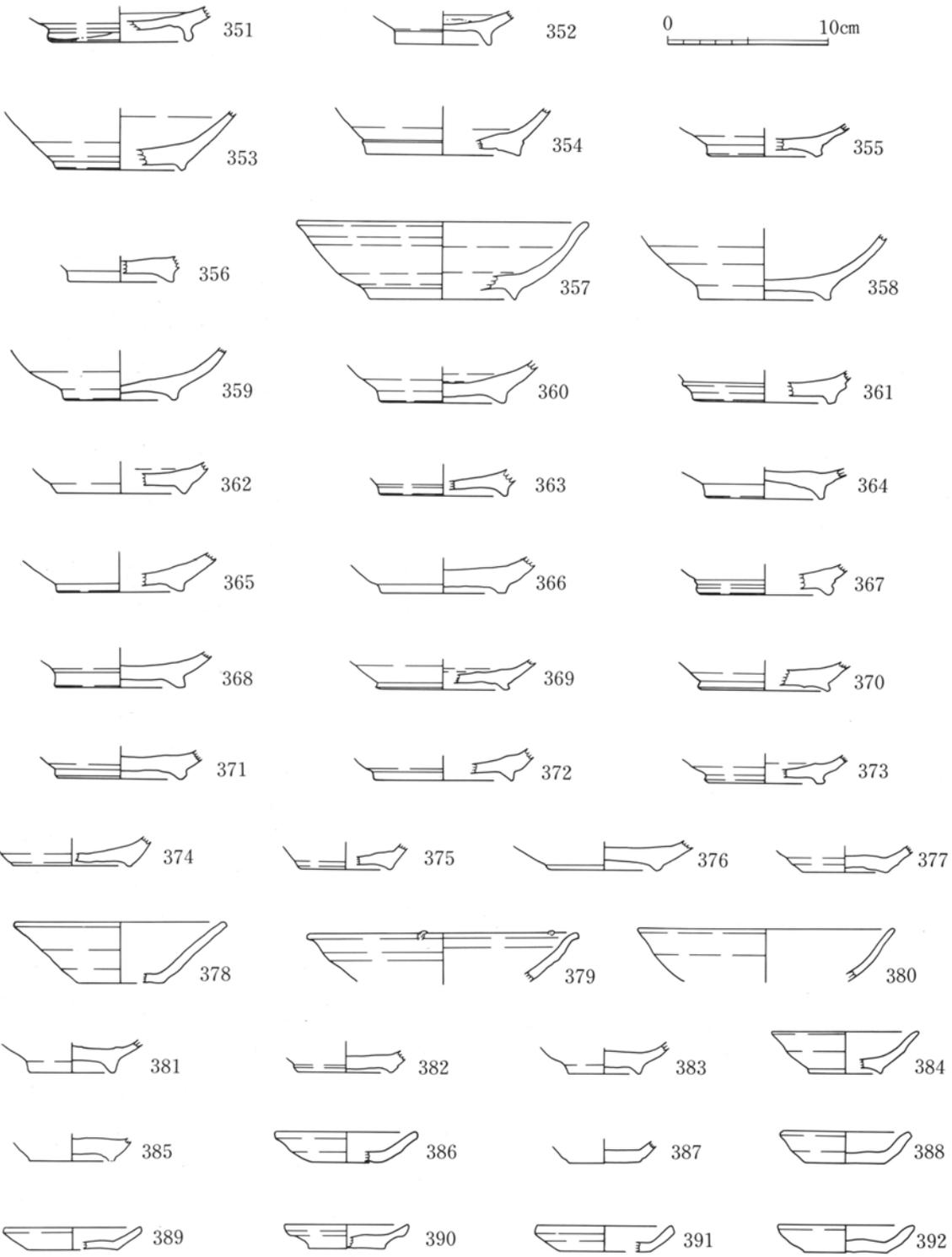
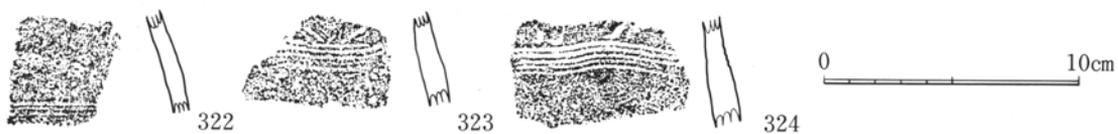
179



180







▶三斗目遺跡を望む 北西から



◀三斗目遺跡と仁王川(本谷) 西から



▶支谷から三斗目遺跡と本谷を望む 南から



調査区全景

◀ 北西から

◀ 隣接の丘陵上から

◀ 東から



西から



調査区西部の小穴群とNRO1・02



東から

▼包含層上面の配石集石群



東から



埋設土器



◀ 配石・集石群の近景 北西から



包含層掘り下げ後の状況



東から



南西から



北西から

SX06

南から

北から

東から

SX13

南から

SX19



西から



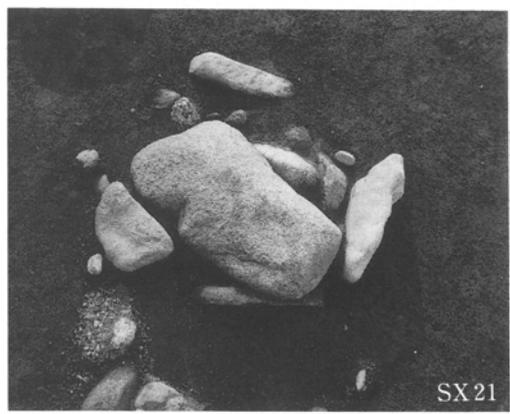
北西から



北から



SX05



SX21



SX21



SX22



SX03



SX16



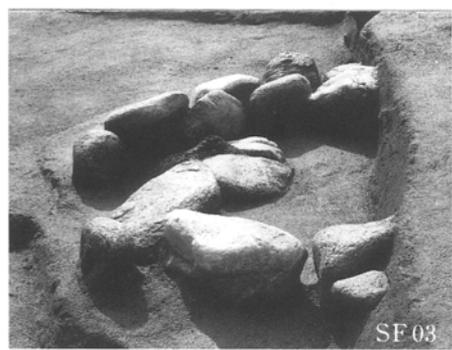
SX03



SX23



SX03





①



②



③

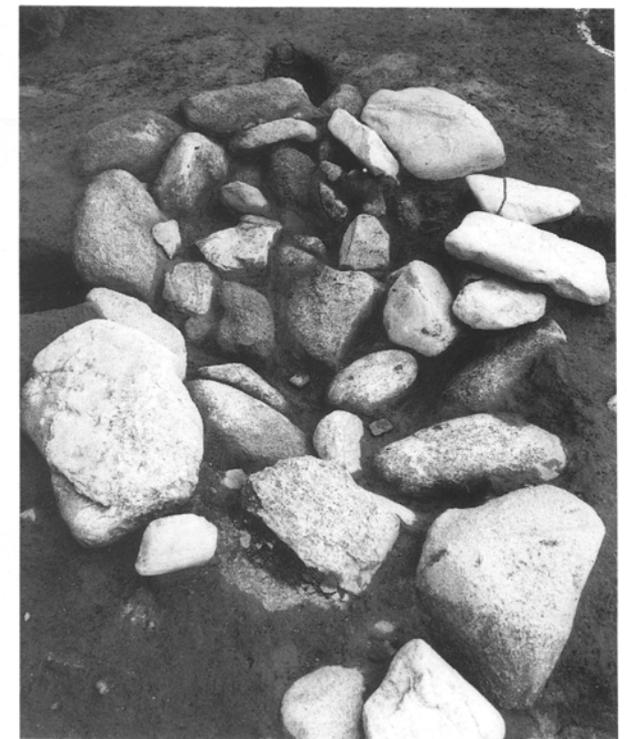
SF04

検出時 ①②③

礫除去後 ④⑤



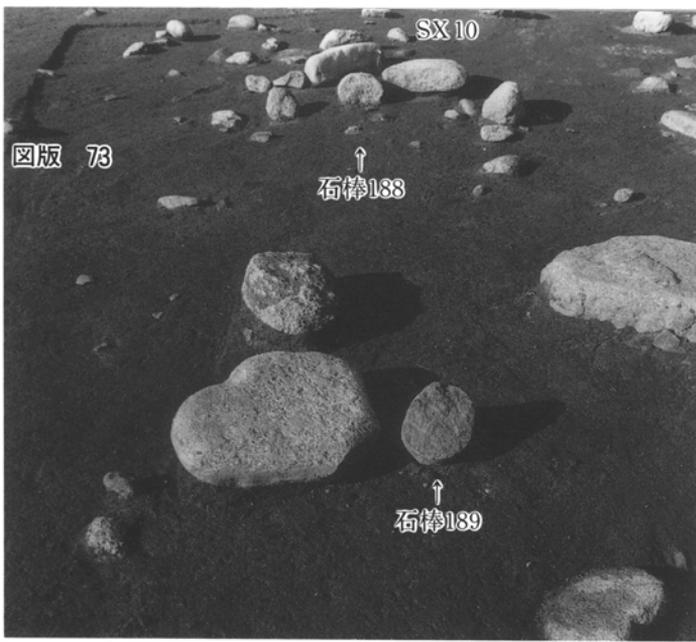
④



⑤

SF05

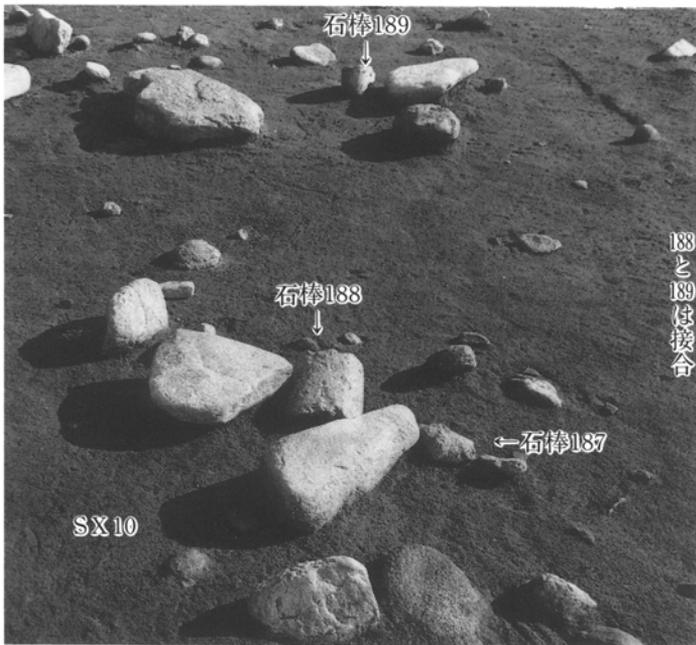




図版 73

↑
石棒188

↑
石棒189



石棒189

石棒188

←石棒187

SX 10

188と189は接合



包含層上面の倭群とⅦ群土器(400)



垂飾135



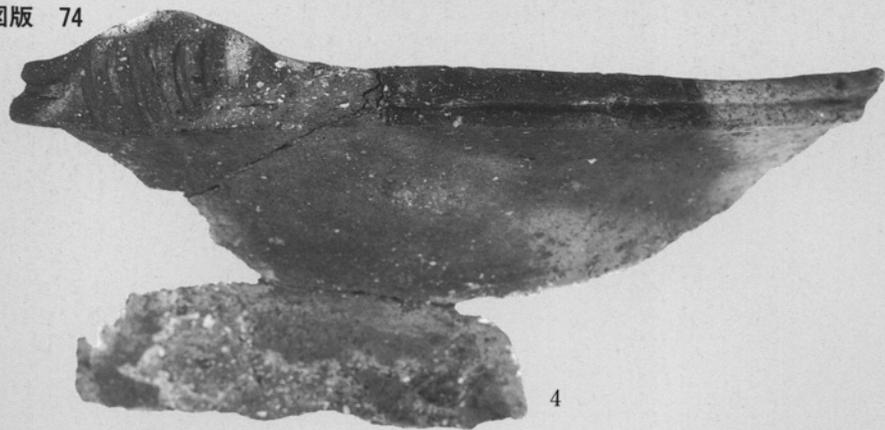
磨製石斧183と182



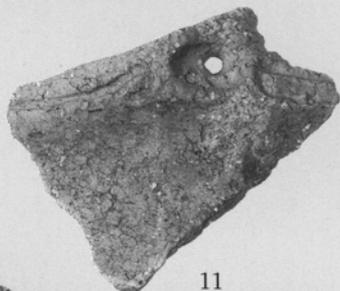
山茶碗と小皿



SX 28内の凹石169



26



11



40



142



39



5



27



28



64



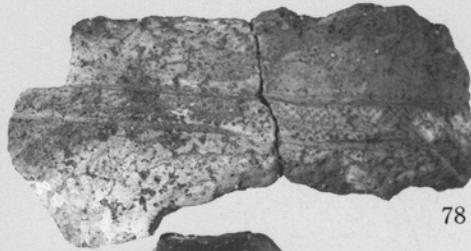
37



65



3



78



57



55



84



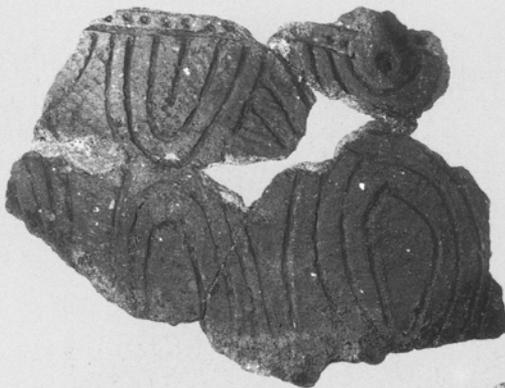
79



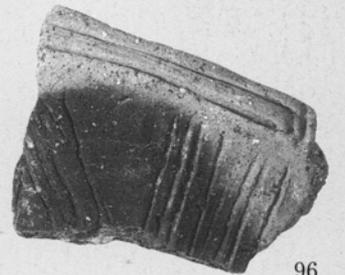
67



54



53



96



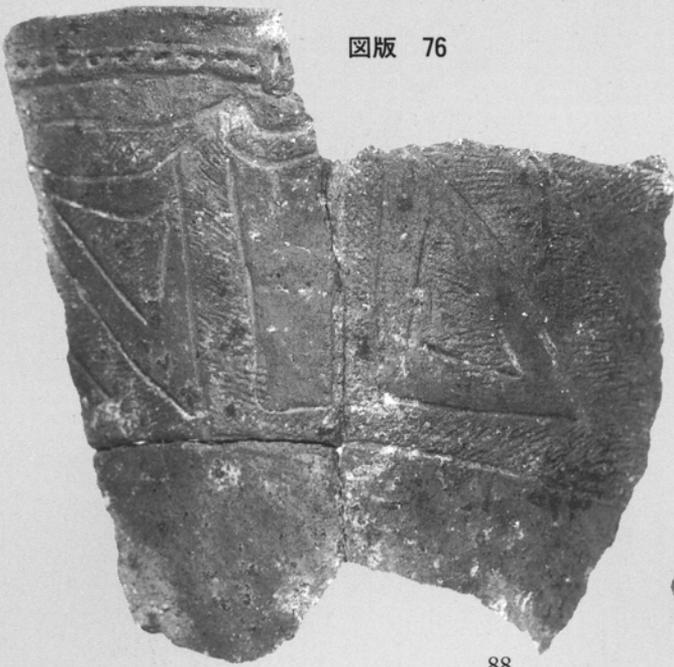
56



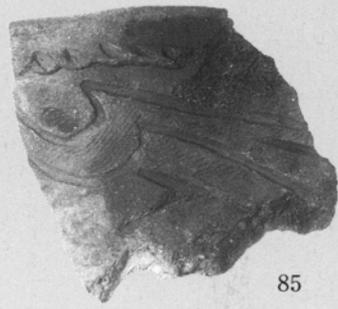
59



97



88



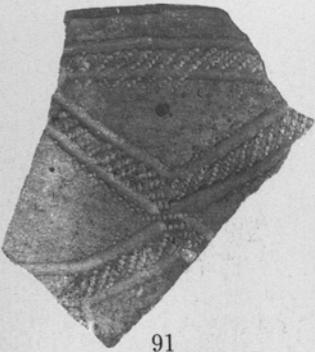
85



136



135



91



87



86



93



140



130



131



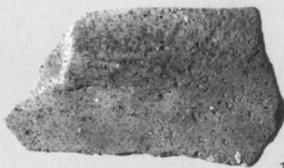
122



126



127



124



128



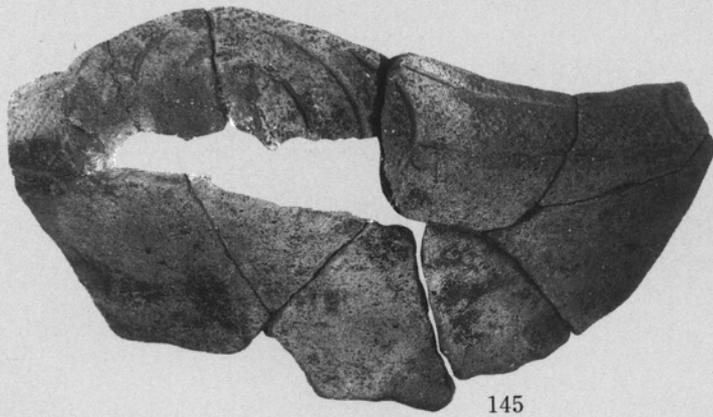
125



118



138



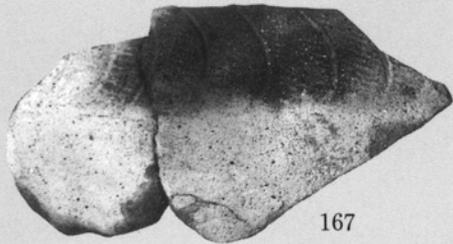
145



180



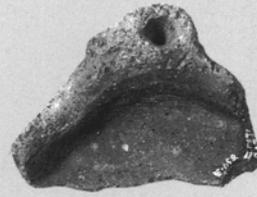
181



167



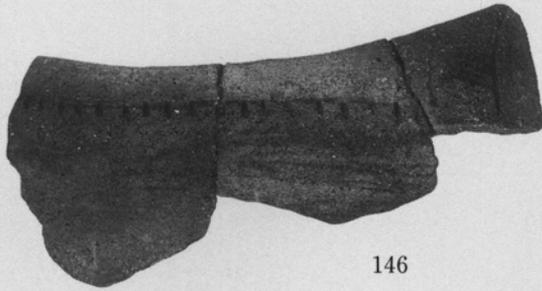
150



180



181



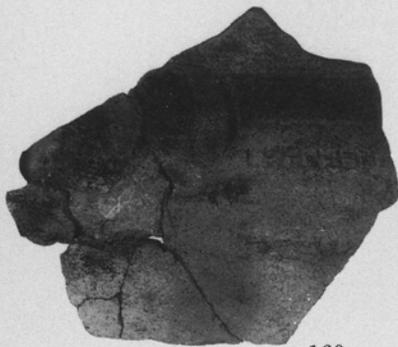
146



179



172



160



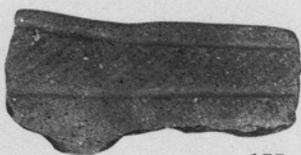
149



173



174



155



154

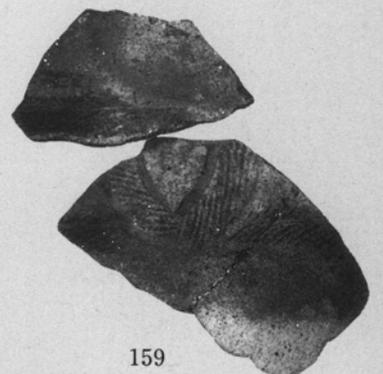


163

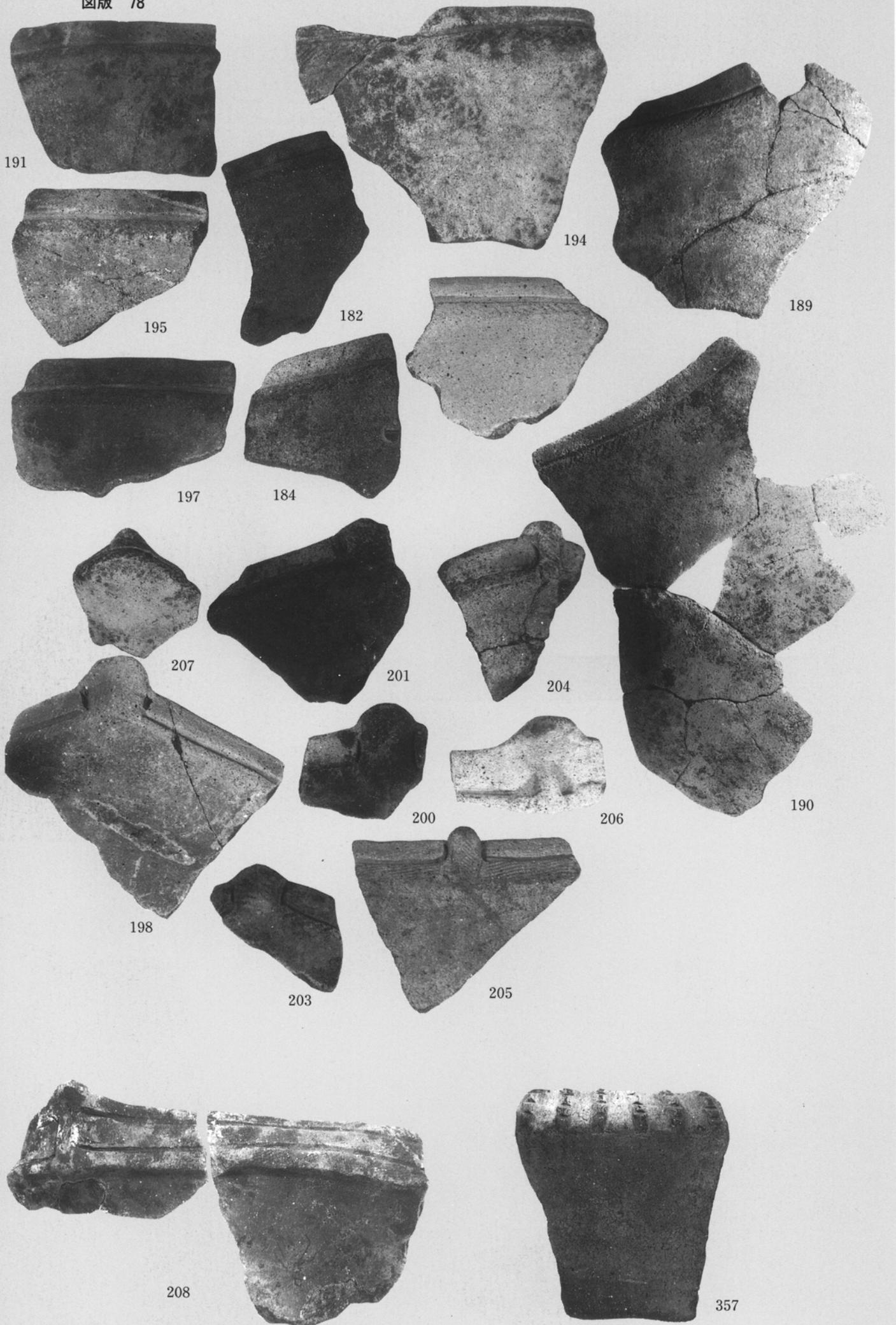


171

160

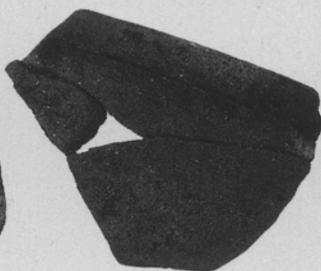


159

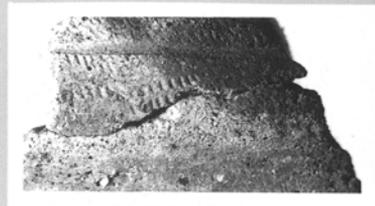




212



211



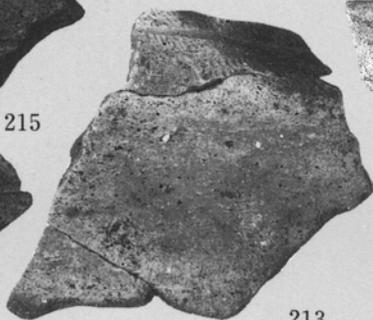
215



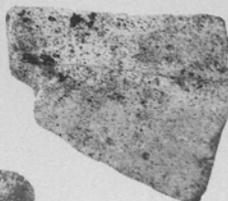
219



214



213



218



224



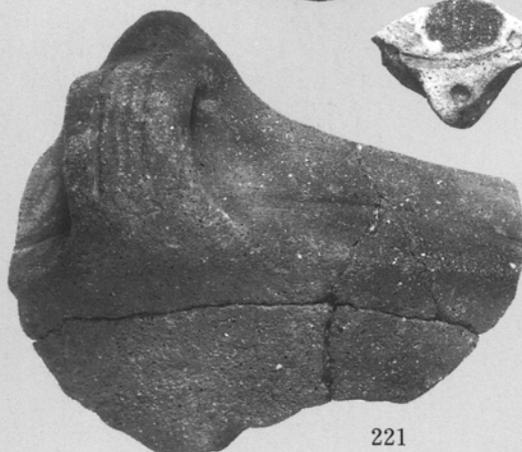
217



218



224



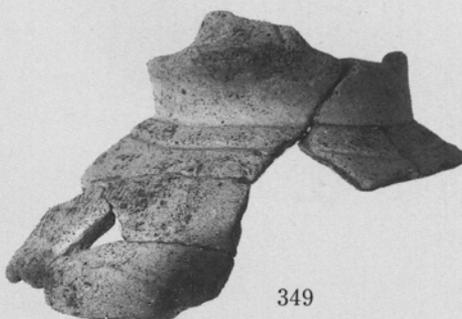
221



221



224



349



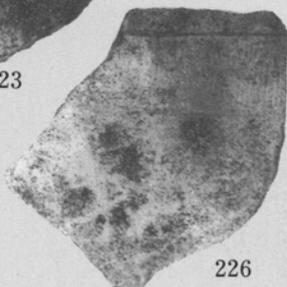
349



222



223



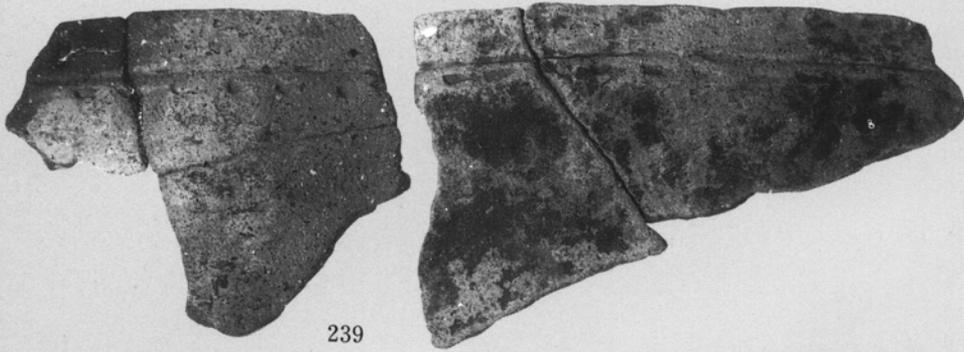
226



222



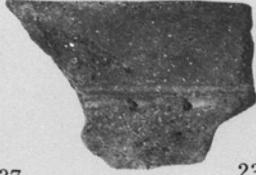
226



239



237



238



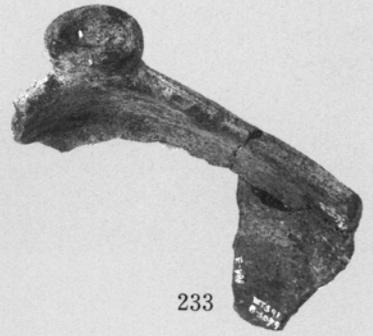
233



231



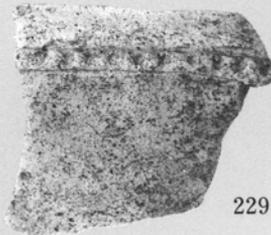
232



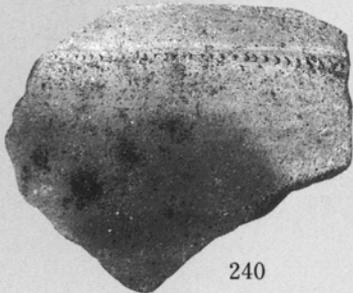
233



236



229



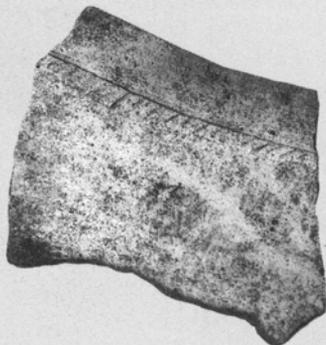
240



227



228



234



235



359



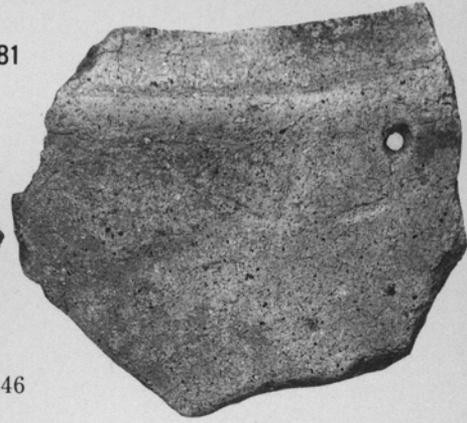
358



243



246



244



289



286



285



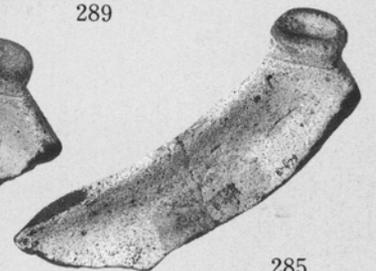
290



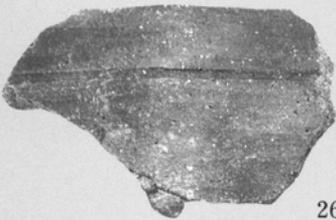
289



286



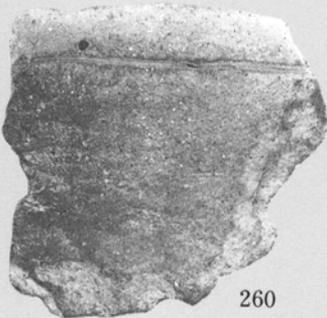
285



268



257



260



274



266



258



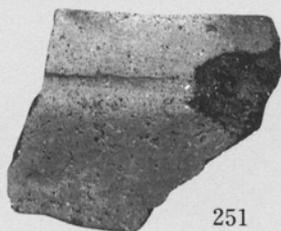
283



282



265



251



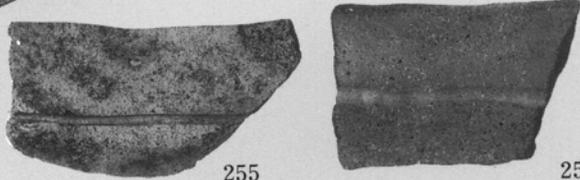
275





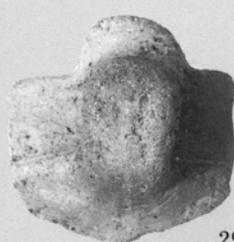
252

252



255

253



293



294



287



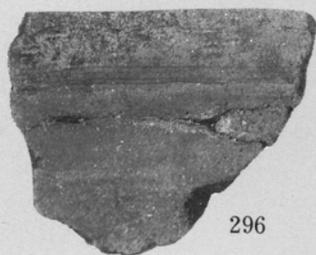
291



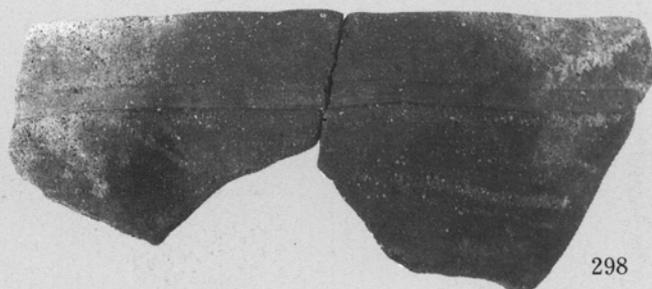
284



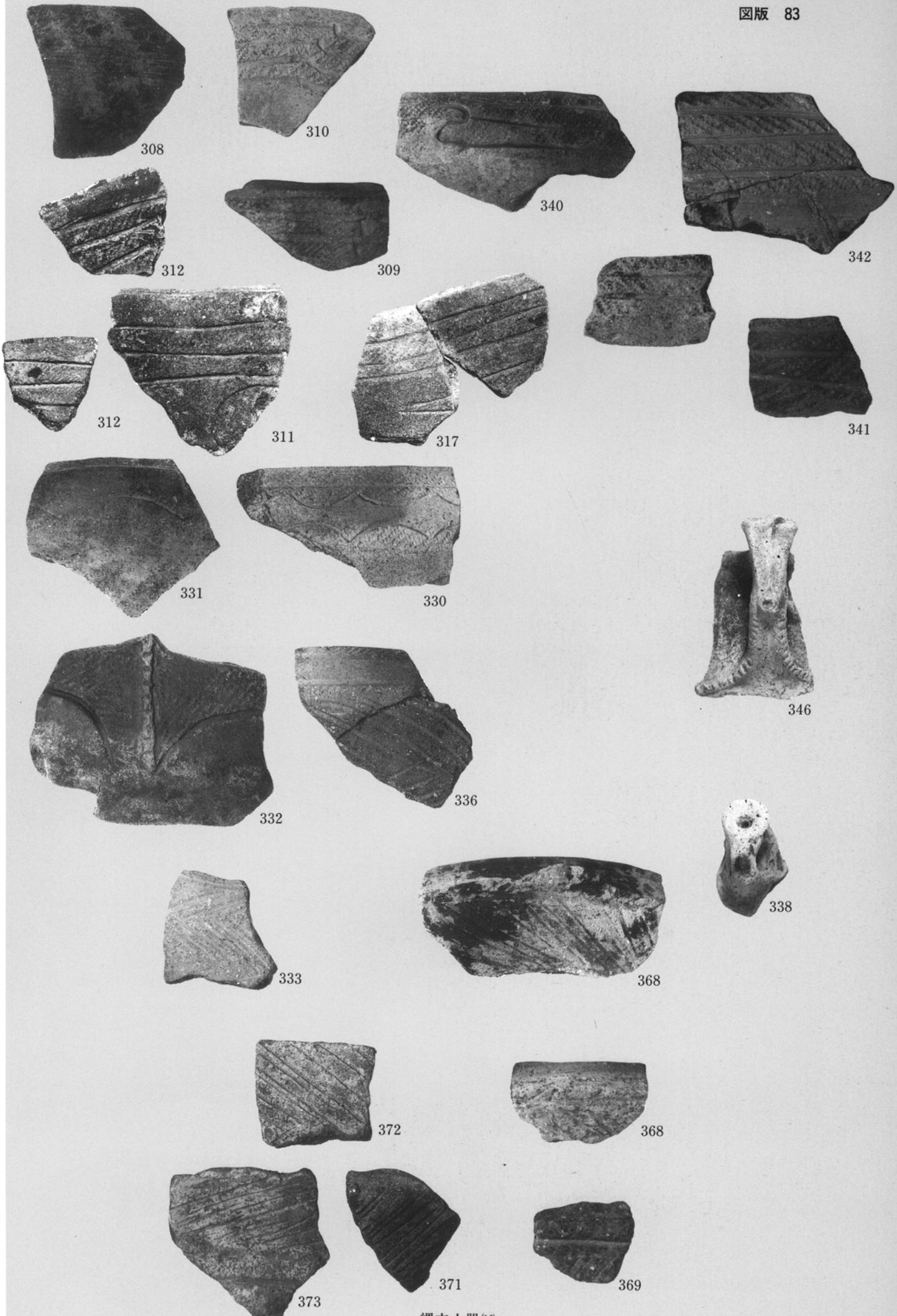
288



296



298





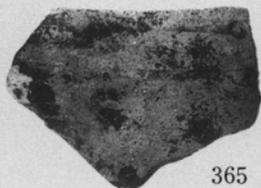
375



417



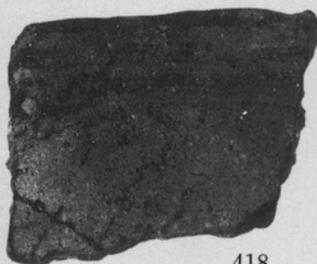
417



365



365



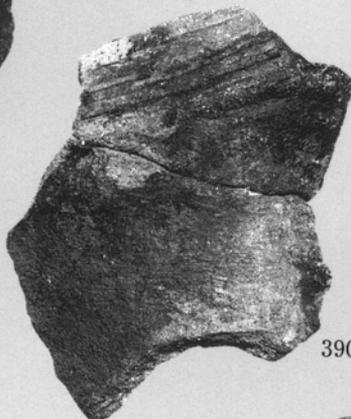
418



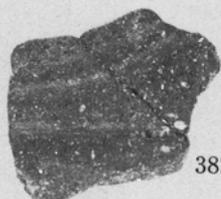
378



392



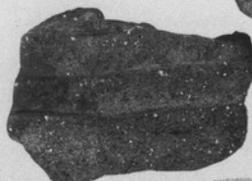
390



382



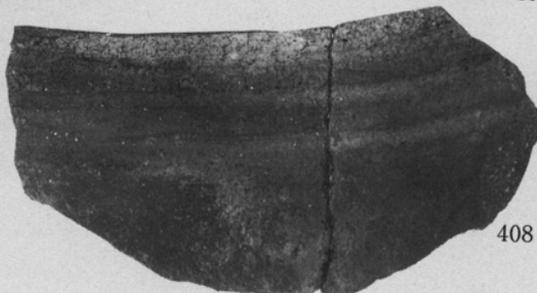
400



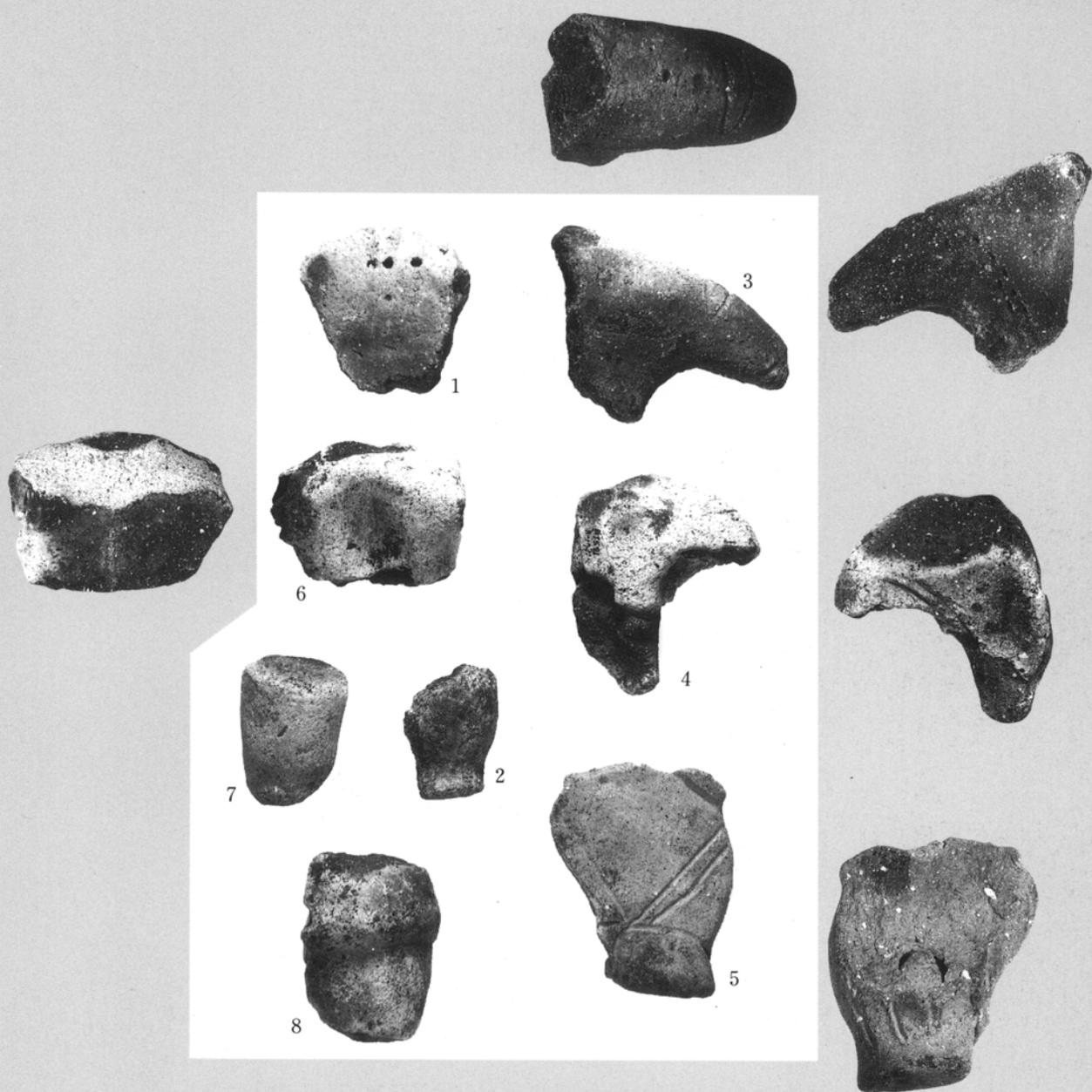
428

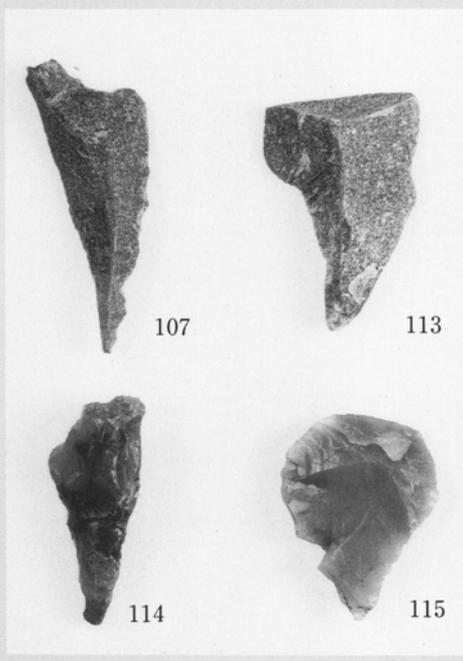
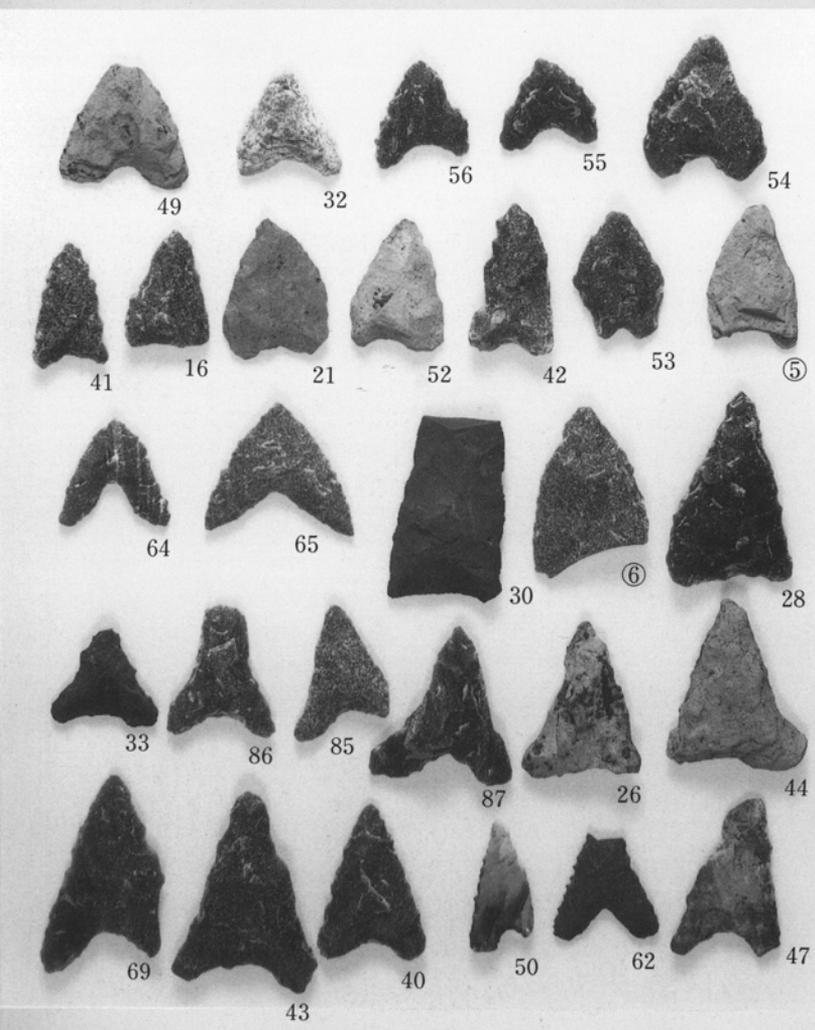
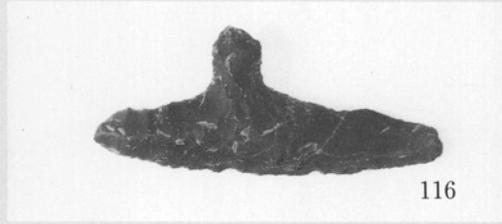
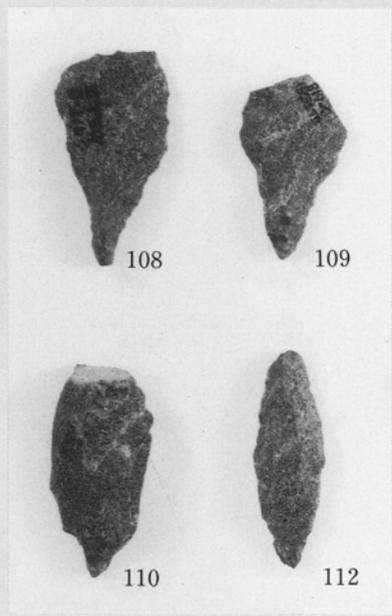
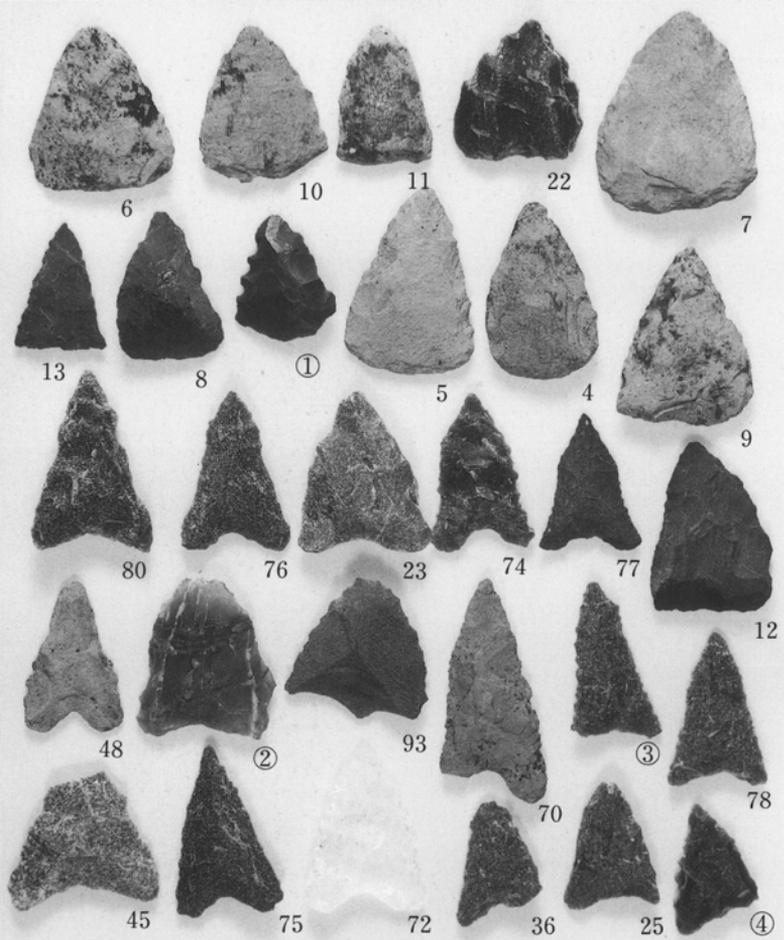


401

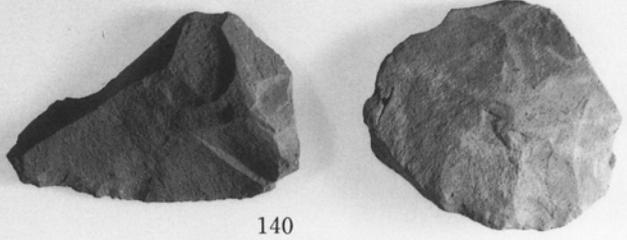


408



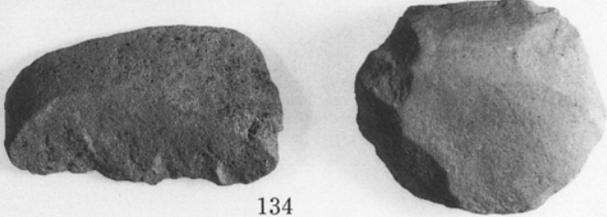


石器(1)



140

135

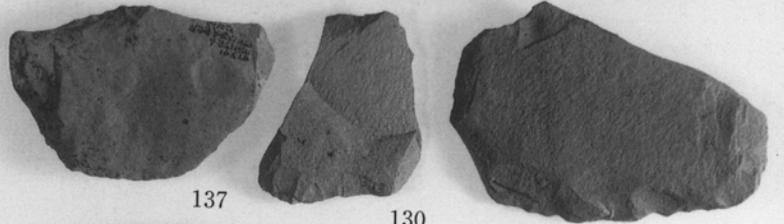


134

138



⑨



137

130

125



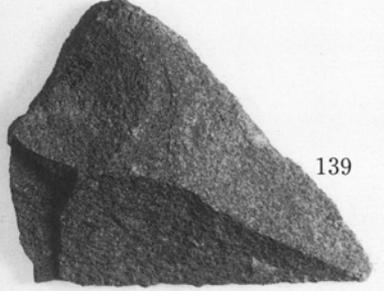
128



126



⑦



139



⑧

图版 87

132



石器(2)



147

144

142



145



183



182



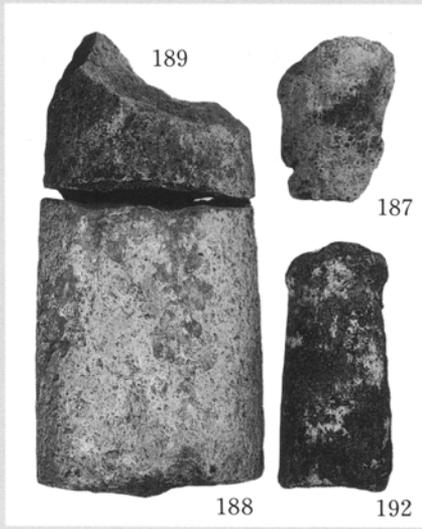
184



185



186

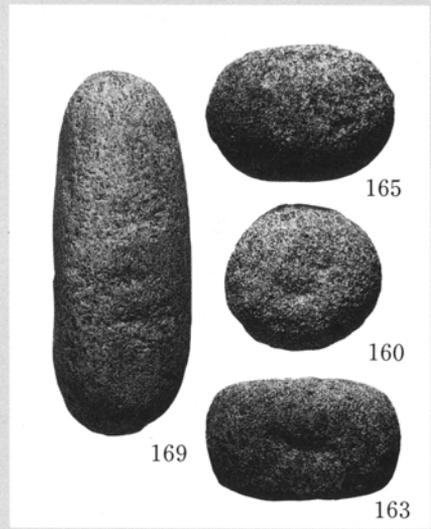


189

187

188

192

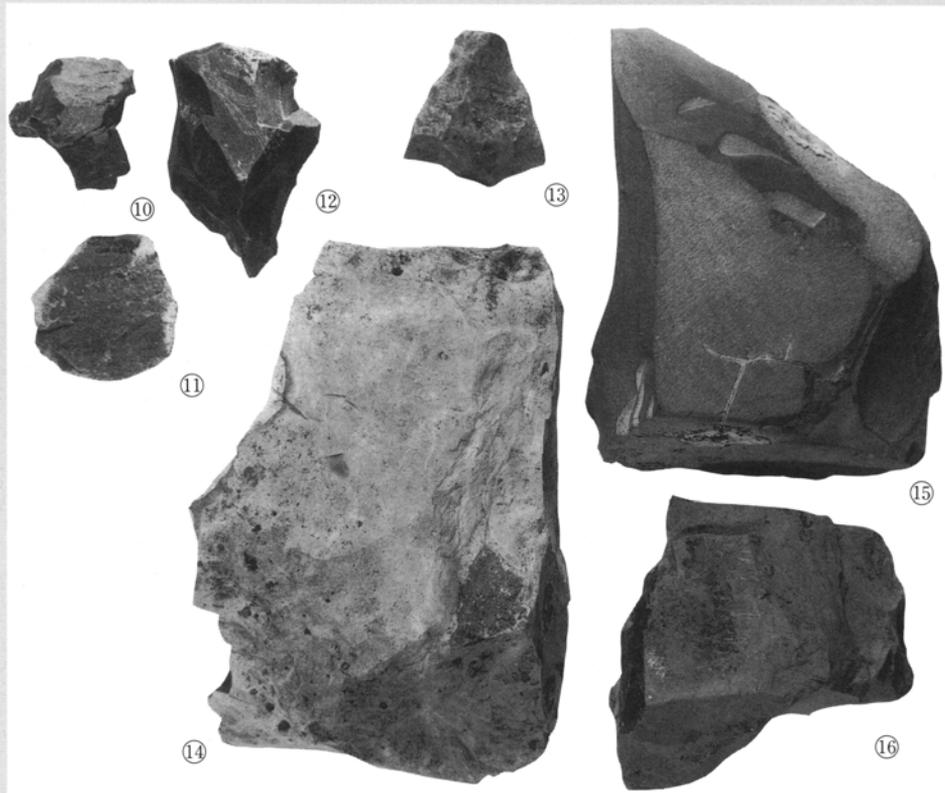


165

160

169

163



⑩

⑫

⑬

⑪

⑭

⑮

⑯



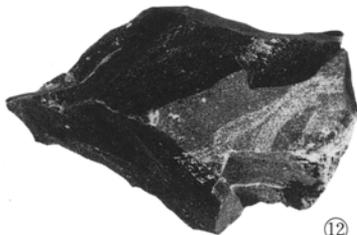
⑬



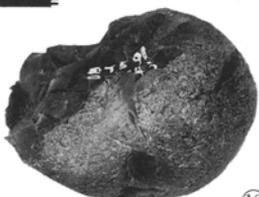
⑳



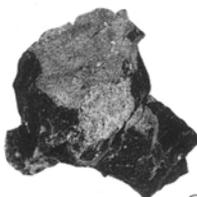
⑲



⑫



⑱



⑩



⑰

三本松遺跡

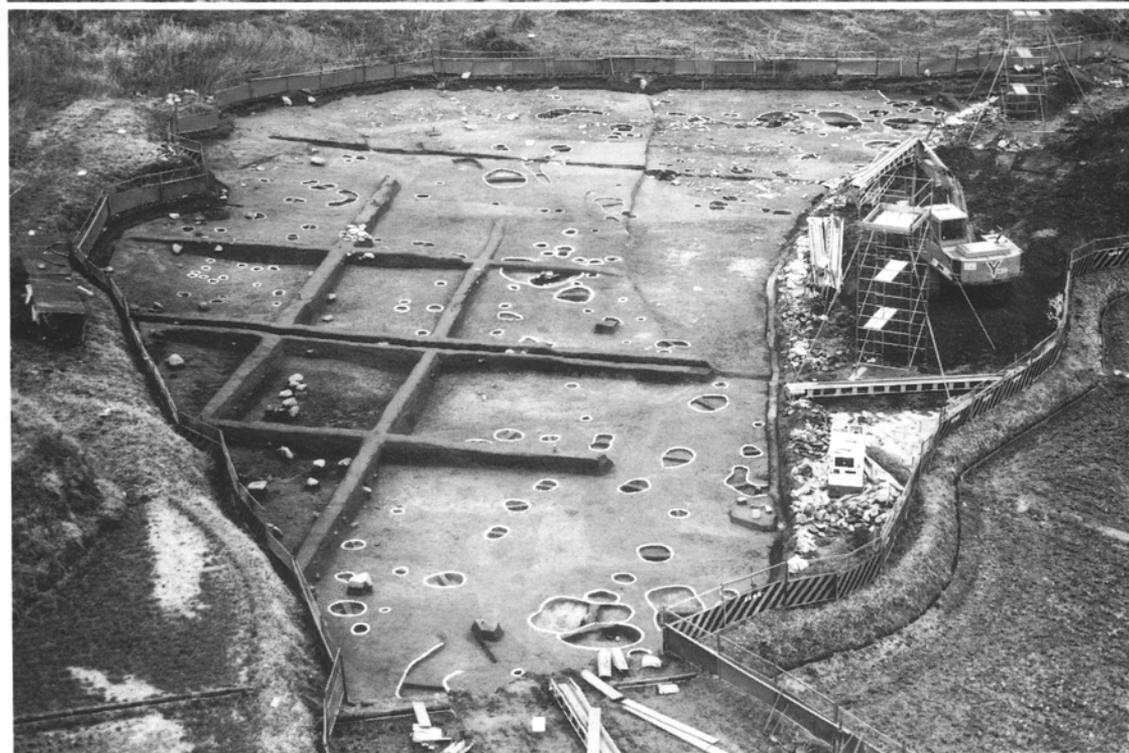
調査前風景
(東から)



全景
(南から)



全景
(東から)

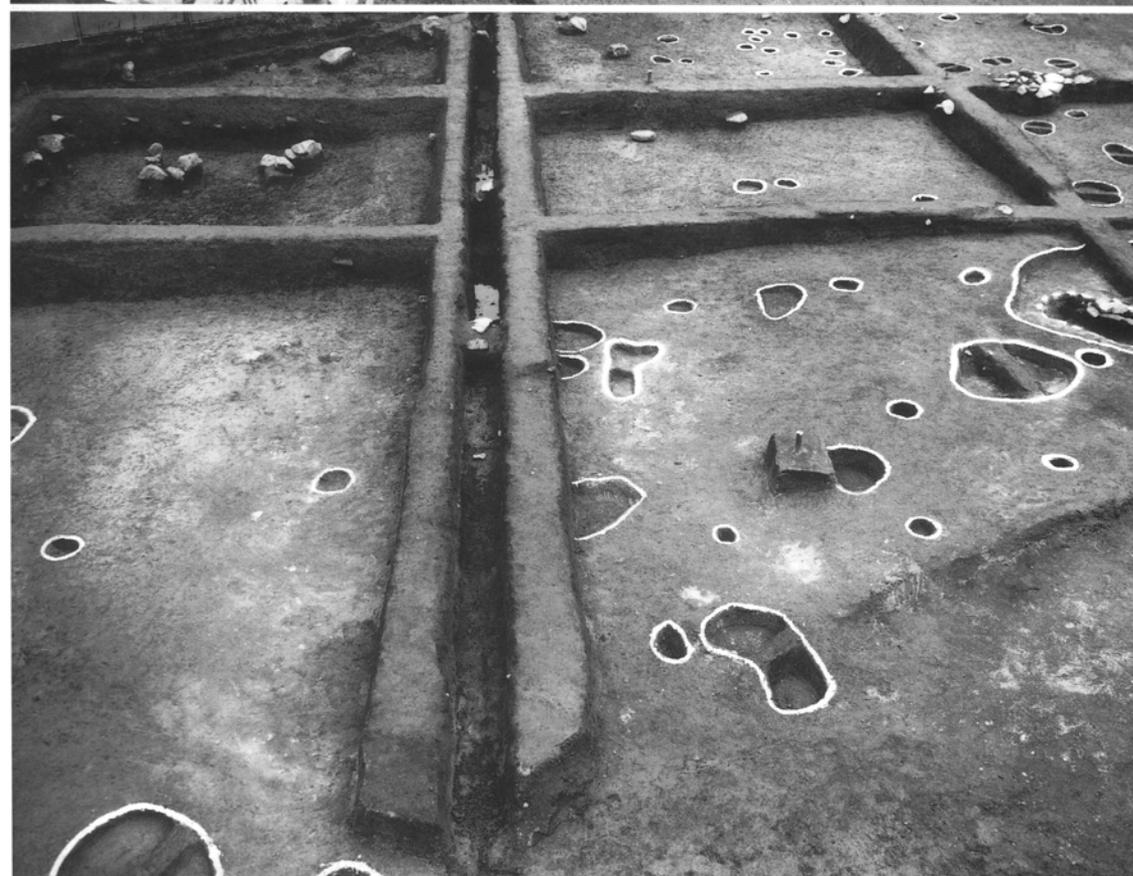




遠景
(北から)



調査区東半部
(北から)



調査区中央部
(北から)

調査区西半部
(北から)



SB01
(東から)



SB01内の伏甕
(西から)





SX01
(南から)



SK42集石
(北から)



SX02
(東から)



SK15埋甕



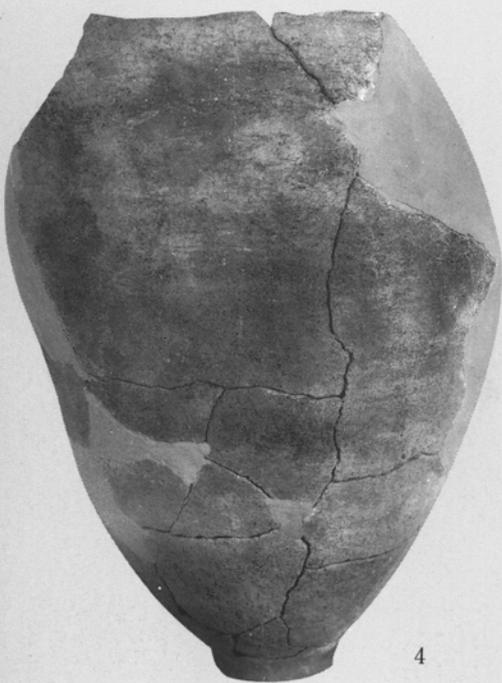
SK08埋甕



SX03



1



4



2

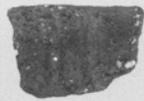


5

縄文土器(2)



7



8



9



11



15



17



18



19



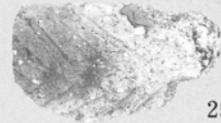
22



23



24



25



26



27



29



32



33



34



36



37



41



43

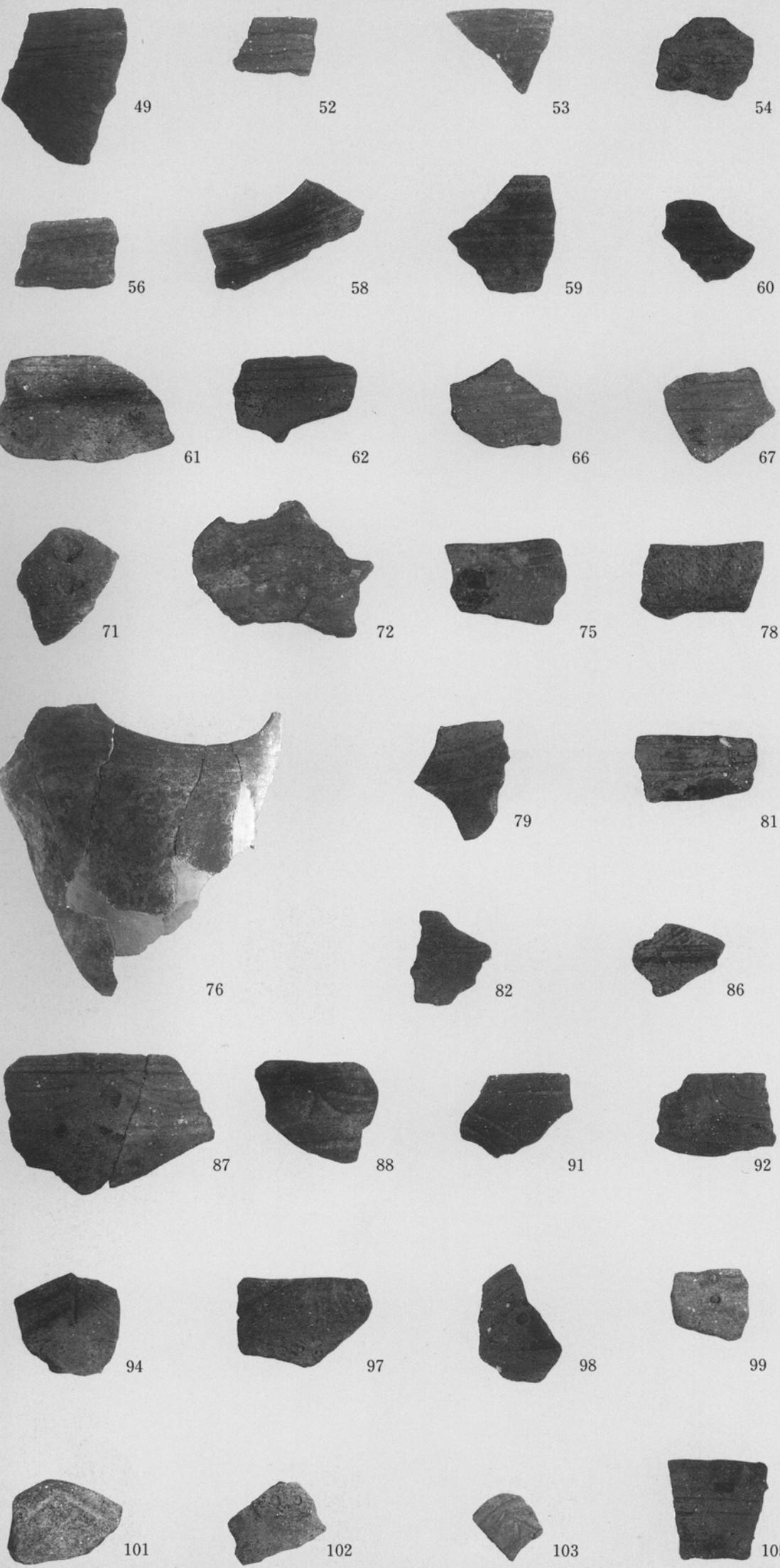


45

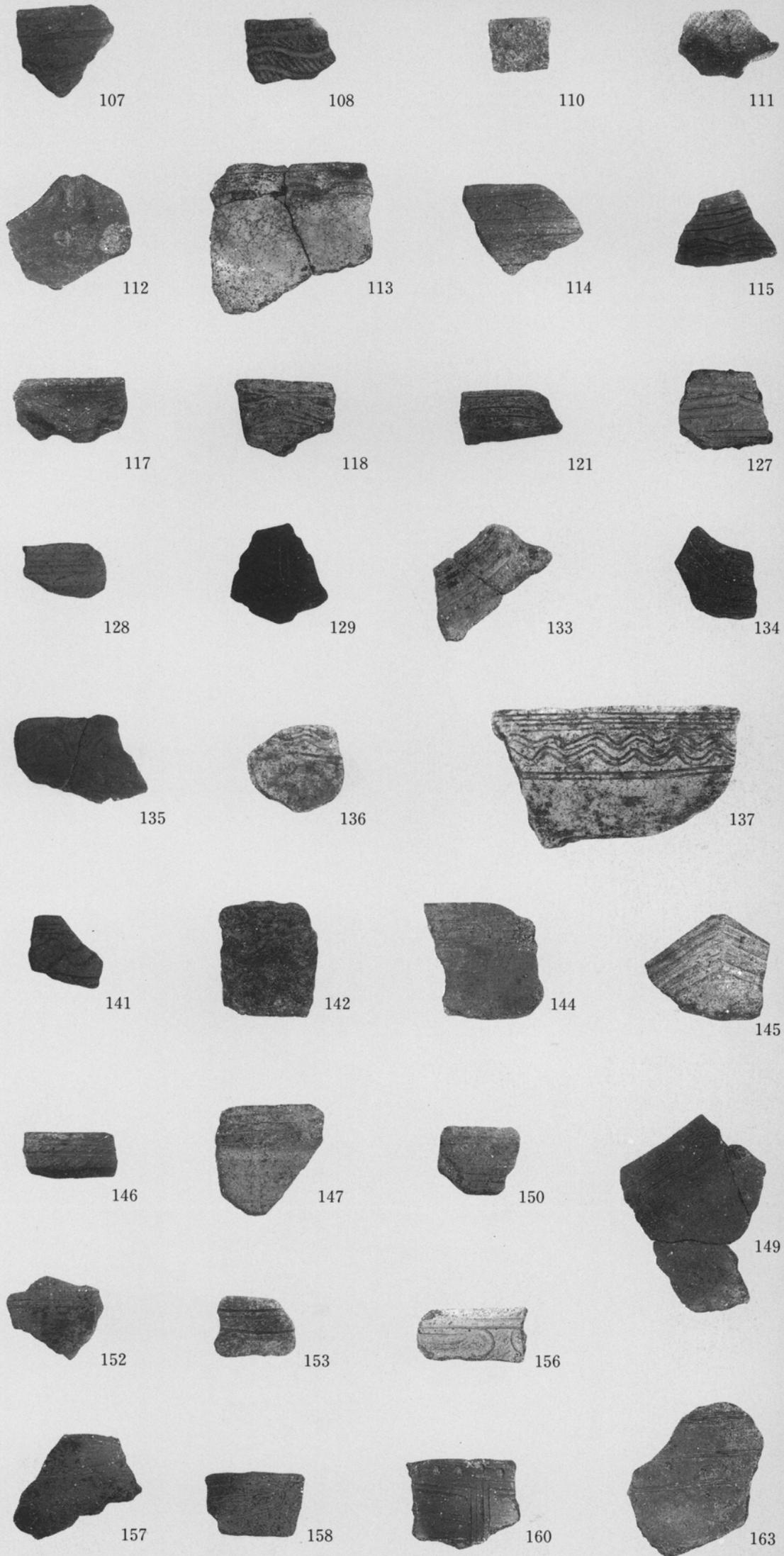


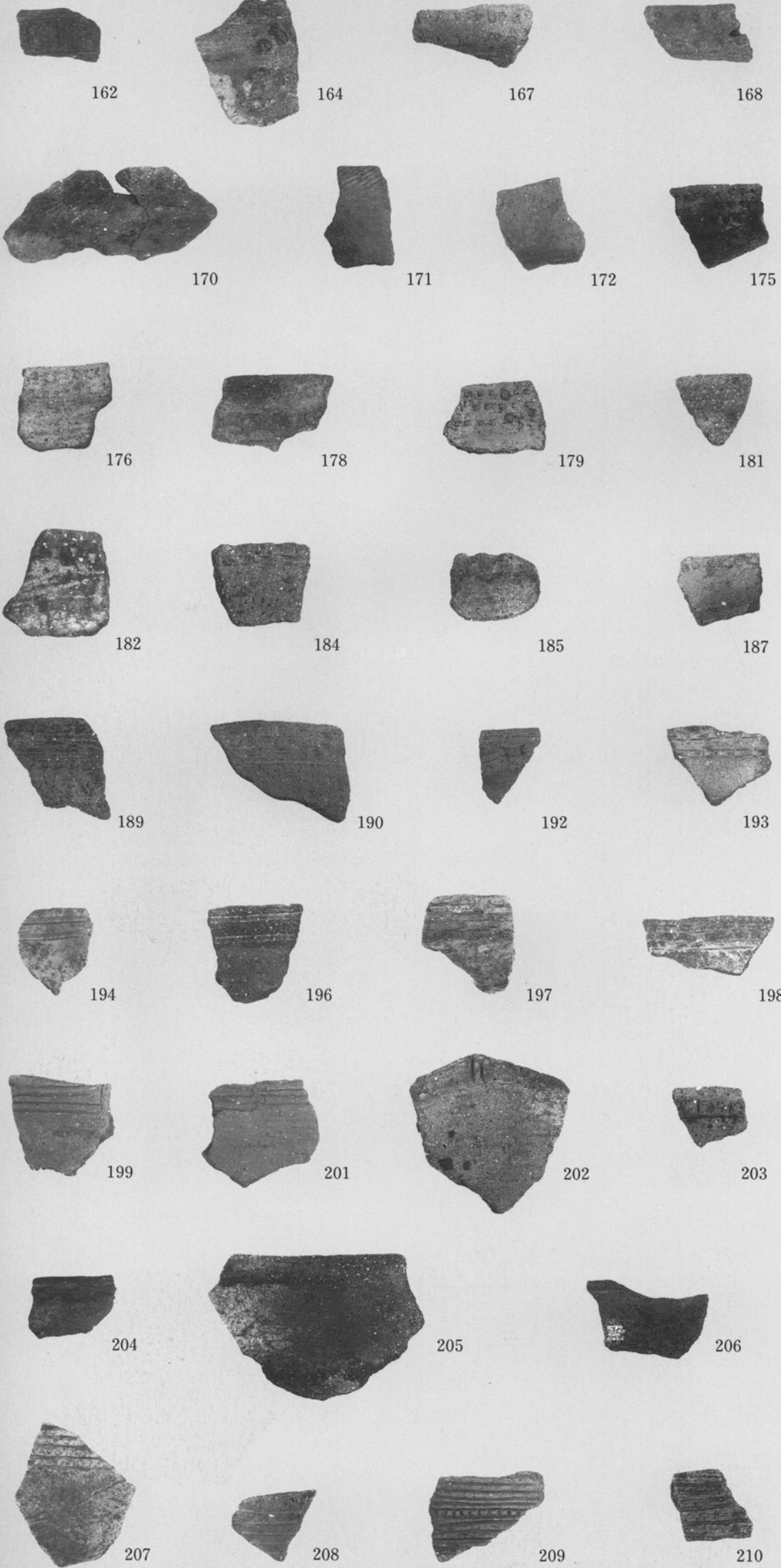
46

縄文土器(3)

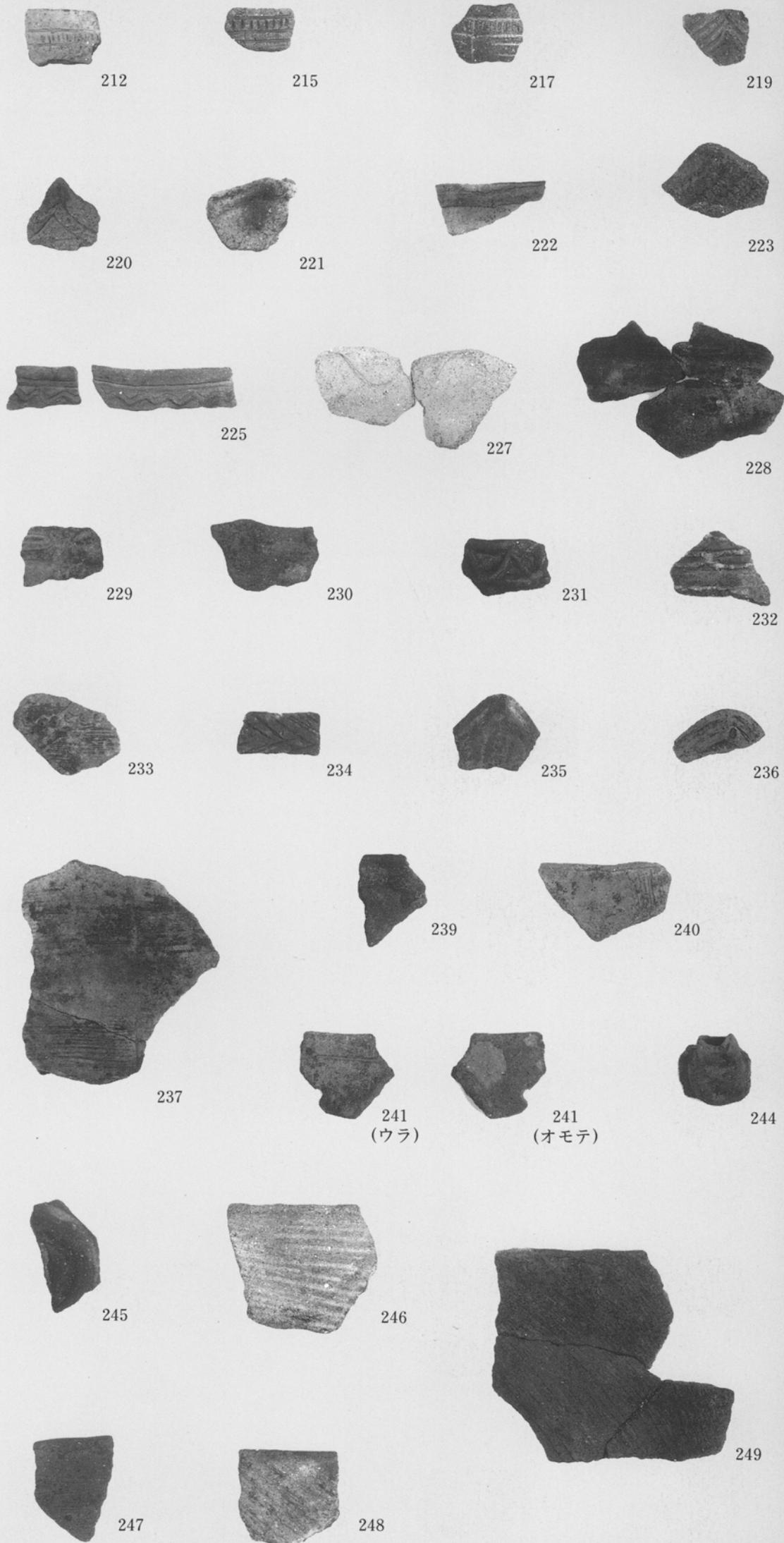


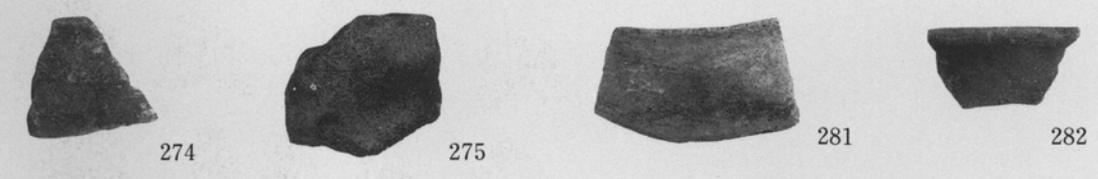
縄文土器(4)



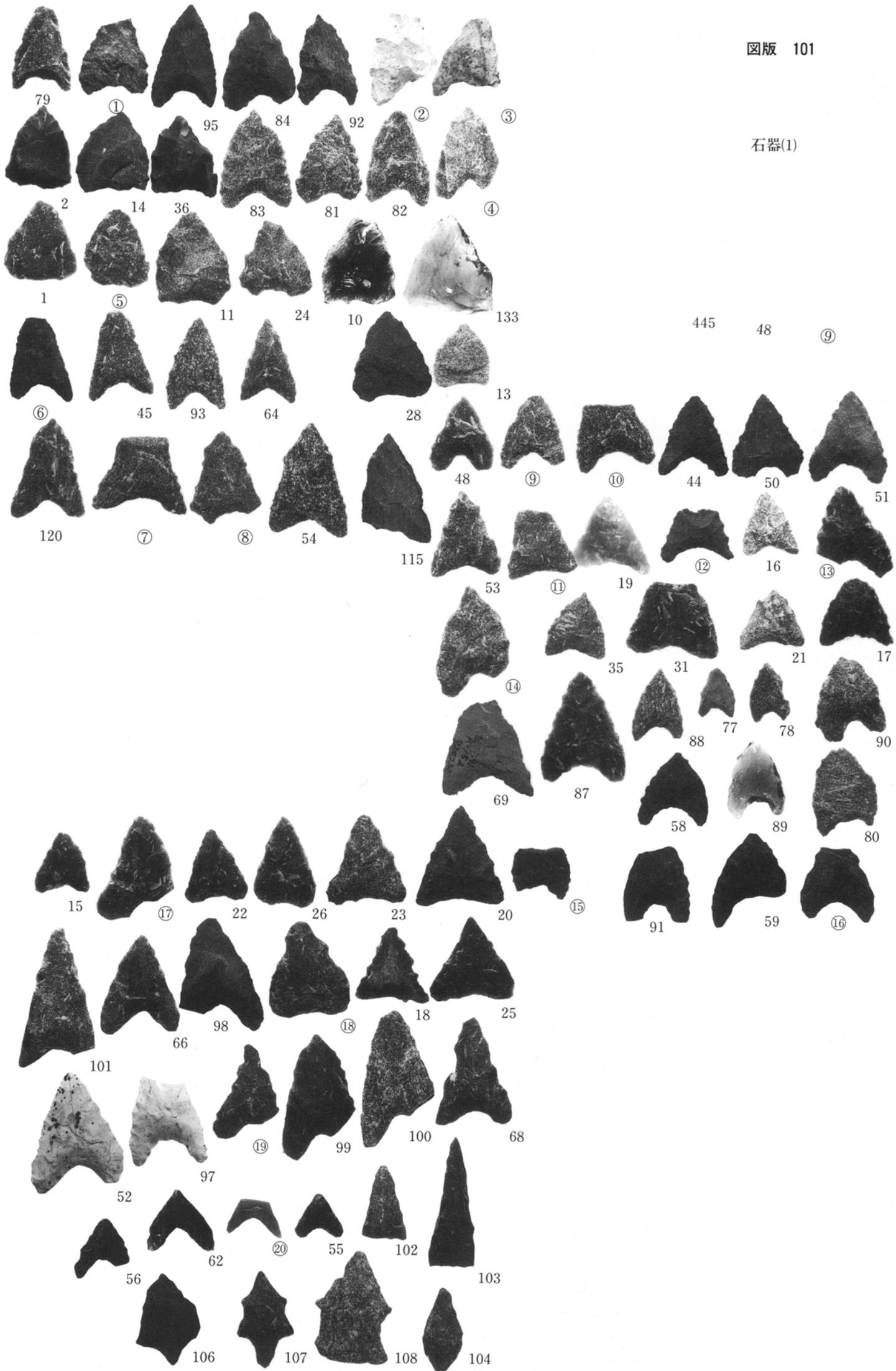


縄文土器(6)

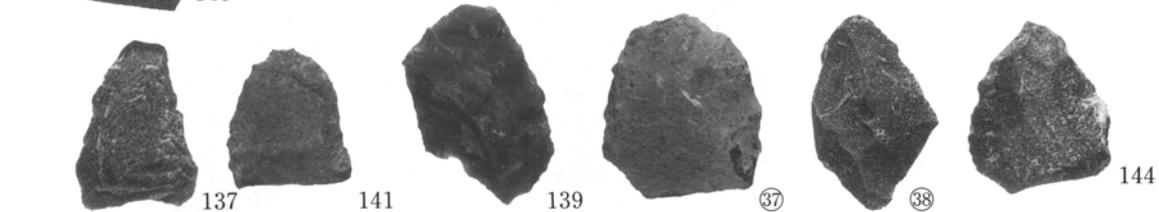
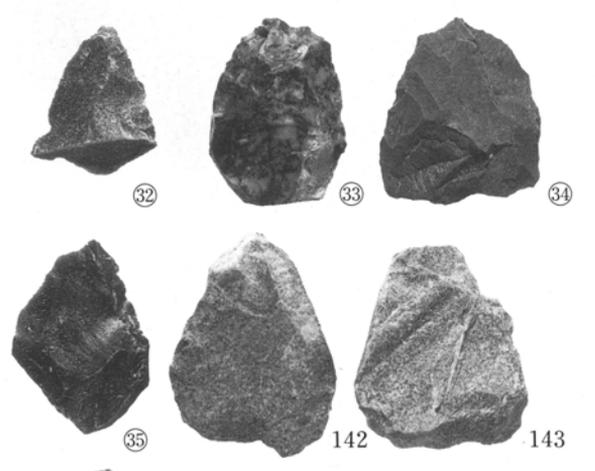
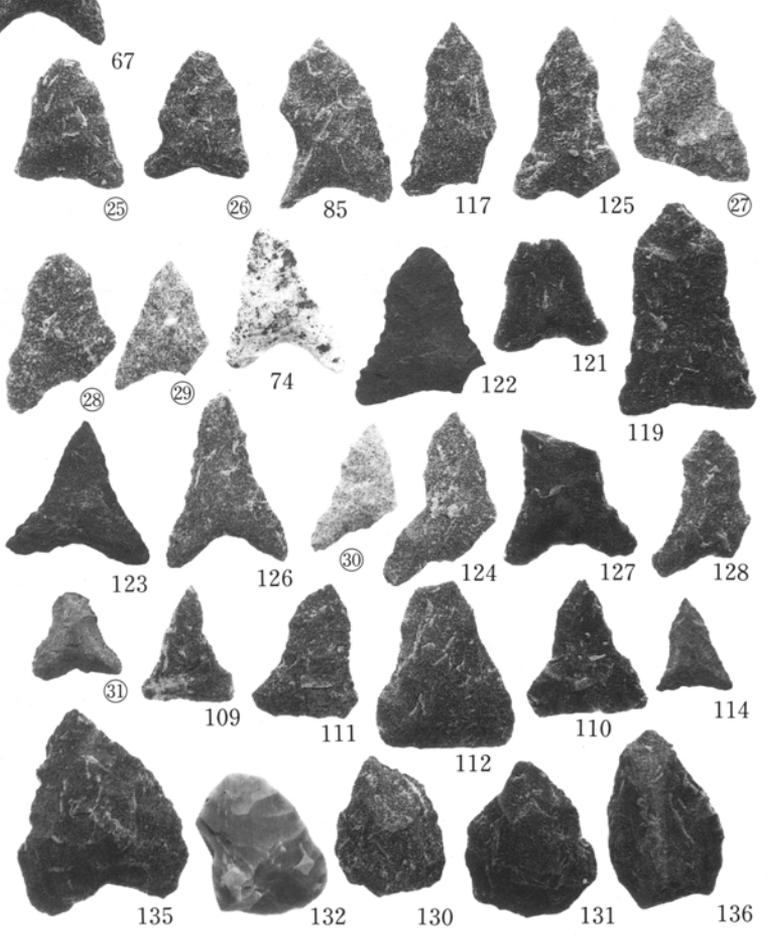
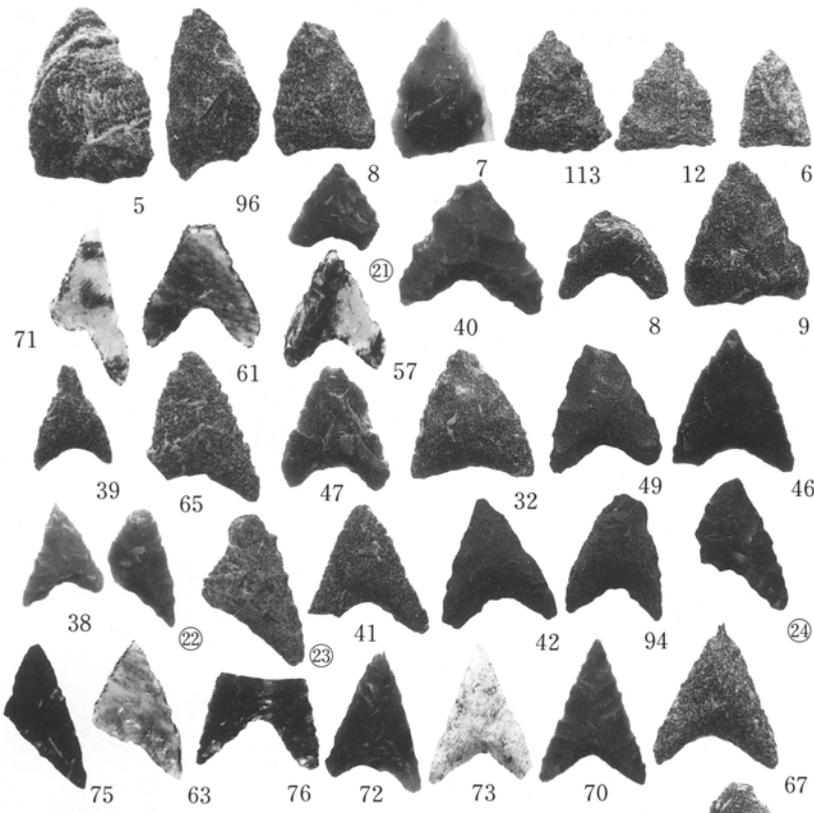




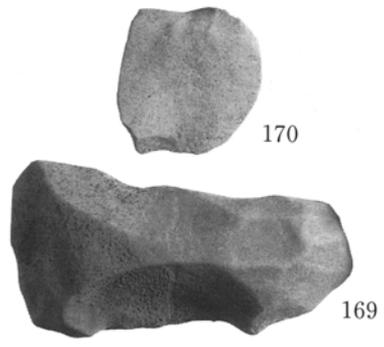
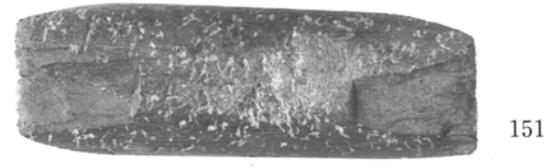
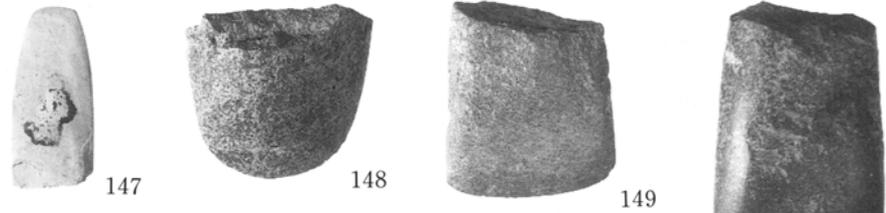
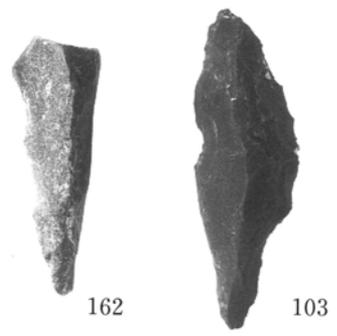
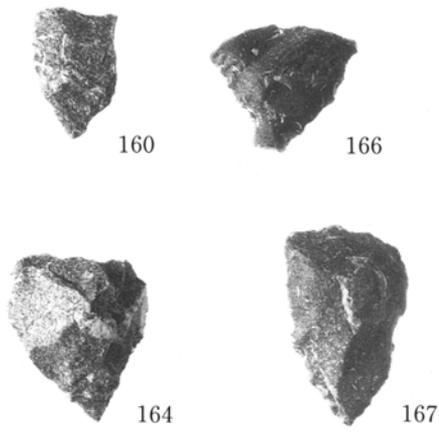
石器(1)



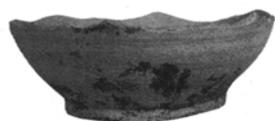
石器(2)



石器(3)



その他の遺物
三斗目遺跡



465



466



467



468



470



477



478



479



322



323



324

三本松遺跡



357

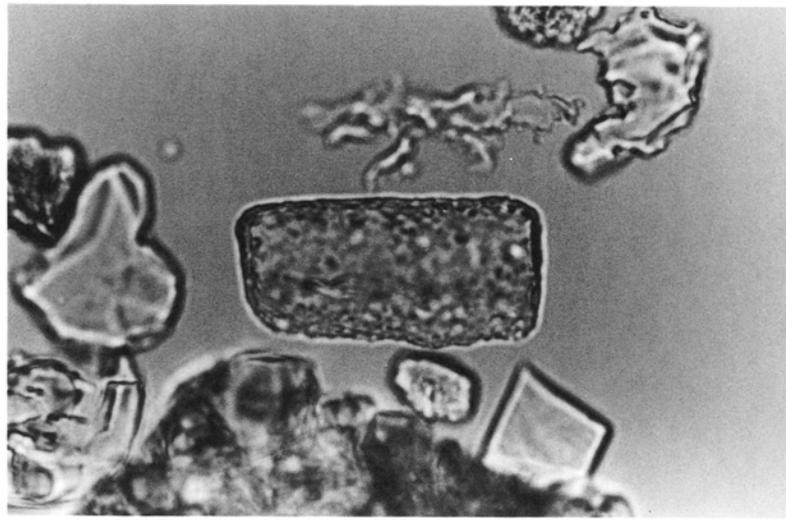


392

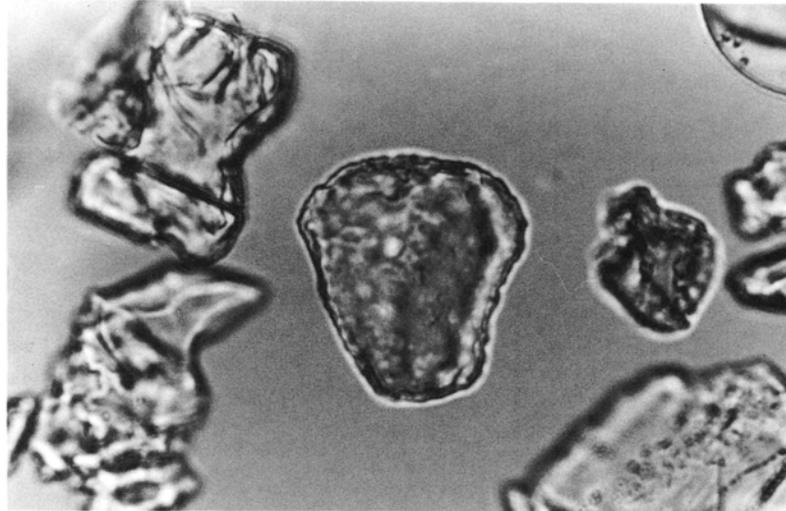
植物珪酸体分析(1)

分類群	遺跡	試料番号
1. 不明Aタイプ (キビ族類似)	三本松	13
2. 不明Bタイプ (ウシクサ族類似)	三斗目	4
3. タケ亜科A1aタイプ (ネザサ節など)	三本松	6
4. タケ亜科A1aタイプ (ネザサ節など)	三本松	7

1



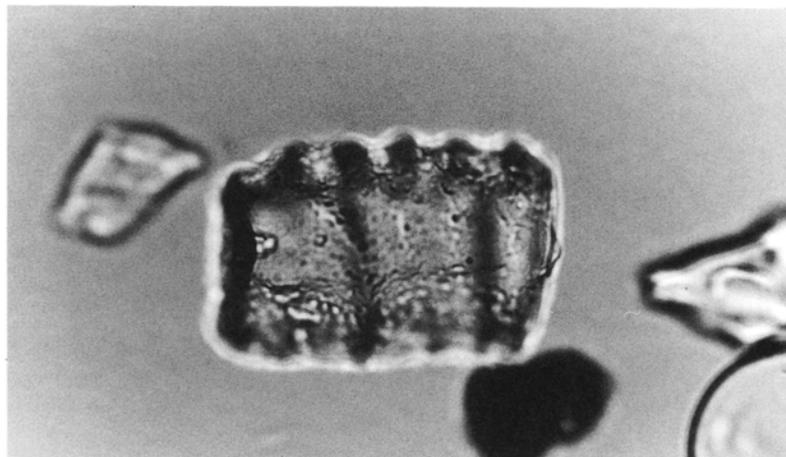
2



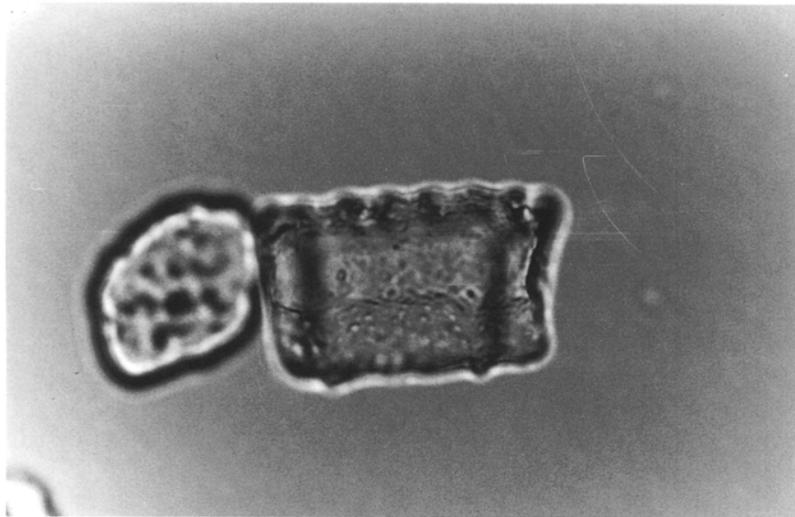
3



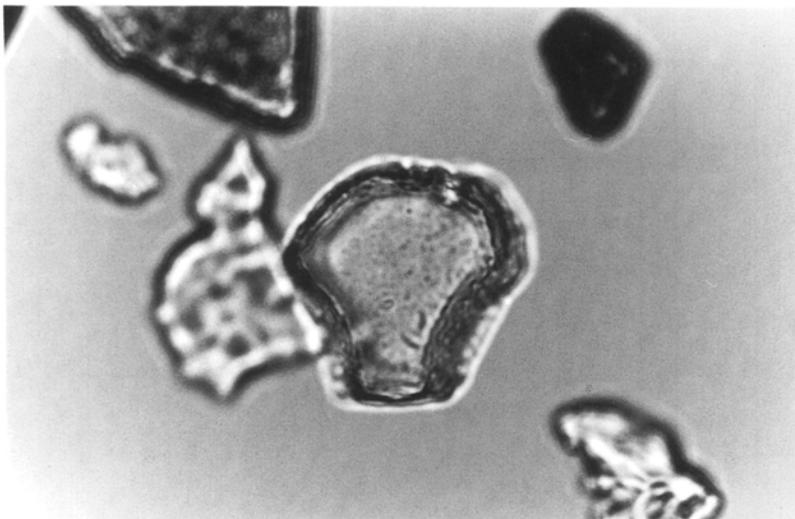
4



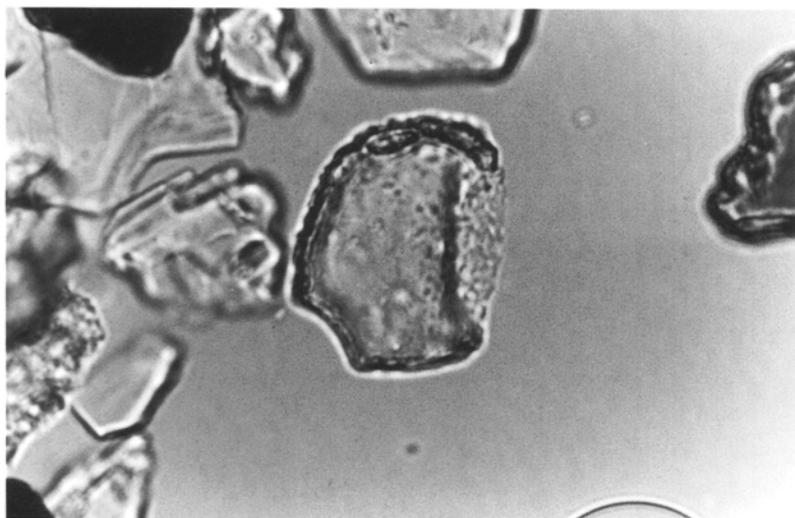
植物珪酸体分析(2)



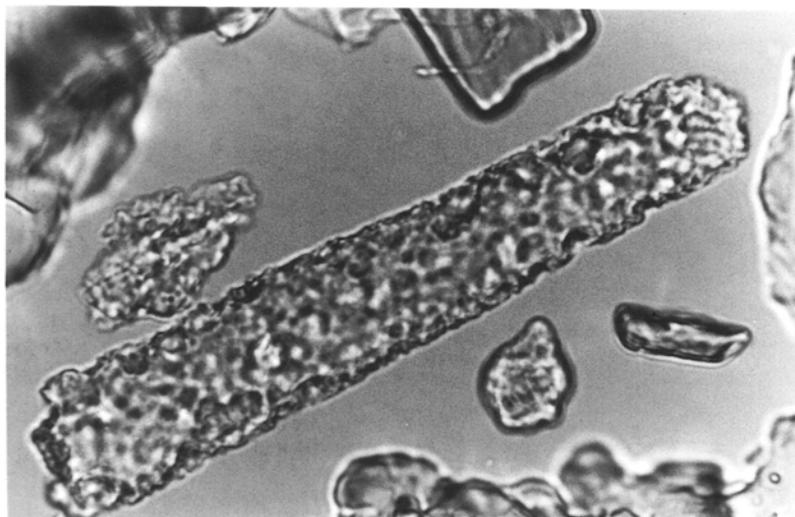
5



6



7



8

分類群	遺跡	試料番号
5. タケ亜科Alaタイプ (ネザサ節など)	三斗目	5
6. タケ亜科 (その他)	三木松	12
7. タケ亜科	三本松	11
8. 棒状珪酸体	三本松	12

(財)愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第47集

三斗目・三本松遺跡

1993年3月31日

編集・発行 財団法人愛知県埋蔵文化財センター

印刷 日本印刷株式会社
